

えびの市埋蔵文化財調査報告書 第41集

東川北地区遺跡群

県営整備事業東川北地区に伴う
東川北地区遺跡群埋蔵文化財発掘調査報告書

本文編

手仕山遺跡

古屋敷遺跡

内牧遺跡

彦山第5遺跡

2005

宮崎県えびの市教育委員会

東川北地区遺跡群

県営経営体育城基盤整備事業東川北地区に伴う
東川北地区遺跡群埋蔵文化財発掘調査報告書

本文編

手仕山遺跡

古屋敷遺跡

内牧遺跡

彦山第5遺跡

2005

宮崎県えびの市教育委員会

序 文

えびの市は、宮崎県の南西端に位置しており、北は標高700m前後の急峻な山々の連なる九州山地に、南は標高1700mの韓国岳をはじめとする霧島山系に囲まれた、狭長な盆地であります。本市は、鹿児島・熊本県に接しており、古くから、日向・薩摩・肥後の分岐点として、交通の要所であったことから、様々な文物が混在した独特な地域性を呈しております。

また、盆地中央を蛇行しながら西流する川内川と、大小20あまりの支流の浸食によって形成された河岸段丘には、数多くの遺跡が存在しており、そのほとんどが周知の遺跡であることから、埋蔵文化財の保護に全力で取り組んでいます。また、近年の圃場整備事業などの開発に伴う埋蔵文化財の発掘調査の増加により、市内の遺跡の実態が、徐々に明らかになってきました。

本書は、平成12・13・15年度に実施した、県営経営体育成基盤整備事業東川北地区に伴う東川北地区遺跡群埋蔵文化財発掘調査の本報告であります。手仕山遺跡では、犬走り状遺構と堀切が検出され、中世の出城的機能を有していたことが判明しました。古屋敷遺跡では、旧石器時代から近世までの大量の遺物と、縄文時代以降の遺構が検出され、特に、中世の掘立柱建物跡と土坑が密集しています。内牧遺跡では、中世の掘立柱建物跡が多数検出され、そのうちの1棟は、柱穴が方形を呈する建物跡で、本市では初の発見であります。彦山第5遺跡は、縄文早期の遺物や遺構が検出されました。この遺跡群は、途中断絶があるものの、長い期間にわたって存続し、中世に繁栄したことを窺える貴重な資料を得ることができました。

本書が学術資料としてだけでなく、生涯学習や学校教育やその他の場で広く活用され、埋蔵文化財の保護に対する理解と認識が深まれば幸いです。

なお、調査にあたり、ご指導・ご助言いただいた諸先生方をはじめ、ご理解・ご協力いただいた西諸県農林振興局・地元の土地改良・地権者の方々・工事関係者、ならびに、発掘作業・整理作業に従事していただいた皆様には、厚く御礼申し上げます。

平成17年3月

えびの市教育委員会

教育長 上野 兼 寛

例　　言

1. 本書は、平成12・13・15年度に実施した、県営経営体育成基盤整備事業東川北地区に伴う手仕山遺跡・古屋敷遺跡・内牧遺跡・彦山第5遺跡の発掘調査の本報告であり、東川北地区遺跡群と総称する。
2. 調査はえびの市教育委員会が主体となり、手仕山遺跡は平成12年5月10日から同年11月9日まで、古屋敷遺跡は平成12年11月6日から平成13年3月30日までと、平成13年4月6日から同年5月31日まで、内牧遺跡は平成13年5月31日から7月20日まで、彦山第5遺跡は平成15年12月15日から平成16年2月16日まで実施した。
3. 本報告書作成のための整理作業は平成12～16年度に実施した。
4. 遺構全体図は、手仕山・古屋敷・内牧遺跡は有限会社スカイサーベイ九州に委託し、1／50と1／200を作成し、彦山第5遺跡は九州航空株式会社に委託作成した。
5. 古屋敷・内牧遺跡出土の旧石器については、宮崎県埋蔵文化財センターの藤木聰・松本茂両氏に助言を頂き、また、実測図を掲載させて頂いた。
6. 古屋敷遺跡出土の墨書土器については、宮崎産業経営大学の柴田博子先生に釈読・考察して頂き、玉稿を賜った。付篇に掲載させて頂くと共に、記して御礼申し上げる。
7. 出土陶磁器については、佐賀県立九州陶磁文化館の大橋康二副館長および家田淳一氏に鑑定して頂いた。
8. 墨書土器の赤外線写真的撮影は宮崎県埋蔵文化財センター所有の機器を利用して頂き、金銅製の帶金具状遺物のX線写真的撮影は宮崎県埋蔵文化財センター神宮分館において菅付和樹氏にご協力頂いた。
9. 古屋敷遺跡61号住居の獣骨については、鹿児島大学大学院歯学総合研究科神経病学講座歯科応用解剖学分野の峯和治助手に現地で実見して頂き、人骨ではないというコメントを頂いている。
10. 彦山第5遺跡西壁の火山灰分析を株式会社古環境研究所に委託し、その成果は付篇に掲載している。
11. 出土遺物洗浄後の分類・選択および石材材質の肉眼観察は中野が担当した。
12. 本書の第7章の執筆は中野が行い、他の執筆・編集は東が行った。
13. 手仕山遺跡・古屋敷遺跡・内牧遺跡と彦山第5遺跡は約1kmも離れていることから、別々に総括している。
14. 本書各章使用の地形図（1／5000）の原図は、昭和57年（1982）作成図であり、写真図版の航空写真とは若干の違いがある。
15. 調査の関連資料および出土遺物はえびの市歴史民俗資料館に保管している。
16. 古屋敷遺跡の第200図は、欠番である。

凡　例

1. 本書掲載の遺構は、S A：竪穴住居・竪穴状遺構、S B：掘立柱建物、S D：溝状遺構、S K：土坑・土壙墓、S R：道路状遺構、S Z：用途不明として略している。
2. 採図記載の方位は、国土座標軸の北を示す。
3. 遺構番号は、遺跡毎に独立して付けている。
4. 遺構実測図は、規模や重要度を考慮して1／10から1／100に仕上げている。
5. 出土土器実測図中のスクリーントーンは丹塗りおよび黒色処理を示す。
6. 写真図版の個別遺構の平面、土層断面写真に写っているピンポールの長さは、すべて1mである。
7. 航空写真の一部は、石灰による表示で誤認のあった遺構は加筆修正しているため、概要報告とは若干異なる。

調　査　組　織

調査主体　えびの市教育委員会

教　育　長	松　田　忠　信（平成12～16年度）
	上　野　兼　寛（平成16年度～）
社会教育課長	馬越脇　泰　二（平成12～15年度）
	白　坂　良　二（平成16年度～）
課　長　補　佐	柊　山　義　臣（平成16年度～）
文　化　係　長	上加世田たず子（平成12～15年度）
	松　田　和　伯（平成16年度～）
主　　査	鶴　永　　靖（平成16年度～）
主　　事	下　東　嘉　也（平成13年度～）
技　　師	東　　真　一
	中　野　和　浩（彦山第5遺跡担当）

特別調査員	佐賀県立九州陶磁文化館 副館長	大　橋　康　二
	学芸課 資料係長	家　田　淳　一
宮崎産業経営大学	講　師	柴　田　博　子

調査協力	宮崎県教育庁文化課
	宮崎県埋蔵文化財センター

平成12年度

発掘作業員 有馬セツ、井上カズ子、井上ヒロユキ、今村ヒトエ、榎園スミ子、大木場登美子、岡園タミ、柿木照子、上水流百合子、上中野きよ子、上中野スズエ、上中野隆雄、栢木サト子、木添一義、木添ミツギ、木原典子、楠元ヨシ子、久米ツル子、駒崎房子、小屋敷直子、里岡カズ子、重留勢津子、重留則男、新原敏子、新二日市フクエ、末田ハツミ、園田菊野、竹添フミエ、武田信和、田中キリ子、谷之木ミコ、出樋ツユ子、出水勝子、出水一美、堂園イソ、永田美智子、永谷タミ、永友京子、西原ツル子、原口キミ子、東田政子、東田盛之、深草義治、福満悦子、藤本寿明、宝代トミ子、星指利江子、堀征四郎、本二日市ナカ、前原久美恵、松岡ヨシ子、松下ヤエ子、松田久子、蓑輪和子、本坊福子、山口敏恵、山口ミツ、山崎フジ子、山下一男、山下義広、山之口三子、山本ユキエ、米倉トシ子、米倉ミブ、米丸シズ子

整理作業員 入木和代、大田由美子、川上茂子、坂元星奈、新浜脇征子、玉利節子、徳澄みどり、長野真弓、福元ゆかり、丸尾さおり、茂田かおる、本坊美佐子、米倉千春

平成13年度

発掘作業員 荒木フミ子、有馬セツ、有村ヨシ子、今村ヒトエ、榎園スミ子、大木場登美子、柿木照子、上水流百合子、上中野きよ子、上中野スズエ、栢木サト子、木原典子、楠元ヨシ子、久米ツル子、駒崎房子、小屋敷直子、里岡カズ子、重留勢津子、重留則男、新原敏子、園田菊野、竹添フミエ、武田信和、田中キリ子、谷之木ミコ、出水一美、永田美智子、永谷タミ、永友京子、西原ツル子、野間六子、原口キミ子、深草義治、福満悦子、渕脇テツ、星指利江子、前原久美恵、前原久子、松岡ヨシ子、松下ヤエ子、松田久子、蓑輪和子、本坊福子、山口敏恵、山口ミツ、山崎フジ子、山下一男、山之口三子、山本ユキエ、米倉トシ子、米倉ミブ、米丸シズ子

整理作業員 井上智子、入木和代、絵柳浩子、大田由美子、川上茂子、上水流なおみ、小屋敷直子、坂元星奈、新浜脇征子、新屋純子、徳澄みどり、姫野紀代、福元ゆかり、丸尾さおり、茂田かおる、山内ミホ

平成14年度

整理作業員 入枝優子、入木和代、大重泉、大田由美子、芝原由喜、末継さおり、徳澄みどり、野田幸子、原山征子、姫野紀代、福元ゆかり、前田優子、茂田かおる、米倉千春

平成15年度

発掘作業員 有馬セツ、内立シゲ子、大木場登美子、柿木照子、上水流タマ、上中野兼光、上中野隆雄、狩集憲子、川畠フジ子、木原典子、楠元ヨシ子、桑田カズ子、源嶋ミエ、佐伯未央、里岡カズ子、新原敏子、大王サツミ、出水一美、永田美智子、原内アヤ子、原内ツルエ、星指利江子、前田正治、前原久美恵、松下ヤエ子、本坊福子、八重尾ヤス子、山口敏恵、横手マツエ

整理作業員 安藤紀代、入木和代、上水由喜子、大重泉、大田由美子、芝原由喜、末継さおり、野田幸子、原山征子、米倉千春

平成16年度

整理作業員 入木和代、大重泉、大田由美子、末継さおり、野田幸子、橋口清美、原山征子、米倉千春

本文目次

第1章 はじめに.....	1
第2章 遺跡の位置と歴史的環境	2
第3章 手仕山遺跡	
第1節 はじめに.....	5
第2節 基本的層序.....	13
第3節 遺構と遺物.....	13
第4節 小結.....	33
第4章 古屋敷遺跡	
第1節 はじめに.....	45
第2節 基本的層序.....	46
第3節 試掘調査.....	46
第4節 I区の調査.....	49
第5節 II～III区の調査.....	102
第6節 IV区の調査.....	215
第7節 V区の調査.....	254
第8節 VI区の調査.....	265
第9節 VII区の調査.....	321
第10節 VIII区の調査.....	354
第11節 小結.....	361
第5章 内牧遺跡	
第1節 はじめに.....	419
第2節 基本的層序.....	426
第3節 遺構と遺物.....	426
第4節 小結.....	473
第6章 まとめ.....	477
第7章 彦山第5遺跡	
第1節 はじめに.....	485
第2節 遺跡の位置と歴史的環境.....	485
第3節 基本的層序.....	493
第4節 調査の方法と経過.....	493
第5節 遺構と遺物.....	493
第6節 まとめ.....	512

付篇 1. 古屋敷遺跡出土の墨書土器	513
2. 宮崎県えびの市、東川北地区における火山灰分析	519

挿 図 目 次

第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡位置図	2
置図	1

手仕山遺跡

第1図 字境図	5	(7)	20
第2図 手仕山城 繩張り図及び 地区割図	6	第14図 出土遺物実測図 繩文土器 (8)	21
第3図 遺構全体図	7・8	第15図 出土遺物実測図 繩文土器 (9)	22
第4図 II～IV区層序実測図	9・10	第16図 出土遺物実測図 繩文土器 (10)	23
第5図 V・VI区層序実測図	11・12	第17図 出土遺物実測図 繩文土器 (11)	24
第6図 SX-01堀切実測図	13	第18図 出土遺物実測図 繩文土器 (12)	25
第7図 出土遺物実測図 繩文土器 (1)	14	第19図 出土遺物実測図 繩文土器 (13)	26
第8図 出土遺物実測図 繩文土器 (2)	15	第20図 出土遺物実測図 弥生土器 ・土師器・土製品・鉄器・銅錢	27
第9図 出土遺物実測図 繩文土器 (3)	16	第21図 出土遺物実測図 石器(1)	28
第10図 出土遺物実測図 繩文土器 (4)	17	第22図 出土遺物実測図 石器(2)	29
第11図 出土遺物実測図 繩文土器 (5)	18	第23図 出土遺物実測図 石器(3)	30
第12図 出土遺物実測図 繩文土器 (6)	19	第24図 出土遺物実測図 石器(4)	31
第13図 出土遺物実測図 繩文土器		第25図 出土遺物実測図 石器(5)	32

古屋敷遺跡

第1図 地区割図	45	第3図 I区 南壁層序図	49
第2図 I区 遺構全体図	47・48	第4図 試掘溝 出土遺物実測図(1)	50

第5図	試掘溝 出土遺物実測図（2）	51	第36図	I 区 出土遺物実測図（6）	91
第6図	試掘溝 出土遺物実測図（3）	52	第37図	I 区 出土遺物実測図（7）	92
第7図	I 区 出土遺物実測図（1）	53	第38図	I 区 出土遺物実測図（8）	93
第8図	S A - 04 遺構実測図	54	第39図	I 区 出土遺物実測図（9）	94
第9図	S A - 01 遺構実測図	55	第40図	I 区 出土遺物実測図（10）	95
第10図	S A - 03 遺構実測図	56	第41図	I 区 出土遺物実測図（11）	96
第11図	S A 出土遺物実測図	57	第42図	I 区 出土遺物実測図（12）	97
第12図	S B - 01~06 遺構実測図	58	第43図	I 区 出土遺物実測図（13）	98
第13図	S B - 07~10 遺構実測図	59	第44図	I 区 出土遺物実測図（14）	99
第14図	S B - 11~13 遺構実測図	60	第45図	I 区 出土遺物実測図（15）	100
第15図	S B - 14~19 遺構実測図	61	第46図	I 区 出土遺物実測図（16）	101
第16図	S B - 20~25 遺構実測図	63	第47図	I 区 出土遺物実測図（17）	102
第17図	S B - 26~29 遺構実測図	64	第48図	II 区 遺構全体図	103・104
第18図	S B - 30~35 遺構実測図	66	第49図	II 区 中央壁層序図	105・106
第19図	S B - 36~38 遺構実測図	67	第50図	III 区 遺構全体図	107
第20図	S B - 39~42 遺構実測図	68	第51図	III 区 中央壁層序図	108
第21図	S B - 43~47 遺構実測図	70	第52図	S A - 17 遺構実測図	109
第22図	S B - 48~52 遺構実測図	71	第53図	S A - 18 遺構実測図	110
第23図	S B - 53~56 遺構実測図	72	第54図	S A - 21 遺構実測図	111
第24図	S B - 57~61 遺構実測図	73	第55図	S A 出土遺物実測図	111
第25図	S K - 10・14・18・25・28・ 29・31・34~36 遺構実測図	79	第56図	S A - 08 遺構実測図	112
第26図	S K - 42・45・52・53・108 遺構実測図	80	第57図	S A - 10 遺構実測図	113
第27図	S K - 117・127 遺構実測図	81	第58図	S A - 11 遺構実測図	114
第28図	S K - 148・149 遺構実測図	82	第59図	S A - 08 出土遺物実測図	115
第29図	S K - 150 遺構実測図	84	第60図	S A - 10 出土遺物実測図 (1)	116
第30図	S K - 152 遺構実測図	85	第61図	S A - 10 出土遺物実測図 (2)	117
第31図	S K 出土遺物実測図	86	第62図	S A - 10・11 出土遺物実測 図	118
第32図	S K・I 区 出土遺物実測図 (2)	87	第63図	S A - 12 遺構実測図	119
第33図	I 区 出土遺物実測図（3）	88	第64図	S A - 12 出土遺物実測図 (1)	120
第34図	I 区 出土遺物実測図（4）	89	第65図	S A - 12 出土遺物実測図	
第35図	I 区 出土遺物実測図（5）	90			

(2).....	121	第90図 S A - 06 遺構実測図.....	146
第66図 S A - 13 遺構実測図.....	122	第91図 S A - 07 · 09 遺構実測図.....	147
第67図 S A - 15 遺構実測図.....	123	第92図 S A - 14 遺構実測図.....	148
第68図 S A - 13 · 15 出土遺物実測 図.....	124	第93図 S A - 29 遺構実測図.....	149
第69図 S A - 16 遺構実測図.....	125	第94図 S A - 06 · 07 出土遺物実測 図.....	150
第70図 S A - 16 出土遺物実測図 (1).....	126	第95図 S A - 07 · 09 出土遺物実測 図.....	151
第71図 S A - 16 出土遺物実測図 (2).....	127	第96図 S A - 09 · 14 出土遺物実測 図.....	152
第72図 S A - 19 遺構実測図.....	128	第97図 S A - 14 出土遺物実測図.....	153
第73図 S A - 19 出土遺物実測図.....	129	第98図 S A - 14 · 29 出土遺物実測 図.....	154
第74図 S A - 20 遺構実測図.....	130	第99図 S B - 62~64 遺構実測図.....	155
第75図 S A - 22 · 23 遺構実測図.....	131	第100図 S B - 65~68 遺構実測図	156
第76図 S A - 24 遺構実測図.....	132	第101図 S B - 69 遺構実測図	157
第77図 S A - 20 出土遺物実測図 (1).....	133	第102図 S B - 70~74 遺構実測図	158
第78図 S A - 20 出土遺物実測図 (2).....	134	第103図 S B - 75~80 遺構実測図	159
第79図 S A - 20 · 22 出土遺物実測 図.....	135	第104図 S B - 81~84 遺構実測図	160
第80図 S A - 23 · 24 出土遺物実測 図.....	136	第105図 S B - 85~89 遺構実測図	161
第81図 S A - 24 出土遺物実測図.....	137	第106図 S B - 90~93 遺構実測図	163
第82図 S A - 25 遺構実測図.....	138	第107図 S B - 94~97 遺構実測図	164
第83図 S A - 26 · 27 遺構実測図.....	139	第108図 S B - 98 · 153~155 遺構 実測図.....	165
第84図 S A - 28 遺構実測図.....	140	第109図 S K - 151 遺構実測図.....	167
第85図 S A - 30 · 31 遺構実測図.....	141	第110図 S K - 160 · 202 · 219 · 222 遺構実測図.....	169
第86図 S A - 32 遺構実測図.....	142	第111図 S K - 254 · 265 遺構実測図	170
第87図 S A - 33 遺構実測図.....	143	第112図 S K - 272 · 292 · 296 · 298 遺構実測図.....	172
第88図 S A - 25 · 26 · 28 · 30 出土 遺物実測図.....	144	第113図 S K 出土遺物実測図 (1).....	173
第89図 S A - 30 · 31 · 33 出土遺物 実測図.....	145	第114図 S K 出土遺物実測図 (2).....	174
		第115図 S K 出土遺物実測図 (3).....	175
		第116図 S K 出土遺物実測図 (4).....	176

第117図	II 区 出土遺物実測図 (1).....	177	第151図	II 区 出土遺物実測図 (35).....	211
第118図	II 区 出土遺物実測図 (2).....	178	第152図	II 区 出土遺物実測図 (36).....	212
第119図	II 区 出土遺物実測図 (3).....	179	第153図	III 区 出土遺物実測図 (1).....	213
第120図	II 区 出土遺物実測図 (4).....	180	第154図	III 区 出土遺物実測図 (2).....	214
第121図	II 区 出土遺物実測図 (5).....	181	第155図	III 区 出土遺物実測図 (3).....	215
第122図	II 区 出土遺物実測図 (6).....	182	第156図	III 区 出土遺物実測図 (4).....	216
第123図	II 区 出土遺物実測図 (7).....	183	第157図	IV～VI区 遺構全体図	217・218
第124図	II 区 出土遺物実測図 (8).....	184	第158図	IV 区 中央壁層序図	219
第125図	II 区 出土遺物実測図 (9).....	185	第159図	IV 区 出土遺物実測図 (1).....	220
第126図	II 区 出土遺物実測図 (10).....	186	第160図	IV 区 出土遺物実測図 (2).....	221
第127図	II 区 出土遺物実測図 (11).....	187	第161図	S A - 34 遺構実測図	222
第128図	II 区 出土遺物実測図 (12).....	188	第162図	S A - 35 遺構実測図	223
第129図	II 区 出土遺物実測図 (13).....	189	第163図	S A - 40 遺構実測図	224
第130図	II 区 出土遺物実測図 (14).....	190	第164図	S A - 34・35・40 出土遺物実測 図.....	225
第131図	II 区 出土遺物実測図 (15).....	191	第165図	S A - 41 遺構実測図	226
第132図	II 区 出土遺物実測図 (16).....	192	第166図	S A - 42・43 遺構実測図	227
第133図	II 区 出土遺物実測図 (17).....	193	第167図	S A - 44・47・48・50 遺構 実測図.....	228
第134図	II 区 出土遺物実測図 (18).....	194	第168図	S A - 45 遺構実測図	229
第135図	II 区 出土遺物実測図 (19).....	195	第169図	S A - 41 出土遺物実測図 (1).....	230
第136図	II 区 出土遺物実測図 (20).....	196	第170図	S A - 41 出土遺物実測図 (2).....	231
第137図	II 区 出土遺物実測図 (21).....	197	第171図	S A - 41 出土遺物実測図 (3).....	232
第138図	II 区 出土遺物実測図 (22).....	198	第172図	S A - 41 出土遺物実測図 (4).....	233
第139図	II 区 出土遺物実測図 (23).....	199	第173図	S A - 41・43・45 出土遺物 実測図.....	234
第140図	II 区 出土遺物実測図 (24).....	200	第174図	S A - 45 出土遺物実測図	235
第141図	II 区 出土遺物実測図 (25).....	201	第175図	S A - 46 遺構実測図	236
第142図	II 区 出土遺物実測図 (26).....	202	第176図	S A - 46 出土遺物実測図 (1).....	237
第143図	II 区 出土遺物実測図 (27).....	203			
第144図	II 区 出土遺物実測図 (28).....	204			
第145図	II 区 出土遺物実測図 (29).....	205			
第146図	II 区 出土遺物実測図 (30).....	206			
第147図	II 区 出土遺物実測図 (31).....	207			
第148図	II 区 出土遺物実測図 (32).....	208			
第149図	II 区 出土遺物実測図 (33).....	209			
第150図	II 区 出土遺物実測図 (34).....	210			

第177図 S A - 46 出土遺物実測図 (2).....	238	第208図 VI区 出土遺物実測図 (5).....	271
第178図 S A - 46・48 出土遺物実測 図.....	239	第209図 VI区 出土遺物実測図 (6).....	272
第179図 S B - 99~102 遺構実測図.....	240	第210図 VI区 出土遺物実測図 (7).....	273
第180図 S B - 103~108 遺構実測図	241	第211図 VI区 出土遺物実測図 (8).....	274
第181図 S B - 109~114 遺構実測図	242	第212図 VI区 出土遺物実測図 (9).....	275
第182図 S B - 115~118 遺構実測図	243	第213図 VI区 出土遺物実測図 (10).....	276
第183図 S B - 156~159 遺構実測図	244	第214図 VI区 出土遺物実測図 (11).....	277
第184図 S K・IV区 出土遺物実測図 (1).....	248	第215図 VI区 出土遺物実測図 (12).....	278
第185図 IV区 出土遺物実測図 (2).....	249	第216図 VI区 出土遺物実測図 (13).....	279
第186図 IV区 出土遺物実測図 (3).....	249	第217図 VI区 出土遺物実測図 (14).....	280
第187図 IV区 出土遺物実測図 (4).....	250	第218図 VI区 出土遺物実測図 (15).....	281
第188図 IV区 出土遺物実測図 (5).....	251	第219図 S A - 39 遺構実測図	282
第189図 IV区 出土遺物実測図 (6).....	252	第220図 S A - 39 出土遺物実測図	283
第190図 IV区 出土遺物実測図 (7).....	253	第221図 S A - 49・52 遺構実測図	284
第191図 V区 南壁層序図	255	第222図 S A - 49 出土遺物実測図	285
第192図 S B - 119~124 遺構実測図	256	第223図 S A - 51 遺構実測図	286
第193図 S B - 125~129 遺構実測図	257	第224図 S A - 51 出土遺物実測図	287
第194図 S B - 160~163 遺構実測図	258	第225図 S A - 53 遺構実測図	288
第195図 S K - 364・376・385 遺構 実測図.....	259	第226図 S A - 52・53 出土遺物実測 図.....	289
第196図 V区 出土遺物実測図 (1).....	261	第227図 S A - 54 遺構実測図	290
第197図 V区 出土遺物実測図 (2).....	262	第228図 S A - 55 遺構実測図	291
第198図 V区 出土遺物実測図 (3).....	263	第229図 S A - 54・55 出土遺物実測 図.....	292
第199図 V区 出土遺物実測図 (4).....	263	第230図 S A - 37 遺構実測図	293
第201図 S A - 56・57 遺構実測図	264	第231図 S A - 38 遺構実測図	294
第202図 S A - 58 遺構実測図	265	第232図 S A - 37・38 出土遺物実測 図.....	295
第203図 S S - 01 遺構実測図	266	第233図 S B - 130・131 遺構実測図	296
第204図 VI区 出土遺物実測図 (1).....	267	第234図 S B - 132~135 遺構実測図	297
第205図 VI区 出土遺物実測図 (2).....	268	第235図 S B - 136~140 遺構実測図	298
第206図 VI区 出土遺物実測図 (3).....	269	第236図 S B - 164~168 遺構実測図	299
第207図 VI区 出土遺物実測図 (4).....	270	第237図 S K - 335・353・379・380 遺構実測図.....	300

第238図	S K - 378 遺構実測図	301	第269図	S A - 59・62 出土遺物実測 図	334
第239図	S K - 338・340・341・378 出土遺物実測図	302	第270図	S A - 62・63・64 出土遺物 実測図	335
第240図	VI区 出土遺物実測図 (16)	303	第271図	S A - 65・68・69 出土遺物 実測図	336
第241図	VI区 出土遺物実測図 (17)	304	第272図	S A - 59・69・70・72 出土 遺物実測図	337
第242図	VI区 出土遺物実測図 (18)	305	第273図	S B - 141~143 遺構実測図	338
第243図	VI区 出土遺物実測図 (19)	306	第274図	S B - 144~148 遺構実測図	339
第244図	VI区 出土遺物実測図 (20)	307	第275図	S B - 149~152 遺構実測図	340
第245図	VI区 出土遺物実測図 (21)	308	第276図	S B - 172~177 遺構実測図	341
第246図	VI区 出土遺物実測図 (22)	309	第277図	S K - 386・388・389 遺構 実測図	342
第247図	VI区 出土遺物実測図 (23)	310	第278図	S D 出土遺物実測図	343
第248図	VI区 出土遺物実測図 (24)	311	第279図	中世の畝跡 遺構実測図	344
第249図	VI区 出土遺物実測図 (25)	312	第280図	近世の畝跡 遺構実測図	345
第250図	VI区 出土遺物実測図 (26)	313	第281図	VII区 出土遺物実測図 (5)	346
第251図	VI区 出土遺物実測図 (27)	314	第282図	VII区 出土遺物実測図 (6)	347
第252図	VI区 出土遺物実測図 (28)	315	第283図	VII区 出土遺物実測図 (7)	348
第253図	VI区 出土遺物実測図 (29)	316	第284図	VII区 出土遺物実測図 (8)	349
第254図	VI区 出土遺物実測図 (30)	317	第285図	VII区 出土遺物実測図 (9)	350
第255図	VII・VIII区 遺構全体図	319・320	第286図	VII区 出土遺物実測図 (10)	351
第256図	VII区 南壁層序図	321	第287図	S A - 67 遺構実測図	353
第257図	S S - 02 遺構実測図	321	第288図	S A - 66 遺構実測図	354
第258図	VII区 出土遺物実測図 (1)	322	第289図	VIII区 出土遺物実測図 (1)	355
第259図	VII区 出土遺物実測図 (2)	323	第290図	VIII区 出土遺物実測図 (2)	356
第260図	VII区 出土遺物実測図 (3)	324	第291図	S B - 169~171 遺構実測図	357
第261図	VII区 出土遺物実測図 (4)	325	第292図	VIII区 出土遺物実測図 (3)	357
第262図	S A - 62 遺構実測図	326	第293図	VIII区 出土遺物実測図 (4)	357
第263図	S A - 63 遺構実測図	327	第294図	VIII区 出土遺物実測図 (5)	358
第264図	S A - 64・65 遺構実測図	328	第295図	VIII区 出土遺物実測図 (6)	359
第265図	S A - 68・69 遺構実測図	329			
第266図	S A - 70・72 遺構実測図	331			
第267図	S A - 59 遺構実測図	332			
第268図	S A - 61 遺構実測図	333			

内牧遺跡

第1図 地区割図	419	第27図 S B - 63~66 遺構実測図	448
第2図 内牧遺跡 遺構全体図	420	第28図 S B - 67~72 遺構実測図	449
第3図 I区 遺構全体図	421・422	第29図 S B - 73~77 遺構実測図	450
第4図 II区 遺構全体図	423・424	第30図 S B - 78~82 遺構実測図	452
第5図 東壁層序図	425	第31図 S B - 83~88 遺構実測図	454
第6図 S A - 02 遺構実測図	425	第32図 S B - 89~93 遺構実測図	455
第7図 S A - 01 遺構実測図	426	第33図 S B - 94~96 遺構実測図	456
第8図 S A - 03 遺構実測図	427	第34図 S K - 25・28・29 遺構実測図	457
第9図 S B - 01 遺構実測図	429・430	第35図 S K - 71・74・76~79・83・	
第10図 S B - 01 柱穴土層断面図	431	85・115 遺構実測図	460
第11図 S B - 02~07 遺構実測図	432	第36図 調査区 出土遺物実測図(1)	462
第12図 S B - 08~10 遺構実測図	433	第37図 調査区 出土遺物実測図(2)	463
第13図 S B - 11~13 遺構実測図	434	第38図 調査区 出土遺物実測図(3)	464
第14図 S B - 14~17 遺構実測図	435	第39図 調査区 出土遺物実測図(4)	465
第15図 S B - 18 遺構実測図	436	第40図 調査区 出土遺物実測図(5)	466
第16図 S B - 19~22 遺構実測図	437	第41図 調査区 出土遺物実測図(6)	467
第17図 S B - 23~26 遺構実測図	438	第42図 調査区 出土遺物実測図(7)	468
第18図 S B - 27・28 遺構実測図	439	第43図 調査区 出土遺物実測図(8)	469
第19図 S B - 29~33 遺構実測図	440	第44図 調査区 出土遺物実測図(9)	470
第20図 S B - 34~39 遺構実測図	441	第45図 調査区 出土遺物実測図(10)	471
第21図 S B - 40~43 遺構実測図	442	第46図 古屋敷遺跡 繩文～古代の 住居	479・480
第22図 S B - 44 遺構実測図	443	第47図 古屋敷遺跡 古代～中世の 建物	481・482
第23図 S B - 45・46 遺構実測図	444	第48図 内牧遺跡 古墳～古代の住居	483
第24図 S B - 47~52 遺構実測図	445	第49図 内牧遺跡 古代～中世の建物	484
第25図 S B - 53~57 遺構実測図	446		
第26図 S B - 58~62 遺構実測図	447		

彦山第5遺跡

第1図 調査区および周辺の地形・ 古道(中世～近世)・番所跡		第4図 調査区断面層序図(2)	491・492
ほか位置図	486	第5図 S S - 01 遺構実測図	494
第2図 遺構・自然礫分布図	487・488	第6図 S S - 02 遺構実測図	495
第3図 調査区断面層序図(1)	489・490	第7図 S S - 03 遺構実測図	495
		第8図 S S - 04 遺構実測図	496

第9図	III区 SK-01 遺構実測図	496	(2)、IVa層出土・排土採取縄		
第10図	出土遺物分布図	497・498	文土器実測図、土製品実測図	504	
第11図	密集地点遺物分布図	499	第17図	III区出土縄文土器実測図	505
第12図	調査区出土土師器・輸入陶磁器 実測図	500	第18図	I区IV層出土石器・未製品 実測図(1)	506
第13図	I区VI層出土縄文土器実測図 (1)	501	第19図	I区IV層出土石器・未製品 実測図(2)	507
第14図	I区VI層出土縄文土器実測図 (2)	502	第20図	I区出土石器・石製品・石核 実測図	508
第15図	I区VI層出土縄文土器実測図 (3)、V'層出土縄文土器実測 図(1)	503	第21図	I区IVa・V'層出土石器・未 製品・石核・剥片・排土採取石器、 III区出土剥片実測図	509
第16図	I区V'層出土縄文土器実測図				

表 目 次

手仕山遺跡

表1	出土遺物観察表(1)	34	表8	出土遺物観察表(8)	41
表2	出土遺物観察表(2)	35	表9	出土遺物観察表(9)	42
表3	出土遺物観察表(3)	36	表10	出土遺物観察表(10)	43
表4	出土遺物観察表(4)	37	表11	出土遺物観察表(11)	43
表5	出土遺物観察表(5)	38	表12	出土遺物観察表(12)	43
表6	出土遺物観察表(6)	39	表13	出土遺物観察表(13)	43
表7	出土遺物観察表(7)	40	表14	出土遺物観察表(14)	44

古屋敷遺跡

表1	出土遺物観察表(1)	363	表8	出土遺物観察表(8)	370
表2	出土遺物観察表(2)	364	表9	出土遺物観察表(9)	371
表3	出土遺物観察表(3)	365	表10	出土遺物観察表(10)	372
表4	出土遺物観察表(4)	366	表11	出土遺物観察表(11)	373
表5	出土遺物観察表(5)	367	表12	出土遺物観察表(12)	374
表6	出土遺物観察表(6)	368	表13	出土遺物観察表(13)	375
表7	出土遺物観察表(7)	369	表14	出土遺物観察表(14)	376

表15	出土遺物觀察表（15）	377	表38	出土遺物觀察表（38）	400
表16	出土遺物觀察表（16）	378	表39	出土遺物觀察表（39）	401
表17	出土遺物觀察表（17）	379	表40	出土遺物觀察表（40）	402
表18	出土遺物觀察表（18）	380	表41	出土遺物觀察表（41）	403
表19	出土遺物觀察表（19）	381	表42	出土遺物觀察表（42）	404
表20	出土遺物觀察表（20）	382	表43	出土遺物觀察表（43）	405
表21	出土遺物觀察表（21）	383	表44	出土遺物觀察表（44）	406
表22	出土遺物觀察表（22）	384	表45	出土遺物觀察表（45）	407
表23	出土遺物觀察表（23）	385	表46	出土遺物觀察表（46）	407
表24	出土遺物觀察表（24）	386	表47	出土遺物觀察表（47）	408
表25	出土遺物觀察表（25）	387	表48	出土遺物觀察表（48）	409
表26	出土遺物觀察表（26）	388	表49	出土遺物觀察表（49）	409
表27	出土遺物觀察表（27）	389	表50	出土遺物觀察表（50）	410
表28	出土遺物觀察表（28）	390	表51	出土遺物觀察表（51）	411
表29	出土遺物觀察表（29）	391	表52	出土遺物觀察表（52）	412
表30	出土遺物觀察表（30）	392	表53	出土遺物觀察表（53）	413
表31	出土遺物觀察表（31）	393	表54	出土遺物觀察表（54）	414
表32	出土遺物觀察表（32）	394	表55	出土遺物觀察表（55）	414
表33	出土遺物觀察表（33）	395	表56	出土遺物觀察表（56）	415
表34	出土遺物觀察表（34）	396	表57	出土遺物觀察表（57）	416
表35	出土遺物觀察表（35）	397	表58	出土遺物觀察表（58）	417
表36	出土遺物觀察表（36）	398	表59	出土遺物觀察表（59）	418
表37	出土遺物觀察表（37）	399			

內牧遺跡

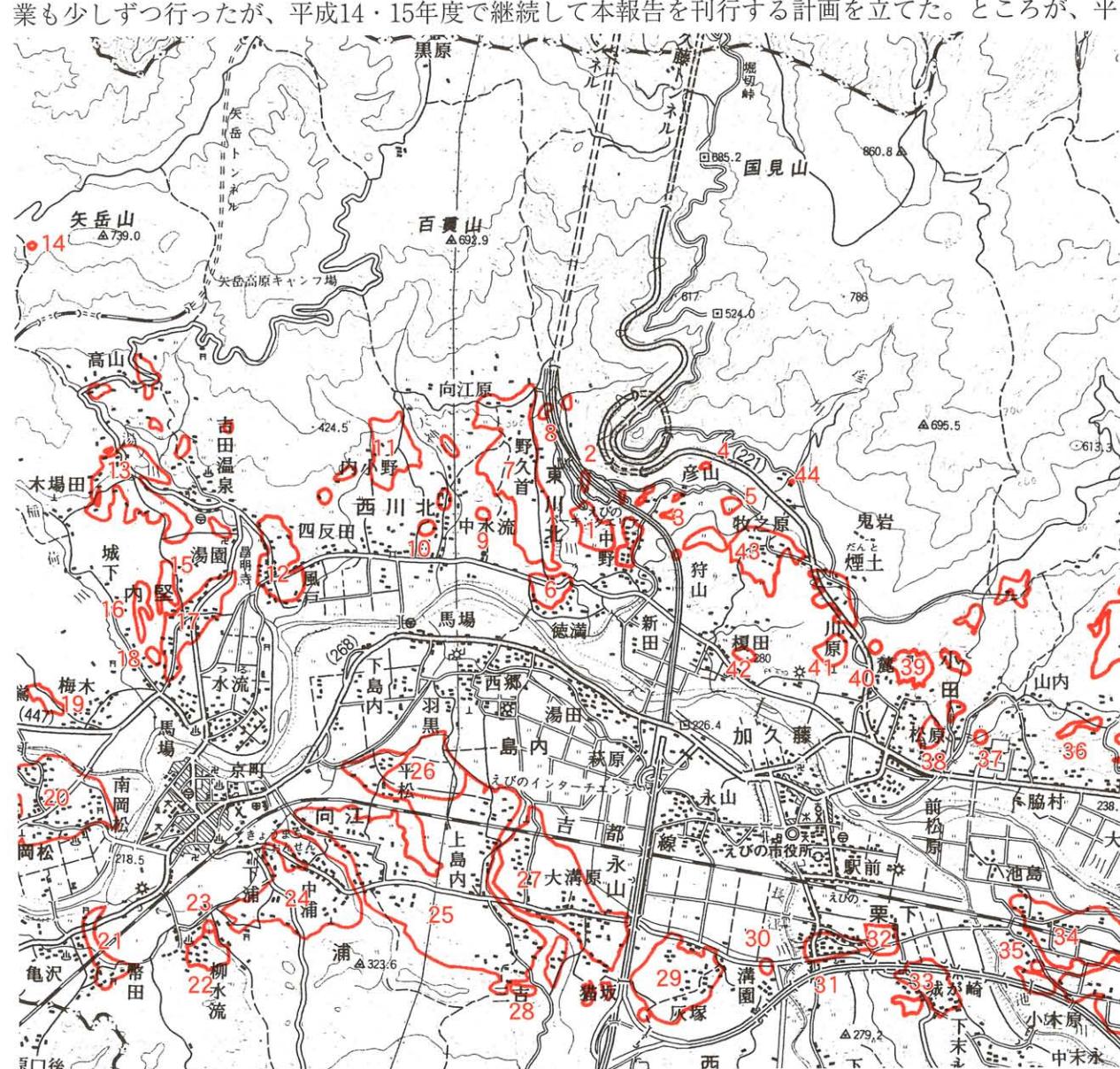
表1	出土遺物觀察表（1）	474	表4	出土遺物觀察表（4）	475
表2	出土遺物觀察表（2）	475	表5	出土遺物觀察表（5）	475
表3	出土遺物觀察表（3）	475	表6	出土遺物觀察表（6）	476

彦山第5遺跡

表1	出土遺物觀察表（1）	500	表5	出土遺物觀察表（5）	511
表2	出土遺物觀察表（2）	500	表6	出土遺物觀察表（6）	511
表3	出土遺物觀察表（3）	510	表7	出土遺物觀察表（7）	512
表4	出土遺物觀察表（4）	511			

第1章 はじめに

平成9年度に県営経営体育成基盤整備事業が東川北地区に計画されたが、当地区は周知の遺跡であるため、手仕山・古屋敷・内牧遺跡は平成10・11年度に、県文化課による試掘調査が行われ、土坑・柱穴・溝などの遺構や遺物が検出された。その結果を受け、西諸県農林振興局・土地改良・市教育委員会による埋蔵文化財の保護に関する協議を重ね、東川北地区遺跡群内の手仕山・古屋敷・内牧遺跡の30,000m²を平成12~13年度にかけて発掘調査することとなった。調査に平行して整理作業も少しづつ行ったが、平成14・15年度で継続して本報告を刊行する計画を立てた。ところが、平



- 1. 東川北地区遺跡群 2. 妙見遺跡 3. 平原遺跡 4. 彦山板碑 5. 彦山第5遺跡 6. 徳満城 7. 寺園遺跡
- 8. 野首遺跡 9. 新城 10. 東福城 11. 内小野遺跡 12. 風戸遺跡 13. 高山遺跡 14. 矢岳第4遺跡 15. 丸ノ尾城跡 16. 杉尾城跡 17. 昌明寺遺跡 18. 松尾城跡 19. 牛ヶ迫遺跡 20. 岡松遺跡 21. 幣田遺跡
- 22. 古城遺跡 23. 古城跡 24. 中浦遺跡 25. 島内遺跡 26. 島内地下式横穴墓群 27. 大溝原遺跡 28. 見吉城跡 29. 灰塚遺跡 30. 溝園城跡 31. 谷川遺跡 32. 草刈田遺跡 33. 城ヶ崎遺跡 34. 小木原地下式横穴墓群 35. 鳥越城跡 36. 小城跡 37. 平城跡 38. 小城跡 39. 加久藤城跡 40. 浄慶城跡 41. 墳土遺跡
- 42. 園田城跡 43. 牧ノ原遺跡 44. 櫻田閑跡

第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡位置図 (1 : 50,000)

成14年度、彦山地区を追加工事する計画がもち上がり、県文化課の試掘調査の結果、彦山第5遺跡の1,900m²を平成15年度に発掘調査の対象とし、記録保存することとなった。平成15年度も整理作業を継続し、平成16年度、4遺跡をまとめて本報告することとなった。

第2章 遺跡の位置と歴史的環境

えびの市には、中央を東から西へと蛇行しながら流れる川内川の浸食を受けて、河岸段丘が形成されており、段丘近辺には湧水がみられることが多く、その豊富な水量の恩恵を受けて、段丘上には数多くの遺跡が存在している。



第2図 遺跡の位置と周辺地形 (1 : 5,000)

手仕山・古屋敷・内牧遺跡は、えびの市大字東川北字古屋敷・内牧に所在し、彦山第5遺跡は、大字東川北字彦山に所在する。前3者は、川内川の右岸、霧島山系を望む南向きの南北にのびる標高237～257mの緩斜面上に立地する。緩斜面の北東部は急激に立ち上がり、東側は急斜面となって落ち込んでいくが、西から南にかけての傾斜は緩やかである。西側には川内川の支流である関川があり、蛇行しながら南流して川内川に合流する。また、緩斜面の中央部やや北寄りには、東西に長い標高271m、周辺の田との比高差が北は13～18m、東は14m、南は22～25m、西は15～21mを測る独立丘陵が存在する。その独立丘陵上に手仕山遺跡は位置し、手仕山遺跡の東部から南部にかけての標高246～255mの緩斜面上に古屋敷遺跡、手仕山遺跡の北西約50m、標高255～257mの緩斜面上に内牧遺跡は位置する。この3遺跡から北東へ約1km、標高290～296m、氾濫原との比高差60～66mを測る南向きの斜面上に、彦山第5遺跡は位置する。

旧石器時代 本市東部の小林市との境であり分水嶺でもある八幡ヶ丘遺跡で、二次堆積シラスの上層の茶褐色土層から、安山岩製のナイフ形石器が出土している⁽¹⁾。内牧遺跡に北接する標高282mの段丘上に立地する妙見遺跡（消滅）（2）では、ナイフ形石器14点、台形石器2点、角錐状石器2点、細石刃核4点、細石刃13点の計35点が出土している⁽²⁾。また、当遺跡群から西北西約4.5km、標高739mの矢岳山からカルデラ壁へのびる、尾根鞍部から頂部に広がる標高650mに位置する矢岳第4遺跡では、黒曜石の原石・石核・細石刃核・細石刃・削器・剥片、ホルンフェルスの二次加工のある剥片・剥片、サヌカイト系・珪質岩・チャートではチャート製石鏃のほか剥片類が、縄文土器2片とともに道路壁面からの断面採集、崩落土や壁上にはねあげられた掘削土から採集されている⁽³⁾。

縄文時代 早期は、小木原遺跡群久見迫B地区で押型文土器が数点出土し⁽⁴⁾、妙見遺跡では、集石遺構が14基のほか、塞ノ神・平椿・手向山式などの縄文早期の土器が大量に出土している⁽⁵⁾。

前期・中期の確実な遺構は検出されていないが、前期の轟式や曾畠式土器が内小野遺跡（11）で若干出土しており⁽⁶⁾、中期は阿高式土器が出土している。

後期になると、遺跡の数が急激に増加し、上田代遺跡では円形の竪穴住居10基のほか数万点の土器片が出土し⁽⁷⁾、また、役所田遺跡では、廃棄土坑のほか晩期前半にかけて8万点以上の土器片が出土している⁽⁸⁾。

弥生時代 前期は、遺構は未発見であるが、桑田遺跡の遺物包含層から甕⁽⁹⁾、上田代遺跡で、壺型土器⁽¹⁰⁾、永田原遺跡で抉入柱状片刃石斧⁽¹¹⁾が出土している。

中期の遺構も未発見であるが、遺物としては、黒髪式土器が広くみられる。

後期から終末にかけては、二本杉遺跡で日向型間仕切り住居が多数検出され⁽¹²⁾、内小野遺跡（11）でも若干検出されている。また、草刈田遺跡（32）では、方形を基調とする日向型間仕切り住居に加え、円形・楕円形・隅丸方形の竪穴住居も検出されている⁽¹³⁾。

古墳時代 弥生時代から継続する遺跡が多く、内小野遺跡（11）・佐牛野遺跡などの拠点的集落や中・小規模の集落が確認されている。当遺跡群の周辺では、妙見遺跡（2）で竪穴住居が41基

⁽¹⁴⁾、野久首遺跡（8）で1基⁽¹⁵⁾、平原遺跡（3）で埋甕が1基⁽¹⁶⁾検出されている。また、墳墓群は多く、地下式横穴墓群が発見されている。本遺跡群の南約3kmには、灰塚地下式横穴墓群が、南西約2kmには、島内地下式横穴墓群があるが、それを造営した集団の集落は確定できていない。

古代 8～9世紀前半の遺構は発見されていないが、9世紀後半以降は、遺跡数は急激に増加し、低位から高位段丘面上に何らかの痕跡を残している。

中世 古代から継続する集落遺跡が多く存在しており、遺構・遺物は豊富である。また、丘陵突端部には点々と山城が築かれる。本遺跡群の西側の南北に舌状にのびる丘陵の先端部には徳満城（6）が、南東1.2kmには園田城（42）（消滅）がある。また、本遺跡群の北東へ約800mのところには、県指定文化財の彦山の板碑⁽¹⁷⁾があり、正中2（1325）年、密教僧宝光が、恩師である蒙古襲来の祈祷僧として活躍した覺然律師の33回忌供養のため建立したものである。付近には彦山寺⁽¹⁸⁾があったとされる。

註

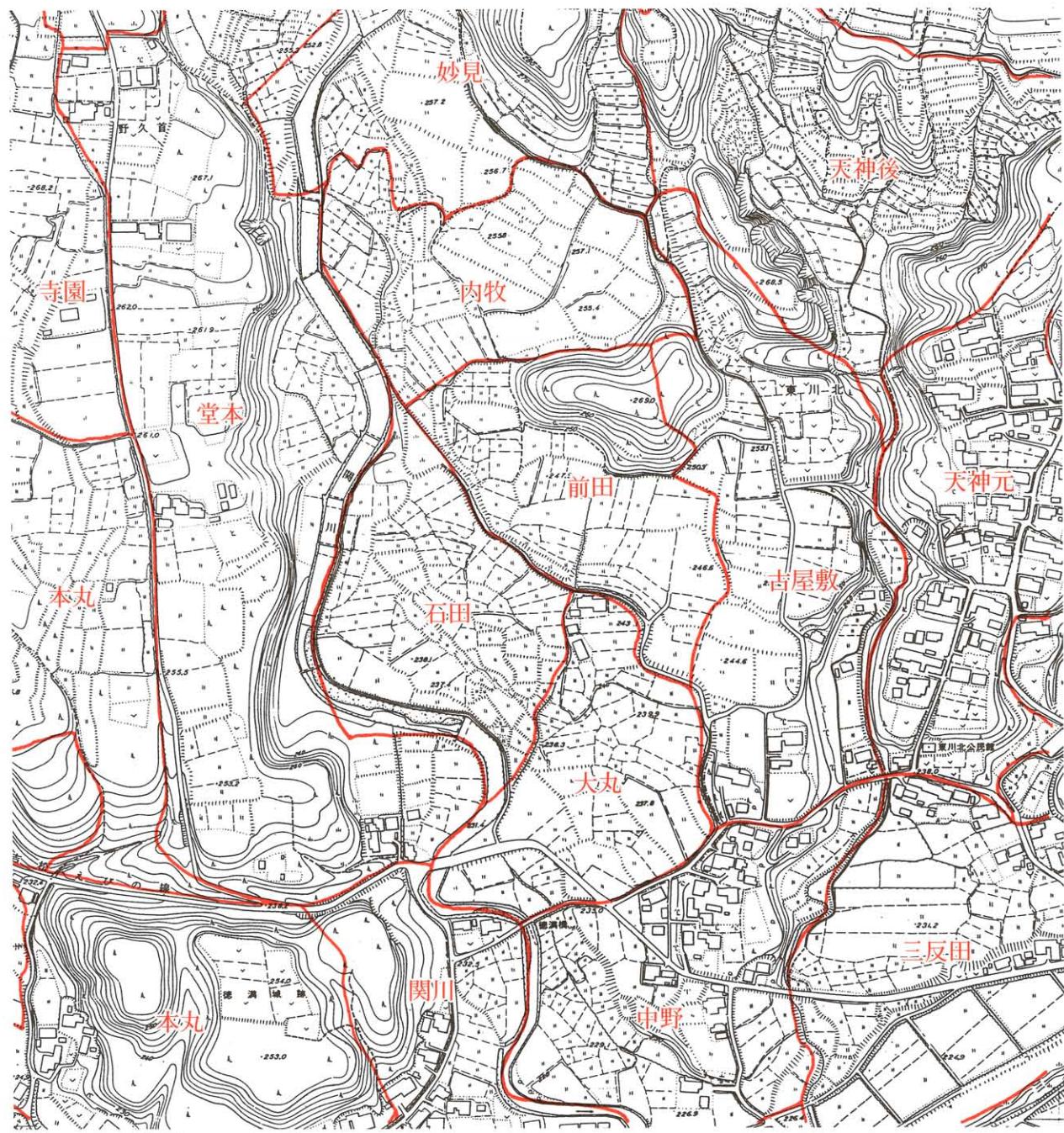
- (1) えびの市郷土史編纂委員会『えびの市史』上巻 1994
- (2) 宮崎県教育委員会『野久首遺跡・平原遺跡・妙見遺跡』1994 所収
- (3) 藤木聰「宮崎県えびの盆地の旧石器」『九州旧石器』第7号 九州旧石器文化研究会 2003
- (4) えびの市教育委員会『小木原遺跡群、原田・上江遺跡群』1996 所収
- (5) 前出(2)文献所収
- (6) えびの市教育委員会『内小野遺跡』2000 所収
- (7) えびの市教育委員会『田代地区遺跡群・妙見原遺跡』1997 所収
- (8) えびの市教育委員会『長江浦地区遺跡群』2002 所収
- (9) 中野和浩「宮崎県えびの市桑田遺跡」『日本考古学年報43』日本考古学協会 1992
- (10) 前出(7)文献所収
- (11) 前出(7)文献所収
- (12) 未報告
- (13) えびの市教育委員会『草刈田遺跡』2004 所収
- (14) 前出(2)文献所収
- (15) 前出(2)文献所収
- (16) 前出(2)文献所収
- (17) えびの市郷土史編纂委員会『えびの市史』石塔編 1988
- (18) 前出(18)文献所収

第3章 手仕山遺跡

第3章 手仕山遺跡

第1節 はじめに

手仕山遺跡は、えびの市大字東川北字古屋敷・天神元に所在し、標高271mの東西の長さ約166m、東半分の南北の長さが約122m、西半分は約63mと東側が広く、西へすばまっていく独立丘陵上に立地する。周辺の水田との比高差は、北は13~18m、東は14m、南は22~25m、西は15~21mを測る。調査は、丘陵のほぼ中央の標高271mの頂部から西へ約60m、北東へ約50m、幅約12~28mで広がる緩斜面および平坦面を西からI~VI区に分け、重機で表土からⅢ層までを剥いで、Ⅳ層から作業員を投入し、平成12年5月10日から同年11月9日まで実施した。



県文化課の試掘調査の結果を受け、調査当初は縄文時代の集落遺跡と思っていたが、調査中に堀切と犬走り状遺構が検出された。その結果、中世には山城になったことが判明し、耕地課に提供された1／1000地形図を使用して説明する。

丘陵頂部平坦部は、切岸によって西部・中央部・北東部と3つの曲輪に分かれており、中央部が1段高くなっている。西部は標高266mラインを西端として東へ約40m、幅12~15mで広がり標高は266~270mを測る。中央部は東西約43m、南北幅16~28m、標高は270~271mを測る。北東部は長さ約26m、幅21~25mで台形を呈しており、標高は、265~269mを測る。

また、丘陵の南東斜面の標高256~260m付近には3つの曲輪が存在している。北側は標高256~260m、長さ30m、幅10~14m、中央部は標高256~260m、長さ12m、幅15m、南部は標高256~259m、長さ10m、幅10mである。

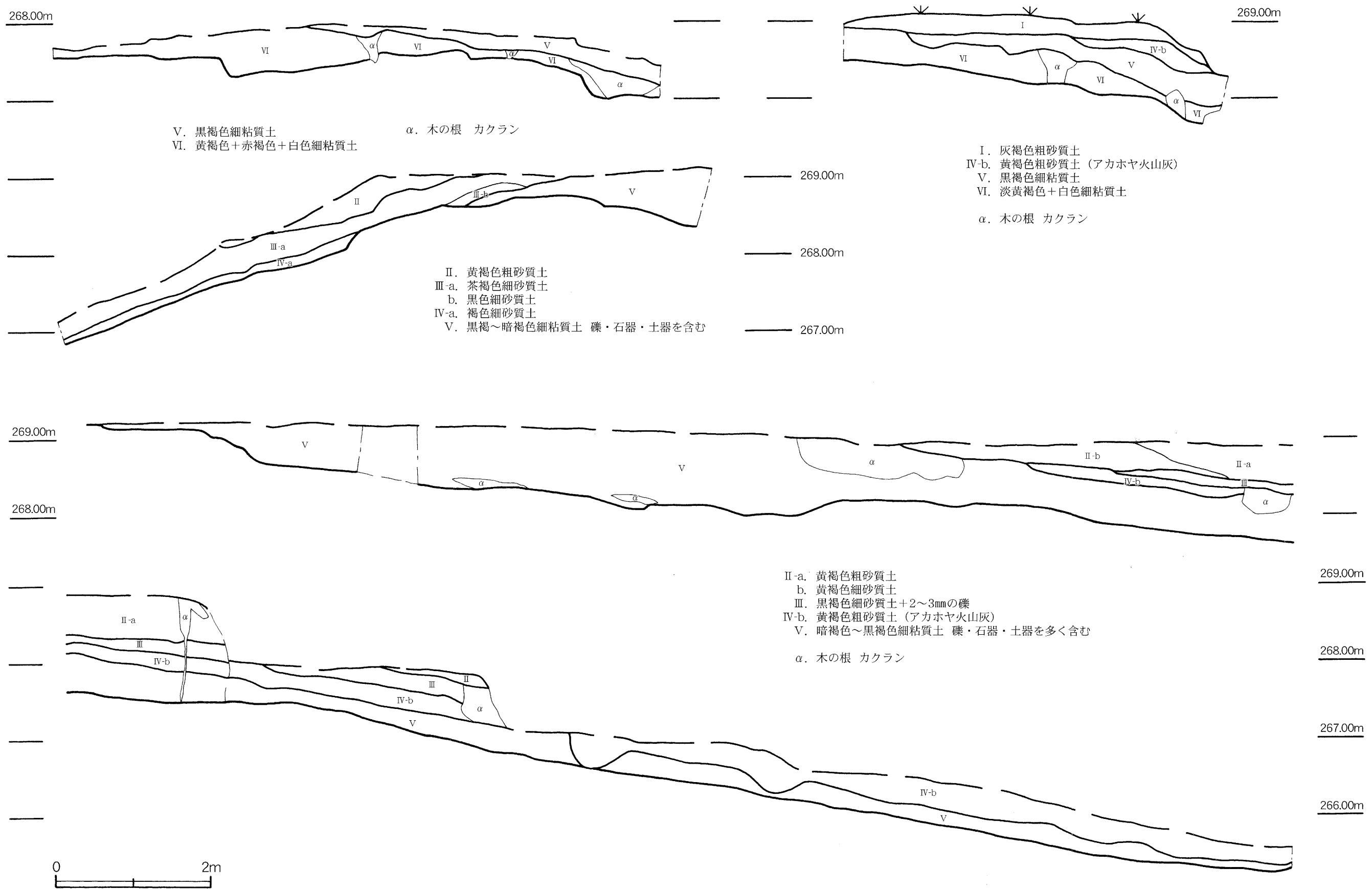
また、北側では、丘陵の北に突出した部分の西斜面の裾端は、隣接する水田よりも約1m低い部



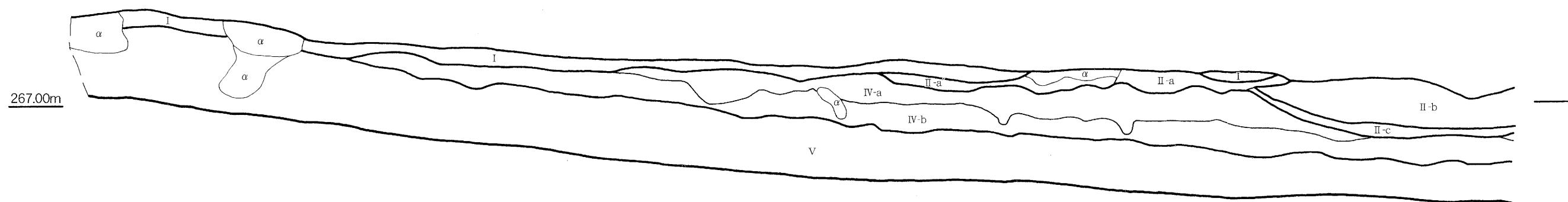
第2図 手仕山城 縄張り図及び地区割図



第3図 遺構全体図



第4図 II～IV区層序実測図



I. 茶褐色+黄褐色粗砂質土

II-a. 暗褐色+灰色細砂質土

b. 暗褐色+灰色粗砂質土+白色粘土

c. 暗褐色+灰色粗粘質土

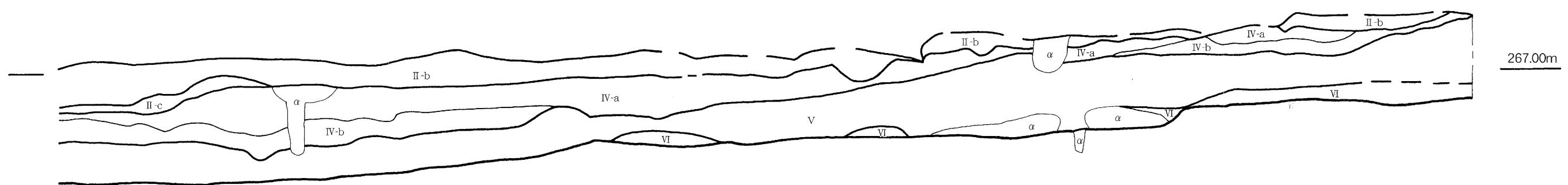
IV-a. 暗褐色粗砂質土

b. アカホヤ火山灰

V. 黒褐色粘質土

VI. 淡黄色粘質土

α . 木の根 カクラン



I-a. 灰褐色粗砂質土

b. 白色粘土

c. 灰色土+IV-b

d. 淡赤褐色粘土+白色粘土

e. 黑色土+IV-b

II. 灰褐色細砂質土

III. 黑褐色細砂質土

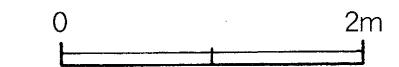
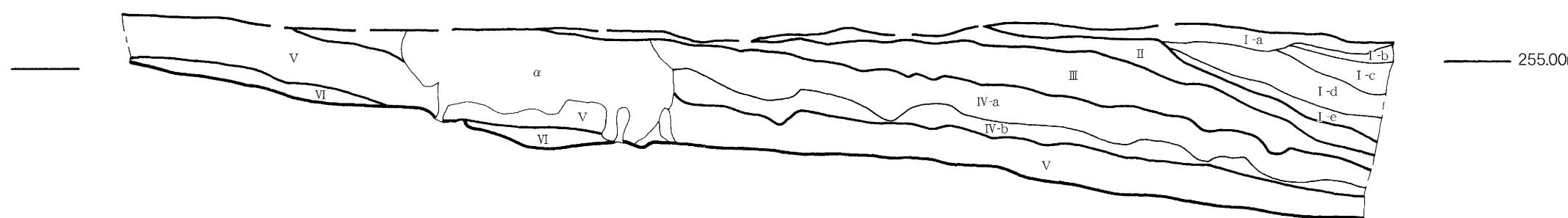
IV-a. 暗褐色粗砂質土

b. 黄褐色粗砂質土

V. 黑色粘質土

VI. 淡黄色粘質土

α . 木の根 カクラン



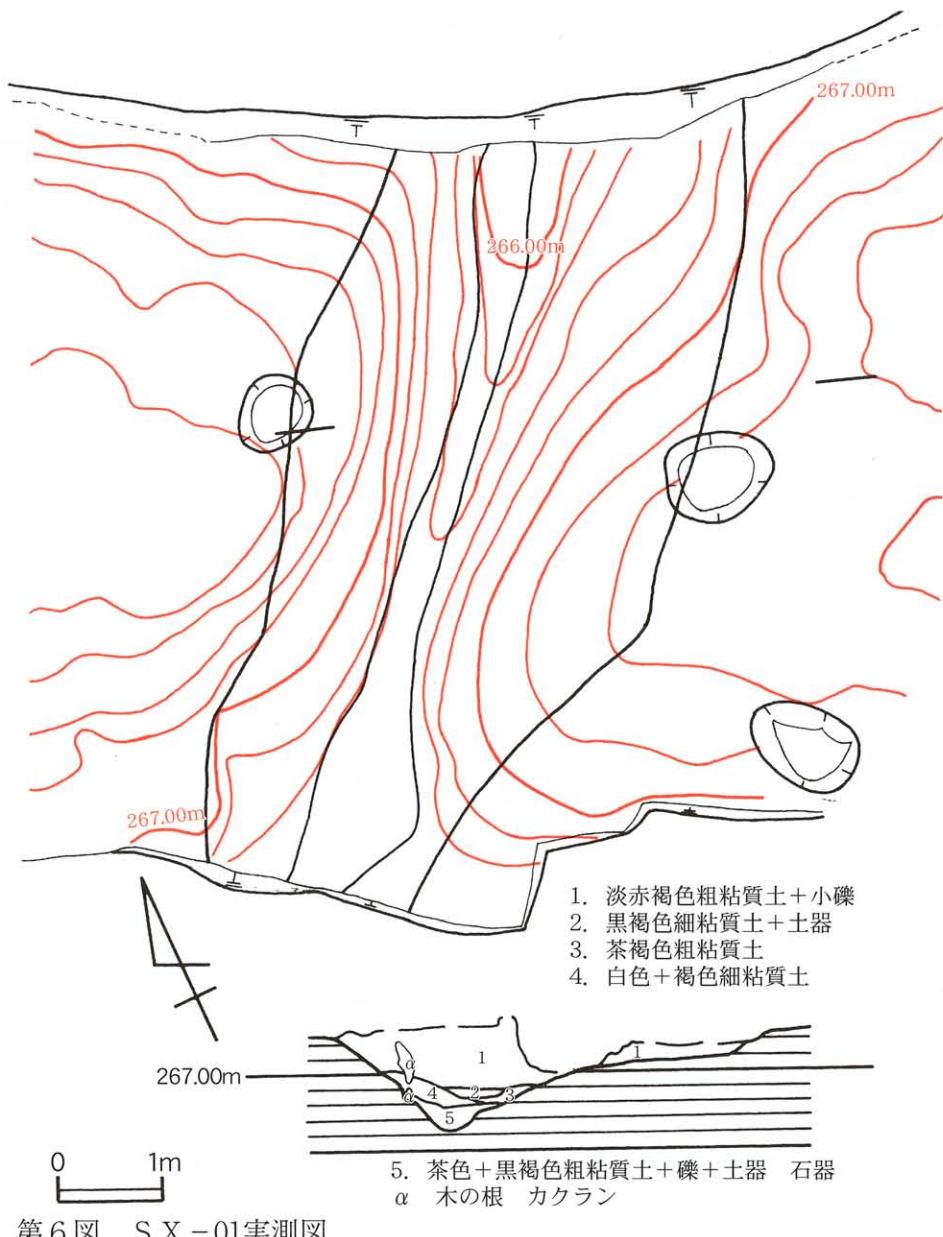
第5図 V・VI区層序実測図

分があり、さらにその西側には、丘陵裾部に隣接・並行する形で、周辺の水田より約1m低い、幅10m、長さ35mの田がみられる。それらを考慮すると、北側には、深さは不明であるが、幅10mで、裾部に沿った形で堀があったと思われる。

第2節 基本的層序

層序は、上から、

I層：表土、II層：灰褐色細砂質土、III層：黒褐色細砂質土（中世）、IV層：アカホヤ火山灰層、V層：黒色粘質土（縄文時代早期）、VI層：淡褐色白色粘

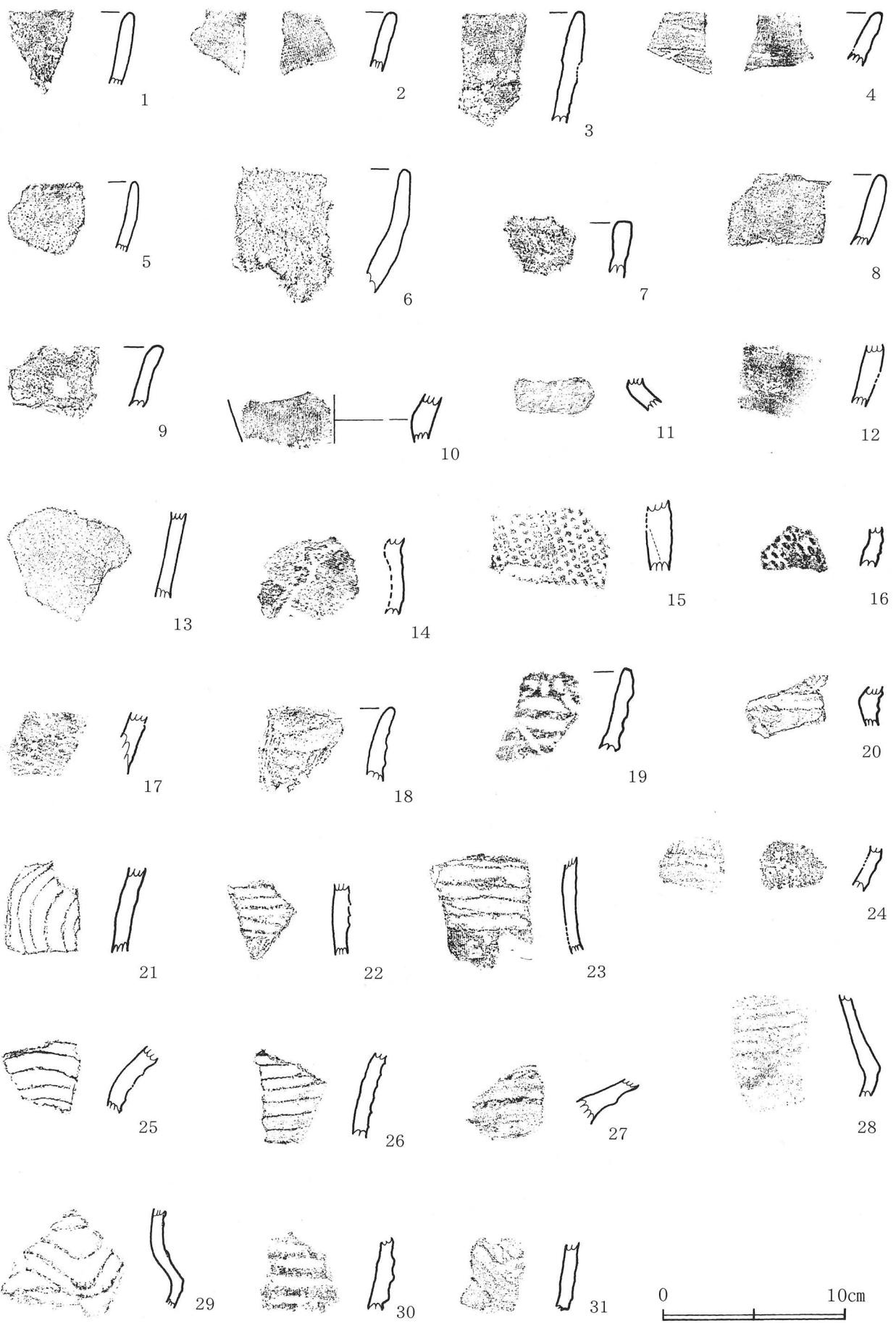


質土に分別した。IV層は、a：暗褐色微細砂質土（古墳時代）、b：黄褐色微細砂質土（アカホヤ火山灰）に分けられる。I～III、IV区北側、VI区西部は開墾などによる削平で土層の削失が著しいが、IV区南部、V区、VI区東部は比較的残りがよく、V層はIV～VI区で30～80cm堆積しており、縄文時代早期の遺物を含む。

第3節 遺構と遺物

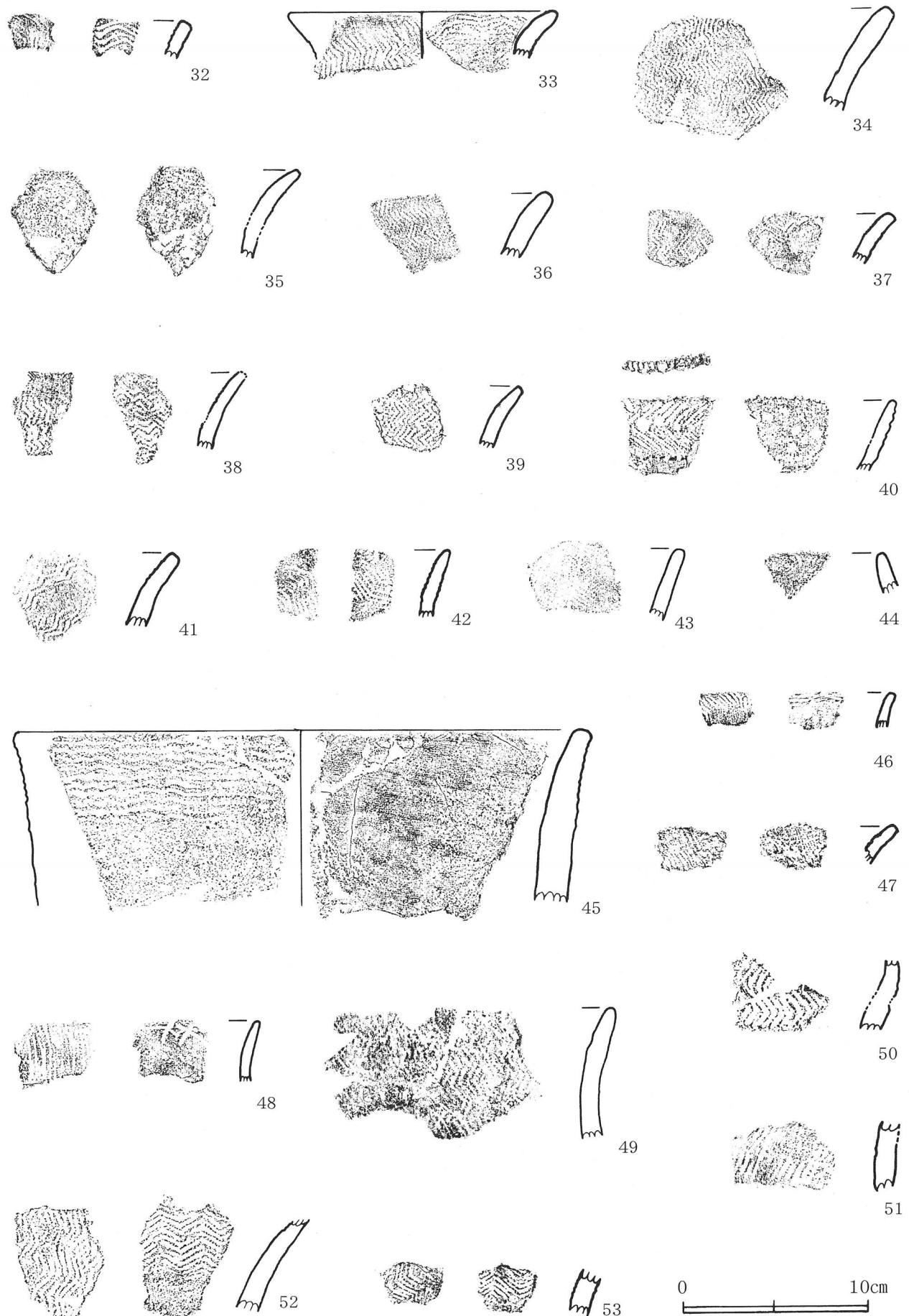
IV b層上面とVI層上面で遺構検出を行った。IV b層上面では遺構は検出されなかったが、VI層上面で柱穴が數十個と、II区の西端から約5mのところに南北に通る堀切と、VI区平坦面西部傾斜変換線部分に犬走り状遺構を検出したのみである。柱穴は斜面部に若干遺存するが、建物復元は困難である。

南東斜面の平坦面は試掘をした結果、遺構・遺物は発見されなかつたため、面的調査をしていな



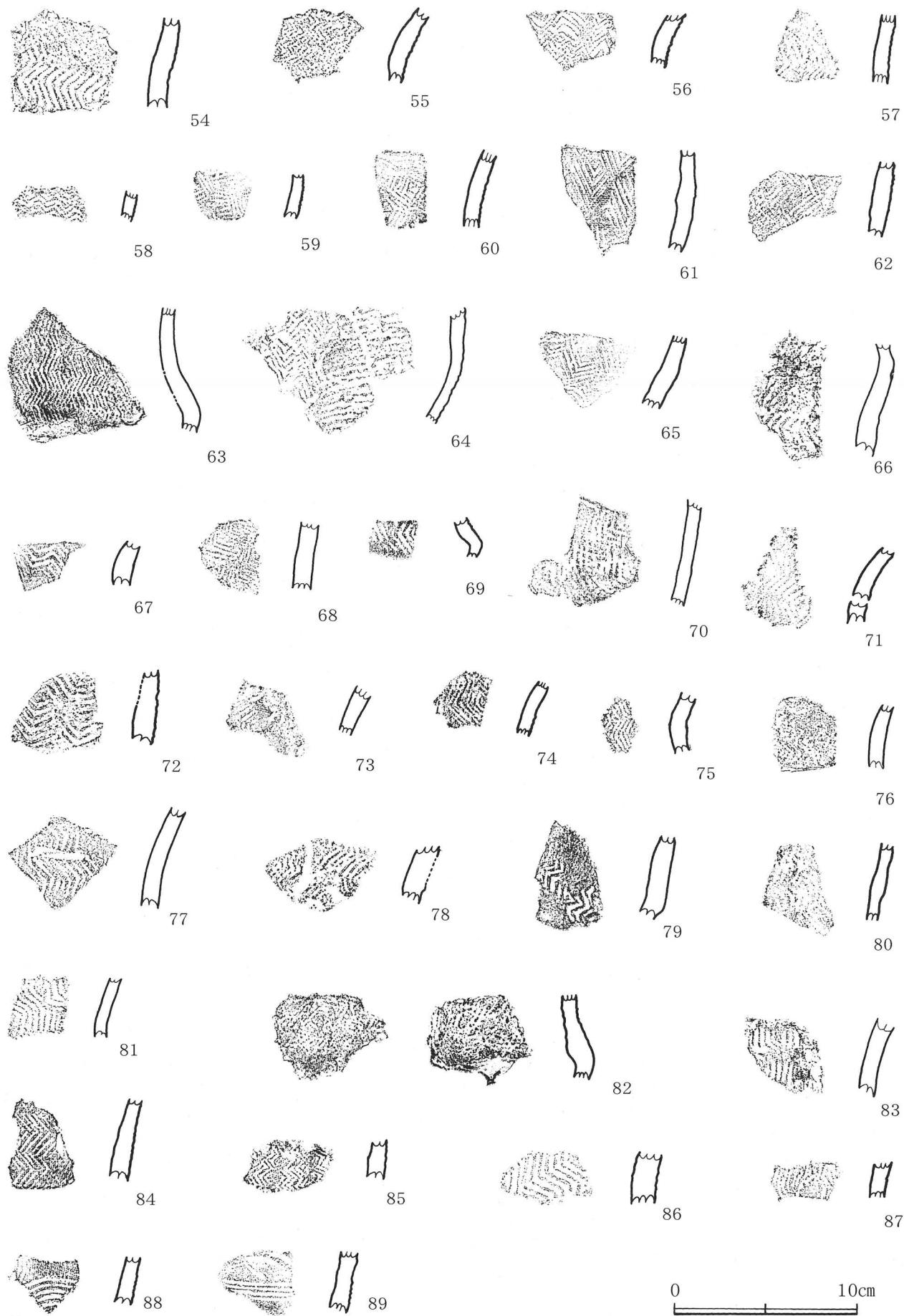
第7図 出土遺物実測図 繩文土器（1）

1~2・8・12~13・18・21~23・25・27・29: SX-01, 3~4・6・9・14・19・30~31: V層,
5・7・16~26: IV層, 10~11・24・28: IIIb層, 15: III~V層, 17~20: VI層



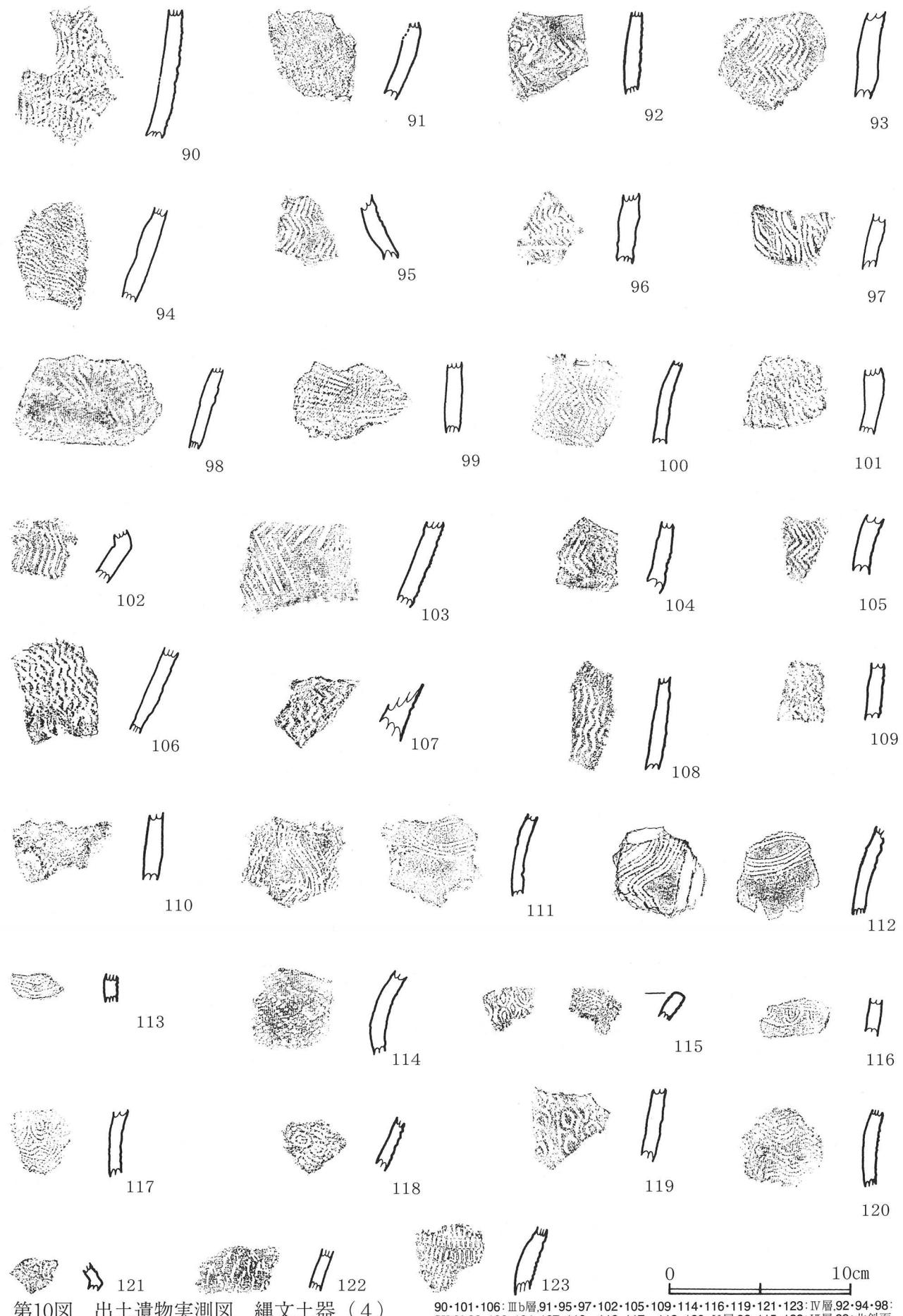
第8図 出土遺物実測図 縄文土器 (2)

32・34～35・38・45・47・49～51: V層, 33・34・48・53: IIIb層, 36・43: IV層
37: VI層, 39～41: SX-01, 42・52: III～V層, 46: II～IV層



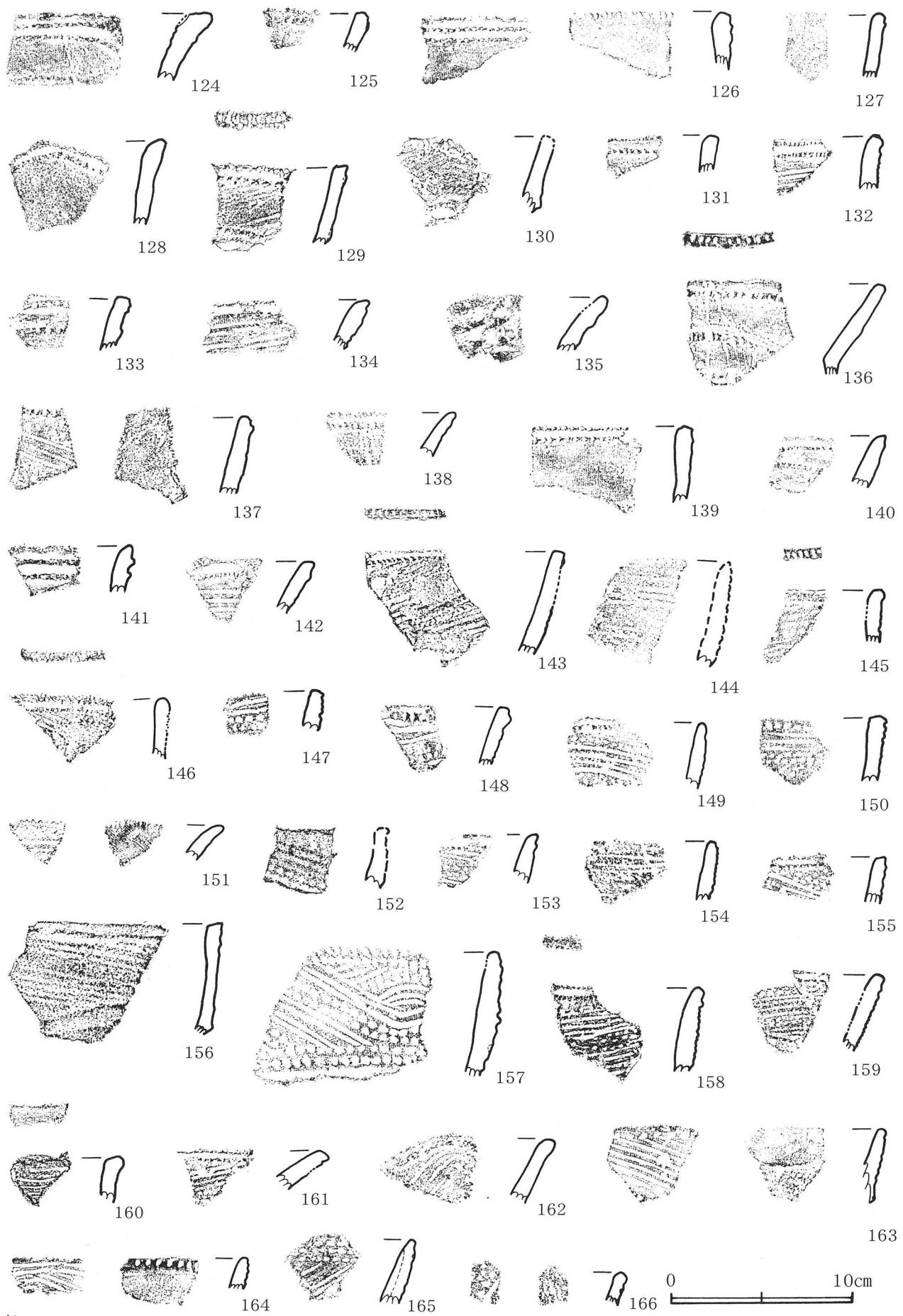
第9図 出土遺物実測図 繩文土器 (3)

54~55·59~60·65~66·68·72·75·78·84·86: V層, 56·58·70·74: VI層, 57·61~62·
67·69·77·80~81·83·85·87~88: IV層, 63·64·89: IIIb層, 71: II~VI層, 73: II~VI層,
76·79·82: SX-02



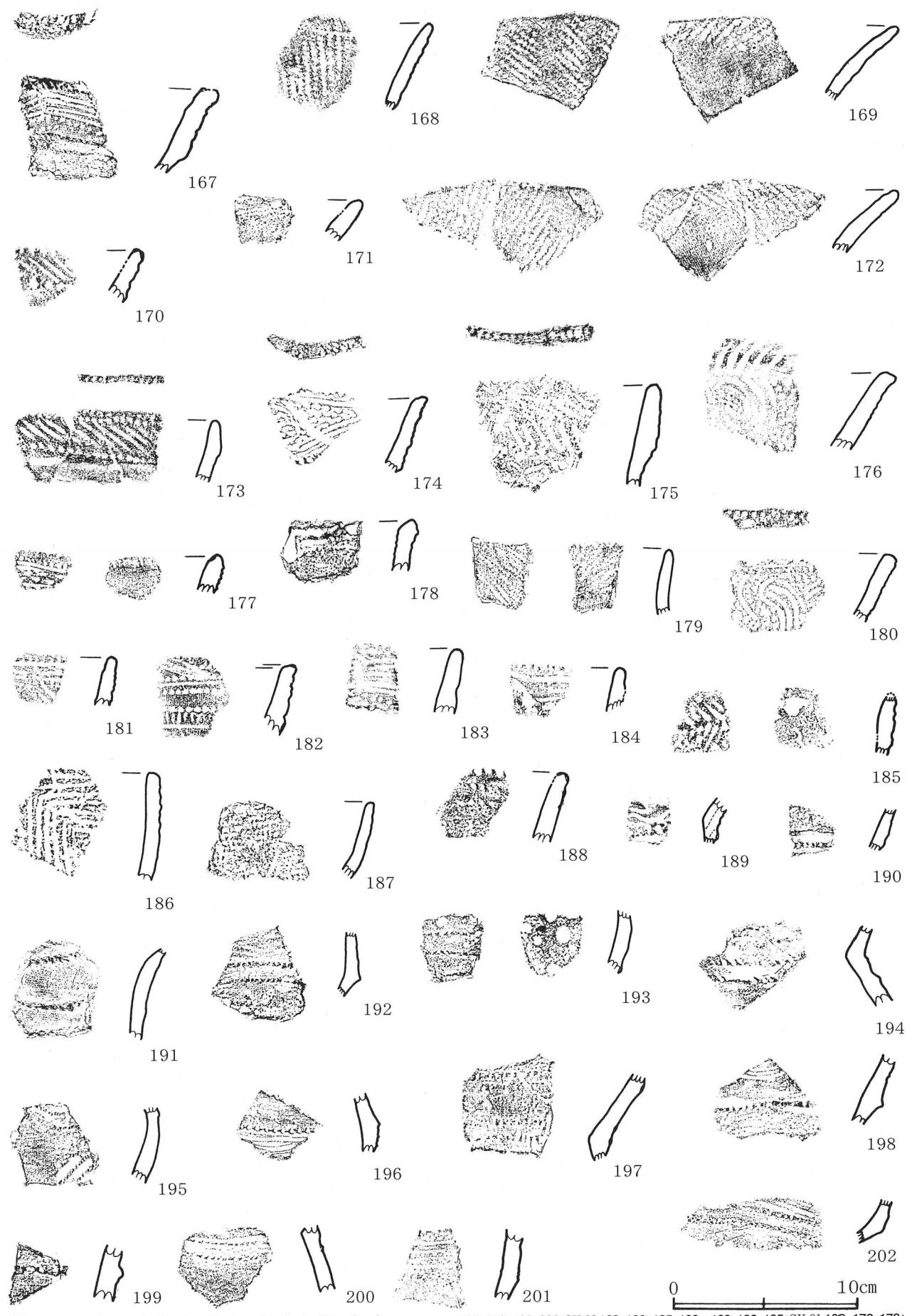
第10図 出土遺物実測図 繩文土器 (4)

90・101・106: IIIb層, 91・95・97・102・105・109・114・116・119・121・123: IV層, 92・94・98:
SX-01, 93・100・104・107・110～112・117～118・120: V層, 96・115・122: VI層, 99: 北斜面,
103: SX-02, 108: III～V層, 113: I～II層



第11図 出土遺物実測図 繩文土器 (5)

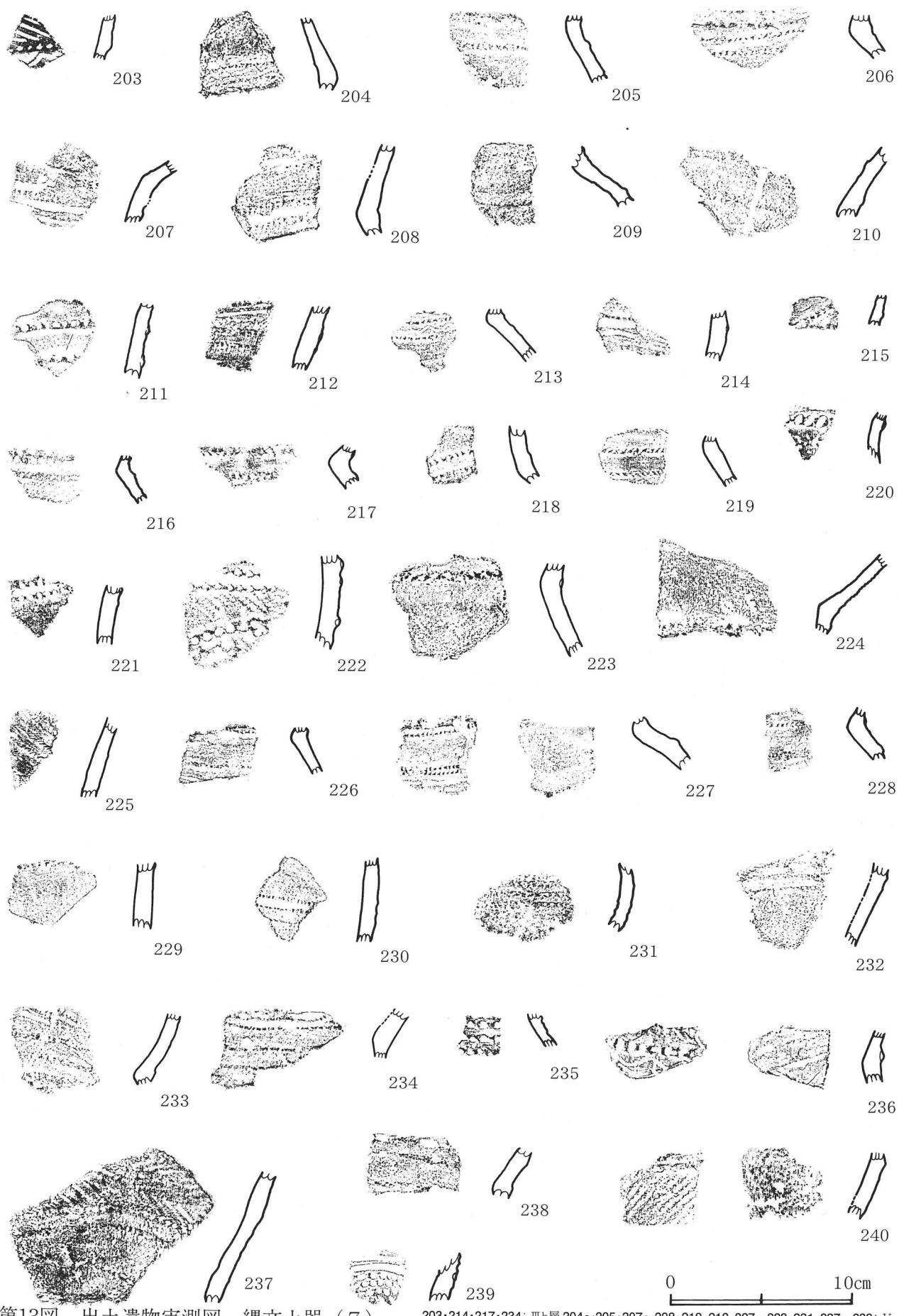
124~125・131・137・139・141・144・148~149・152・154・160・162: V層, 126・129~130・
132・138・140・147・150~151・153・158: VI層, 127・142・145・161・165~166: VI層, 128・
157: IIIb層, 133・136・146・155・159・163: SX-01, 134: III~V層, 135・143・156・164: SX-02



第12図 出土遺物実測図 繩文土器 (6)

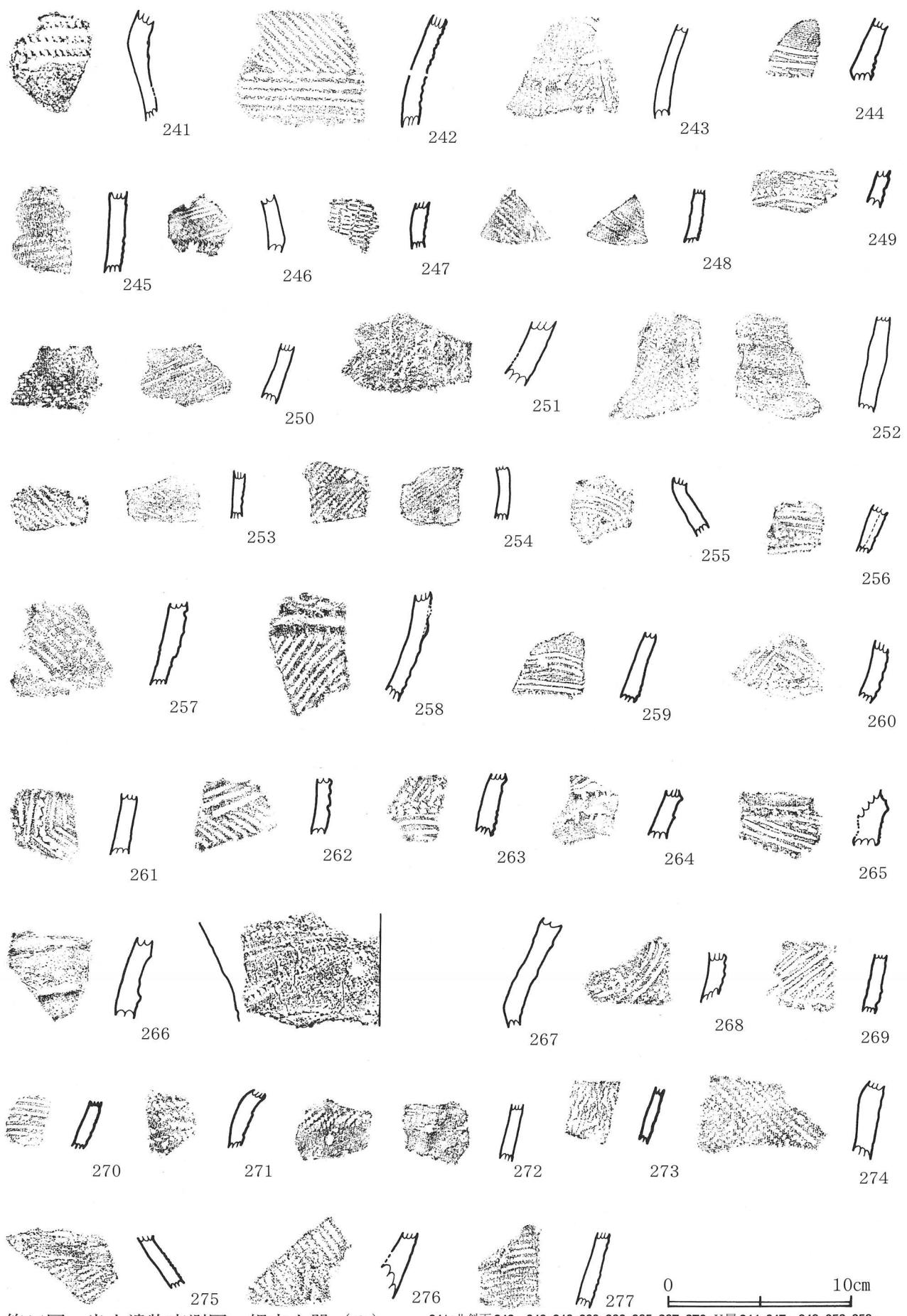
167・170・193・202: SX-02, 168・180・185・188～189・192・195・SX-01, 169・172・179:
IIIb層, 171・182: VI層, 173・181・183・186・190～191・194・196・198～201: IV層,
174～175・177～178・184・197: V層, 176・187: III～V層

0 10cm



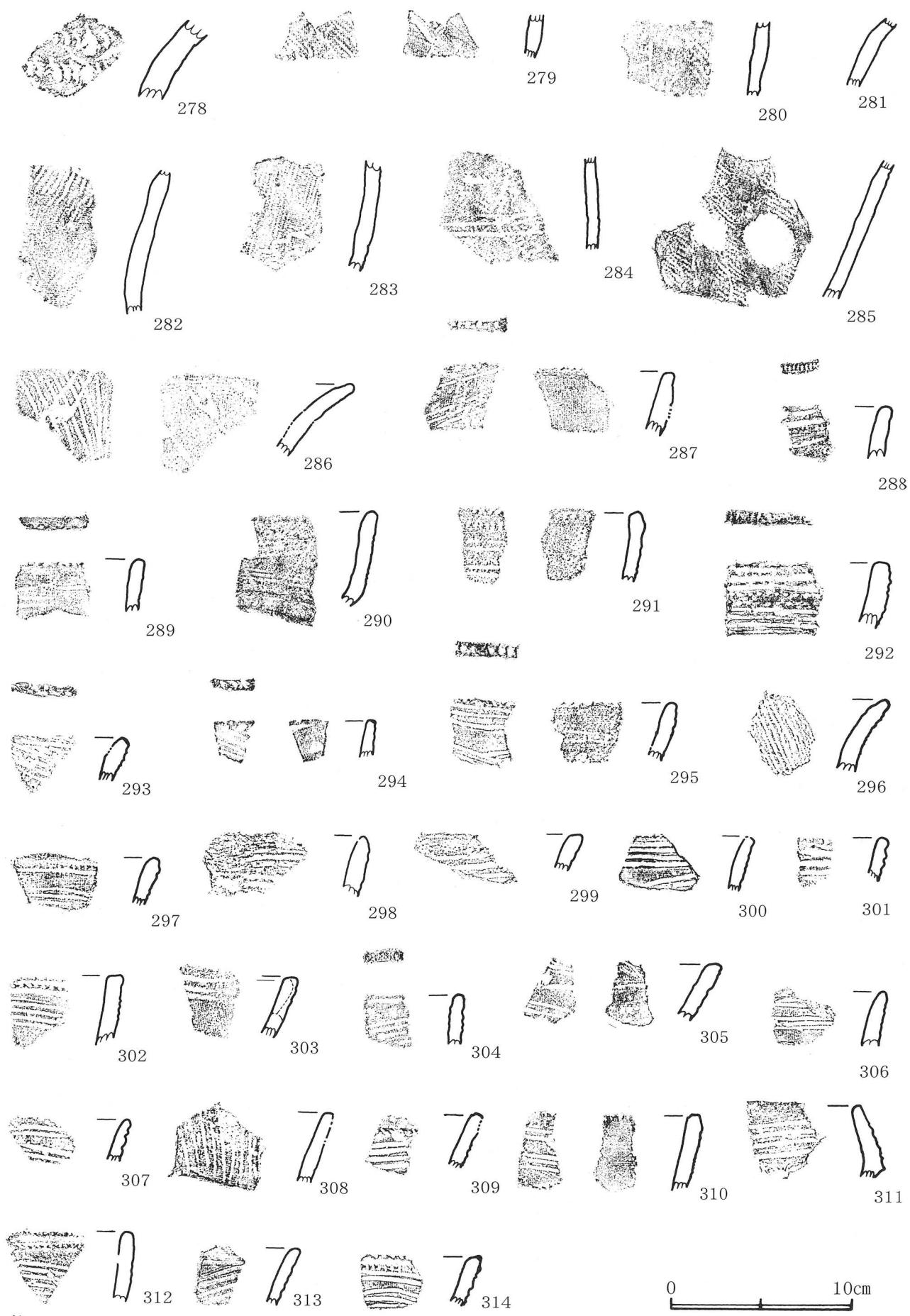
第13図 出土遺物実測図 繩文土器 (7)

203・214・217・234: IIIb層
204~205・207~208・210・212・227~228・231・237~239: V層
206・211・213・215~216・218・233: IV層
209・225・230・235: VI層
219・224・226・232: SX-02, 220~222・229・236・240: SX-01, 223: 北斜面



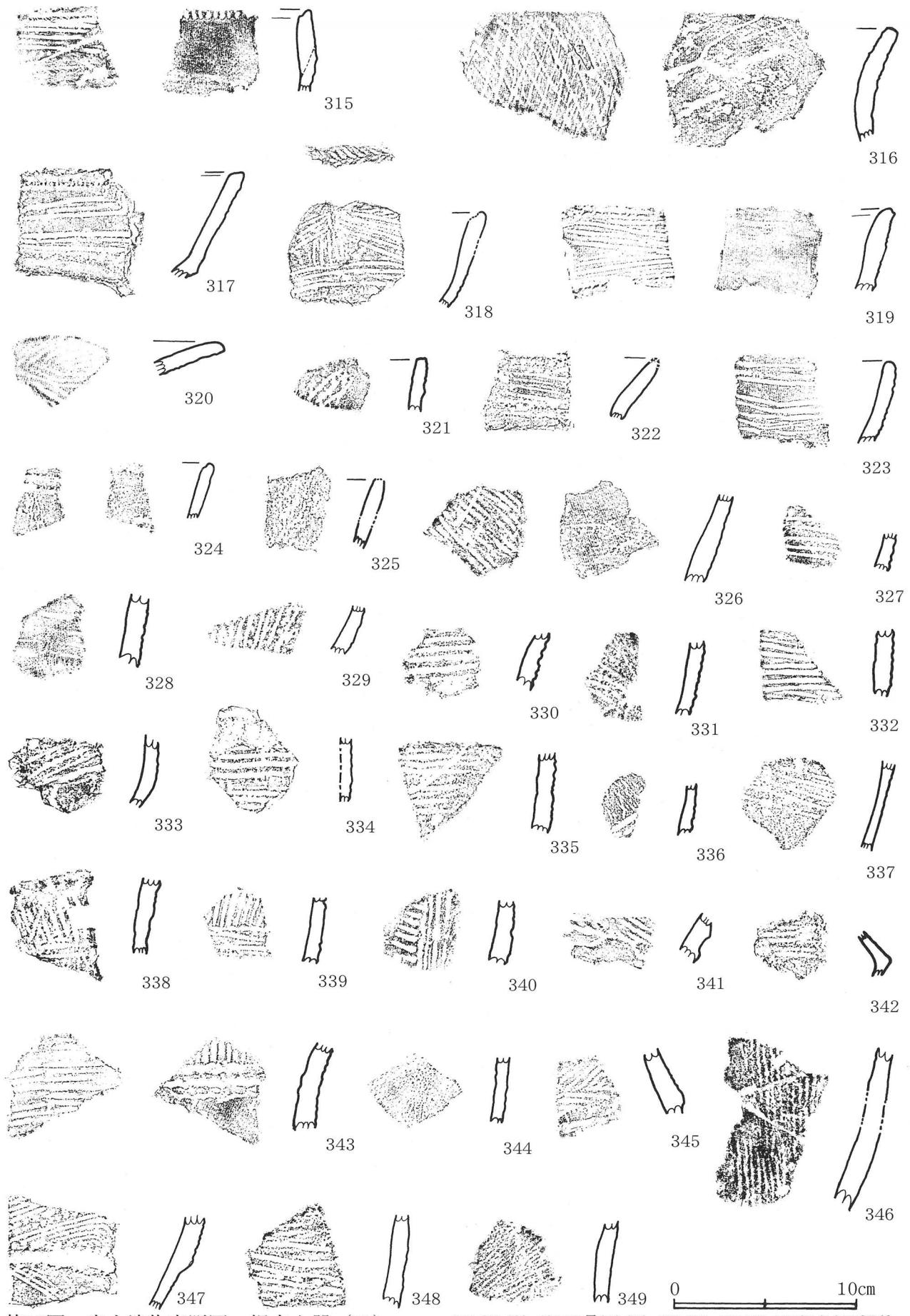
第14図 出土遺物実測図 縄文土器 (8)

241: 北斜面, 242~243・246~260・262~265・267・270: V層
 244~247~248・253~258・263~271・277: IIIb層, 245~252・259~274: SX-02, 249~255・257~261・266~269~273: IV層,
 250~275: III~V層, 251: VI層, 254~256~264~268~272~276: SX-02



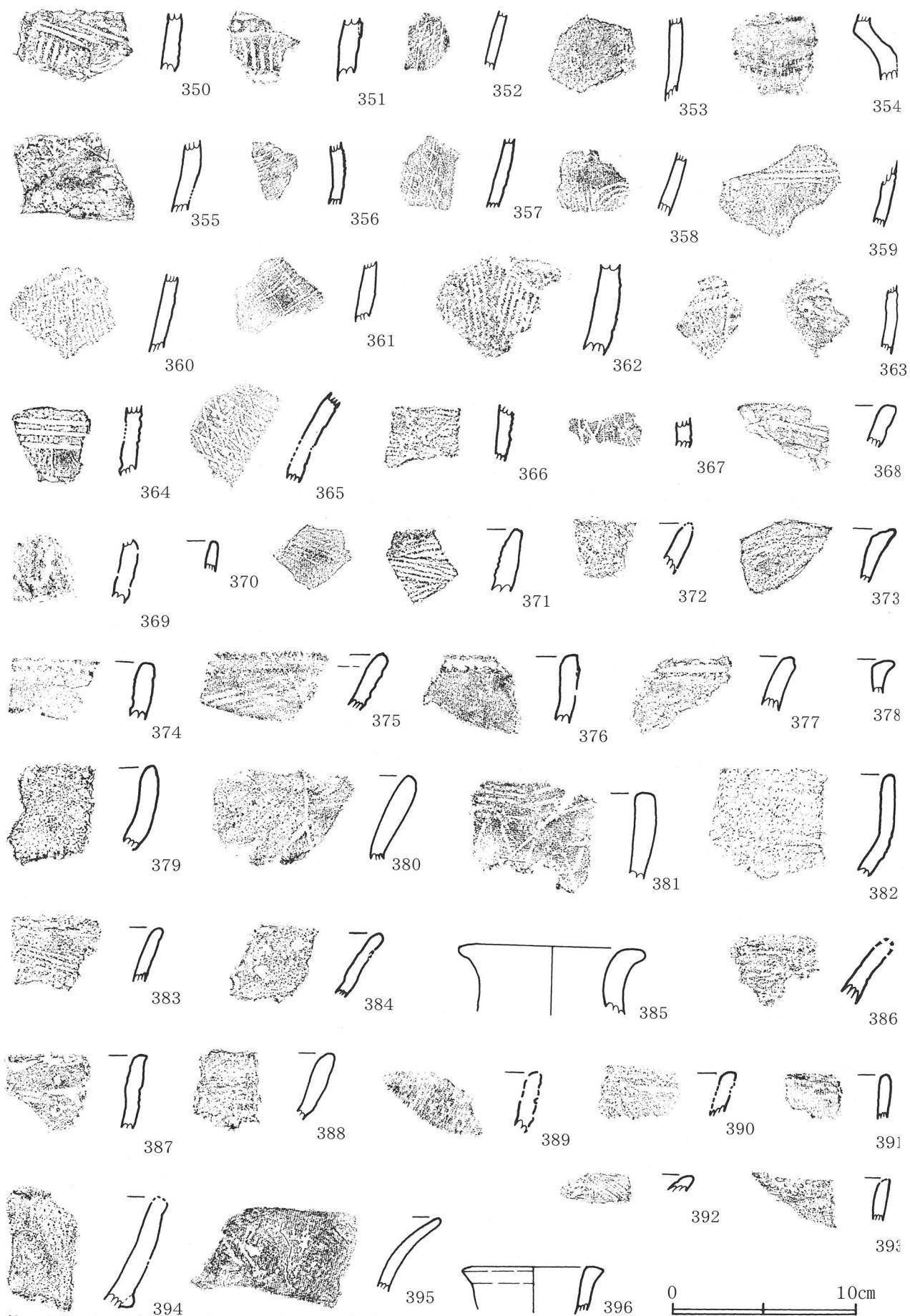
第15図 出土遺物実測図 繩文土器 (9)

278~280・286~294: IIIb層, 281・284~285・296・302: SX-01, 282・299・308・310・313:
SX-02, 283・287~288・298・301・311: V層, 289~291・295・303~306・309・312: IV層,
292: 北斜面, 293・297・300・314: VI層, 307: SX-01・VI層



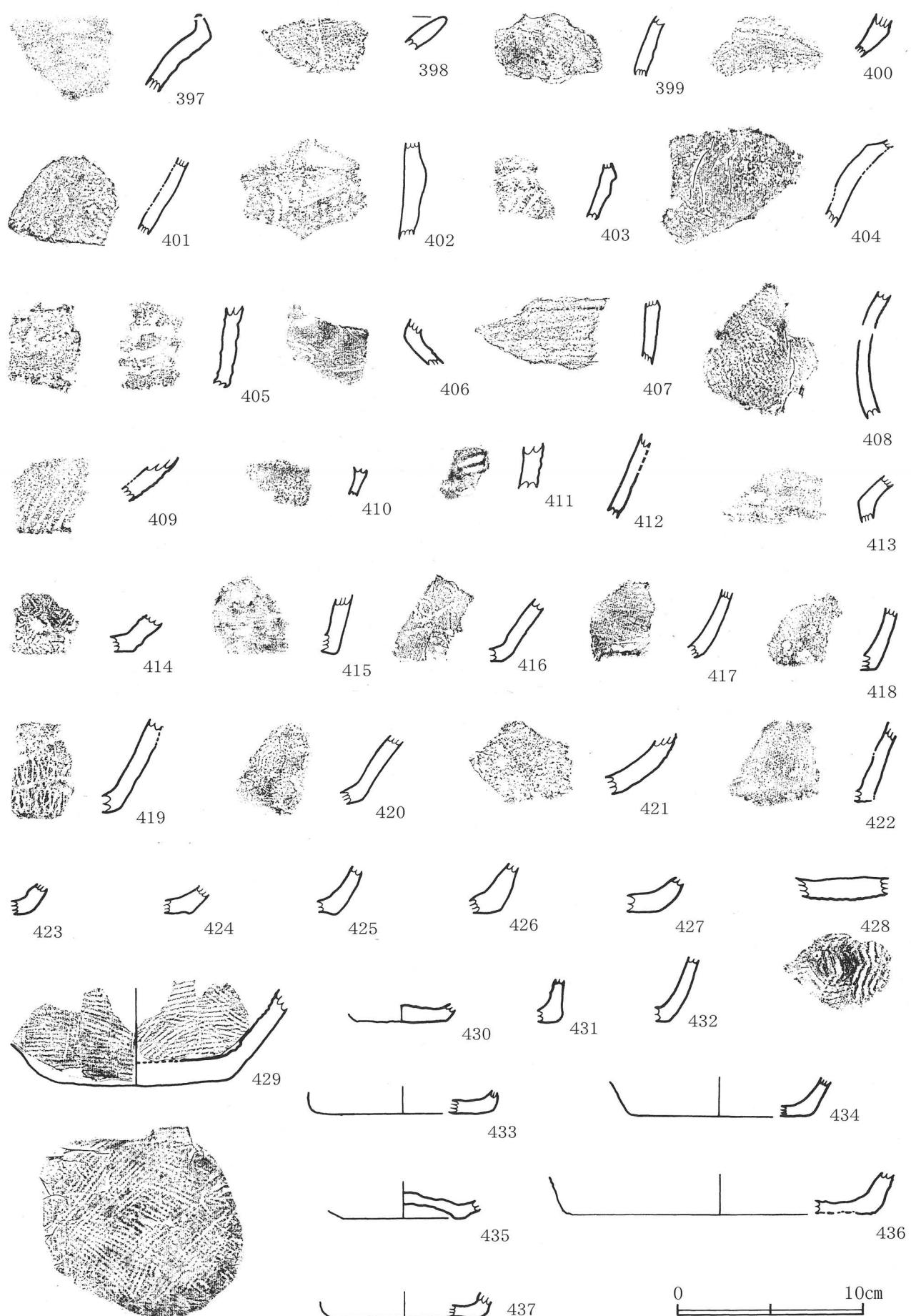
第16図 出土遺物実測図 繩文土器 (10)

315・329・336～337: IIIb層, 316・318～319・322～323・334・347: SX-01, 317: SX-02,
320・324・326・328・332・335・339～340・345・348: IV層, 321・330～331・333・342～
344・349: V層, 325: VI層, 327: SX-01, 328: VII層, 338: II～VI層, 341: III～V層, 346: 北斜面



第17図 出土遺物実測図 繩文土器 (11)

350~351・361・371・375~376・385・388: IV層, 352~355・360・366・369~370・389・393
 395: SX-01, 356・367・373・383~384・392: VI層, 357・359・365・368・378・380・394: SX-02
 358: III~V層, 362・374・379・381~382・386~387・391・396: V層, 363~364・372・377:
 IIIb層, 390: SX-01・VI層



第18図 出土遺物実測図 繩文土器 (12)

397・400・405・408・412・414・419・432・435～436: V層, 398～399・401・403～404・406～407・410～411・418・424・437: SX-01, 402・413・416・425～426・429・431・433: IV層, 409・415・423・427～428・434: IIIb層, 417: 北斜面, 420・430: SX-02, 421: III～V層, 422: VI層



第19図 出土遺物実測図 繩文土器 (13)

438・440・447・450～451・454・456・459～460・463～464・466: IV層 439・446・448・453・461: IIIb層, 441～445・462: SX-01, 449・452・455・458: V層, 457・465・466: SX-02

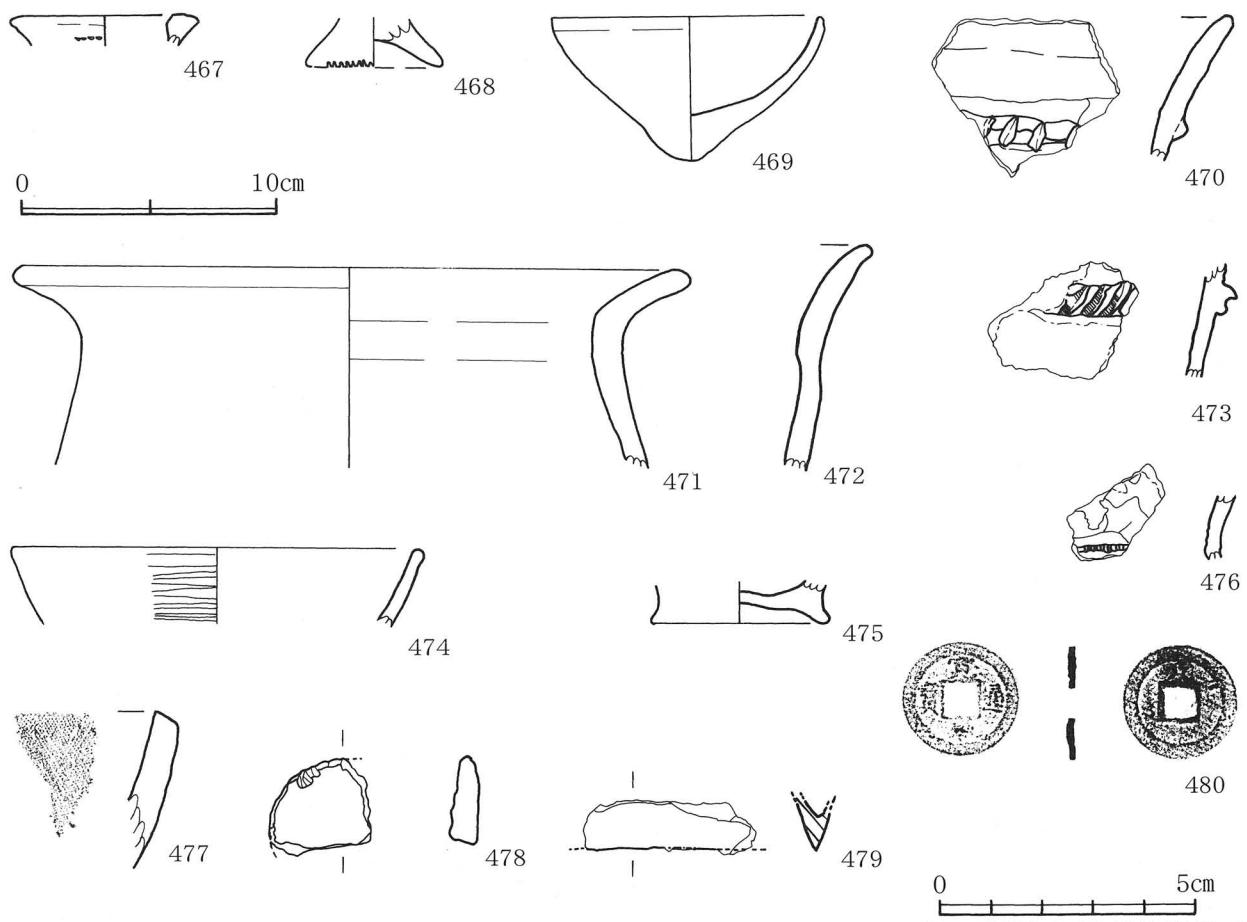
い。

S X-01 (第6図)

II区の西端から約5m付近で検出された、幅2.72～5.44m、深さ0.2～1.4mを測り、南が浅く北が深い、断面がV字を呈する、南北に通る堀切である。出土遺物は流れ込みであるが、無文土器や手向山式・平桙式・塞ノ神式などの縄文早期の土器片が出土しており、石器は石鏃、石鏃未製品、縦型の先端が直線的で台形を呈する石匙で、刃部中央に抉りが入っているもの(597)や異形石器、石錐、磨石、石核、砥石が出でている。中世の出土遺物はなく、機能した時期は不明である。

犬走り状遺構

VI区の西部の傾斜変換線部分で検出され、平坦面に沿って北東にのびる。地山削り出しではな



467: V層, 468~471・473~474・476~477・479: IV層, 472: 北斜面, 475・480: IIIb層, 478: III~V層

第20図 出土遺物実測図 弥生土器・土師器・土製品・鉄器・銅鏡

く、III層とVI層とで造成している。標高は約264~265mで、幅1m、長さ約14mを測る。出土遺物は皆無である。

出土遺物

IVa・V層の遺物包含層の掘り下げを行い、調査区の西半分は、開墾による削平が著しく、遺物の出土量は少なかった。中央から東側にかけてはIVa・V層の残りがよく、縄文早期の土器が大量に出土している。

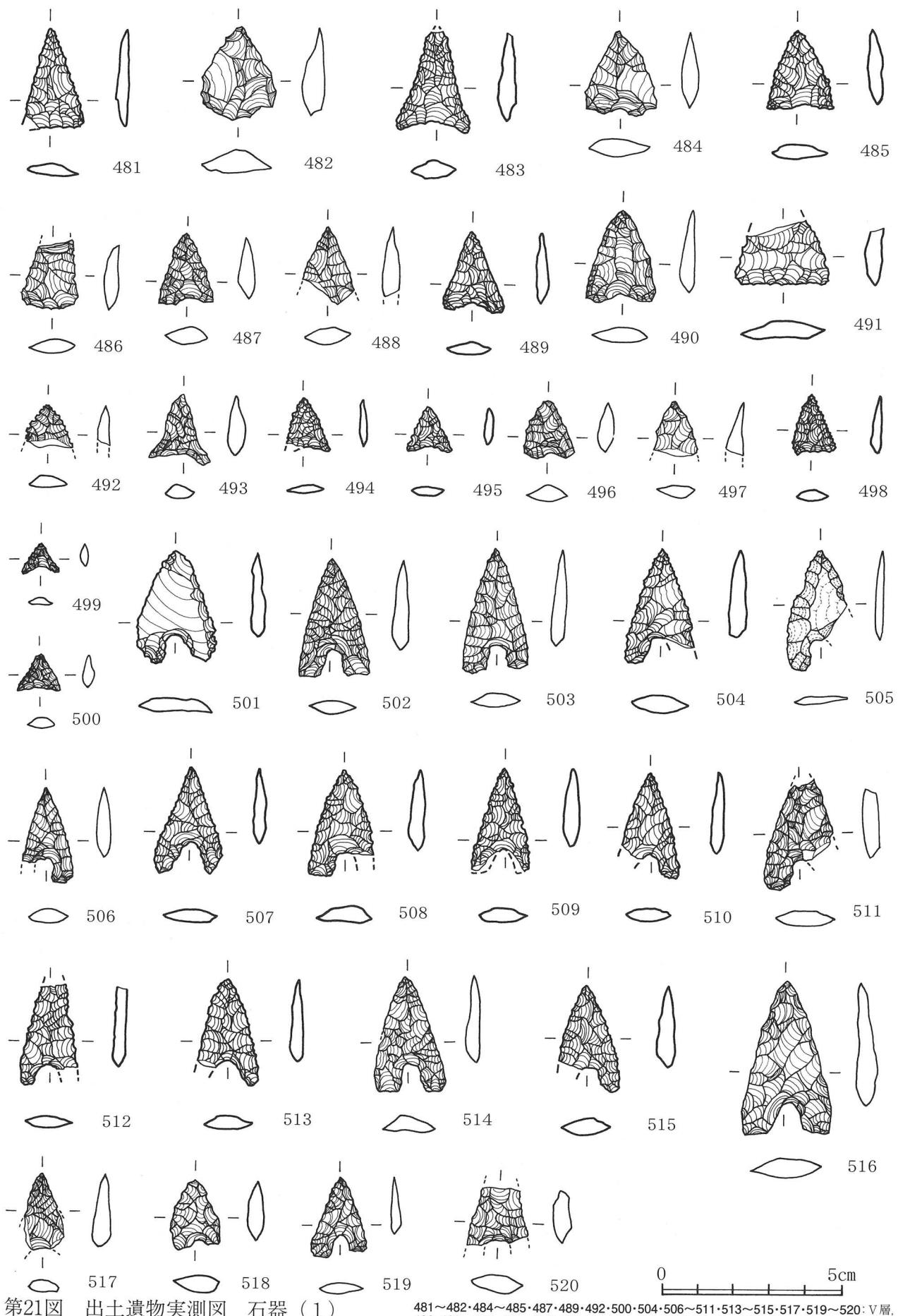
縄文土器は大量に出土しているが、早期のものがほとんどで、中期から晩期のものは少ない。また、破片ばかりで、接合するものは少ない。

1~14は無文土器である。

15~17は押型文土器で、楕円押型文を施している。

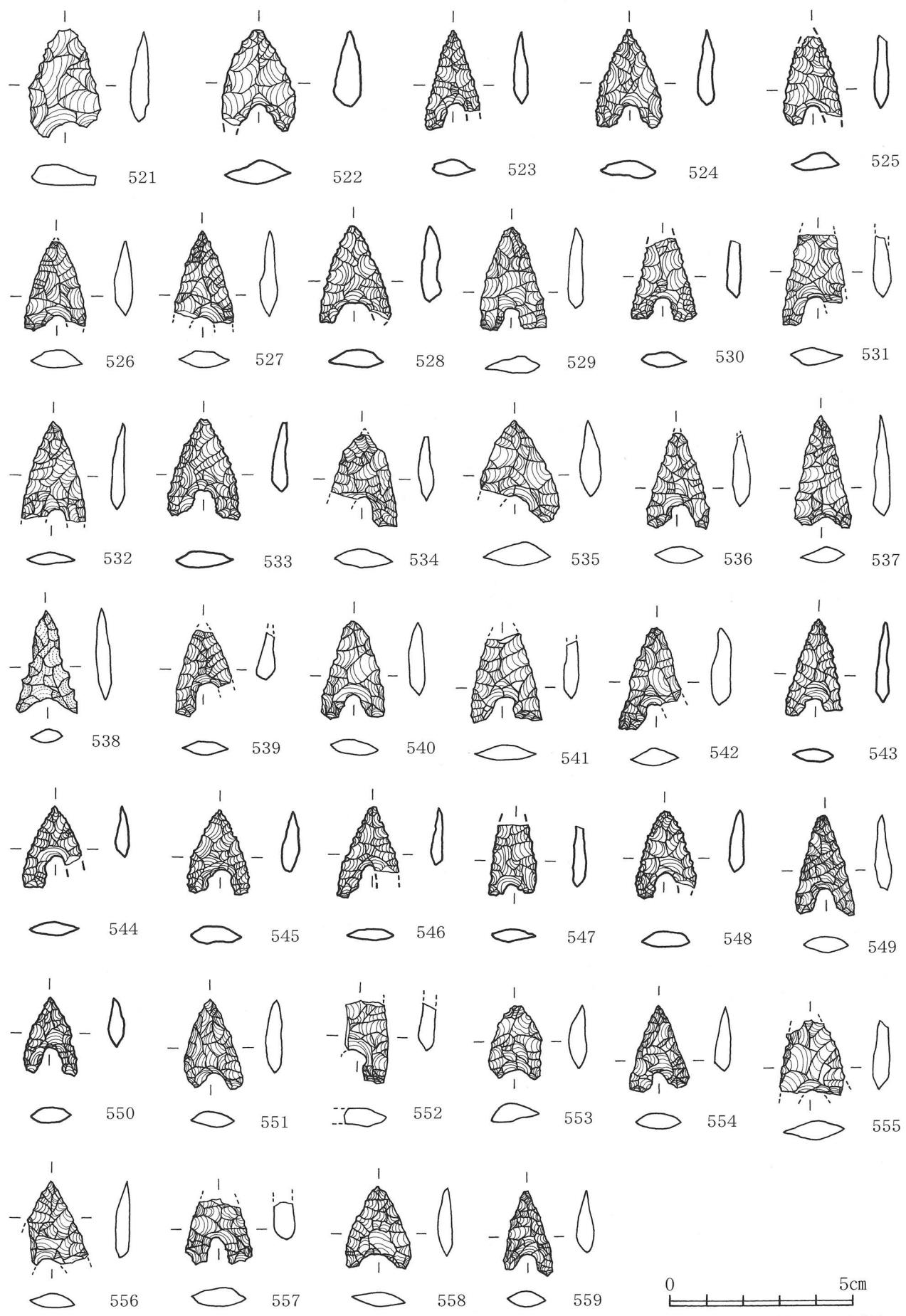
18~123は手向山式土器である。18~31は、口縁部から胴部屈曲部にかけてミミズばれ文を施すものである。32~109は、口縁部から胴部にかけて山形押型文を施すもので、外器面は、文様を縦方向に施すものが多く、横や斜め方向に施すものもみられる。口縁部内器面に山形押型文を横方向に施すものもみられる。115~122は同心円文の押型文を施すものである。

124~285は平桙式土器である。口縁部から頸部の文様は、主に連点文と沈線文によって構成され



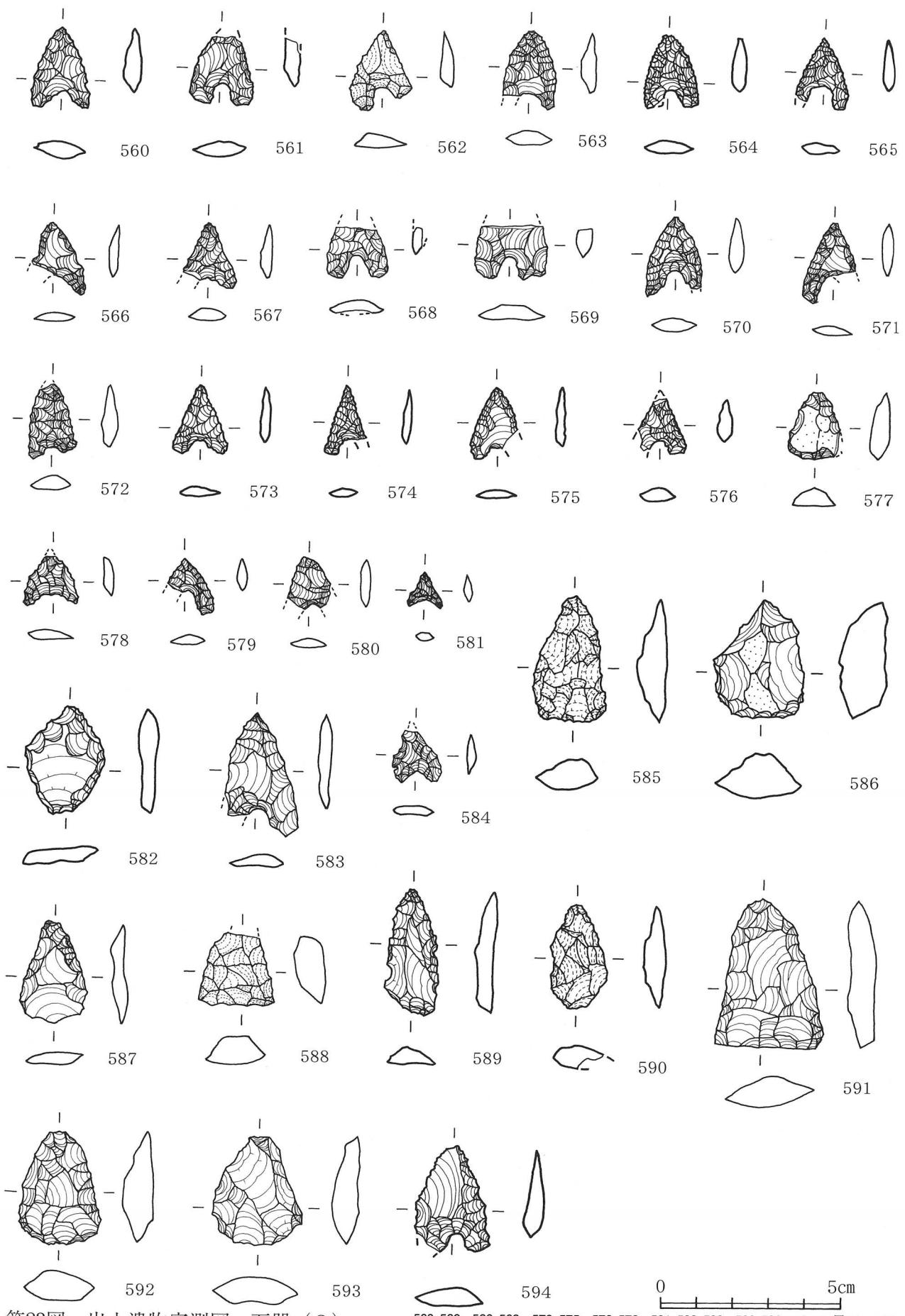
第21図 出土遺物実測図 石器 (1)

481～482・484～485・487・489・492・500・504・506～511・513～515・517・519～520: V層,
483・490～491・493～496・499・503・516・518: IV層, 486: III～V層, 488: III層, 497: SX-02,
498: IIIb層, 501: 北斜面, 502: SX-01, 505: SX-01・VI層, 512: II～IV層



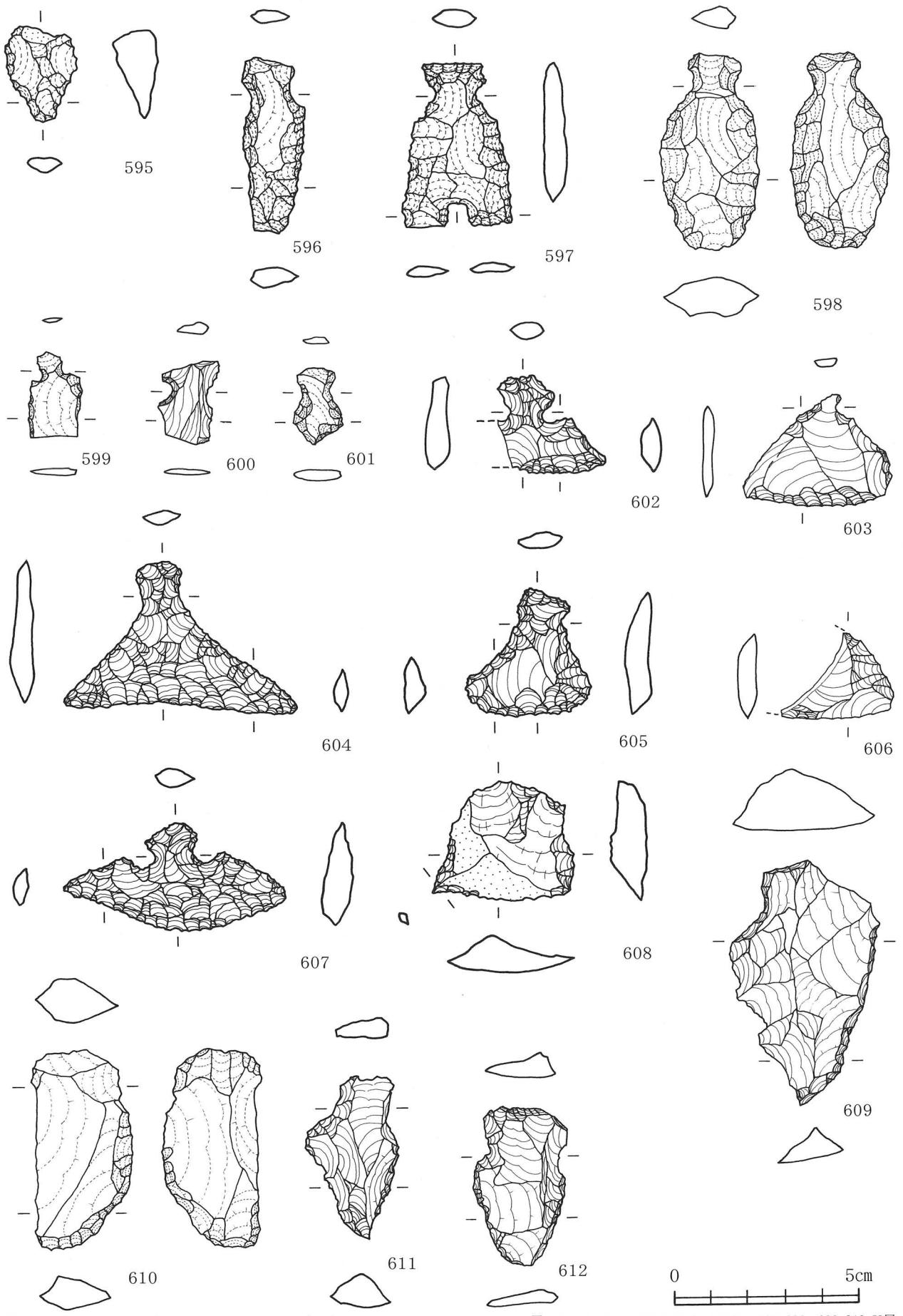
第22図 出土遺物実測図 石器（2）

521・523・526・534・536～538・541・551・553～555・558～559: IV層, 522・540: 北斜面, 524・529～530・532・535・539・542・544・547～549・552・557: V層, 525・550: IIIb層, 527: II～IV層, 528・531・533・543・546・556: SX-01, 545: SX-02



第23図 出土遺物実測図 石器 (3)

560・562～566・568～573・575～576・578～581・583・588～589・593～594: V層, 561・567・574・587・590: IV層, 577・585・591: SX-01, 582: II～III層, 584・592: IIIb層, 586: SX-02



第24図 出土遺物実測図 石器 (4)

595・609: IIIb層, 596~597・607~608・610: SX-01, 598~599・602~603・612: V層,
600: II~IV層, 601: 北斜面, 604: IV層, 605~606: SX-02, 611: III~V層



第25図 出土遺物実測図 石器 (5)

613・618・620～621・630～631: IV層, 614～615・617・619・625・632: V層, 616: II～III層,
622: SX-01, 623: III層, 624・633: III～V層, 626: II～IV層, 627～628: IIIb層, 629: SX-02

ているものが多く、また、口縁端部や頸部くびれ部に数条の刻目突帯文を巡らすものもみられる。口唇部に連点文を施すものもみられる。

286～367は塞ノ神式土器である。外器面は、ヘラ描きによる条線で縦・横・斜めや交差などの幾何学的な文様が施されている。口唇部に連点文を施すものもみられる。

368～413は縄文早期の土器であるが、判別の困難なものである。

414～446は底部で、平底が多く、上げ底や上げ底気味のものもみられる。

447～464は縄文中期から晩期の土器で、阿高・市来・三万田式などがみられる。

弥生土器は、壺の口縁部と鉢が計3点、土師器は、甕の口縁部と高坏の口縁部、塊の底部が計7点出土しているだけである。また、布痕土器の口縁部、円盤土製品が出土している。

この他、攪乱層から鉄製の鋤先が1点と寛永通宝が1点出土している。

石器は、石鎌が多く出土しており、その中には未製品もみられる。また、石匙も製品・未製品がみられる。そのほか、抉入石器、異形石器、剥片、2次加工のある剥片、大型剥片、スクレイパー、刃器、石斧、凹石、磨石、砥石、台石が出土している。また、凝灰質砂岩製の垂飾品が1点出土している。

第4節 小結

独立丘陵上に立地する手仕山遺跡は、丘陵頂部平坦面の西から中央部北側、北東部の西半分は開墾などによる削失が著しく、また、中央部南側から東部、北東部東側は、比較的残りがよかつたが、ほとんど遺構は検出されなかった。

縄文時代は、中央南側から北東部東半分では遺物包含層であるIVa・V層の残りがよく、縄文早期の土器が多く出土しているが、遺構は検出されなかった。土器の型式からすると比較的長い期間の生活活動が行われていたと思われるが、集石遺構などの遺構が皆無であり、削平された部分に遺構があった可能性はあるが、キャンプ地的な性格のものであったと思われる。

弥生時代から古代にかけての遺構は遺存せず、出土遺物も極端に少なくなり、隔絶している時期である。

中世は、堀切や犬走り状遺構等で構成される山城となるが、その他の遺構は後世に削失したと推定され、また、時期を特定できる遺物も出土していない。しかし、本遺跡の南東500mのところに徳満城があることを考慮すると、出城的機能を有していたと思われる。

表1 出土遺物観察表（1） 繩文土器

No	出土地	種類	器種	法量			調整		胎土	焼成	色調		備考
				口径	底径	器高	外面	内面			外面	内面	
第7回 1	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	—	—	—	粗工具ナデ	工具ナデ	微細砂少量	ややあまい	淡灰白	淡灰褐	
2	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	—	—	—	工具ナデ	工具ナデ (半ミガキ)	良	ややあまい	茶褐～茶灰	暗灰～淡黒灰	
3	IV区 V層	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	細砂	細白色粒を含む	やや不良	暗褐～茶褐	暗茶褐	両面:マメツ
4	VII区 V層	縄文土器	深鉢	—	—	—	粗工具ナデ	工具ナデ	良	良	暗茶褐	黄褐	
5	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	—	—	—	ハケ状工具ナデ	ハケ状工具ナデ	粗細砂やや多い	良	淡橙黄	淡黄～淡灰黄	
6	IV区 V層	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	砂を多く含む	やや良	茶褐	暗茶褐～茶褐	両面:マメツ
7	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	—	—	—	ナデ	ナデ→ナデ消し	砂黒雲母を含む	やや良	にぶい褐	にぶい灰褐～にぶい燈	両面:マメツ
8	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	—	—	—	工具ナデ	工具ナデ	粗細砂やや多い	良	暗茶褐～茶灰	淡橙～暗褐	
9	IV区 V層	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	細砂を含む	やや不良	淡灰茶	淡灰茶	両面:マメツ
10	II区 IIIb層	縄文土器	深鉢	—	—	—	ナデ	ナデ	微細砂少量	良	淡黄褐～淡黄灰	淡灰褐～黄褐	
11	II区 IIIb層	縄文土器	深鉢	—	—	—	工具ナデ	ナデ	粗細砂少量	ややあまい	淡黒灰	淡褐	
12	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	—	—	—	工具ナデ～ ケズリ状	ミガキ	良	ややあまい	淡橙黄～淡黄	淡灰～淡桃褐	
13	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	—	—	—	ナデ	ナデ	粗細砂少量	ややあまい	茶橙	灰～暗灰褐	
14	VII区 V層	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	砂を多く含む	不良	黒褐～黒茶褐	—	外側:マメツ 両面:器面剥離
15	II区 III～V層	縄文土器	深鉢	—	—	—	ナデ	半ミガキ	微細砂やや多い	良	淡橙褐～淡黄褐	淡茶灰	
16	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	—	—	—	ナデ	—	細砂を含む	やや不良	褐～黄褐	褐～淡茶褐	内面:マメツ
17	III区 SX-01	縄文土器	深鉢	—	—	—	ナデ	ナデ	良	ややあまい	淡橙黄	暗褐灰	被熱
18	III区 SX-01	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	砂白色粒を多く含む	やや不良	淡褐	淡褐～淡茶褐	両面:マメツ
19	IV区 V層	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	砂を多く含む	やや不良	褐	—	両面:マメツ
20	III区 VI層	縄文土器	深鉢	—	—	—	工具ナデ	工具ナデ	石英微細粒多量	ややあまい	暗茶褐～暗褐灰	茶～暗茶褐	
21	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	—	—	—	ナデ	ナデ	粗細砂少量	良	淡橙褐	淡黄褐～淡灰褐	
22	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	—	—	—	工具ナデ	丁寧工具ナデ	微細砂微量	良	淡褐	淡黄褐	
23	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	—	—	—	ナデ	ナデ	粗細砂 角閃石少量	ややあまい	黄灰～灰褐	暗茶褐～茶褐	
24	II区 IIIb層	縄文土器	深鉢	—	—	—	工具ナデ～ナデ	丁寧ナデ	微細砂やや多い	あまい	暗橙灰～暗橙褐	灰褐～暗灰褐	
25	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	—	—	—	ナデ	工具ナデ一部粗い	微砂 角閃石少量	良	暗茶褐	淡茶褐～淡橙褐	
26	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	—	—	—	ナデ	ナデ消し	黒雲母を多く含む	やや良	暗黄褐	淡黄褐	
27	III区 SX-01	縄文土器	深鉢	—	—	—	工具ナデ	半ミガキ	良	ややあまい	茶灰～暗茶灰	淡褐	
28	IV区 IIIb層	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	砂黒雲母を含む	やや不良	淡茶褐	茶褐	両面:マメツ
29	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	—	—	—	ナデ	ナデ～工具ナデ	粗細砂少量	良	茶灰～褐	茶灰～褐	
30	IV区 V層	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	砂を含む	やや良	黄褐	暗黄褐	両面:マメツ
31	IV区 V層	縄文土器	深鉢	—	—	—	ナデ	ナデ～粗ミガキ	白色粒を含む	やや良	淡褐～淡白褐	浅黄～暗黄褐	
第8回 32	VII区 V層	縄文土器	深鉢	—	—	—	ナデ	ナデ	細砂を含む	やや不良	茶褐～暗茶褐	褐～黄褐	手向山式
33	II区 IIIb層	縄文土器	深鉢	143	—	—	ナデ	工具ナデ	微細砂少量	良	黄褐～暗茶灰	暗茶褐～暗茶灰	
34	IV区 V層	縄文土器	深鉢	—	—	—	ナデ	ナデ～ミガキ	砂を含む	やや良	暗褐～黒褐	淡灰褐～淡黄褐	
35	VII区 V層	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	砂を多く含む	やや不良	淡褐～暗褐	淡褐～暗茶褐	手向山式:両面: マメツ器面剥離
36	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	粗細砂少量	ややあまい	暗茶褐～暗黒褐	淡黄～淡灰褐	両面:マメツ
37	III区 VI層	縄文土器	深鉢	—	—	—	ナデ	ナデ	細砂微量	良	淡褐	淡黄褐	
38	IV区 V層	縄文土器	深鉢	—	—	—	ナデ?	ナデ	粗細砂少量	ややあまい	茶灰	橙褐	
39	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	—	—	—	ナデ	工具ナデ	微砂少量	ややあまい	淡橙～橙	淡黄灰	
40	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	—	—	—	ナデ?	丁寧ナデ	微砂少量 角閃石微量	あまい	茶褐～暗茶褐	暗茶褐～暗灰褐	
41	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	—	—	—	ナデ	ナデ	良	ややあまい	淡橙褐	暗茶褐～淡黑褐	
42	II区 III～V層	縄文土器	深鉢	—	—	—	ナデ	ナデ	微砂多量	あまい	茶褐～淡黑褐	暗茶褐～黄褐	
43	IV区 IV層	縄文土器	深鉢	—	—	—	工具ナデ	工具ナデ	粗細砂やや多い	ややあまい	暗灰褐～灰褐	暗茶灰～淡黄灰	
44	IV区 IIIb層	縄文土器	深鉢	—	—	—	ナデ	ナデ	微細砂少量	ややあまい	淡黄褐	淡灰	
45	VII区 V層	縄文土器	深鉢	296	—	—	—	ミガキ	砂黒雲母を多く含む	やや良	褐～淡茶褐	褐～暗茶褐	外側:マメツ
46	VII区 II～IV層	縄文土器	深鉢	—	—	—	ナデ	ミガキ	微細砂を含む	やや良	暗褐～暗灰褐	褐～暗褐 ～淡茶褐	
47	IV区 V層	縄文土器	深鉢	—	—	—	工具ナデ	工具ナデ	微細砂少量	ややあまい	茶灰	暗茶褐	
48	II区 IIIb層	縄文土器	深鉢	—	—	—	ナデ	粗ナデ	2~8mm赤褐色 粒多量	あまい	茶褐～暗茶褐	暗茶灰～淡黄灰	
49	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	—	—	—	ナデ	ナデ	砂白色粒を多く含む	やや良	暗茶褐～黑褐	淡灰褐～淡黄褐	
50	VII区 V層	縄文土器	深鉢	—	—	—	ナデ	ナデ	白色粒・金雲母を多く含む	やや良	暗褐	茶褐	
51	VII区 V層	縄文土器	深鉢	—	—	—	ナデ	ナデ	砂金雲母を多く含む	やや不良	褐～茶褐 ～暗茶褐	淡黄褐～淡茶褐	手向山式
52	II区 III～V層	縄文土器	深鉢	—	—	—	ナデ	工具ナデ	粗細砂少量	良	淡黄灰～淡灰褐	黄褐～淡橙黄	

表2 出土遺物観察表（2） 繩文土器

No	出土地	種類	器種	法 量		調 整		胎 土	焼 成	色 調		備 考	
				口径	底径	器高				外 面	内 面		
第8図 53	II区 IIIb層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	工具ナデ	細砂少量 砂・金雲母を多く含む	良 やや不良	淡橙 茶褐色～暗茶褐色	淡橙黄 茶褐色	内面:マメツ
第9図 54	VII区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	-	砂黒雲母を多く含む	やや良	淡黃褐色～淡灰褐色	淡黃褐色	手向山式
55	VII区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ	砂黒雲母を多く含む	やや良	暗茶褐色	暗褐色～茶褐色	
56	II区 VI層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	丁寧工具ナデ	微砂少量	良	暗茶褐色	暗褐色～茶褐色	
57	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ～ミガキ	細砂・ 黒雲母を含む	やや不良	褐～暗褐色	暗褐色～黑茶褐色	
58	II区 VI層	縄文土器	深鉢	-	-	-	粗ナデ	ナデ	良	ややあまい	淡橙褐色	茶褐色～暗茶褐色	
59	VII区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ミガキ	細砂・ 金雲母を含む	やや良	褐～灰黃褐色	暗褐色～灰黃褐色	手向山式
60	VII区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ	細砂	やや不良	暗褐色～淡褐色	淡褐色～淡黃褐色	内面:マメツ
61	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	丁寧ナデ消し	ナデ	黒雲母を含む	やや良	褐～暗褐色	暗黃褐色	
62	VII区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	-	細砂白色粒	やや良	褐～暗茶褐色	黃褐色～灰黃褐色	手向山式 内面:マメツ
63	II区 IIIb層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ	金雲母を含む	ややあまい	淡黃褐色～黑斑	淡褐色～淡黃褐色	
64	II区 IIIb層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ミガキ	砂白色粒を含む	やや良	暗褐色～黑褐色	暗灰褐色～暗褐色～黑褐色	
65	IV区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	工具ナデ	粗細砂少量	良	淡茶灰～淡茶褐色	淡茶灰	
66	VII区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	-	砂白色粒金雲母を多く含む	やや不良	茶褐色～暗茶褐色	にぶい橙～茶	外面:マメツ
67	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	-	微細砂を含む	良	暗灰褐色～ にぶい褐色	灰褐色～淡黃褐色	内面:マメツ
68	IV区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ～ミガキ	砂白色粒を多く含む	やや良	褐	にぶい褐色	
69	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	-	細砂黒雲母を含む	やや良	暗黃褐色～暗茶褐色	淡黃褐色～黑茶褐色	手向山式 外面:マメツ
70	II区 VI層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ～ミガキ	細砂黒雲母を含む	やや良	淡茶褐色	淡灰褐色	
71	VII区 II～IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	-	砂・金雲母を含む	やや良	淡茶褐色～淡灰褐色	淡茶褐色～褐～淡灰褐色	手向山式 両面:マメツ
72	VII区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	-	砂・金雲母を多く含む	不良	茶褐色～暗褐色	茶褐色	手向山式 内面:マメツ
73	II区 II～VI層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ	微細砂少量	良	灰褐色	淡黃褐色	
74	II区 VI層	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	-	砂を多く含む	やや不良	暗褐色～暗灰褐色	灰褐色～暗灰褐色	両面:マメツ
75	VII区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	-	砂・黒雲母を含む	やや不良	暗茶褐色～淡茶褐色	淡黃褐色～暗褐色	手向山式 内面:マメツ
76	II区 SX-02	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ～ミガキ	細砂を含む	やや良	橙～暗褐色	淡褐色	
77	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ	砂を含む	やや良	暗茶褐色～茶褐色	黃褐色	
78	VII区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ	砂黒雲母を多く含む	やや不良	灰褐色～褐	黃褐色～淡黃褐色	手向山式 内面:マメツ
79	II区 SX-02	縄文土器	深鉢	-	-	-	丁寧ナデ	-	細砂を含む	やや良	淡灰黃褐色～ 暗火黃褐色	淡灰褐色	手向山式 両面:マメツ
80	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	-	砂・黒雲母を含む	やや良	淡黃褐色～暗茶褐色	暗黃褐色	手向山式 両面:マメツ
81	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ消し	砂白色粒金雲母を含む	やや良	暗黃褐色	暗黃褐色	
82	II区 SX-02	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	-	砂黒雲母を多く含む	不良	淡褐色～暗褐色	淡褐色～暗黑褐色	両面:マメツ
83	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	-	白色粒金雲母を多く含む	やや不良	茶褐色～暗茶褐色	茶褐色	内面:マメツ
84	IV区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ	砂金雲母を多く含む	やや良	褐～淡茶褐色	褐～淡褐色	手向山式
85	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	粗ナデ	細砂を含む	やや良	暗茶褐色～灰褐色	暗褐色	手向山式
86	IV区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ	砂・金雲母を多く含む	やや良	にぶい茶褐色	にぶい橙	
87	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ミガキ	細砂含む	やや良	淡暗褐色	褐～淡暗褐色	
88	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ～ミガキ	砂を含む	やや良	暗褐色	暗灰褐色	
89	II区 IIIb層	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ	工具ナデ	微細砂少量	ややあまい	淡茶褐色	淡黃褐色	
第10図 90	I区 IIIb層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	工具ナデ	微細砂少量	良好	淡橙黃～黃褐色	淡黃褐色～淡黑色	手向山式 両面:マメツ
91	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	-	細砂を多く含む	やや不良	暗黃褐色～暗茶褐色	淡茶褐色～黑茶褐色	手向山式 両面:マメツ
92	III区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	丁寧ナデ～ナデ	細砂黒雲母を含む	やや不良	淡黃褐色～褐	淡黃褐色～褐	内面:マメツ
93	VII区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	-	砂・金雲母を多く含む	やや不良	暗褐色～暗茶褐色	淡黃褐色～淡茶褐色	手向山式 両面:マメツ
94	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	工具ナデ	微細砂角閃石少量	ややあまい	黃褐色～橙褐色	淡橙黃	
95	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ	砂・黒雲母を含む	やや良	淡黃褐色～ 淡灰褐色	淡灰褐色	手向山式 両面:マメツ
96	III区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	工具ナデ	砂を含む	やや良	浅黃	灰褐色	
97	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ消し	白色粒を含む	やや良	暗褐色	暗褐色	
98	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ(半ミガキ)	工具ナデ	良	良	淡黃～淡灰褐色	淡黃	
99	II区 北斜面	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	工具ナデ	粗細砂少量	良	淡褐色	灰褐色～淡橙灰	
100	VII区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	-	砂多く含む	やや不良	にぶい茶褐色	淡灰褐色	内面:マメツ
101	II区 IIIb層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	工具ナデ	微細砂角閃石少量	良	黃褐色	黑灰色	
102	IV区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	工具ナデ	粗細砂や多い	良	灰褐色～淡黃褐色	暗灰～淡灰褐色	
103	II区 SX-02	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ	工具ナデ	粗細砂微量	ややあまい	淡黑褐色～黃褐色	黃褐色～淡灰褐色	
104	VII区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ消し	ナデ～ナデ消し	細砂・ 黒雲母を含む	やや良	暗褐色	暗褐色	

表3 出土遺物観察表 (3) 繩文土器

No	出土地	種類	器種	法量			調整		胎土	焼成	色調		
				口径	底径	器高	外面	内面			外面	内面	
第10回 105	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	丁寧ナデ	細砂を多く含む	やや良	淡黄褐~淡灰	暗灰黄褐	手向山式 内面:マメツ
106	II区 IIIb層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	粗工具ナデ	微砂少量	良	淡黄~灰	灰褐~淡褐	
107	IV区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ	微細砂少量	良	淡橙褐	淡黄~淡橙	
108	II区 III~V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	丁寧工具ナデ	細砂微量	ややあまい	淡茶褐	暗茶褐	
109	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ→ミガキ	細砂を含む	やや良	灰褐~淡褐	灰褐	
110	VII区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ	砂・黒雲母を含む	やや不良	淡黄褐~黄褐	淡黄褐~黄褐	
111	IV区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ	砂・赤色粒を含む	やや良	にぶい褐~淡桃	淡桃	
112	IV区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	条痕~ナデ	条痕~ナデ	砂黒雲母を含む	やや不良	淡褐~淡黄褐	褐~淡黄褐	
113	III区 I~II層	縄文土器	深鉢	-	-	-	条痕	ナデ	微細砂少量	良	橙褐	淡橙褐	
114	IV区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ→ナデ消し	細砂白色粒を多く含む	やや不良	にぶい淡黄褐	暗灰黄褐	
115	II区 VI層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	-	砂黒雲母を含む	不良	淡茶褐~暗褐	淡褐~淡黄褐	内面:マメツ
116	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ	微細砂白色粒を含む	良	黄褐~灰褐	暗茶褐	
117	VII区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ→ナデ消し	細砂を含む	やや良	にぶい黄褐~茶灰褐	淡茶黄褐	
118	IV区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ	砂を多く含む	不良	褐~茶褐	黄褐~黑褐	
119	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ消し	細砂・黒雲母を含む	やや良	淡灰黄褐	淡灰黄褐~黑褐	
120	IV区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	工具ナデ	微細砂多量角閃石少量	ややあまい	橙褐	淡橙~橙灰	
121	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ	砂黒雲母を含む	やや良	褐~暗褐	黄褐~褐~暗黄褐	手向山式
122	III区 SX-01VI層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	工具ナデ	粗細砂微量	あまい	暗灰褐~暗茶	暗茶褐~赤橙	
123	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ	砂黒雲母を含む	やや不良	褐~暗褐	淡黄褐~暗灰褐	内面:マメツ
第11回 124	VII区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ	砂・金雲母を多く含む	やや良	暗茶褐	茶褐	
125	IV区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ	工具ナデ	細砂多量	ややあまい	茶橙	暗茶褐	
126	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ	工具ナデ	微細砂やや多い 雲母微量	良	茶褐~茶灰	茶褐	
127	II区 VI層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ?	ナデ	粗細砂少量	ややあまい	茶褐	暗茶褐	
128	IV区 IIIb層	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	-	砂を含む	やや良	にぶい褐	暗茶褐~褐	両面:マメツ
129	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	条痕?	ナデ消し	細砂を含む	やや良	淡黄褐	灰黄褐	
130	IV区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ	工具ナデ	微細砂少量	あまい	淡茶褐黒斑	茶橙	
131	IV区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ	工具ナデ	微細砂少量	良	暗灰	淡灰黄	
132	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ消し	微細砂を含む	やや良	暗灰黄褐	暗灰黄褐	
133	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	丁寧工具ナデ	粗細砂少量	ややあまい	暗灰褐~暗茶	淡黑褐	
134	II区 III~V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	丁寧ナデ	微細砂やや多い	ややあまい	淡橙茶~茶灰	茶灰	
135	III区 SX-02	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	ナデ	微細砂少量	あまい	暗茶褐	暗茶褐~黄褐	外側:マメツ
136	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	粗工具ナデ	丁寧ナデ	微砂微量	ややあまい	灰褐~淡灰褐	淡黄灰~淡灰	
137	IV区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	-	砂多く含む	やや良	暗褐	暗褐	内面:マメツ
138	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	ミガキ	細砂を含む	やや不良	暗赤褐	暗赤茶褐	外側:マメツ
139	IV区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ→ミガキ	ナデ→ミガキ	砂白色粒を含む	やや良	灰褐~灰黒褐	灰白褐	
140	IV区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ	細砂少量	ややあまい	暗灰褐	黄褐~茶灰	
141	VII区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ	細砂・黒雲母を含む	やや良	暗褐	淡褐~淡灰褐	
142	II区 VI層	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ	ナデ	微砂石英多量	あまい	暗茶灰	暗茶灰	
143	III区 SX-02	縄文土器	深鉢	-	-	-	条痕	ナデ	粗細砂少量	ややあまい	淡茶褐~暗茶灰	淡橙~淡茶橙	
144	VII区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	-	砂白色粒を多く含む	不良	暗茶褐	茶褐	両面:器面剥離
145	II区 VI層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	工具ナデ	砂を多く含む	不良	暗褐~淡黑褐	淡灰褐~暗褐~褐	
146	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	丁寧ナデ	微細石英多量	あまい	暗茶褐	暗灰褐	外側剥落
147	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ消し	微細砂を含む	やや良	淡灰~淡黄褐	灰~淡灰褐	
148	IV区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ	微細砂少量	ややあまい	暗灰褐	淡灰褐	
149	IV区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ	微細白色粒を含む	やや良	灰~にぶい褐	灰褐~灰	
150	VII区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ミガキ	細砂黒雲母を含む	やや良	褐~茶	褐~淡橙	
151	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ→ミガキ	細砂赤白色粒を含む	やや良	暗褐~茶褐	暗褐	
152	VII区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	-	砂を多く含む	不良	-	暗褐~暗茶褐	内面:マメツ 両面:器面剥離
153	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ミガキ	微砂・微細白色粒を含む	やや良	灰褐	淡黄褐~灰黄褐	
154	VII区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ消し	微細砂を含む	やや良	灰褐	灰褐~暗黄褐	
155	III区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ	工具ナデ	細砂やや多量	良	灰褐~褐	褐	
156	II区 SX-02	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	-	粗細砂やや多い	ややあまい	黑褐~茶橙	茶橙~暗茶褐	両面:器面剥離

表4 出土遺物観察表(4) 繩文土器

No	出土地	種類	器種	法量			調整		胎土	焼成	色調		
				口径	底径	器高	外面	内面			外面	内面	
第11回 157	I区 IIIb層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	工具ナデ	微細砂や多い 雲母少量	良	淡灰黄～淡灰褐	淡灰黄～淡灰褐	
158	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ	微細砂を含む	やや良	淡黄褐	灰褐	
159	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	-	微細砂少量	あまり	暗灰褐	灰褐～淡灰	両面:マメツ
160	VII区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	丁寧ナデ	細砂を含む	やや不良	淡黄褐～淡灰褐	淡黄褐～淡灰褐	両面:マメツ
161	II区 VI層	縄文土器	深鉢	-	-	-	条痕	丁寧工具ナデ	微細砂少量	ややあまい	灰～暗褐	淡灰	
162	IV区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	ナデ→ミガキ	砂を含む	やや良	暗褐	暗褐	両面:マメツ
163	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ	良	ややあまい	淡橙茶	茶灰～暗茶褐	
164	II区 SX-02	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ	丁寧ナデ	微細砂少量	ややあまい	褐～淡褐	褐～黄褐	
165	III区 VI層	縄文土器	深鉢	-	-	-	条痕	工具ナデ	微細砂少量	ややあまい	淡橙褐	淡橙褐～褐	
166	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ	粗工具ナデ	微砂少量	ややあまい	茶褐～淡黄褐	淡黄褐～淡灰黄	
第12回 167	II区 SX-02	縄文土器	深鉢	-	-	-	条痕～工具ナデ	ミガキ～工具ナデ	微細砂少量	ややあまい	灰褐～淡橙茶	灰褐～淡橙茶	
168	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	-	砂黒雲母が多く含む	やや不良	暗褐～暗灰黄褐	暗褐～淡黑褐	両面:マメツ
169	II区 IIIb層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ	良	良	淡灰黄～暗褐	淡灰黄～暗灰褐	
170	III区 SX-02	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ	微細砂少量	あまり	暗灰褐～暗茶褐	橙黄	
171	III区 VI層	縄文土器	深鉢	-	-	-	条痕	粗ナデ	砂黒雲母を多く含む	やや不良	灰褐～暗黄褐	暗茶褐～暗褐	両面:マメツ
172	II区 IIIb層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ	良	ややあまい	暗灰～淡橙褐	淡黄～淡桃黄	
173	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ→ミガキ	微細砂 微細白色粒を含む	やや良	暗茶褐	暗黄褐	
174	IV区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ→ミガキ	微砂含む	やや良	暗茶褐～黑茶褐	暗茶褐	
175	IV区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	ナデ	砂を含む	やや良	におい褐	暗褐～におい褐	両面:マメツ
176	II区 III～V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ	細砂多量	良	淡黄～黄褐	淡褐～褐	
177	IV区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ	微砂やや多い	良	暗茶褐	茶褐	
178	VII区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	粗ナデ	砂を多く含む	不良	暗褐～淡茶褐～暗茶褐	淡褐～暗褐	両面:マメツ
179	II区 IIIb層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ	微細砂やや多い	あまり	淡黄灰～暗褐	灰褐～橙黄	
180	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	丁寧ナデ	微細砂やや多い	ややあまい	淡黄褐	暗茶灰～暗茶褐	
181	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	ナデ	細白色粒を含む	やや良	淡褐～暗茶褐	淡茶褐	両面:マメツ
182	I区 VI層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ	微細砂少量	良	淡黄褐	淡橙黄	
183	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ→ミガキ	砂白色粒を含む	やや良	におい茶褐	におい暗茶褐	
184	IV区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ	微細砂多量	ややあまい	茶褐～褐	茶褐～暗茶褐	
185	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	-	微細砂を含む	やや不良	淡灰褐～暗褐	黄褐～暗褐	内面:マメツ
186	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	-	砂を含む	やや不良	淡灰橙	におい灰橙	内面:マメツ
187	II区 IIIb層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	丁寧ナデ	粗細砂少量	あまり	暗灰褐	褐	
188	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	丁寧ナデ	石英微細粒多量	あまり	茶	暗茶褐	
189	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ?	ミガキ状～ナデ	良	良	茶褐	淡灰褐～茶褐	
190	IV区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ	工具ナデ	良	ややあまい	暗茶灰～茶灰	暗灰褐	
191	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ミガキ	-	細砂 黒雲母を含む	やや良	におい暗茶褐	茶褐～暗茶褐	内面:マメツ
192	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ	ナデ?	石英微細粒や 多い	ややあまい	暗茶灰～淡灰黄	暗褐灰	
193	II区 SX-02	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ	細砂少量	ややあまい	暗茶灰	暗茶褐～灰褐	
194	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	-	細砂を多く含む	やや良	におい暗黄褐	暗黄褐	両面:マメツ
195	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	半ミガキ	微細砂少量	良	暗橙褐～暗灰褐	淡茶灰	
196	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ～条痕	ミガキ	砂少量含む	やや良	暗褐	暗黄褐	
197	IV区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ミガキ	細砂黒雲母を多 く含む	やや不良	暗褐～暗黄褐	暗褐～暗黄褐	
198	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ	細砂 黒雲母を含む	やや良	暗黄褐～暗褐～褐	褐～黄褐	両面:マメツ
199	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ミガキ	細砂を含む	やや良	褐～黄褐～暗黄褐	黄褐～淡黄褐	
200	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ミガキ	細砂 黒雲母を含む	やや良	暗褐	褐～暗褐	
201	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ミガキ	細砂 黒雲母を含む	やや良	淡黄褐	淡褐	
202	II区 SX-02	縄文土器	深鉢	-	-	-	ハケ状工具ナデ	ナデ	微砂やや多い	ややあまい	暗茶灰	暗茶褐	317と同一個体
203	II区 IIIb層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	粗工具ナデ	良	良	淡橙褐～橙褐	黄褐	
204	VII区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ	砂を多く含む	やや不良	茶褐	橙	
205	IV区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ→粗ミガキ	細砂 細白色粒を含む	やや良	暗褐～暗灰褐	淡褐	
206	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ→ナデ消し	砂を含む	やや良	褐	灰褐	
207	IV区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ	工具ナデ	微細砂少量	ややあまい	茶灰～暗茶褐	淡黄褐	
208	IV区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ→ナデ消し	細砂 白色粒を含む	やや不良	黑茶褐	暗褐	両面:マメツ

表5 出土遺物観察表(5) 繩文土器

No	出土地	種類	器種	法量			調整		胎土	焼成	色調		
				口径	底径	器高	外面	内面			外面	内面	
第13回 209	II区 VI層	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	-	細砂多く含む	やや不良	暗茶褐色	茶褐色～暗茶褐色	両面:マツツ
210	VII区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	-	細砂を含む	やや良	褐色	褐色	両面:マツツ
211	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ミガキ	細砂、黒雲母を含む	やや良	暗褐色	暗橙	
212	IV区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	-	微細砂少量	ややあまい	淡灰～灰褐色	淡橙黃	内面:マツツ
213	IV区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ	良	良	淡黃褐色	淡黃	
214	II区 IIIb層	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ	ナデ	細砂少量	良	暗茶褐色	橙褐色	
215	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ミガキ	細白色粒を含む	やや良	茶褐色	暗茶褐色	
216	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	丁寧ナデ	細砂、白色粒を含む	やや良	淡灰黃褐色	暗黃褐色	
217	IV区 IIIb層	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ	工具ナデ	粗細砂少量	良	淡黃～淡褐色	淡橙黃	
218	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ミガキ	細砂、黒雲母を含む	やや良	暗褐色	暗灰褐色	
219	II区 SX-02	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ	ミガキ	微細砂微量	良	灰褐色～暗灰	黃橙～淡橙褐色	
220	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ	工具ナデ	粗細砂少量	良	褐色	桃黃	
221	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ	ナデ	石英粗微細粒 やや多い	ややあまい	茶	暗茶褐色	
222	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	丁寧ナデ	微細砂多量	ややあまい	灰～暗灰	淡橙黃	
223	II区 北斜面	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ?	ナデ	粗細砂やや多い	あまい	暗茶褐色	茶褐色～淡黑灰	
224	II区 SX-02	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ	工具ナデ	粗細砂少量	ややあまい	茶黃～茶褐色	暗茶褐色～淡灰褐色	
225	III区 VI層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	工具ナデ	良	良	橙褐色～暗灰褐色	淡橙褐色～灰褐色	
226	II区 SX-02	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ	丁寧工具ナデ	細砂微量	ややあまい	暗灰～灰褐色	淡黃褐色～灰褐色	
227	VII区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ	砂を含む	やや良	褐色	暗褐色～暗黃褐色	
228	IV区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ	工具ナデ	微細砂やや多い	ややあまい	黃褐色～淡橙黃	淡黃褐色	
229	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ	ナデ	微細砂微量	良	暗灰褐色～淡灰褐色	淡橙褐色～暗褐色	
230	III区 VI層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ	細砂を含む	やや不良	褐色～橙褐色	淡褐色～褐色	内面:マツツ
231	IV区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ	砂を含む	やや不良	淡褐色～淡灰	灰褐色～淡灰	
232	II区 SX-02	縄文土器	深鉢	-	-	-	ハケ状工具ナデ	-	粗細砂少量	あまい	橙褐色～茶橙	淡黃～淡橙	内面剥落
233	IV区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	丁寧ナデ	粗細砂少量	良	淡黃褐色	灰褐色～淡黃褐色	
234	IV区 IIIb層	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ	丁寧工具ナデ	微細砂少量	良	淡橙褐色	橙褐色～黃褐色	
235	III区 VI層	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ	丁寧工具ナデ	粗細砂微量	ややあまい	暗橙褐色	暗茶褐色	
236	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	工具ナデ	良	良	暗灰褐色～暗橙褐色	褐～灰褐色	
237	V区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	-	細砂、黒雲母を含む	やや不良	褐色～茶褐色～暗褐色	褐色～茶褐色～暗茶褐色	両面:マツツ
238	IV区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	-	砂黒雲母を含む	やや良	暗灰褐色～暗褐色	暗褐色	両面:マツツ
239	III区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	半ミガキ	微砂少量	良	茶灰	茶褐色	
240	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	粗工具ナデ	石英粗細粒少 量	ややあまい	黃橙	茶灰	
第14回 241	II区 北斜面	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ	半ミガキ ～工具ナデ	粗細砂多量	良	淡黃褐色	淡灰褐色	
242	IV区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	半ミガキ	砂黒雲母を含む	やや不良	褐色～黃褐色	褐～淡褐色	
243	IV区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ→ミガキ	細砂を含む	やや良	暗褐色	淡黃褐色	
244	I区 IIIb層	縄文土器	深鉢	-	-	-	丁寧工具ナデ	丁寧工具ナデ	微細砂やや多い	良	褐色～淡茶褐色	暗灰褐色～淡茶灰	
245	II区 SX-02	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ	粗細砂微量 角閃石少量	ややあまい	淡褐色～淡茶褐色	暗茶褐色	
246	VII区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ミガキ	砂を含む	やや良	暗褐色	黃褐色	
247	III区 IIIb層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	工具ナデ	細砂少量	ややあまい	灰褐色～暗灰褐色	淡黃褐色～暗灰	
248	II区 IIIb層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	工具ナデ (条痕)	良	良	茶褐色	茶灰～淡褐色	
249	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ～半ミガキ	砂黒雲母を含む	やや不良	淡黃褐色	淡黃褐色～灰褐色	
250	II区 III～V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ	ケズリ状	微細砂やや多い	良	褐色	淡茶褐色～灰褐色	
251	I区 VI層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	工具ナデ	粗細砂少量	あまい	橙褐色	暗灰褐色?	
252	II区 SX-02	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ	白色粒 金雲母を含む	やや良	灰褐色～黑褐色	にぶい褐色	
253	II区 IIIb層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	工具ナデ	微砂少量	良	淡黃灰～黃褐色	淡黑褐色～淡黃灰	
254	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	半ケズリ	良	ややあまい	橙褐色～暗褐色	暗褐色～暗灰褐色	272と同一個体
255	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ→ミガキ	細砂、 白色粒を含む	やや良	淡灰黃褐色	灰黃褐色	
256	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	工具ナデ	微砂少量	ややあまい	暗茶褐色	茶橙～茶褐色	
257	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	-	砂白色粒を 多く含む	やや良	にぶい褐色	淡灰褐色	両面:マツツ
258	IV区 IIIb層	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ	-	微細砂少量	ややあまい	淡橙黃	淡黃褐色～茶褐色	内面剥落
259	II区 SX-02	縄文土器	深鉢	-	-	-	条痕	丁寧工具ナデ	微砂少量	ややあまい	茶褐色～暗茶灰	茶灰～茶褐色	
260	IV区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ	半ミガキ	細砂角閃石少 量	ややあまい	淡茶褐色	淡橙茶	

表6 出土遺物観察表（6） 繩文土器

No	出土地	種類	器種	法量			調整		胎土	焼成	色調		
				口径	底径	器高	外面	内面			外面	内面	
第14回 261	VI区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ→ミガキ	砂赤白粒 黒雲母を含む	やや良	暗褐～ にぶい茶褐	にぶい橙	
262	VII区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	-	砂を含む	やや良	淡褐	淡褐	内面:マメツ
263	III区 IIIb層	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ	工具ナデ	粗細砂やや多い	あまり	橙褐	暗黄褐	
264	III区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ	細砂微量	ややあまり	茶褐～暗茶褐	淡橙褐～淡黄灰	
265	IV区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ～条痕	-	砂を多く含む	やや不良	明褐～褐	淡褐～橙	内面:剥離
266	VI区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	-	砂を含む	やや良	にぶい黄褐	白～灰～褐	両面:マメツ
267	V区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	丁寧ナデ	砂黒雲母を 多く含む	不良	褐～茶褐～ 暗茶褐	茶褐～暗茶褐～ 暗橙	外側:マメツ 内面:黒褐色物質付着
268	III区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	工具ナデ	微細砂少量	良	黑褐～茶褐	-	
269	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ミガキ	-	砂を含む	やや良	褐～淡橙	浅黄	内面:マメツ
270	IV区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ	工具ナデ→ナデ	細砂微量	良	淡黄褐	暗灰褐	
271	IV区 IIIb層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	丁寧ナデ	細砂を含む	やや不良	淡茶褐～暗褐	淡灰黄褐～暗褐	
272	III区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	丁寧工具ナデ	工具ナデ	良	ややあまり	暗茶褐～淡桃黄	暗茶灰	254と同一個体
273	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ	細砂を含む	やや不良	淡黄褐～淡灰褐	黄褐～淡黄褐	
274	III区 SX-02	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	工具ナデ	粗細砂少量	あまり	淡橙～茶褐	暗茶灰	
275	II区 Ⅲ～V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	工具ナデ	粗細砂やや多い	良	淡灰～淡灰褐	淡茶褐～褐	
276	III区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	-	細砂多量	ややあまり	暗茶褐～茶褐	灰褐	両面:マメツ
277	II区 IIIb層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	工具ナデ	粗細砂少量	良	淡橙黄	淡橙	
第15回 278	II区 IIIb層	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ	ナデ→工具ナデ	粗細砂多量	良	暗茶褐	黄褐	
279	II区 IIIb層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ケズリ	良	淡橙褐～淡黄	暗茶褐		
280	IV区 IIIb層	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	-	砂白色粒を含む	やや良	褐～暗褐	暗褐	両面:マメツ
281	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	工具ナデ	微砂少量	ややあまり	茶橙～暗灰褐	淡橙茶	
282	II区 SX-02	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	-	黒雲母を多く含む	やや良	淡黄褐	-	内面:マメツ
283	IV区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ→ナデ消し	白色粒を多く含む	やや良	黄褐	にぶい黄褐	
284	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ	工具ナデ	粗細砂少量	あまり	暗灰褐～茶灰	灰褐～暗灰褐	赤彩? 赤紅～紅褐色
285	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ	ナデ	粗細砂小礫少量	良	茶灰～暗茶褐	灰～淡橙褐	
286	II区 IIIb層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	条痕～ナデ	微細砂少量	ややあまり	淡黄～淡灰	淡黄	
287	IV区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	工具ナデ	微砂やや多い	良	淡橙黄	淡橙黄～淡黄褐	
288	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	ナデ～ミガキ	砂を多く含む	やや不良	暗褐～暗茶褐	暗黄褐～暗褐	両面:マメツ
289	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ	-	細砂含む	やや良	淡褐	暗黄褐	内面:マメツ
290	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	-	細砂を多く含む	やや不良	黄褐～淡黄褐	褐～黄褐～暗茶褐	両面:マメツ
291	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	-	細砂少量	やや良	暗黃茶褐～淡黃褐	淡黃褐	両面:マメツ
292	II区 北斜面	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ	半ミガキ	粗細砂やや多い	良	茶灰～茶褐	淡茶褐	
293	II区 VI層	縄文土器	深鉢	-	-	-	条痕	丁寧工具ナデ	細砂やや多い	ややあまり	茶褐	黄褐	
294	III区 IIIb層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ	微砂少量	良	橙褐	暗灰褐	
295	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	工具ナデ	微細砂少量	良	淡黄～淡橙	淡黄～淡橙褐	
296	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	工具ナデ	小礫少量	良	茶褐	淡橙～淡灰褐	
297	II区 VI層	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ	ナデ	微細砂やや多い	良	暗灰褐	黄褐～褐	
298	VII区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ	砂黒雲母を含む	やや良	暗茶褐	淡黄褐	
299	II区 SX-02	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ	丁寧ナデ	微細砂やや多い	良	暗茶褐～暗茶灰	茶橙～茶灰	
300	II区 VI層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	半ミガキ	微細砂少量	良	淡茶～淡褐	淡黄灰～淡黄褐	
301	VII区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ	工具ナデ	微砂多量	ややあまり	茶褐	淡橙～淡茶灰	
302	III区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	丁寧工具ナデ	丁寧ナデ	粗細砂少量	あまり	褐～暗茶褐	灰褐～褐	
303	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ?	ナデ	微砂やや多い	ややあまり	淡黄褐	褐～淡黄灰	
304	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	ナデ→ナデ消し	細砂を多く含む	やや不良	暗黄褐	暗灰黄褐	外側:マメツ
305	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ～ミガキ	粗ナデ	細砂、 白色粒を含む	やや良	暗茶褐	にぶい茶褐	
306	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ～ミガキ	砂を含む	やや良	茶褐～黑褐	褐～茶褐	内面:マメツ
307	II区 SX-01VI層	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ	工具ナデ	粗細砂少量	あまり	茶褐	暗茶褐	313と同一個体
308	II区 SX-02	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ	微細砂少量	ややあまり	暗灰褐～暗茶灰	淡灰黄	
309	IV区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ミガキ	良	良	淡黄灰～淡灰褐	淡黄灰	
310	II区 SX-02	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ	良	ややあまり	暗茶褐	暗茶褐～暗茶灰	
311	IV区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ	半ミガキ	細砂少量	ややあまり	茶橙～淡黄褐	黄灰～黄褐	
312	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ	細砂黒雲母 白色粒を含む	やや良	暗黄褐	にぶい淡橙	

表7 出土遺物觀察表 (7) 繩文土器

No	出土地	種類	器種	法量		調整		胎土	焼成	色調		備考	
				口径	底径	器高	外面			外面	内面		
第15回 313	II区 SX-02	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	工具ナデ	良	ややあまい	茶褐~暗褐	黄褐	165と同一個体
314	III区 VI層	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ	工具ナデ	微砂少量	良	淡灰褐~灰褐	淡黄褐~灰褐	
第16回 315	III区 IIIb層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ~工具ナデ	微砂やや多い 角閃石少量	良	淡橙褐~橙	灰褐~褐	
316	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ	細白色粒 砂を含む	やや良	暗茶褐~黑褐	暗茶褐~淡褐	
317	II区 SX-02	縄文土器	深鉢	-	-	-	条痕	ナデ	微細砂やや多い	ややあまい	暗灰褐~暗茶褐	淡茶褐~淡黑褐	202と同一個体
318	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	粗工具ナデ	丁寧ナデ	粗細砂少量	ややあまい	暗茶褐~暗橙褐	灰褐~暗褐	
319	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	工具ナデ	微細砂少量	良	暗灰	淡灰~淡桃黄	
320	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ミガキ	微細砂 黒雲母を含む	やや良	暗褐~黄褐	明褐~黄褐	内面:マメツ
321	VII区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	-	細砂を含む	やや不良	淡黄褐~褐 ~暗褐	暗褐~暗黄褐	内面:マメツ
322	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	条痕	丁寧ナデ	微細砂少量	ややあまい	茶~茶褐	橙褐	
323	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	工具ナデ	粗細砂少量	良	暗灰褐	暗灰~淡桃黄	
324	IV区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	粗工具ナデ	工具ナデ	微細砂少量	良	暗灰褐	灰褐	
325	III区 VI層	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ	工具ナデ	粗細砂 角閃石少量	ややあまい	橙黄	淡灰褐~淡茶褐	
326	IV区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	工具ナデ~ケズリ	粗砂少量	良	淡黄灰~淡茶褐	褐~暗黄褐	
327	III区 SX-01VI層	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ	丁寧ナデ	微砂少量	ややあまい	淡黑褐~黃褐	淡黄褐~淡黄白	
328	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ→ナデ消し	白色粒・金雲母 砂を多く含む	やや不良	淡茶褐	暗茶褐	外面:マメツ	
329	IV区 IIIb層	縄文土器	深鉢	-	-	-	条痕	工具ナデ	小礫	ややあまい	暗茶褐~淡橙褐	暗灰~淡茶灰	
330	IV区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	-	砂を含む	やや不良	褐~暗褐	褐~暗褐	内面:マメツ
331	VII区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	-	細砂 黒雲母を含む	やや不良	橙~淡灰褐	橙~黄褐	両面:マメツ
332	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ消し	砂・黒雲母を含 む	やや良	淡灰橙	淡橙	
333	IV区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ミガキ	砂を含む	やや不良	淡灰褐~暗褐	淡褐~淡黄褐	両面:マメツ
334	III区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	-	粗細砂やや多い	良	橙褐	-	内面:器面剥離
335	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	-	砂白色粒を 多く含む	やや良	暗茶褐	暗茶褐	内面:マメツ
336	II区 IIIb層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ	良	暗茶褐	黄褐		
337	II区 IIIb層	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ	工具ナデ	微細砂 角閃石少量	ややあまい	茶褐~灰褐	淡黄灰	
338	II区 II~VI層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	工具ナデ	細砂白色粒含 む	やや良	暗黄褐~暗茶褐	灰褐~暗茶褐	
339	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ	砂を含む	やや良	淡黄褐	淡黄褐	
340	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	-	細砂を含む	やや良	褐	暗黄褐	内面:マメツ
341	II区 III~V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	工具ナデ	粗細砂やや多い	良	灰褐~淡灰	淡茶褐	
342	VII区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	条痕	-	細砂を含む	やや不良	暗黄褐~淡黄褐	淡黄褐	両面:マメツ
343	VII区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	条痕	条痕~ナデ	砂・黒雲母を含 む	やや良	黄褐	淡黄褐~淡灰褐	
344	IV区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	-	細砂 白色粒を含む	やや不良	暗褐	淡暗褐	内面:マメツ
345	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	-	砂・黒雲母を含 む	やや不良	暗茶褐	暗黄褐	内面:マメツ
346	II区 北斜面	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	-	白色粒を少量含 む	やや良	橙	淡黄褐	内面:マメツ
347	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ	丁寧ナデ	微砂やや多い	良	淡黄灰~褐	淡黑褐~淡橙黄	
348	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	-	白色粒を多く含 む	やや良	暗褐	淡茶褐	内面:マメツ
349	IV区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	ナデ	砂・黒雲母を 多く含む	やや不良	淡黄褐~暗黄褐	淡橙~暗黄褐 ~淡黄褐	両面:マメツ
第17回 350	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	-	砂を含む	やや良	黄褐	黄褐~灰褐	内面:マメツ
351	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ消し	白色粒を含む	やや良	淡橙	暗茶褐	
352	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ	微細砂を含む	やや良	褐	灰褐	
353	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	工具ナデ	細砂微量	良	黒灰スス)	茶灰~灰褐	
354	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	丁寧ナデ	微細砂少量	ややあまい	暗茶褐~淡黄灰	淡灰~灰褐	
355	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ	工具ナデ	良	あまり	淡黄褐	淡黄褐	
356	II区 VI層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	条痕→スリ消し	微細砂少量	良	暗茶褐	淡灰褐	
357	II区 SX-02	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ	細砂 黒雲母を含む	やや不良	暗褐	淡褐~淡灰黄褐	
358	III区 III~V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ	工具ナデ	微砂・角閃石少 量	良好	茶灰~茶褐	茶	
359	II区 SX-02	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ	工具ナデ	粗細砂やや多い	良	暗茶褐	橙褐	
360	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	半ミガキ	微細砂やや多い	良	暗灰~淡灰黄	暗灰褐	
361	IV区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ	細砂少量	良	淡黄褐~淡灰褐	淡灰褐~淡黄褐	
362	IV区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ消し	赤白色粒を含む	やや良	褐	淡暗黄褐	
363	IV区 IIIb層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ	粗細砂少量	良	暗褐~暗黄褐	暗褐~暗灰褐	
364	II区 IIIb層	縄文土器	深鉢	-	-	-	半ミガキ	工具ナデ	細砂・角閃石少 量	良	褐~淡橙褐	淡橙褐~灰褐	

表8 出土遺物観察表（8） 繩文土器

No	出土地	種類	器種	法量			調整		胎土	焼成	色調		
				口径	底径	器高	外面	内面			外面	内面	
第17回 365	II区 SX-02	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ	工具ナデ	粗細砂少量 砂・金雲母を含む	ややあまい	淡黒褐	黄褐	
366	III区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	丁寧ナデ	良	やや不良	褐～黄褐	黄褐～褐	
367	II区 VI層	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ	工具ナデ		ややあまい	淡褐～茶褐	茶褐	
368	II区 SX-02	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ	細砂やや多い 砂を多く含む	あまい	暗茶褐	暗灰褐	
369	III区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	条痕	-	微細砂多量 角閃石少量	不良	暗茶褐～黒茶褐	暗茶褐	内面:マツ 両面:器面剥離
370	III区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	-	白色粒・ 細砂を含む	あまい	暗灰～暗灰褐	暗灰～淡灰褐	両面:マツ
371	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	条痕→ナデ消し	条痕		やや良	黒褐色	暗褐～暗茶褐	内面:黒褐色物質付着
372	II区 IIIb層	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	-	微細砂多量	ややあまい	茶褐	暗茶褐	両面:器面剥落
373	II区 VI層	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	-	砂多く含む	やや不良	-	褐～茶褐	外側:器面剥離 内面:マツ
374	IV区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ	砂を多く含む	やや良	淡黄褐	淡黄褐	
375	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ	微細砂やや多い	ややあまい	黄褐～暗茶褐	淡黄褐～淡灰	
376	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	-	細砂多く含む	やや良	淡灰～淡灰黃褐	淡黃褐	内面:マツ
377	IV区 IIIb層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ	微砂やや多い	ややあまい	褐～茶灰	橙褐～灰褐	
378	II区 SX-02	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	工具ナデ	細砂・少量	ややあまい	暗茶灰	茶灰～茶	
379	IV区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	ミガキ	砂白色粒を多く含む	やや良	茶褐	淡茶褐	両面:マツ
380	II区 SX-02	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ	ナデ	微砂微量	あまい	橙黄～黄褐	淡灰黄～暗茶灰	
381	VII区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ消し	砂白色粒を含む	やや良	黄褐	暗黄褐	
382	VII区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	-	砂を含む	やや不良	におい茶褐	におい茶褐	両面:マツ
383	II区 VI層	縄文土器	深鉢	-	-	-	条痕?	丁寧工具ナデ	粗細砂少量	ややあまい	茶褐～褐	黄褐	
384	II区 VI層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ	微細砂微量 角閃石少量	あまい	暗灰褐～暗褐	茶褐	
385	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	100	-	-	-	ナデ	砂を含む	やや良	-	-	外側:マツ
386	IV区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	-	砂を含む	不良	褐～暗褐	褐～淡茶褐	両面:マツ 外側:剥離
387	IV区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	-	砂白色粒を含む	やや不良	暗茶褐	淡茶褐	両面:マツ
388	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	-	細砂・ 微白色粒を含む	やや良	におい暗褐	におい淡黄褐	両面:マツ
389	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	-	砂を多く含む	不良	黄褐	黄褐～淡茶褐	外側:器面剥離 内面:マツ
390	II区 SX-01VI層	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ?	丁寧ナデ	微細砂多量	あまい	暗茶褐	茶～暗灰褐	
391	IV区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	粗工具ナデ	粗工具ナデ	粗細砂やや多い	ややあまい	黑褐～暗茶褐	茶褐～暗茶褐	
392	II区 VI層	縄文土器	深鉢	-	-	-	丁寧ナデ	工具ナデ	良	良	淡黒褐	黄褐	
393	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	工具ナデ	微砂やや多い	あまい	暗茶褐	淡茶褐	407と同一個体か
394	II区 SX-02	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ	丁寧ナデ	微細砂やや多い	あまい	明茶褐～淡黒褐	黄灰～淡灰	
395	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ	良	あまい	黑褐～暗茶褐	暗灰褐～淡黄褐	
396	IV区 V層	縄文土器	ミニチュア	76	-	-	ナデ	工具ナデ	粗細砂少量	ややあまい	暗茶橙	茶褐	
第18回 397	VII区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	-	砂黒雲母を含む	不良	褐～暗褐 ～暗茶褐	暗褐～暗茶褐	両面:マツ
398	III区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ?	工具ナデ	微砂少量	あまい	橙褐	暗茶灰	
399	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ	工具ナデ	良	あまい	淡黒褐	茶橙	
400	V区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	-	砂を多く含む	不良	暗茶～黒褐	淡茶～茶	外側:マツ 両面:剥離
401	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	工具ナデ	良	ややあまい	淡褐～淡黄褐	暗茶褐～淡褐	
402	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ→ミガキ	微細砂含む	やや良	淡茶褐	暗褐～黒褐	
403	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	-	砂を多く含む	やや不良	暗茶褐	褐～暗茶褐	両面:マツ
404	III区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	半ミガキ	ナデ～工具ナデ	粗細砂少量	ややあまい	明茶褐	淡桃褐	
405	IV区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ	砂を含む	やや良	暗褐	灰褐～淡褐	
406	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ	工具ナデ	微砂少量	あまい	淡橙	淡灰～淡橙	
407	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	-	石英微細粒多量	あまい	茶～暗茶褐	茶～茶橙	両面:器面剥離 393と同一個体か
408	VII区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	-	細砂・赤色粒を多く含む	不良	淡灰黄褐～ 暗黄褐～暗茶褐	暗黄褐～暗茶褐	手向山式
409	III区 IIIb層	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ	工具ナデ	微細砂少量	ややあまい	茶褐	淡黄褐	
410	III区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	-	細砂・微白色粒を含む	やや良	におい褐	淡褐	両面:マツ
411	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	条痕	ナデ	砂を多く含む	やや不良	暗褐	暗褐	両面:マツ
412	VII区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	-	砂を含む	やや不良	茶褐～淡黄褐	褐～淡黄褐	両面:マツ
413	IV区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ	粗細砂多量	ややあまい	茶灰	淡黄褐	
414	VII区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	粗ナデ	ナデ	細砂・ 黒雲母を含む	やや良	褐	灰褐	
415	IV区 IIIb層	縄文土器	深鉢	-	-	-	丁寧工具ナデ	ハケ状工具ナデ	微細砂少量	ややあまい	褐～茶褐	淡黄褐	
416	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ消し	ナデ消し	細砂を含む	良	灰～暗灰黄褐～ におい褐	灰褐～淡黄褐	

表9 出土遺物觀察表（9） 繩文土器・弥生土器

No	出土地	種類	器種	法量			調整		胎土	焼成	色調		
				口径	底径	器高	外面	内面			外面	内面	
第18回 417	II区 北斜面	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	工具ナデ	粗細砂少量	ややあまい	暗茶褐～赤橙	黒褐	
418	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ	工具ナデ	微細砂や多量	ややあまい	黄褐	淡桃褐～暗茶褐	
419	VII区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ消し	ナデ→ナデ消し	細黒雲母を含む	やや良	にぶい黄褐	淡黄褐	
420	II区 SX-02	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ	丁寧ナデ	細砂少量	あまい	黄褐～暗茶褐	淡黒褐～茶灰	
421	II区 Ⅲ～V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	工具ナデ	良	ややあまい	暗茶灰～淡黄	淡黄～淡黄灰	
422	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ	工具ナデ	粗細砂少量	ややあまい	褐～淡黄褐	灰褐～橙黄	
423	II区 Ⅲb層	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	-	微細砂少量	あまい	茶褐	暗灰～灰褐	両面:マツツ
424	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ	工具ナデ	粗細砂や多い	あまい	茶橙～淡黄褐	淡黄褐	
425	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	-	細砂	やや不良	-	-	両面:マツツ
426	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	ナデ	黒雲母を含む	やや良	にぶい茶褐	にぶい暗茶褐	両面:マツツ
427	IV区 Ⅲb層	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	ナデ→ナデ消し	細白色粒を含む	やや良	茶褐	暗茶褐～茶灰	両面:マツツ
428	II区 Ⅲb層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	丁寧工具ナデ	白色粒を含む	やや良	灰褐	灰褐	外表面:マツツ
429	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	111	-	条痕～ナデ消し	条痕	砂赤	やや良	橙褐～淡黄	淡橙褐	
430	III区 SX-02	縄文土器	深鉢	-	48	-	ナデ	ナデ	白色粒を含む	やや良	褐色～黄褐	褐色～暗褐	両面:マツツ
431	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	-	砂を多く含む	やや不良	茶褐	茶褐	両面:マツツ
432	VII区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	ナデ	砂を含む	やや不良	-	淡黄褐～淡灰橙	両面:マツツ
433	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	99	-	-	粗ナデ	細黒雲母を多く含む	やや不良	茶褐～暗褐	暗褐～淡黄褐	外表面:マツツ 外表面剥離
434	I区 Ⅲb層	縄文土器	深鉢	-	100	-	粗工具ナデ	粗ナデ	粗ナデ	良	黄褐	暗灰褐	
435	VII区 V層	縄文土器	深鉢	-	66	-	-	ナデ	砂を含む	やや良	-	暗黄褐	外表面:マツツ
436	VII区 V層	縄文土器	深鉢	-	167	-	-	ナデ	微細砂を含む	やや不良	茶褐	にぶい茶褐～にぶい褐	外表面:器面剥離
437	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	78	-	工具ナデ	工具ナデ	良	ややあまい	暗茶褐～茶灰	淡橙茶	
第19回 438	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ	細砂を含む	やや不良	褐色～淡褐	褐色～暗褐	外表面:マツツ
439	II区 Ⅲb層	縄文土器	深鉢	-	-	-	粗ナデ	ナデ	微細砂や多い	ややあまい	茶褐～茶灰	淡橙褐	
440	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ→ミガキ	ナデ	細砂	やや良	浅黄	灰～灰褐	外表面:マツツ
441	III区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ	工具ナデ	細白色粒を含む	ややあまい	茶橙	褐	
442	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ	工具ナデ	粗細砂少量	良	淡茶褐	淡灰褐	
443	III区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	工具ナデ	角閃石少量	あまい	橙黄～橙灰	暗茶褐	
444	III区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ	工具ナデ	微細砂や多い	ややあまい	暗茶灰～暗茶褐	淡灰黄	
445	III区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	工具ナデ	微粒石英多量	ややあまい	淡灰褐	茶褐	
446	I区 Ⅲb層	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ?	工具ナデ?	微細砂や多い	あまい	橙黄～灰褐	淡灰黄	外表面:マツツ
447	IV区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ	丁寧ナデ	粗細砂微量	ややあまい	淡橙褐	淡黄褐	
448	I区 Ⅲb層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ミガキ状	微細砂多量	良	淡褐	淡褐～淡灰黄	
449	IV区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ	砂金雲母を含む	やや良	暗褐	暗褐	
450	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	-	-	細砂を含む	やや不良	淡黄褐	淡黄褐	両面:マツツ
451	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ	工具ナデ	良	良	淡黄褐	淡橙褐	
452	IV区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	粗ナデ	丁寧ナデ	微細砂を含む	やや不良	褐色～にぶい褐	淡褐	
453	IV区 Ⅲb層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ	粗細砂少量	あまい	黄褐～淡橙黄	暗黄灰～灰褐	口唇部:マツツ
454	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ	工具ナデ	細砂小礫少量	良	淡黄褐～淡灰褐	灰褐～淡灰褐	
455	IV区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	丁寧ナデ	微細砂を含む	やや良	にぶい褐	暗黄褐	
456	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	丁寧ナデ	細砂を含む	良	にぶい褐	にぶい褐	
457	II区 SX-02	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ→半ミガキ	砂を多く含む	やや不良	暗灰褐～淡赤褐～暗褐	褐～淡褐	
458	IV区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	丁寧ナデ	砂黒雲母を多く含む	やや不良	褐～淡褐	暗褐～暗黄褐	外表面:マツツ
459	IV区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ	工具ナデ	細砂少量	良	淡茶茶	淡茶橙	
460	V区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ→ナデ消し	砂多く含む	やや良	灰褐	灰褐～黒褐	
461	IV区 Ⅲb層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	丁寧ナデ	微細砂を含む	やや良	褐	暗褐	
462	II区 SX-01	縄文土器	深鉢	-	-	-	工具ナデ	工具ナデ	細砂微量	ややあまい	淡黄褐	淡黄褐～褐	
463	V区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ナデ	ナデ消し	細砂多く含む	やや良	灰褐	黑褐	
464	VII区 V層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ミガキ	ミガキ	微細砂を含む	やや良	黑褐	黑茶褐	
465	II区 SX-02	縄文土器	深鉢	-	-	-	ケズリ～ミガキ	ナデ	砂黒雲母を含む	やや良	褐～暗褐	褐～暗褐	
466	VII区 IV層	縄文土器	深鉢	-	-	-	ケズリ	ナデ	砂赤	やや良	淡褐～褐～黒褐	淡褐～褐～黒褐	
第20回 467	VII区 V層	弥生土器	壺	56	-	-	ナデ	ナデ	白色粒を含む	やや良	浅黄	浅黄～灰褐	
468	VII区 IV層	弥生土器	鉢?	-	59	-	ナデ→粗ミガキ	ナデ	細砂を含む	良	褐～黑褐	褐	

表10 出土遺物観察表 (10) 弥生土器・土師器

No	出土地	種類	器種	法量			調整		胎土	焼成	色調		備考
				口径	底径	器高	外面	内面			外面	内面	
第20回 469	VII区 IV層	弥生土器	鉢	104	-	58	ナデ→ミガキ	ナデ→ミガキ	細砂・赤・白色粒を含む砂・細白色粒を含む5mm程の砂粒を含む	やや良	褐~橙	暗褐~黒褐	
470	V区 IV層	土師器	甕	-	-	-	ナデ	ナデ	砂・赤・白色粒を含む砂・赤・白色粒を含む	やや良	暗黄褐~灰黒褐	暗灰褐~暗褐	
471	3Tre IV層	土師器	甕	250	-	-	-	-	砂・赤・白色粒を含む砂・赤・白色粒を含む	やや良	淡褐~浅黄~暗褐	淡橙~浅黄	内面:マツツ
472	II区 北斜面	土師器	甕	276	-	-	ナデ	ナデ	砂・赤・白色粒を含む砂・赤・白色粒を含む	やや良	淡暗褐~灰褐	淡褐~灰褐	
473	VII区 IV層	土師器	甕	-	-	-	ナデ	丁寧ナデ	砂・赤・白色粒を含む砂・赤・白色粒を含む	やや良	暗褐~灰褐	暗黄褐	
474	VII区 IV層	土師器	高环	152	-	-	ヘラミガキ	ヘラミガキ	細赤色粒少量	良	淡褐	淡褐~白褐	
475	IV区 IIIb層	土師器	塊	-	69	-	-	回転ナデ	細白色粒少量	やや良	淡白褐	淡褐	外面:マツツ
476	VII区 IV層	土師器	甕	-	-	-	ナデ	ナデ	微砂を含む	良	暗褐~暗桃	暗灰褐	

表11 出土遺物観察表 (11) 土製品

No	出土地	種類	法量 (mm)			調整		胎土	焼成	色調		備考
			径	厚さ	外面	内面	外面			外面	内面	
第20回 477	3Tre IV層	布痕土器	-	-	粗ナデ	布目	クサリ繊粗細粒 やや多い	ややあまい	橙褐~橙	黄褐		
478	II区 III~V層	土器片加工円盤	(34)	10	ナデ	ナデ	細赤・白色粒含む	良	灰褐	橙~暗褐		

表12 出土遺物観察表 (12) 鉄器・銅製品

No	出土地	器種	法量 (mm)			重さ g	材質	備考	No	出土地	器種	法量 (mm)			重さ g	材質	備考
			長さ	幅	厚さ							長さ	幅	厚さ			
第20回 479	VII区 IV層	鋤先	(19)	(67)	3~7	-	鉄		480	IV区 IIIb層	錢貨	22	22	1	-	銅	寛永通寶 初鑄年1624年

表13 出土遺物観察表 (13) 石器・石製品

No	出土地	器種	法量 (mm)			重さ g	石材	備考	No	出土地	器種	法量 (mm)			重さ g	石材	備考
			長さ	幅	厚さ							長さ	幅	厚さ			
第21回 481	VII区 V層	石鎚	(28)	(16)	4	1	チャート		513	VII区 V層	石鎚	(30)	(17)	4	2	チャート	
482	VII区 V層	石鎚未製品	26	21	7	3	チャート		514	VII区 V層	石鎚	32	20	4	2	チャート	
483	V区 IV層	石鎚	(28)	20	5	2	黒曜石		515	VII区 V層	石鎚	(30)	(17)	5	2	チャート	
484	V区 V層	石鎚	24	20	5	2	チャート		516	VII区 IV層	石鎚	43	25	6	5	チャート	
485	IV区 V層	石鎚	33	19	4	2	チャート		517	VII区 V層	石鎚	(21)	(11)	6	-	黒曜石	
486	II区 III~V層	石鎚未製品	20	16	4	2	チャート		518	V区 IV層	石鎚未製品	20	14	5	1	チャート	
487	IV区 V層	石鎚	21	20	5	-	チャート		519	V区 V層	石鎚	23	16	3	1	チャート	
488	V区 III層	石鎚	(22)	15	5	1	黒曜石		520	VII区 V層	石鎚	(16)	(17)	6	2	黒曜石	
489	V区 V層	石鎚	23	17	4	1	チャート		第22回 521	VII区 IV層	石鎚未製品	30	20	5	3	チャート	
490	VII区 IV層	石鎚	25	20	4	2	チャート		522	II区 北斜面	石鎚	(28)	(20)	7	2	チャート	
491	V区 IV層	石鎚	(18)	26	5	3	チャート		523	VII区 IV層	石鎚	(28)	(15)	4	1	チャート	
492	IV区 V層	石鎚	(13)	(13)	(4)	1	黒曜石		524	VII区 IIIb層	石鎚	24	18	5	2	玉髓	
493	VII区 IV層	石鎚	20	17	5	-	黒曜石		525	IV区 IIIb層	石鎚	(25)	(16)	4	2	玉髓	
494	V区 IV層	石鎚	(15)	(12)	2	-	黒曜石		526	VII区 IV層	石鎚	(25)	(17)	5	1	黒曜石?	
495	VII区 IV層	石鎚	13	13	2	-	チャート		527	VII区 II~IV層	石鎚	(26)	(16)	5	2	チャート	
496	VII区 IV層	石鎚	17	14	5	-	黒曜石		528	II区 SX-01	石鎚	(27)	(20)	6	2	チャート	
497	III区 SX-02	石鎚	(15)	(13)	(5)	1	チャート		529	IV区 V層	石鎚	29	18	4	2	チャート	
498	IV区 IIIb層	石鎚	17	12	3	-	チャート		530	VII区 V層	石鎚	(23)	18	4	2	玉髓	
499	V区 IV層	石鎚	8	11	2	-	黒曜石		531	II区 SX-01	石鎚	(26)	(16)	5	2	チャート	
500	IV区 V層	石鎚	10	13	4	-	黒曜石		532	VII区 V層	石鎚	27	17	4	2	チャート	
501	II区 北斜面	石鎚	32	21	4	3	チャート		533	II区 SX-01	石鎚	28	20	5	2	チャート	
502	III区 SX-01	石鎚	33	20	5	2	チャート		534	VII区 IV層	石鎚	(25)	(18)	5	-	チャート	
503	VII区 IV層	石鎚	35	18	4	2	チャート		535	VII区 V層	石鎚	(28)	22	6	2	黒曜石	姫島
504	IV区 V層	石鎚	31	(19)	5	2	チャート		536	VII区 IV層	石鎚	(27)	17	5	2	チャート	
505	II区 SX-01	石鎚	(33)	(16)	2	1	ハリ質安山岩		537	VII区 IV層	石鎚	31	16	5	2	チャート	
506	VII区 V層	石鎚	(27)	(14)	5	1	チャート		538	V区 IV層	石鎚	28	17	4	1	ハリ質安山岩	

表14 出土遺物観察表 (14) 石器・石製品

No	出土地	器種	法量(mm)			重さg	石材	備考	No	出土地	器種	法量(mm)			重さg	石材	備考
			長さ	幅	厚さ							長さ	幅	厚さ			
第21回 507	VII区 V層	石鎚	29	19	4	2	チャート		第22回 539	VII区 V層	石鎚	(24)	(16)	5	1	チャート	
508	VII区 V層	石鎚	(29)	(18)	5	2	チャート		540	II区 北斜面	石鎚	27	18	4	2	チャート	
509	IV区 V層	石鎚	(29)	16	5	2	黒曜石	漆黒	541	IV区 IV層	石鎚	(25)	19	4	2	チャート	
510	VII区 V層	石鎚	(29)	(16)	4	1	チャート		542	VII区 V層	石鎚	(28)	(17)	5	1	黒曜石	姫島
511	V区 V層	石鎚	(31)	(29)	4	2	チャート		543	II区 SX-01	石鎚	27	16	4	1	玉髓	
512	VII区 II~IV層	石鎚	28	16	4	2	チャート		544	VII区 V層	石鎚	(23)	(16)	4	—	チャート	
545	II区 SX-02	石鎚	29	17	5	1	チャート		第24回 595	III区 IIIb層	石錐?	28	20	13	5	ハリ質安山岩?	
546	II区 SX-01	石鎚	(25)	(16)	3	—	チャート		596	III区 SX-01	石匙	50	18	6	6	安山岩	
547	IV区 V層	石鎚	(20)	13	4	1	チャート		597	II区 SX-01	石匙?	45	30	6	10	ハリ質安山岩	
548	VII区 V層	石鎚	(24)	(16)	4	1	チャート		598	IV区 V層	石匙	55	28	11	16	安山岩	
549	IV区 V層	石鎚	28	16	5	2	チャート		599	VII区 V層	石匙	15	24	2	1	安山岩	
550	IV区 IIIb層	石鎚	22	15	4	1	チャート		600	VII区 II~IV層	石匙	17	23	4	1	チャート	
551	VII区 IV層	石鎚	25	16	5	2	チャート		601	II区 北斜面	石匙?	12	14	4	1	安山岩	
552	VII区 V層	石鎚	23	11	5	1	チャート		602	VII区 V層	石匙	27	(30)	7	5	チャート	
553	VII区 IV層	石鎚未製品	20	15	5	2	黒曜石		603	IV区 V層	石匙	39	32	4	5	チャート	
554	IV区 IV層	石鎚	23	16	5	1	チャート		604	VII区 IV層	石匙	43	64	6	11	チャート	
555	VII区 IV層	石鎚	(21)	(18)	5	2	チャート		605	II区 SX-01	石匙	35	35	7	8	チャート	
556	II区 SX-01	石鎚	(23)	(17)	4	1	チャート		606	II区 SX-02	石匙	(28)	(29)	5	3	チャート	
557	VII区 V層	石鎚	(19)	18	6	2	黒曜石		607	III区 SX-01	石匙	30	61	8	11	チャート	
558	VII区 IV層	石鎚	23	18	4	1	黒曜石		608	III区 SX-01	石匙未製品か 石錐?	33	39	11	12	チャート	
559	IV区 IV層	石鎚	24	13	5	—	チャート		609	I区 IIIb層	石匙未製品	68	41	17	35	チャート	
第23回 560	VII区 V層	石鎚	23	17	5	2	チャート		610	III区 SX-01	石匙未製品	55	28	12	18	安山岩?	
561	VII区 IV層	石鎚	(19)	(17)	4	2	チャート		611	II区 III~V層	石匙未製品	46	26	9	9	チャート	
562	VII区 V層	石鎚	23	17	4	1	ハリ質安山岩		612	IV区 V層	石匙未製品	44	26	7	8	チャート	
563	VII区 V層	石鎚	(22)	(14)	5	1	黒曜石		第25回 613	VII区 IV層	石匙未製品	29	54	13	19	チャート	
564	IV区 V層	石鎚	21	15	4	1	チャート		614	IV区 V層	石匙未製品	48	28	10	12	チャート	
565	VII区 V層	石鎚	(20)	(14)	3	—	黒曜石	桑ノ木津留	615	V区 V層	石匙未製品?	23	32	10	7	チャート	
566	IV区 V層	石鎚	20	15	3	—	チャート		616	VII区 II~III層	石匙未製品?	27	29	11	7	貢岩?	
567	VII区 IV層	石鎚	(18)	(15)	4	—	黒曜石		617	VII区 V層	異形石器	28	55	8	15	安山岩	
568	IV区 V層	石鎚	(15)	17	3	—	チャート		618	IV区 IV層	抉り入り石器	16	25	2	—	チャート	
569	VII区 V層	石鎚	(15)	20	5	2	チャート		619	IV区 VII層	抉り入り石器	19	26	4	2	ハリ質安山岩	
570	IV区 V層	石鎚	22	16	4	1	チャート	左右非対象形	620	VII区 IV層	抉り入り石器	20	29	7	4	チャート	
571	IV区 V層	石鎚	(22)	13	3	1	チャート		621	IV区 IV層	異形石器	25	19	3	1	チャート	
572	VII区 V層	石鎚	(21)	19	4	1	チャート		622	III区 SX-01	異形石器	26	13	5	2	凝灰質	
573	V区 V層	石鎚	19	15	3	—	黒曜石		623	VII区 III層	垂飾品	24	40	28	24	加久藤 溶結安山岩	
574	VII区 IV層	石鎚	(19)	(12)	3	—	黒曜石		624	II区 III~V層	刃器	133	60	34	112	砂質頁岩	
575	VII区 V層	石鎚	(20)	(13)	3	—	チャート		625	VII区 V層	刃器	85	133	29	388	加久藤 溶結安山岩	
576	IV区 V層	石鎚	(15)	(13)	4	—	黒曜石		626	VII区 II~IV層	石斧	83	60	30	228	硬砂岩	
577	II区 SX-01	石鎚未製品	18	(14)	5	1	黒曜石		627	IV区 IIIb層	石斧	90	61	23	184	砂岩	
578	VII区 V層	石鎚	(14)	15	3	—	黒曜石		628	IV区 IIIb層	剥片	48	54	15	42	チャート	
579	V区 V層	石鎚	(16)	(12)	(3)	1	チャート		629	II区 SX-02	スクレイバー	21	55	11	19	黒曜石	
580	VII区 V層	石鎚	(15)	(12)	3	—	黒曜石		630	VII区 IV層	スクレイバー	28	41	8	8	チャート	
581	VII区 V層	石鎚	9	10	3	—	黒曜石		631	VII区 IV層	2次加工のある 剥片	41	40	10	19	安山岩	
582	VII区 II~III層	石鎚未製品?	31	22	5	4	チャート		632	VII区 V層	2次加工のある 剥片	29	37	11	10	チャート	
583	V区 V層	石鎚未製品	(34)	(20)	3	2	チャート		633	II区 III~V層	大形剥片	91	94	29	210	チャート	
584	IV区 IIIb層	石鎚	(14)	14	3	—	チャート										
585	II区 SX-01	石鎚未製品	36	20	9	6	ハリ質安山岩										
586	II区 SX-02	石鎚未製品	33	25	13	9	チャート										
587	VII区 IV層	石鎚未製品	29	19	5	2	チャート										
588	IV区 V層	石鎚未製品	20	21	9	3	安山岩										
589	VII区 V層	石鎚未製品	36	15	6	3	チャート										
590	VII区 V層	石鎚未製品	29	16	7	3	砂質頁岩?										
591	II区 SX-01	石鎚未製品	42	30	8	11	チャート										
592	IV区 IIIb層	石鎚未製品	31	23	9	6	チャート										
593	IV区 V層	石鎚未製品	30	25	8	6	チャート										
594	V区 V層	石鎚未製品	(30)	(21)	6	3	チャート										

第4章 古屋敷遺跡

第4章 古屋敷遺跡

第1節 はじめに

古屋敷遺跡は、えびの市大字東川北字古屋敷・天神元に所在し、手仕山遺跡が立地する標高271mの独立丘陵の南部から東部にかけて広がる緩斜面上に位置する。南部は標高246～250mの緩斜面で、東部は南部より一段高い丘陵で、平坦面が南北にのび、標高250～256mで、南部緩斜面との比高差は4～5mを測る。

調査に先立って、南部緩斜面で試掘調査を行い、土層の堆積状況と遺構の有無、遺物の出土状況の確認、重機による上土除去をどの層まで行うかを確認した。

調査は、南部緩斜面から行った。独立丘陵の南側の裾端に沿って西から流れる水路を北端として、南北幅65～75m、その水路は丘陵西端から約65mで南へ向かうが、それを東端として、東西幅50～60m、標高247～250mの部分をI区、水路から東側の丘陵裾端を北端とした、南北幅65m、東西幅40～45m、標高246～248mの部分をII区、II区の東側に南北幅30m、東西幅40m、標高247mの部分をIII区とした。東部丘陵上は、中央を南北に走る農道の西側に、西へのびる農道から南へ約45mのところを北端として、南北幅26m、東西幅45m、標高252mの部分をIV区、その南側の南北幅9～14m、東西幅45m、標高250mの部分をV区とした。東側は、東へ走る農道から南へ約25mのところを北端として、南北幅27～31m、東西幅31m、標高251～252mの部分をVI区、農道の北



第1図 地区割図 (1:2,500)

側、南北幅30～33m、東西幅37～52m、南半分が15mほど東へ突出した形をした、標高255mの部分をⅦ区、その北側の南北幅14m、東西幅30mの標高256mの部分をⅧ区とした。調査は表土からⅢb層までを重機で除去し、Ⅲc層上面とⅣ層上面で遺構検出を行った。調査期間は、平成12年11月6日から平成13年3月30日までと、平成13年4月6日から同年5月31日まで行った。

第2節 基本的層序

層序は、上から、Ⅰ層：耕作土、Ⅱ層：旧耕作土（灰褐色～黄褐色土）、Ⅲ層：黒灰色～茶褐色土、Ⅳ層：アカホヤ火山灰、Ⅴ層：暗褐色土、Ⅵ層：白色粘質土に分別した。Ⅲ層は、3つに分層でき、a：暗茶褐色土（主として15～16世紀）、b：黒灰色土（主として12～13世紀だが、9～10世紀の遺物も多く含み、一時期土石流となる）、c：茶褐色微砂質土（主として5～6世紀で、縄文後期から10世紀の遺物も多く含む）で、Ⅳ層は、a：淡黄褐色微細砂質土（2次堆積のアカホヤ火山灰）、b：アカホヤ火山灰に分けられる。

第3節 試掘調査

調査に先立って、東部丘陵西側の裾端から約20m西に、南北方向に長さ35m、幅1mで試掘溝1を、南緩斜面の北から南に流れる水路から約20m東に、南北方向に長さ45m、幅1mで試掘溝2を、試掘溝1の北側にある水田の中央部分に南北方向に長さ15m、幅1mで試掘溝3を、その東側の水田の中央に南北方向に長さ25m、幅1mで試掘溝4を設定し、土層の堆積状況、遺物の出土状況の確認と、重機による上土除去をどの層まで行うか検討するため試掘調査を行った。

試掘溝1

Ⅰ層は、10～20cmの厚さがあり、Ⅱ層は灰褐色～黄褐色微細砂質土で25～110cm堆積した旧耕作土や床土・客土である。出土遺物は、土師器・土師質土器・黑色土器・白磁が出土している。Ⅲ層は、灰茶褐色～黒色粘質土で、10～20cm堆積しており、a：暗茶褐色土、b：黒灰色土、c：茶褐色微砂質土に分層される。出土遺物は多く、弥生土器・土師器・土師質土器・黑色土器・白磁が出土している。遺構は柱穴が検出された。

試掘溝2

Ⅰ層は10～30cmの厚さがあり、Ⅱ層は灰色～黄褐色粗砂質土で20～80cm堆積した旧耕作土や床土・客土である。出土遺物は、土師質土器・青磁・白磁・青花・鉄器が出土している。Ⅲ層は、茶褐色～黒色粘質土で、20～30cm堆積しており、a：暗茶褐色土、b：黒灰色土、c：茶褐色微砂質土に分層される。出土遺物は多く、弥生土器・土師器・須恵器・土師質土器・黑色土器・布痕土器・青磁・白磁が出土している。Ⅳ層は暗褐色～黄褐色砂質土で、20～30cm堆積しており、土師器が出土している。遺構は柱穴が検出された。



第2図 I区 遺構全体図

試掘溝 3

I層は、10~20cmの厚さがあり、II層は、灰褐色~黄褐色微細砂質土で、20~60cm堆積した旧耕作土や床土・客土である。III層は、灰茶褐色~黒色粘質土で20~30cm堆積しており、a:暗茶褐色土、b:黒灰色土、c:茶褐色微砂質土に分層される。遺物は、須恵器・布痕土器・鉄器・青磁・白磁が出土している。遺構は検出されなかった。

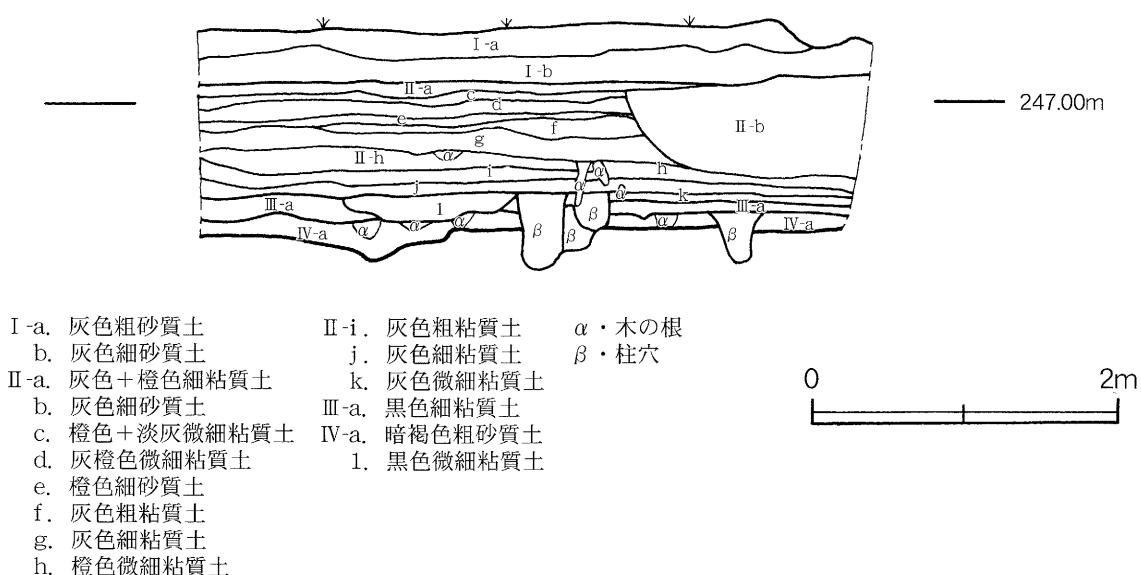
試掘溝 4

I層は10~20cmの厚さがあり、II層は、30~40cm堆積しており、灰褐色~黄褐色粗砂質土で、旧耕作土や床土・客土である。遺物・遺構は検出されなかった。

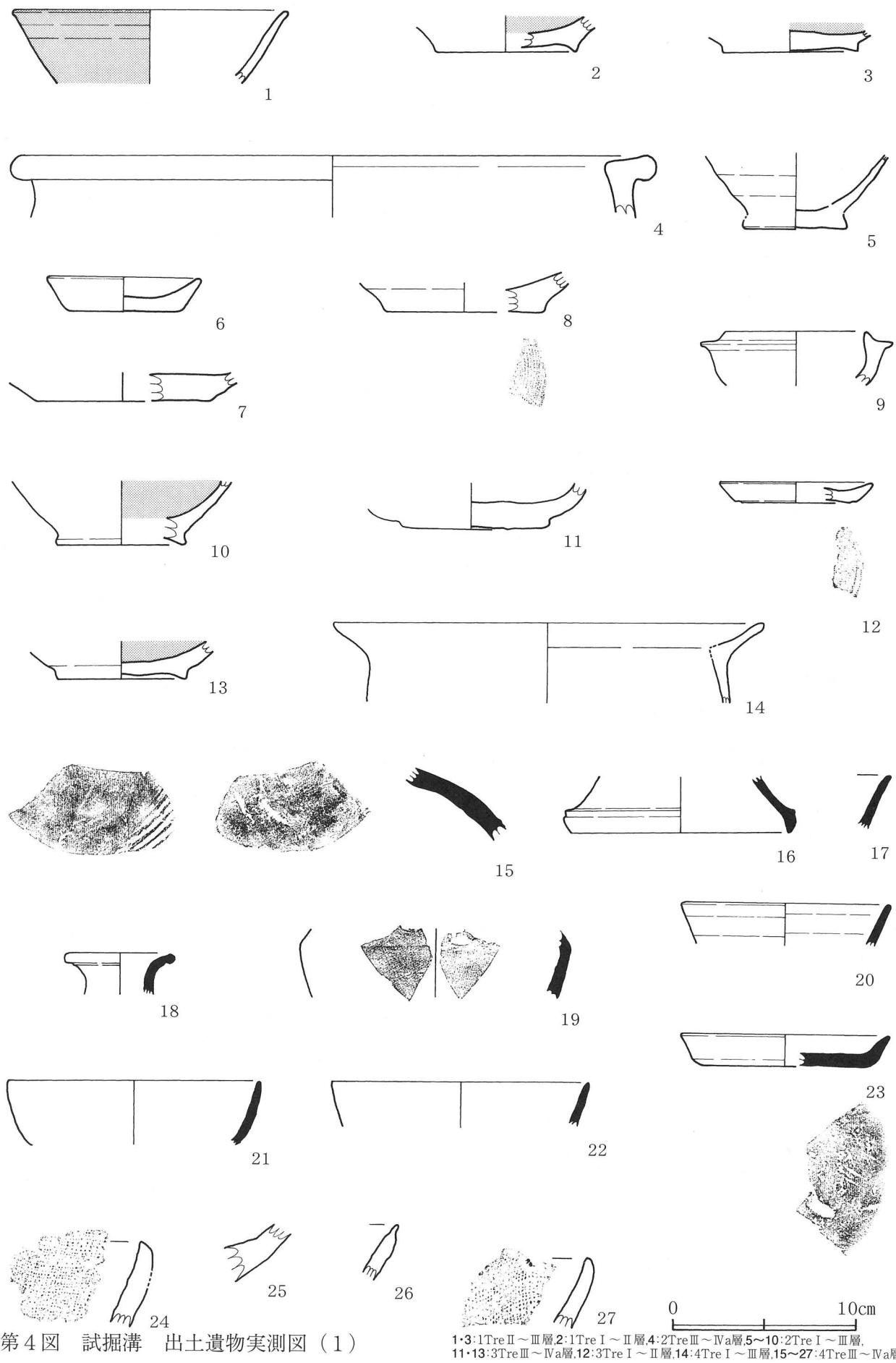
試掘調査の結果、III層から多量の遺物が出土したが、III層すべてを調査することは、調査域が広範囲であるため、時間的に無理であると判断し、密度の高い部分以外は表土からIII b層までを重機で除去することとした。

第4節 I区の調査

調査は、重機でIII b層まで除去し、遺構の検出は、III c層上面とIV層上面で行った。その結果、竪穴住居1基、竪穴状遺構2基、土坑・土壙墓91基、溝状遺構9条、道路状遺構と多数の柱穴を検出し、特に柱穴は、調査区南部中央付近から東にかけて密集して検出された。掘立柱建物は復元できたもので61棟である。重機による上土除去の際、III層を剥いでいたところ、調査区中央で、幅12~20mで西から東へ横断する礫層がみられ、土石流と思われる。IV a層からは縄文土器が出土したが、遺構は検出されなかった。



第3図 I区 南壁層序図



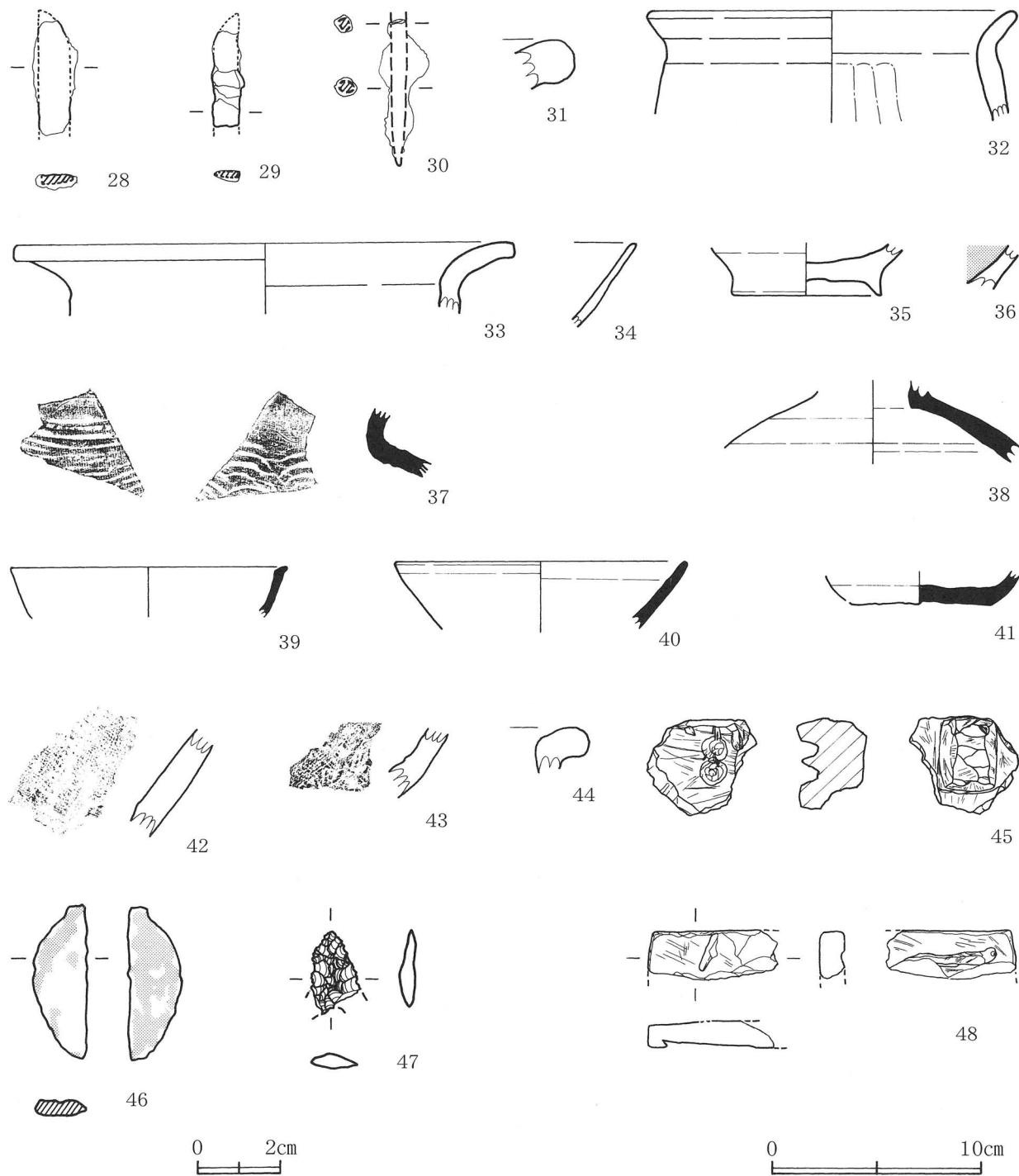
第4図 試掘溝 出土遺物実測図 (1)

弥生時代

IV層上面で遺構検出を行った結果、調査区の南西隅に、不整形の日向型間仕切り住居が1基検出された。その他の遺構は検出されなかった。

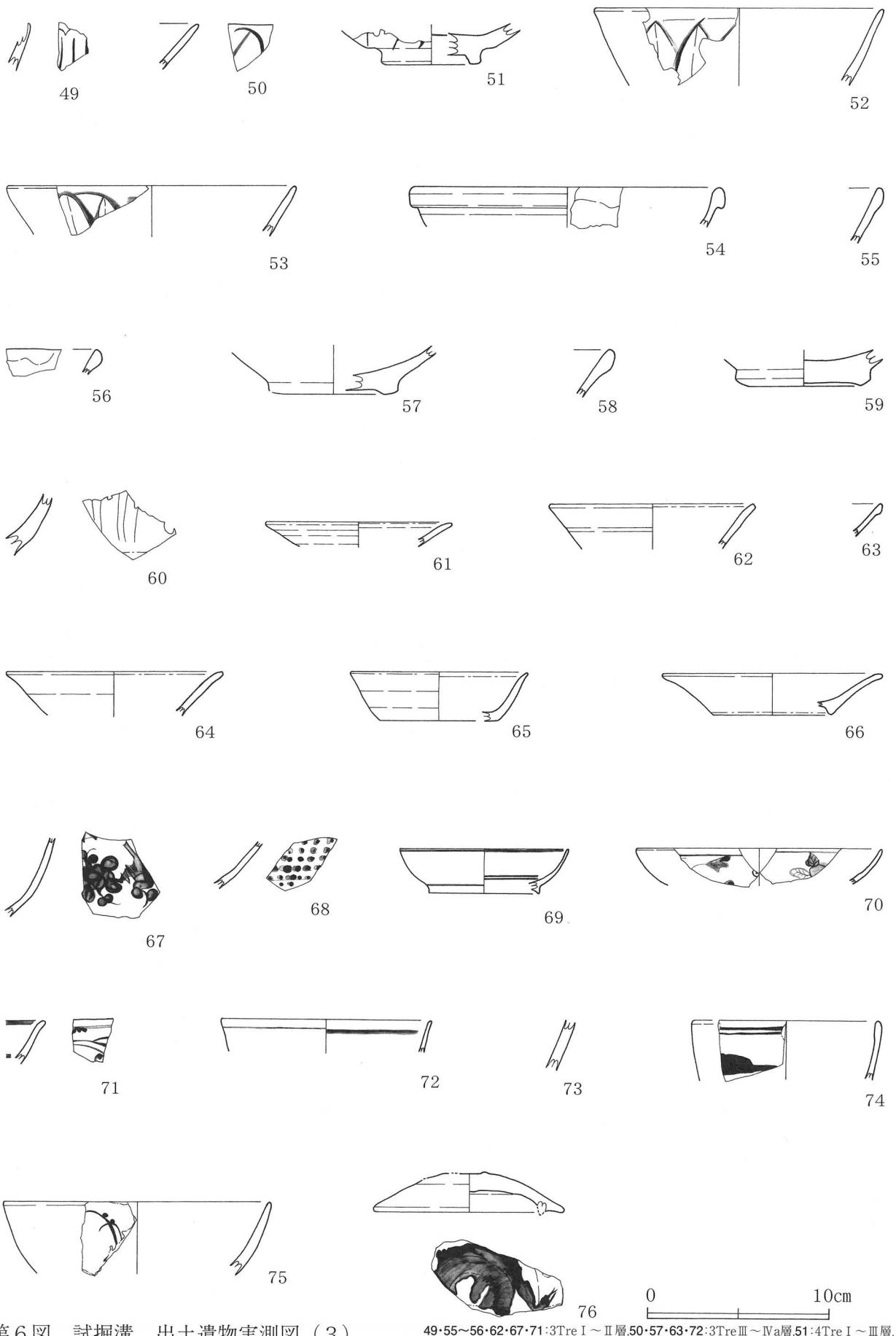
S A-04 (第8・11図)

調査区の南西隅に検出された、不整形の間仕切り住居である。西側は西壁にかかっており、南側は削平されているため規模の詳細は不明である。検出面から床面までの深さは26cmを測る。柱穴は2個検出した。炉跡や貼床などは検出されなかった。遺物は、甕、壺、土師器の高坏、台石が出土



第5図 試掘溝 出土遺物実測図（2）

28・4Tre I～III層, 29～30:4Tre III～IVa層, 31～36・38～43:5Tre III～IVa層,
37・48:5Tre I～III層, 44・46:8Tre I～III層, 45:1Tre III層, 47:3Tre I～II層



第6図 試掘溝 出土遺物実測図（3）

49-55~56-62-67-71:3Tre I ~ II層, 50-57-63-72:3Tre III ~ IVa層, 51:4Tre I ~ III層,
52-68:5Tre I ~ III層, 53-58~59-65: III ~ IVa層, 54-69-73:1Tre I ~ II層,
60-66-74~76:8Tre I ~ III層, 61:2Tre I ~ III層, 64:4Tre III ~ IVa層, 70:2Tre I ~ II層

している。

古代～中世

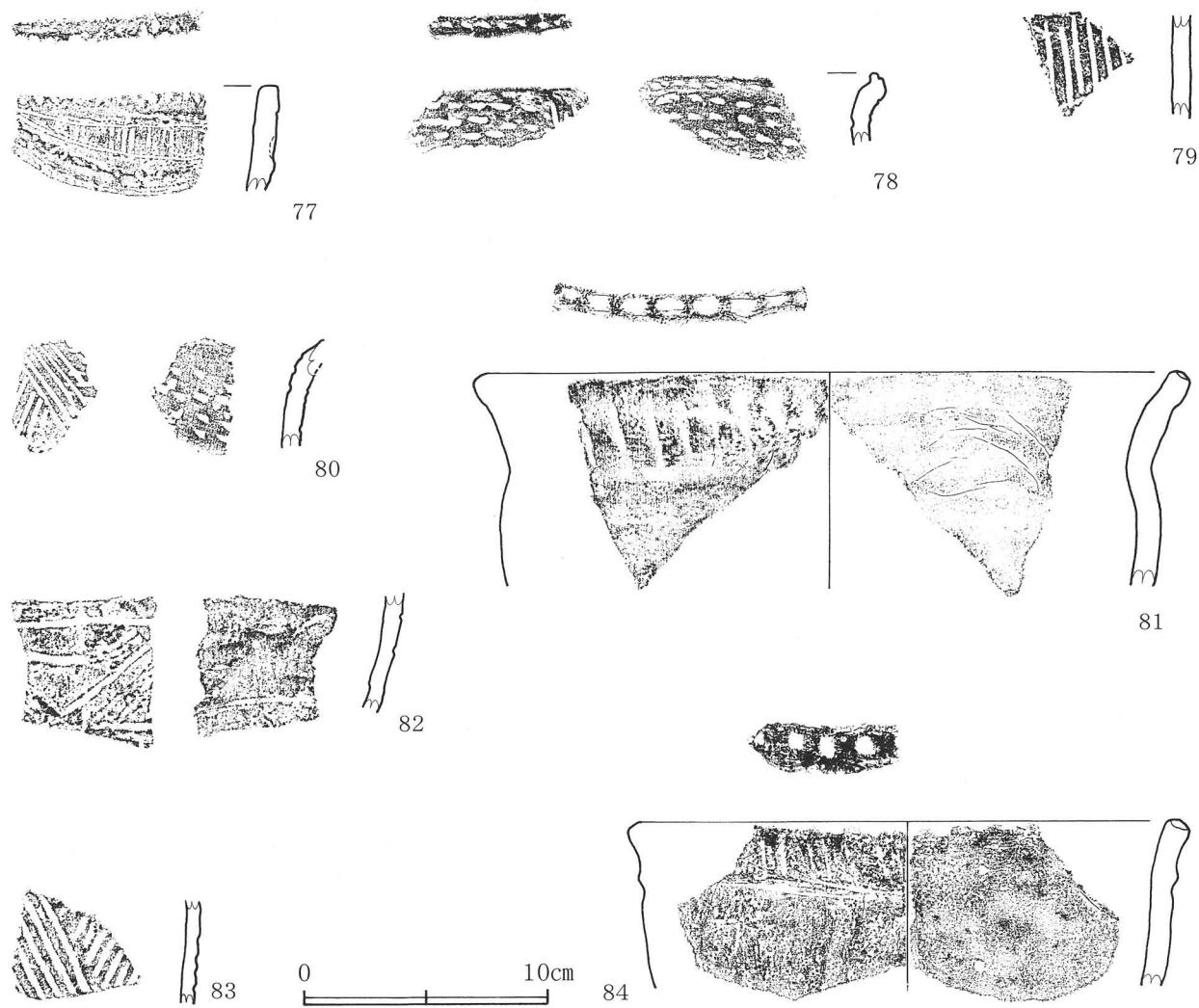
III c 層上面で遺構検出を行った結果、竪穴状遺構 2 基、掘立柱建物 61 棟、土坑・土壙墓 91 基、溝状遺構 9 条、道路状遺構 1 、そのほか多数の柱穴を検出した。特に、柱穴は調査区南部に集中している。

S A-01 (第9・11図)

調査区の中央部やや西寄りで検出された竪穴状遺構で、1辺が2.8mのほぼ正方形を呈する。検出面から床面までの深さは12cmを測る。柱穴は6個で、径12~20cm、深さ14~28cmを測る。住居中央に炭化物を含んだ黒色土がみられたが、掘り込みにはならず、炉跡と思われる。遺物は須恵器の塊の底部のみである。

S A-03 (第10・11図)

調査区の南部中央やや西寄りで検出された竪穴状遺構で、1辺が3.3~3.4mのほぼ正方形を呈する。検出面から床面までの深さは40cmを測る。柱穴は4個で、径20~40cm、深さ50~55cmを測る。



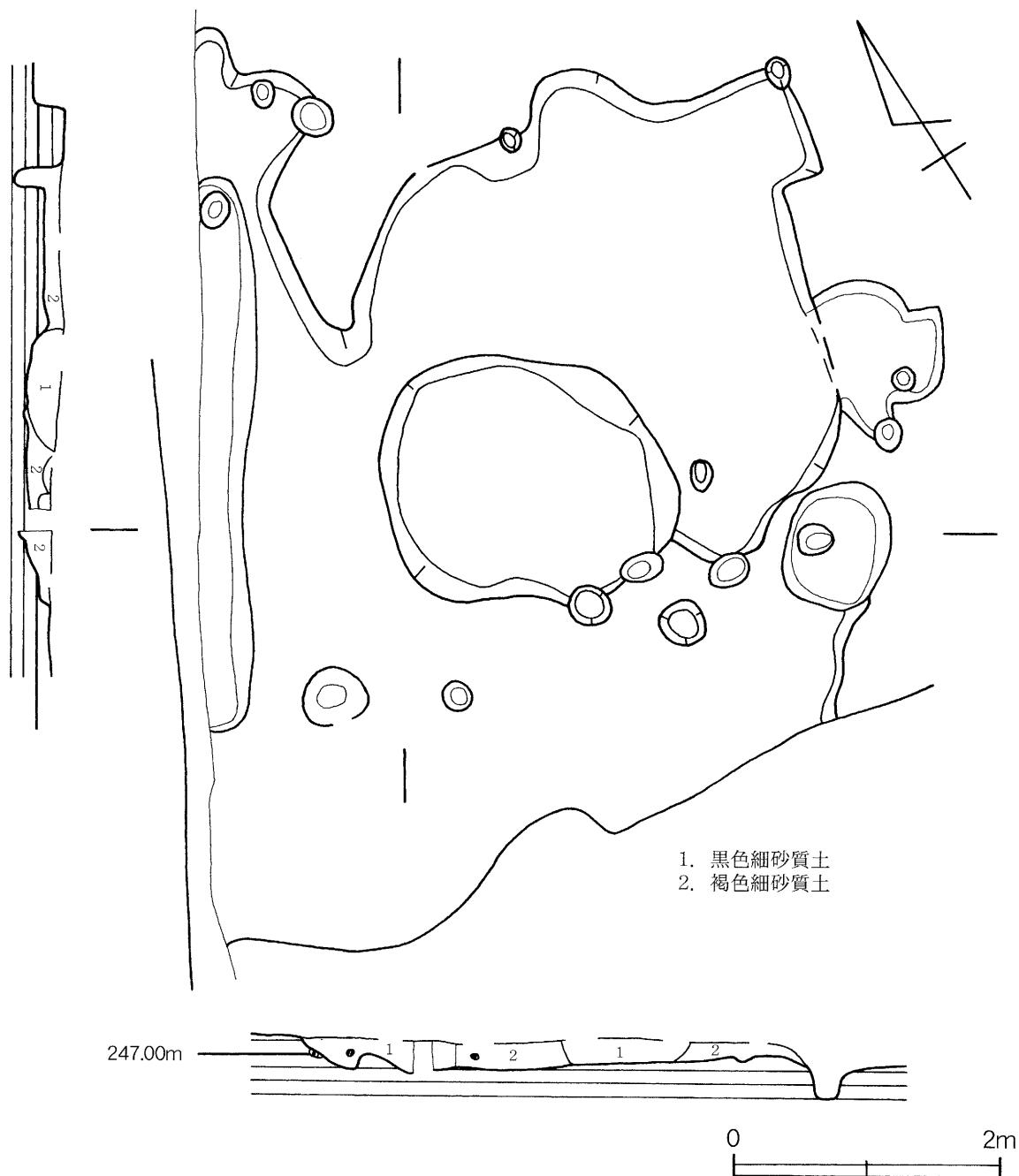
第7図 I区 出土遺物実測図 (1)

81:1193,82:SA-04,83:IV層,84:SK-117

住居の中央には長さ2.64m、幅70~90cmの楕円形を呈する深さ12cmの浅い掘り込みがみられる。また、西・北・東壁隅には幅20~40cm、深さ10~12cmの溝がめぐらされている。遺物は、土師器の甕の口縁部、塊の底部、すり鉢、銅銭、磨石が出土した。

S B-01 (第12図)

調査区の北部中央やや東よりにある、梁行2間2.98~3.30m、桁行3間5.84~5.88mを測る建物で



第8図 S A-04 遺構実測図

ある。柱穴の規模は、径20～38cm、深さ14～34cmを測る。主軸方位はN80° Wである。

S B-02 (第12図)

S B-01と同位置にある、梁行2間3.26～3.28m、桁行2間3.97mを測る建物である。柱穴の規模は、径24～44cm、深さ24～36cmを測る。主軸方位はN78° Wである。

S B-03 (第12図)

調査区の北部中央にある、現存で梁行2.80m、桁行1間1.12～1.46mを測る建物である。柱穴の規模は、径22～25cm、深さ28～39cmを測る。主軸方位はN60° Eである。

S B-04 (第12図)

調査区の北部中央やや西よりにある、梁行2間2.56～2.74m、桁行2間3.25～3.40mを測る建物である。柱穴の規模は、径23～44cm、深さ16～41cmを測る。主軸方位はN27° Eである。

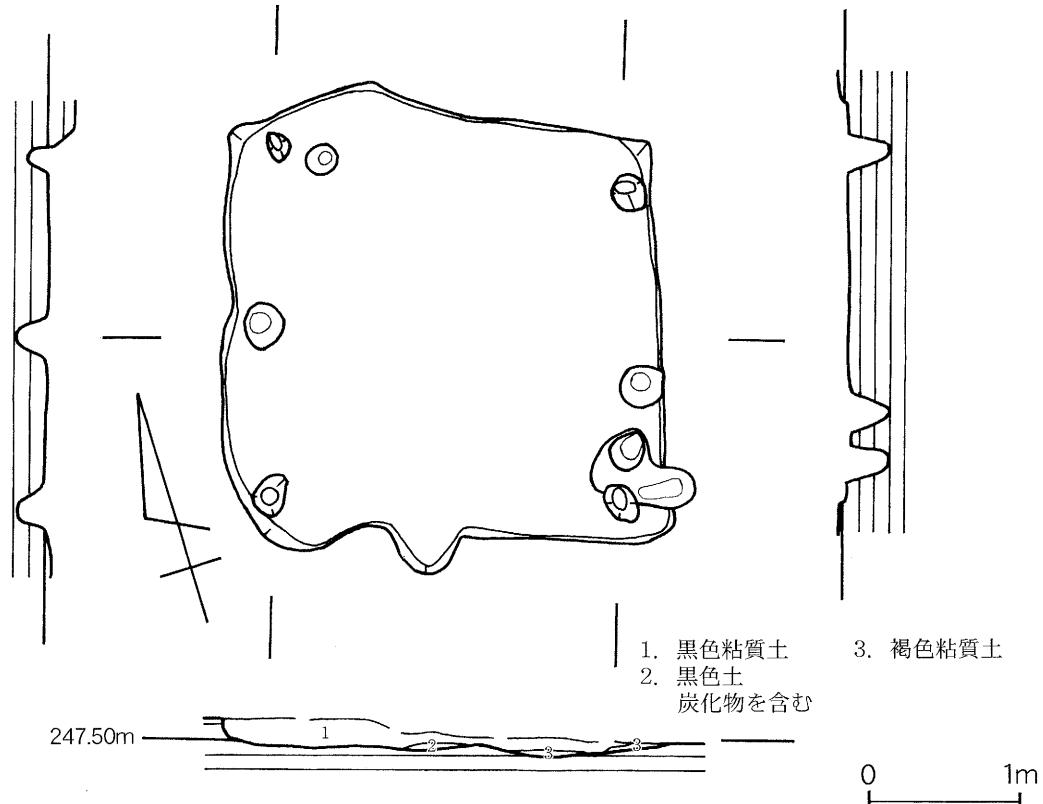
S B-05 (第12図)

S B-04の南西にある、梁行2間3.12～3.18m、桁行3間5.54～5.78mを測る建物である。柱穴の規模は、径24～38cm、深さは20～42cmを測る。主軸方位はN65° Eである。

S B-06 (第12図)

調査区の中央部西側にある、梁行2間4.06m、桁行3間6.60～6.62mを測る、北・西に廂を持つ建物である。柱穴の規模は、径22～35cm、深さ27～40cmを測る。主軸方位はN12° Eである。

S B-07 (第13図)



第9図 S A-01 遺構実測図

調査区の中央部西側にある、梁行1間3.89～3.95m、桁行3間6.45～6.48mを測る建物である。柱穴の規模は、径25～40cm、深さ32～46cmを測る。主軸方位はN13° Eである。

S B-08 (第13図)

調査区の中央部西側にある、梁行2間3.45～3.50m、桁行2間3.82～4.08mを測る建物である。柱穴の規模は、径22～29cm、深さ16～35cmを測る。主軸方位はN23° Eである。

S B-09 (第13図)

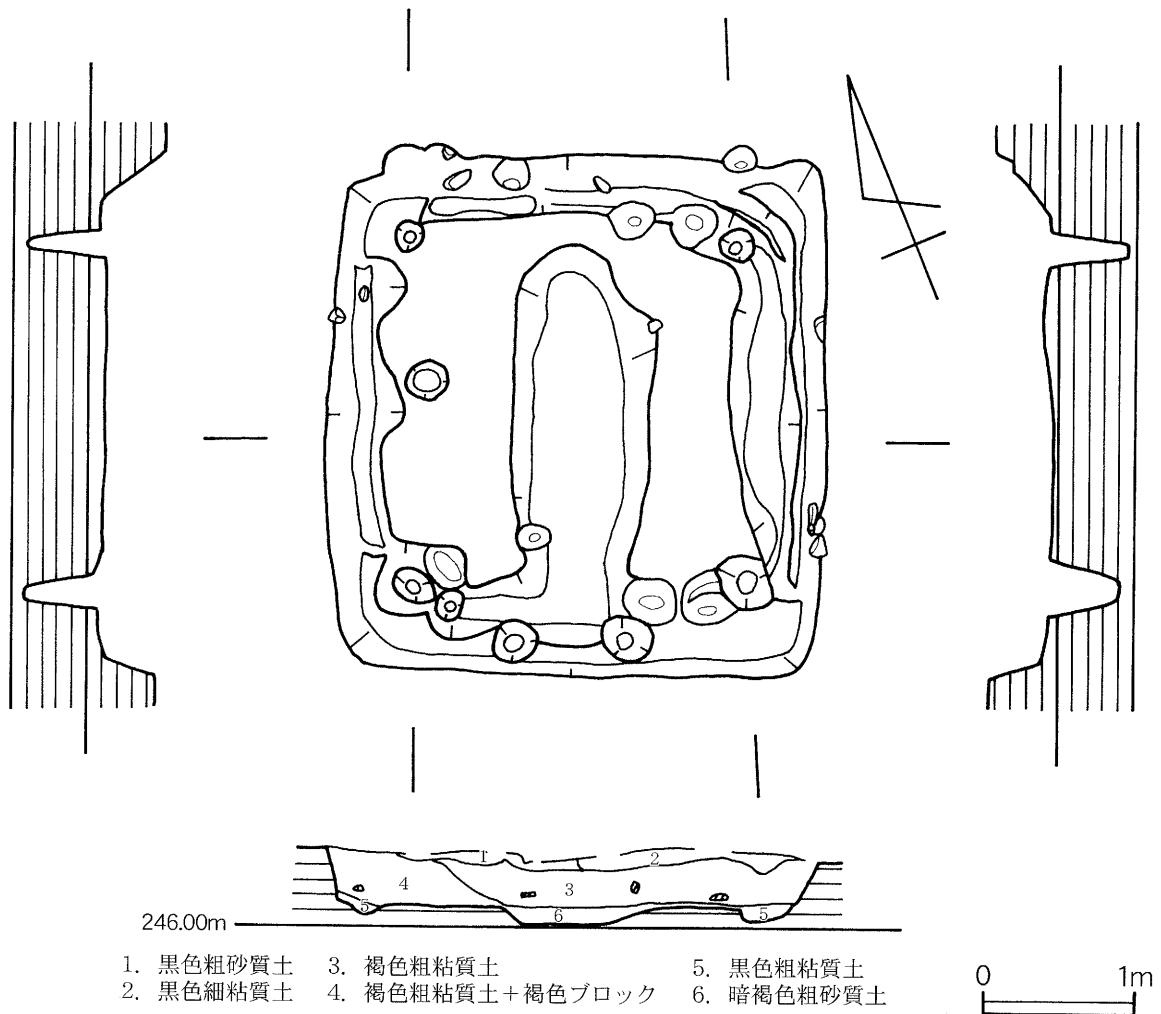
調査区の中央西側にある、梁行2間3.85～4.12m、桁行3間8.60～8.88mを測る、東側に廂を持つ建物である。柱穴の規模は、径27～62cm、深さ28～45cmを測る。主軸方位はN14° Eである。

S B-10 (第13図)

調査区の中央部やや西よりにある、梁行2間3.24～3.58m、桁行3間5.86～5.90mを測る建物である。柱穴の規模は、径22～32cm、深さ21～42cmを測る。主軸方位はN70° Wである。

S B-11 (第14図)

調査区の中央部にある、梁行2間4.94～5.13m、桁行6.55～6.60mを測る建物である。柱穴の規模



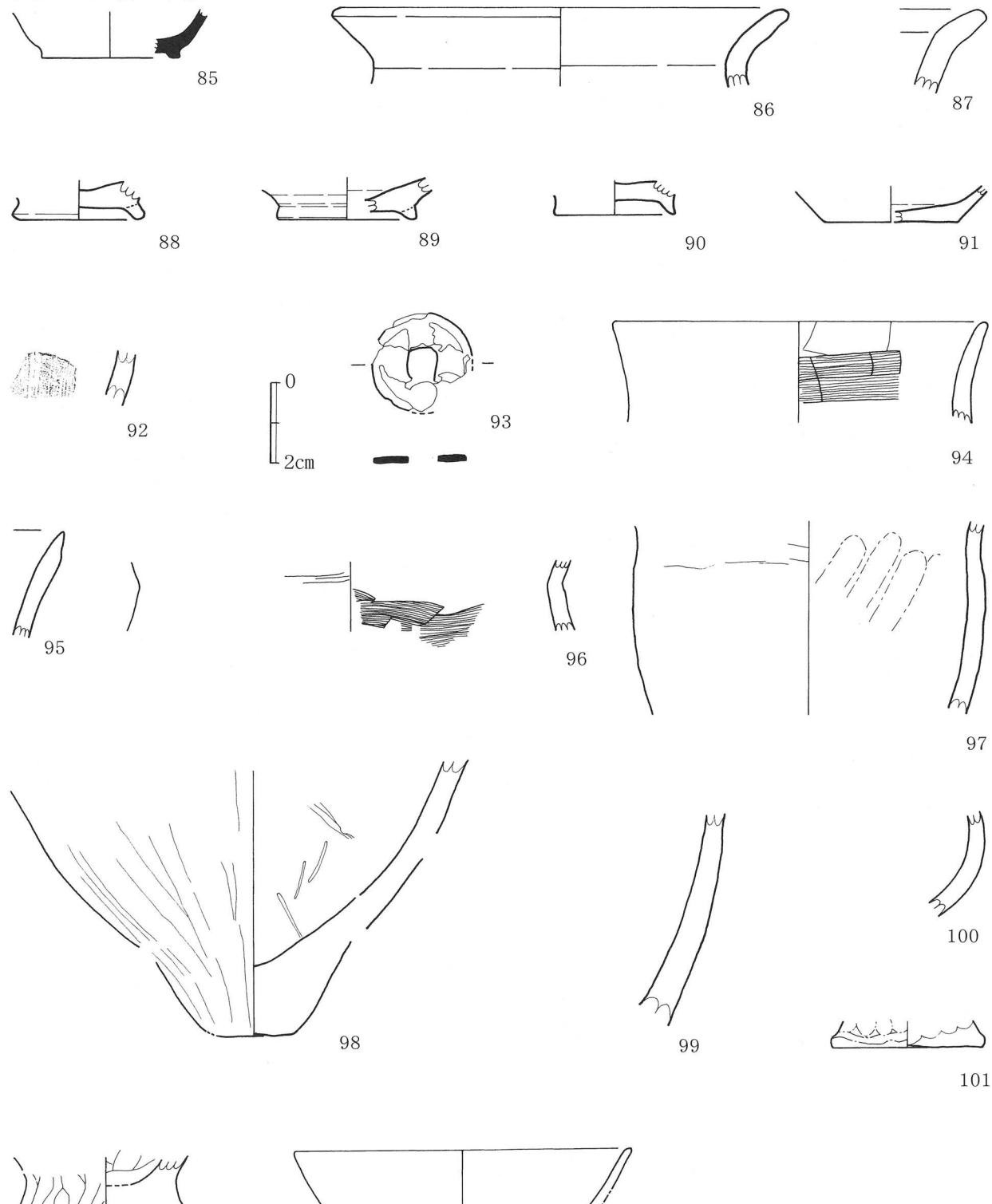
第10図 S A-03 遺構実測図

は、径27~36cm、深さ23~52cmを測る。主軸方位はN72° Wである。

S B-12 (第14図)

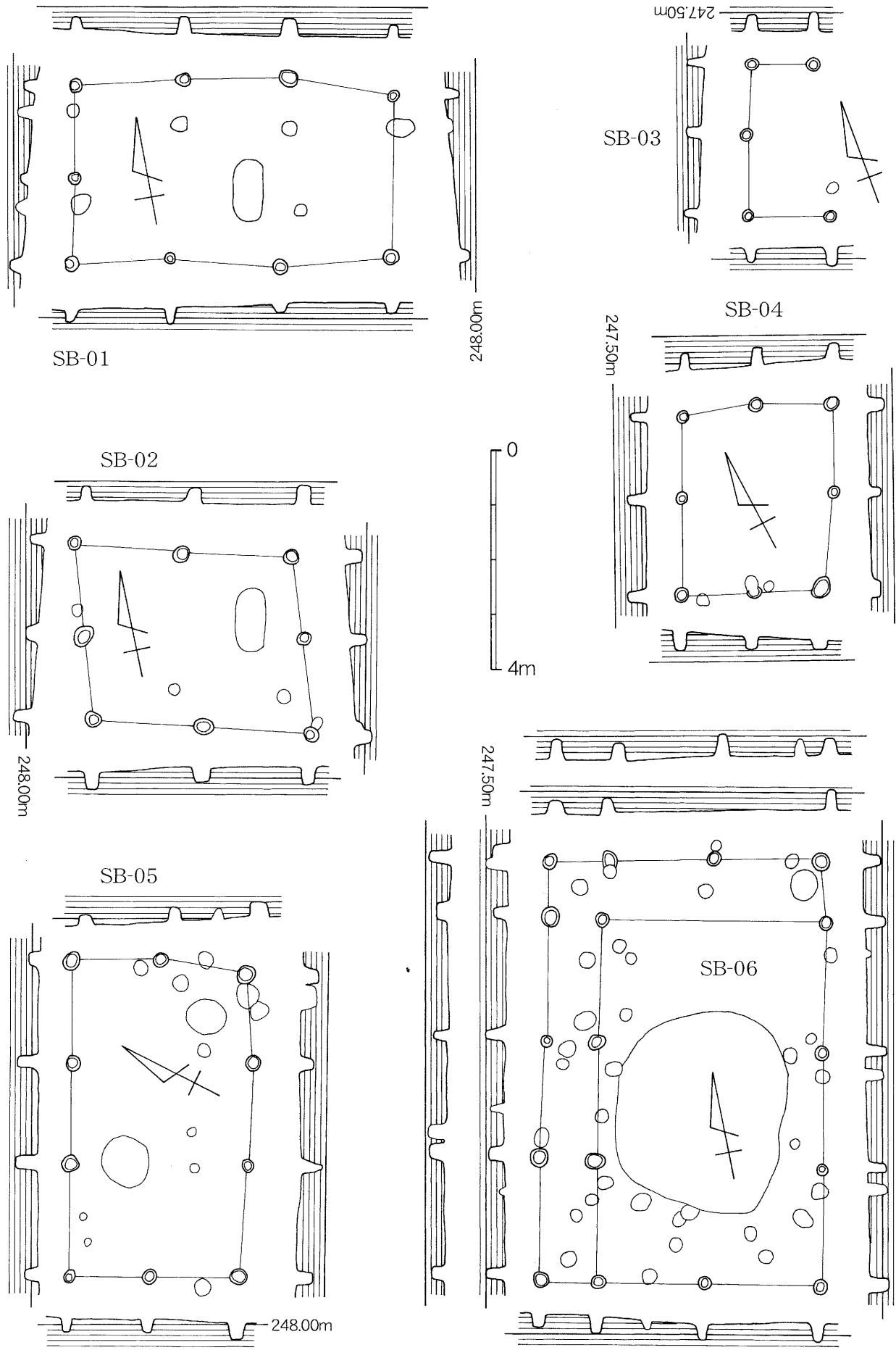
調査区の中央部にある、梁行2間3.49~3.60m、桁行3間7.34~7.47mを測る建物である。柱穴の規模は、径26~36cm、深さ26~52cmを測る。主軸方位はN72° Wである。

S B-13 (第14図)



第11図 S A 出土遺物実測図

85:SA-01, 86~93:SA-03, 94~103:SA-04



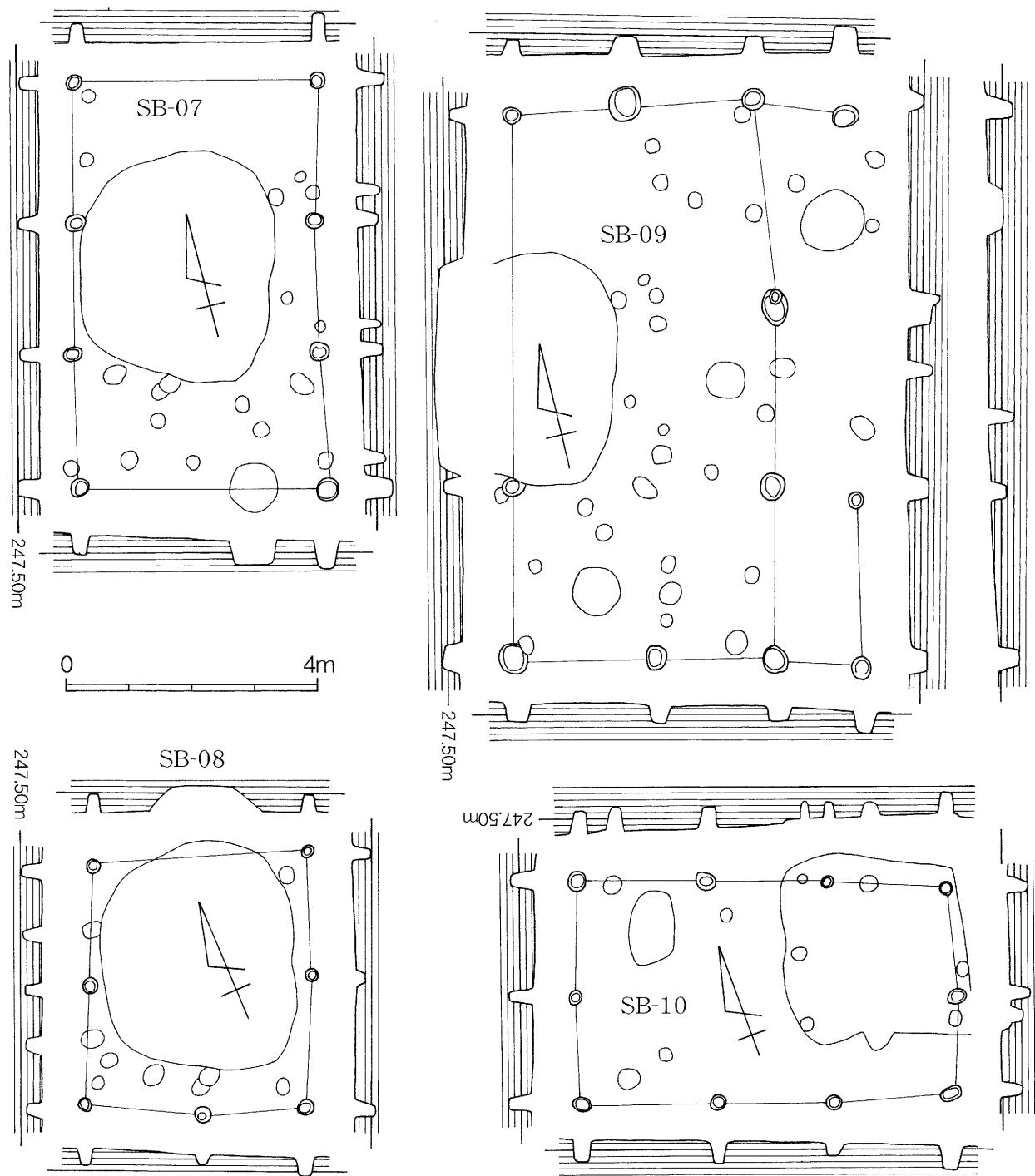
第12図 S B - 01~06 遺構実測図

調査区の中央部にある、梁行2間3.40~3.44m、桁行4間8.62mを測る、北側に廂を持つ建物である。柱穴の規模は、径22~45cm、深さ20~47cmを測る。主軸方位はN71°Wである。

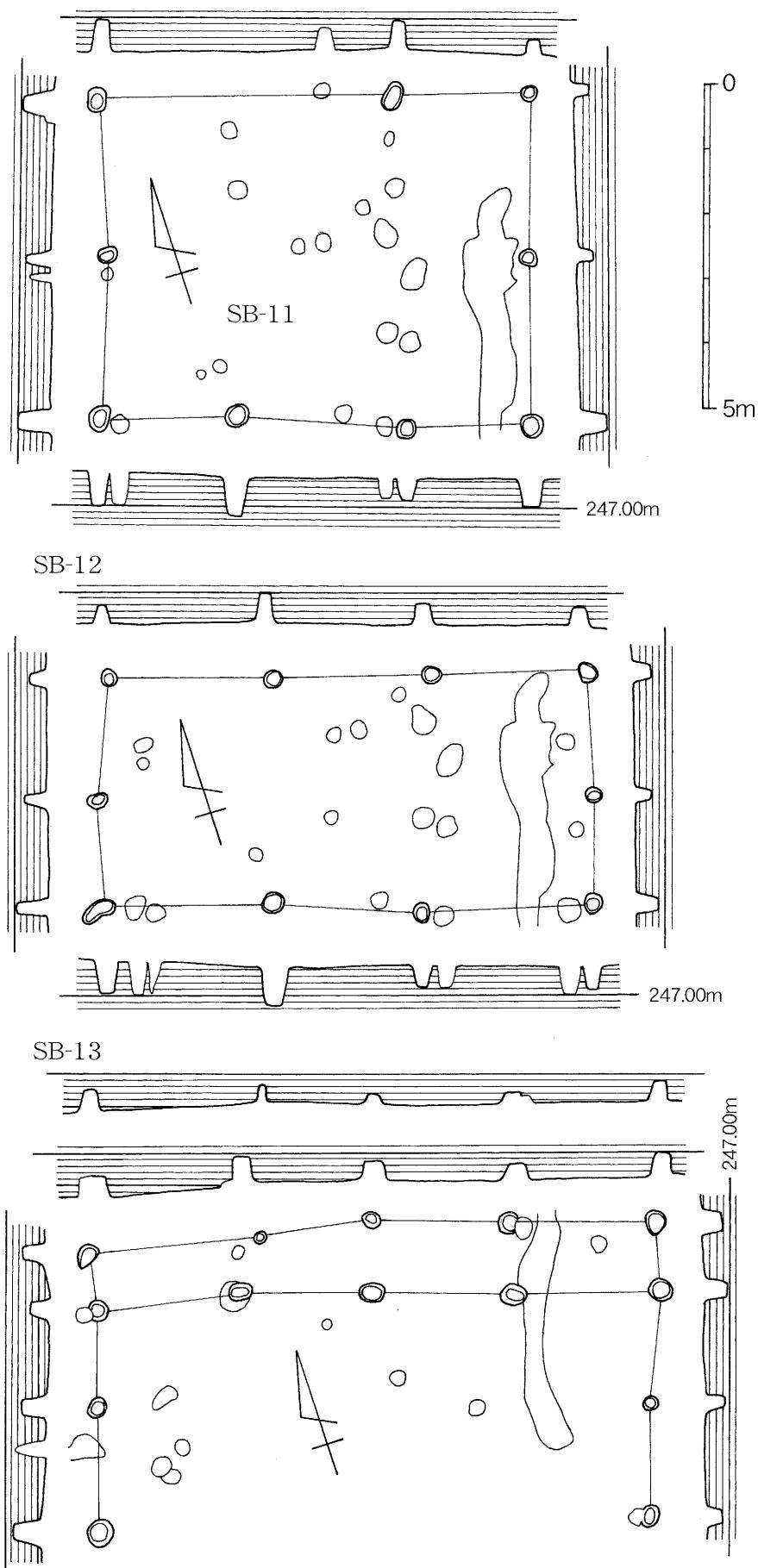
SB-14 (第15図)

調査区の中央部やや東よりにある、梁行2間4.47~4.58m、桁行3間7.95~7.99mを測る、西側に廂を持つ建物である。柱穴の規模は、径26~44cm、深さ23~52cmを測る。主軸方位はN18°Eである。

SB-15 (第15図)



第13図 SB-07~10 遺構実測図



第14図 SB-11~13 遺構実測図

調査区の中央部やや東よりにある、梁行2間2.55~2.57m、桁行3間4.82~5.08mを測る建物である。柱穴の規模は、径23~29cm、深さ22~40cmを測る。主軸方位はN79°Wである。

SB-16 (第15図)

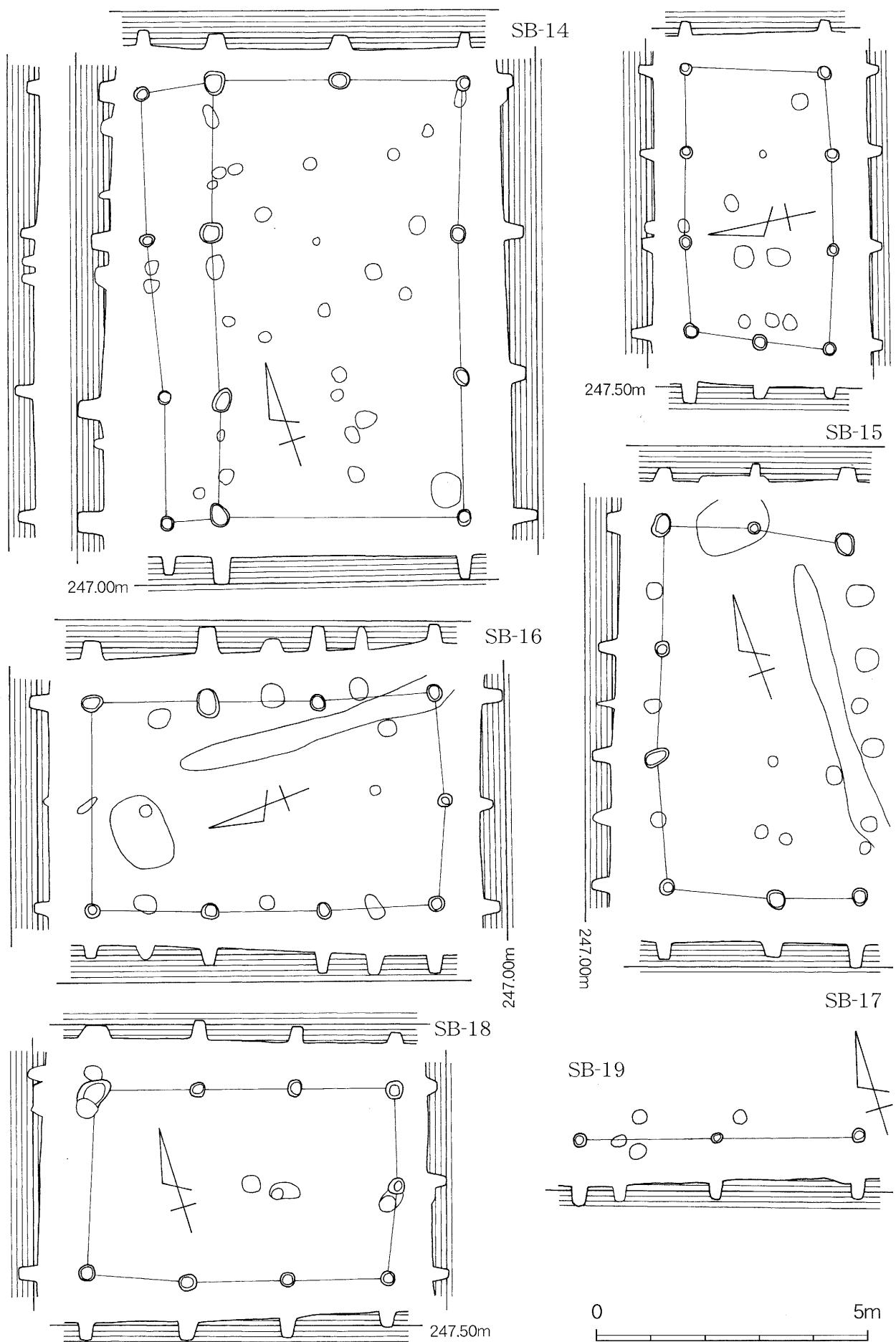
調査区の中央部やや東よりにある、梁行2間3.77~3.86m、桁行3間6.30~6.35mを測る建物である。柱穴の規模は、径26~53cm、深さ23~52cmを測る。主軸方位はN21°Eである。

SB-17 (第15図)

調査区の中央部やや東よりにある、梁行2間3.35~3.52m、桁行3間6.64mを測る建物である。柱穴の規模は、径23~44cm、深さ27~45cmを測る。主軸方位はN20°Eである。

SB-18 (第15図)

調査区の中央部東側にある、梁行2間3.40~3.48m、桁行3間5.47~5.53mを測る建



第15図 SB-14~19 遺構実測図

物である。柱穴の規模は、径27~44cm、深さ21~35cmを測る。主軸方位はN70° Wである。

S B-19 (第15図)

調査区の中央部東側にある、現存で2間5.13mを測る建物である。柱穴の規模は、径27~30cm、深さ21~40cmを測る。

S B-20 (第16図)

調査区の中央部やや東よりにある、現存で梁行2間3.60m、桁行1間1.35~1.40mを測る建物である。柱穴の規模は、径21~29cm、深さ19~32cmを測る。

S B-21 (第16図)

調査区の中央部東側にある、梁行2間3.30~3.36m、桁行3間5.93mを測る建物である。柱穴の規模は、径23~30cm、深さ19~38cmを測る。主軸方位はN78° Wである。

S B-22 (第16図)

調査区の中央部東側にある、梁行1間1.78m、桁行3間5.94mを測る建物である。柱穴の規模は、径23~40cm、深さ38~51cmを測る。主軸方位はN73° Wである。

S B-23 (第16図)

調査区の中央部東側にある、梁行2間3.64m、桁行2間3.94mを測る、北側に廂を持つ建物である。柱穴の規模は、径22~31cm、深さ23~46cmを測る。主軸方位はN76° Wである。

S B-24 (第16図)

調査区の中央部東側にある、梁行1間4.16m、桁行4間8.76mを測る建物である。柱穴の規模は、径30~43cm、深さ40~51cmを測る。主軸方位はN80° Wである。

S B-25 (第16図)

調査区の中央部東側にある、梁行2間3.30~3.60m、桁行3間6.44~6.55mを測る建物である。柱穴の規模は、径29~41cm、深さ16~30cmを測る。主軸方位はN79° Wである。

S B-26 (第17図)

調査区の南部中央にある、梁行2間3.94m、桁行3間5.55mを測る建物である。柱穴の規模は、径23~55cm、深さ11~31cmを測る。主軸方位はN87° Wである。

S B-27 (第17図)

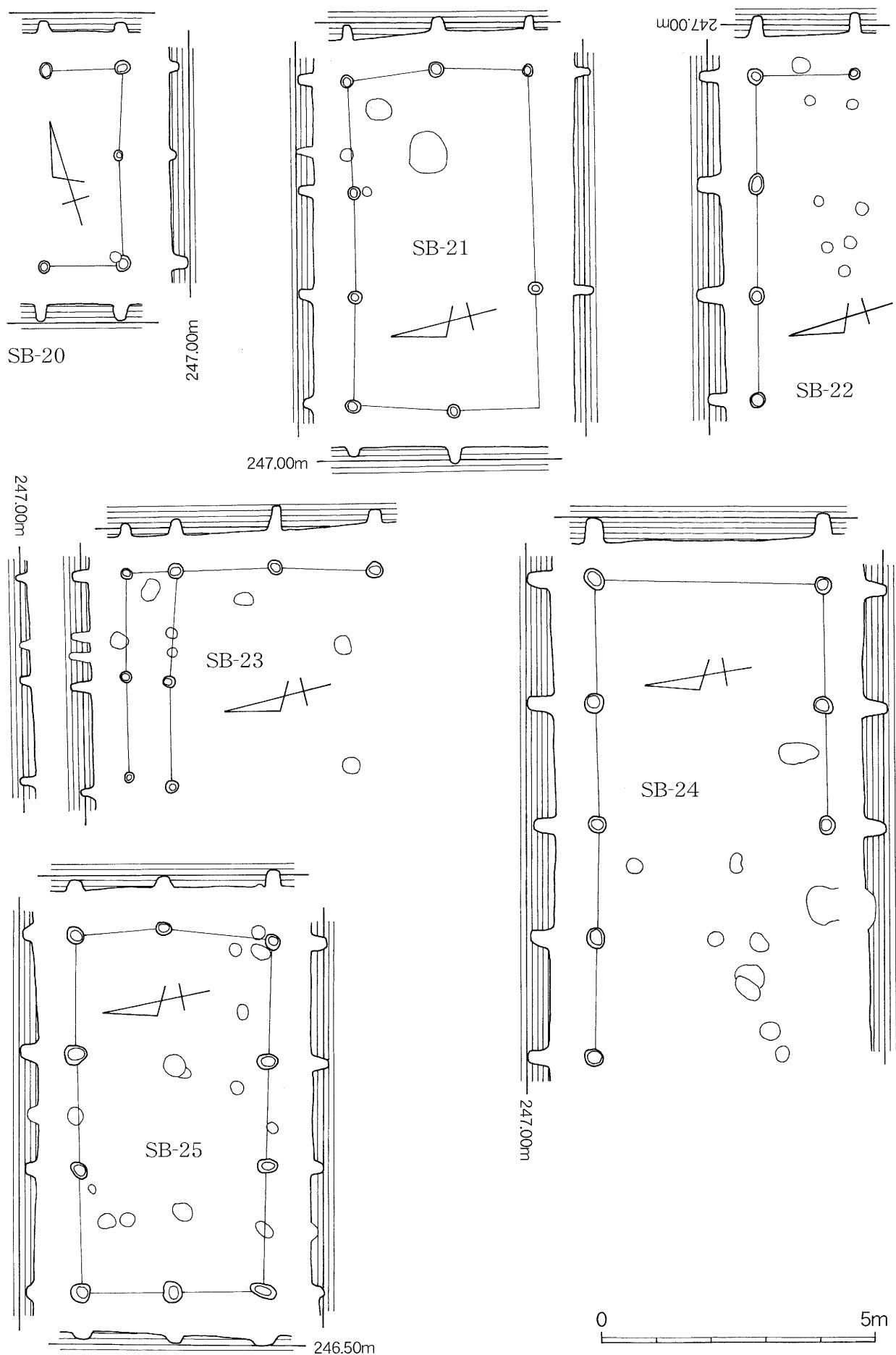
調査区の南部中央にある、梁行2間3.70~4.06m、桁行2間5.38mを測る建物である。柱穴の規模は、径27~45cm、深さは19~40cmを測る。主軸方位はN 5° Eである。

S B-28 (第17図)

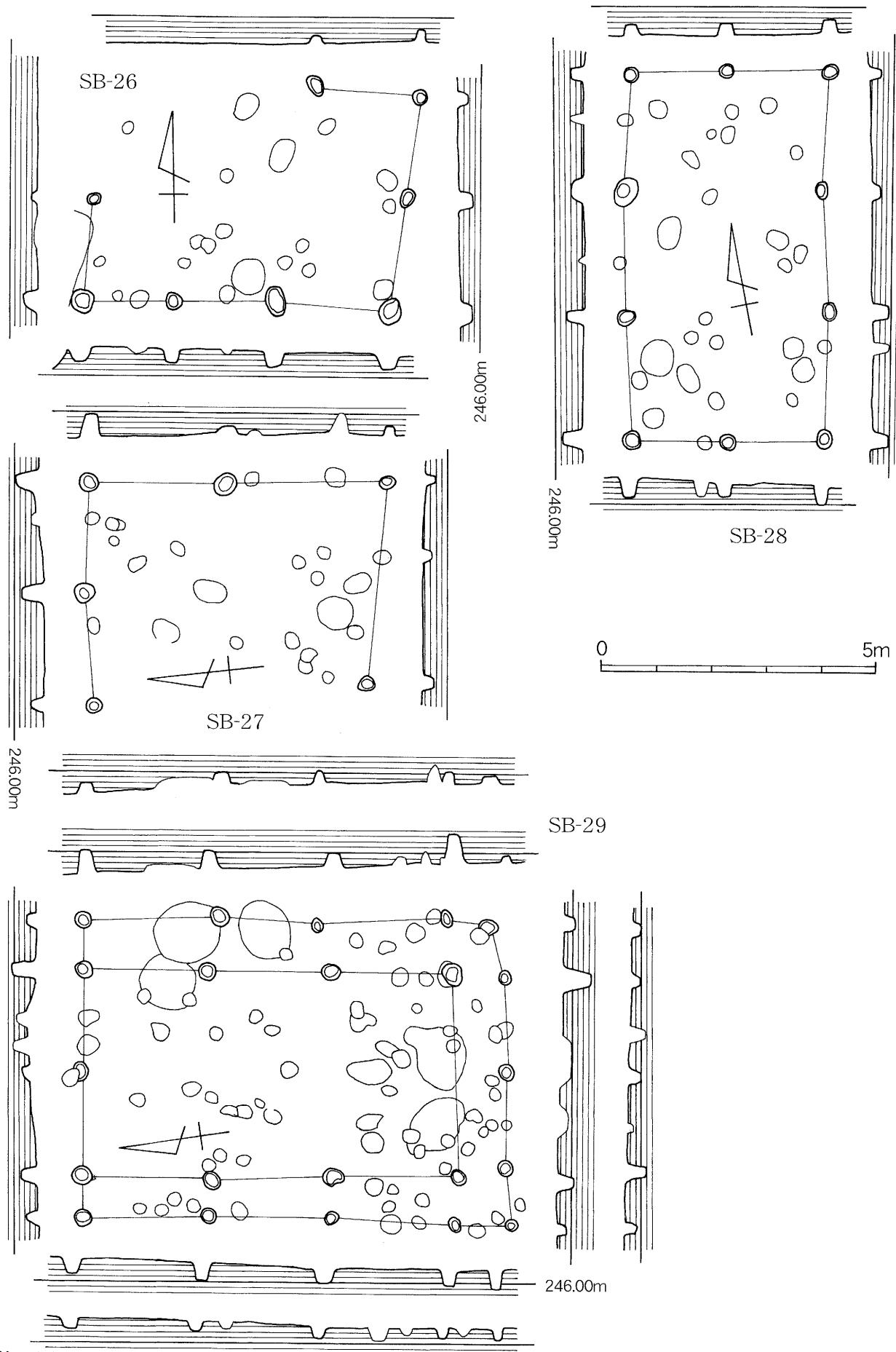
調査区の南部中央にある、梁行2間3.52~3.66m、桁行3間6.65~6.68mを測る建物である。柱穴の規模は、径27~55cm、深さ18~39cmを測る。主軸方位はN 11° Eの建物である。

S B-29 (第17図)

調査区の南部中央にある、梁行2間3.66~3.74m、桁行3間6.68~6.83mを測る、南・東・西3面に廂を持つ建物である。柱穴の規模は径24~42cm、深さ17~54cmを測る。主軸方位はN 8° Eであ



第16図 S B - 20~25 遺構実測図



第17図 S B - 26~29 遺構実測図

る。

S B-30 (第18図)

調査区の中央やや東側にある、梁行1間2.04~2.62m、桁行3間6.08mを測る建物である。柱穴の規模は、径29~36cm、深さ10~37cmを測る。主軸方位はN 1° Wである。

S B-31 (第18図)

調査区の南部中央にある、梁行2間3.92~4.08m、桁行3間5.80~5.84mを測る建物である。柱穴の規模は、径22~41cm、深さ17~35cmを測る。主軸方位はN 6° Eである。

S B-32 (第18図)

調査区の南部中央にある、梁行1間3.58m、桁行3間5.86mを測る、北側に廂を持つ建物である。柱穴の規模は、径23~31cm、深さ13~35cmを測る。主軸方位はN 82° Wである。

S B-33 (第18図)

調査区の南部中央にある、梁行2間4.55~4.59m、桁行3間5.86~6.56mを測る建物である。柱穴の規模は、径26~43cm、深さ18~48cmを測る。主軸方位はN 23° Eである。

S B-34 (第18図)

調査区の南部やや東側にある、梁行2間3.38~3.75m、桁行3間6.04~6.12mを測る建物である。柱穴の規模は、径22~29cm、深さ18~31cmを測る。主軸方位はN 82° Wである。

S B-35 (第18図)

調査区の南部東側にある、梁行1間2.95~3.20m、桁行3間5.26~5.36mを測る建物である。柱穴の規模は、径22~28cm、深さ16~47cmを測る。主軸方位はN 78° Wである。

S B-36 (第19図)

調査区の南部西側にある、梁行2間3.50m、桁行3間4.80mを測る建物である。柱穴の規模は、径24~37cm、深さは18~52cmを測る。主軸方位はN 14° Eである。

S B-37 (第19図)

調査区の南部中央にある、梁行2間3.78~3.87m、桁行3間6.62~6.64mを測る北・南・東3面に廂を持つ建物である。柱穴の規模は、径23~61cm、25~73cmを測る。主軸方位はN 81° Wである。

S B-38 (第19図)

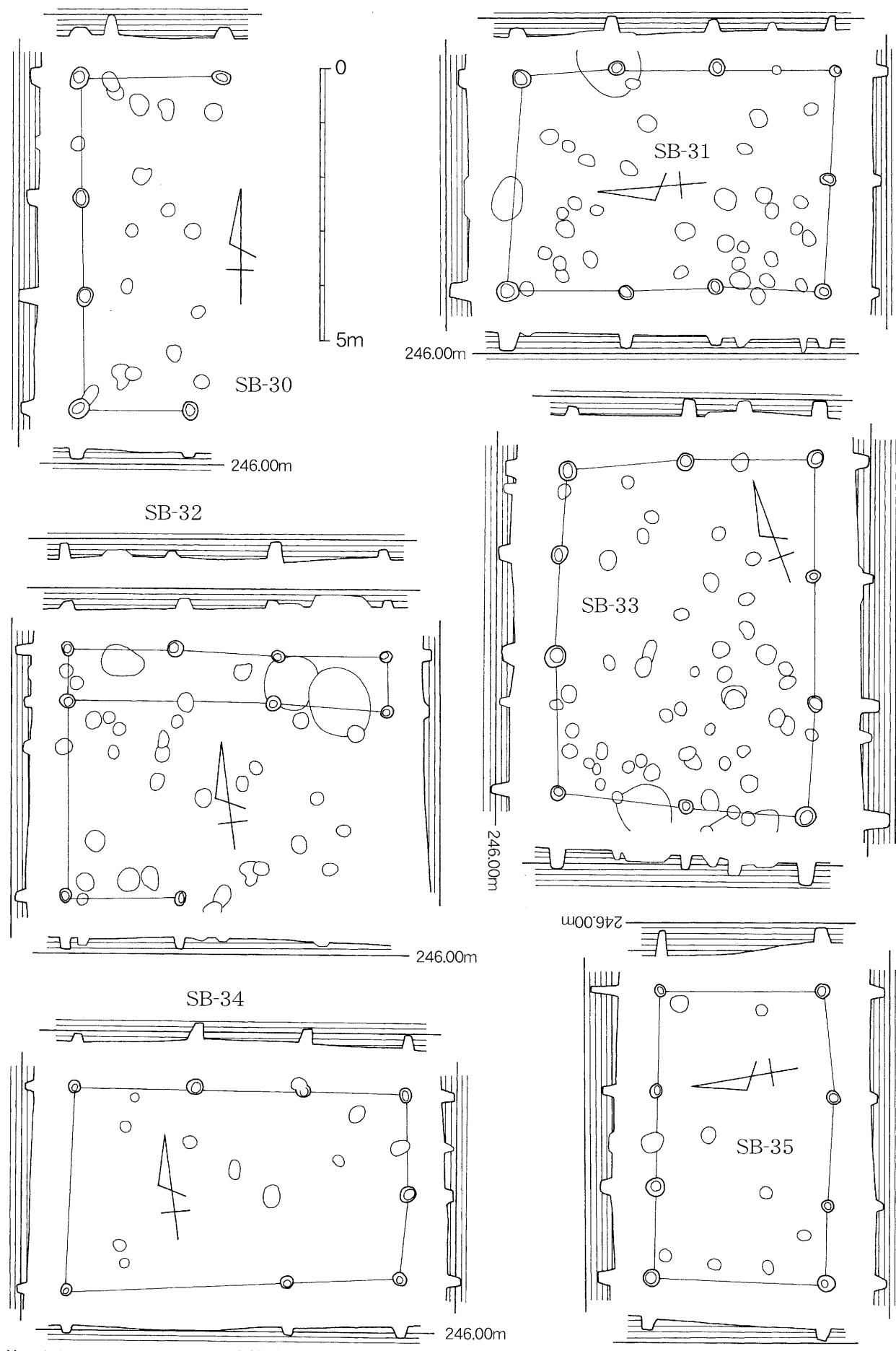
調査区の南部中央にある、梁行2間3.70m、桁行3間5.04mを測る建物である。柱穴の規模は、径23~45cm、深さ17~51cmを測る。主軸方位はN 83° Wである。

S B-39 (第20図)

調査区の南部中央にある、梁行2間3.44~4.04m、桁行3間5.72~6.06mを測る建物である。柱穴の規模は、径30~38cm、深さ21~57cmを測る。主軸方位はN 6° Eである。

S B-40 (第20図)

調査区の南部中央にある、梁行1間3.10~3.14m、桁行4間7.34~7.40mを測る建物である。柱穴の規模は、径31~49cm、深さ47~70cmを測る。主軸方位はN 86° Wである。



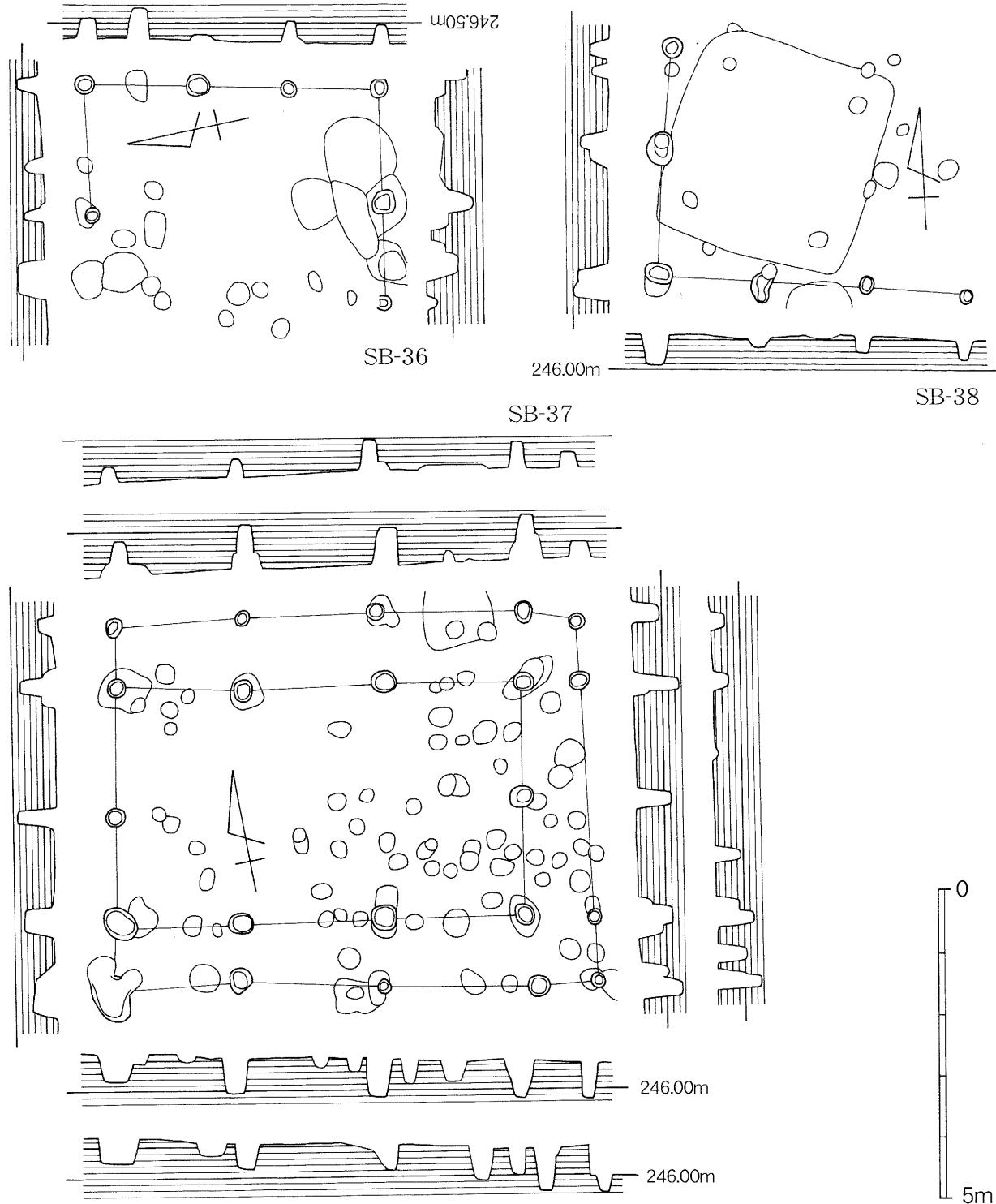
第18図 S B - 30~35 遺構実測図

S B - 41 (第20図)

調査区の南部中央にある、梁行2間4.64~4.76m、桁行3間5.99~6.10mの建物である。柱穴の規模は、径25~39cm、深さ19~47cmを測る。主軸方位はN 9° Eである。

S B - 42 (第20図)

調査区の南部中央にある、梁行2間3.51~3.81m、桁行3間6.03~6.35mの建物である。柱穴の規模は、径27~53cm、深さは19~42cmを測る。主軸方位はN 89° Wである。



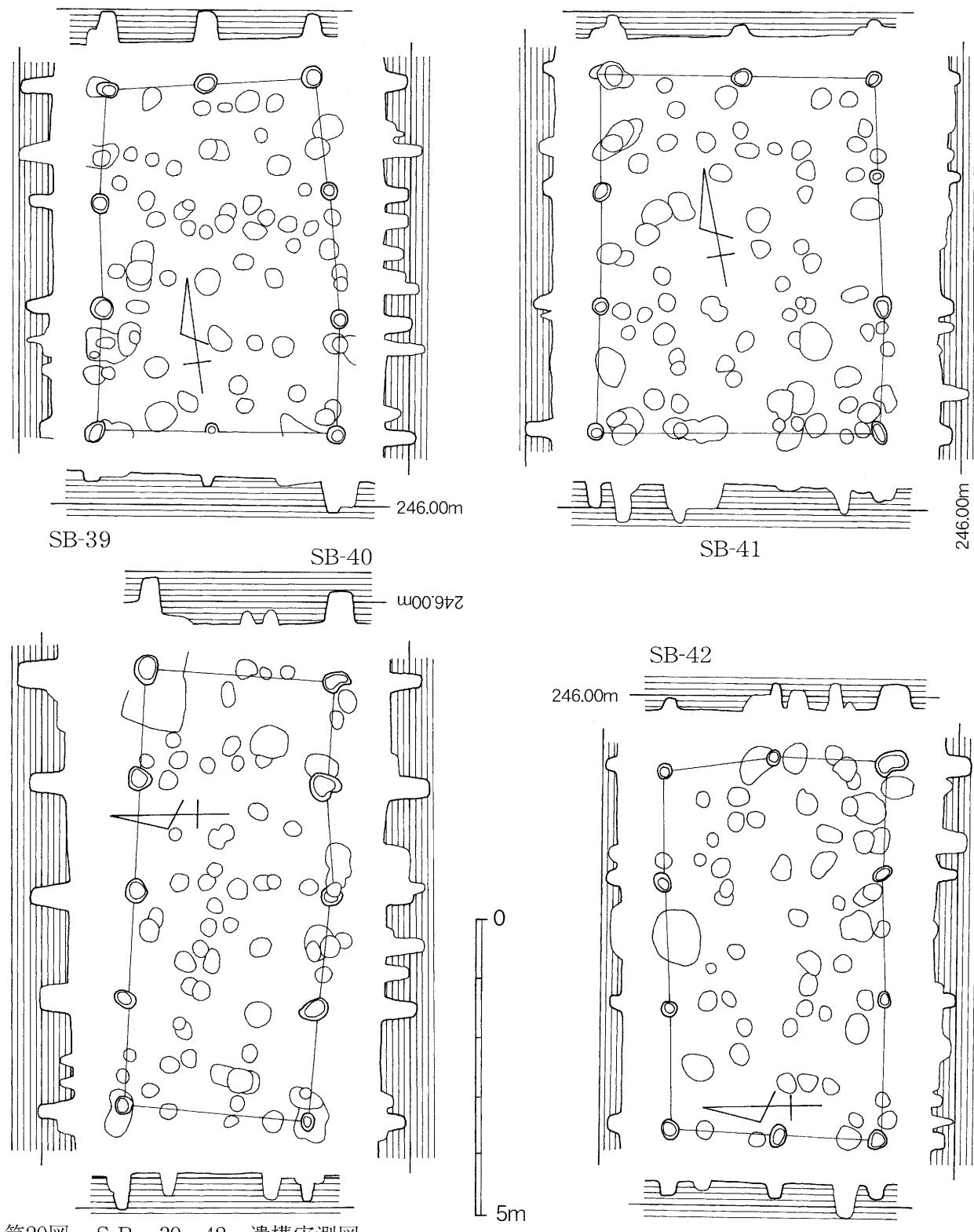
第19図 S B - 36~38 遺構実測図

S B - 43 (第21図)

調査区の南部中央にある、梁行 2 間4.34~4.67m、桁行 3 間6.34~6.61mを測る建物である。柱穴の規模は、径20~43cm、深さは23~43cmを測る。主軸方位はN13° Eである。

S B - 44 (第21図)

調査区の南部中央にある、梁行 2 間3.03~3.24m、桁行 3 間5.87~6.30mを測る建物である。柱穴



第20図 S B - 39~42 遺構実測図

の規模は、径24～53cm、深さは21～41cmを測る。主軸方位はN83° Wである。

S B-45 (第21図)

調査区の南部中央にある、梁行2間3.20～3.24m、桁行3間5.36～5.50mを測る建物である。柱穴の規模は、径26～37cm、深さは20～47cmを測る。主軸方位はN85° Wである。

S B-46 (第21図)

調査区の南部中央にある、梁行2間3.83～3.87m、桁行3間5.65～6.02mを測る建物である。柱穴の規模は、径23～41cm、深さは20～50cmを測る。主軸方位はN88° Wである。

S B-47 (第21図)

調査区の南部中央にある、梁行2間3.48～3.65m、桁行3間4.74～5.20mを測る建物である。柱穴の規模は、径25～45cm、深さは30～49cmを測る。主軸方位はN82° Wである。

S B-48 (第22図)

調査区の南部中央にある、梁行2間3.81～3.85m、桁行3間6.10～6.12mを測る建物である。柱穴の規模は、径33～62cm、深さは29～52cmを測る。主軸方位はN83° Wである。

S B-49 (第22図)

調査区の南部中央にある、梁行2間3.63～3.74m、桁行3間5.85～6.13mを測る建物である。柱穴の規模は、径26～45cm、深さは27～67cmを測る。主軸方位はN81° Wである。

S B-50 (第22図)

調査区の南部中央にある、梁行1間1.90～1.96m、桁行3間6.63mを測る建物である。柱穴の規模は、径22～57cm、深さは21～35cmを測る。主軸方位はN84° Wである。

S B-51 (第22図)

調査区の南部中央にある、梁行2間3.41～3.58m、桁行3間5.52～5.58mを測る建物である。柱穴の規模は、径24～60cm、深さは29～52cmを測る。主軸方位はN81° Wである。

S B-52 (第22図)

調査区の南部中央にある、梁行2間4.02～4.07m、桁行3間5.95～6.56mを測る建物である。柱穴の規模は、径29～45cm、深さは21～57cmを測る。主軸方位はN85° Wである。

S B-53 (第23図)

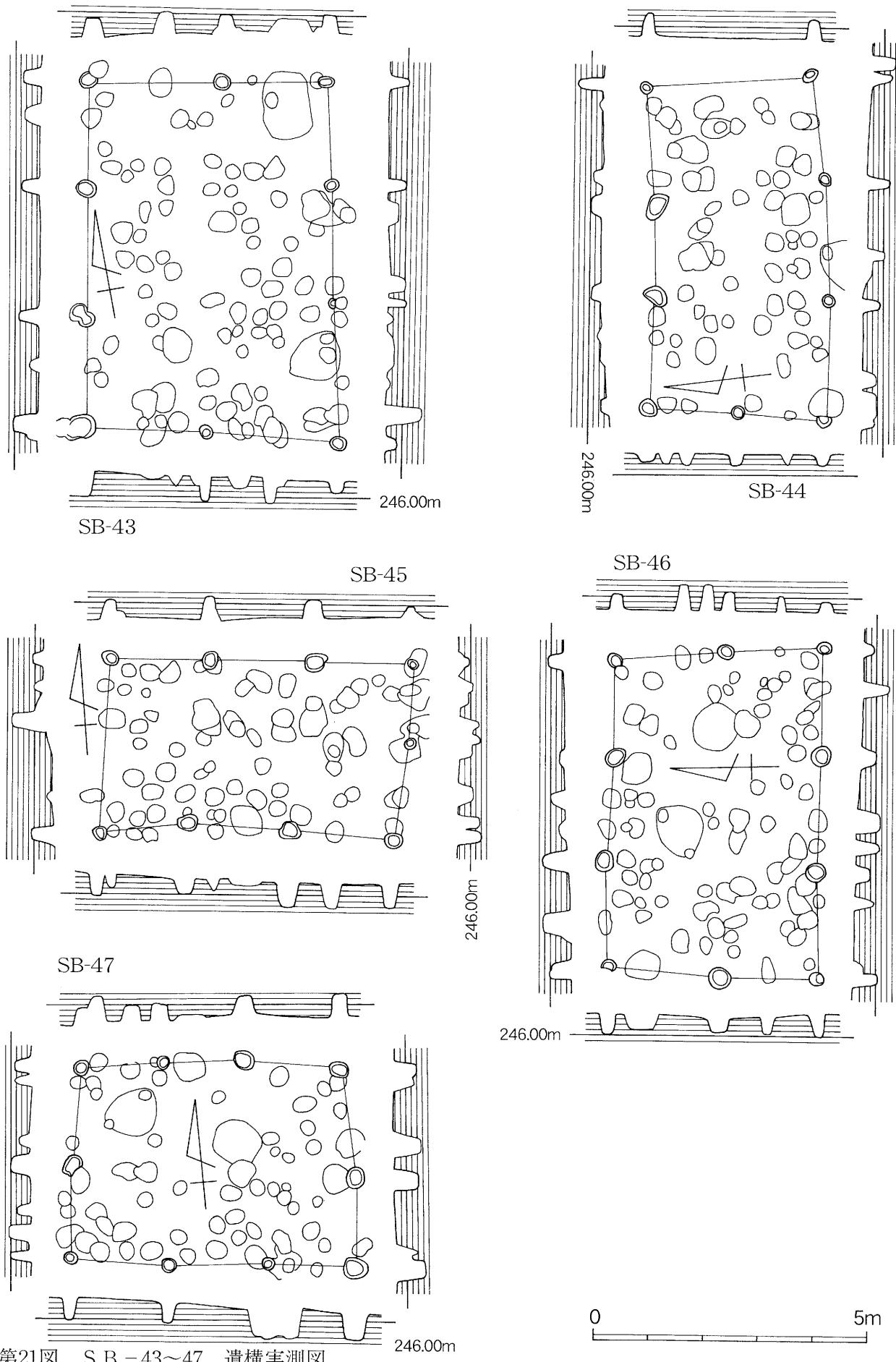
調査区の南部中央にある、梁行2間3.63～4.02m、桁行3間6.58～6.60mを測る建物である。柱穴の規模は、23～78cm、深さは35～77cmを測る。主軸方位はN82° Wである。

S B-54 (第23図)

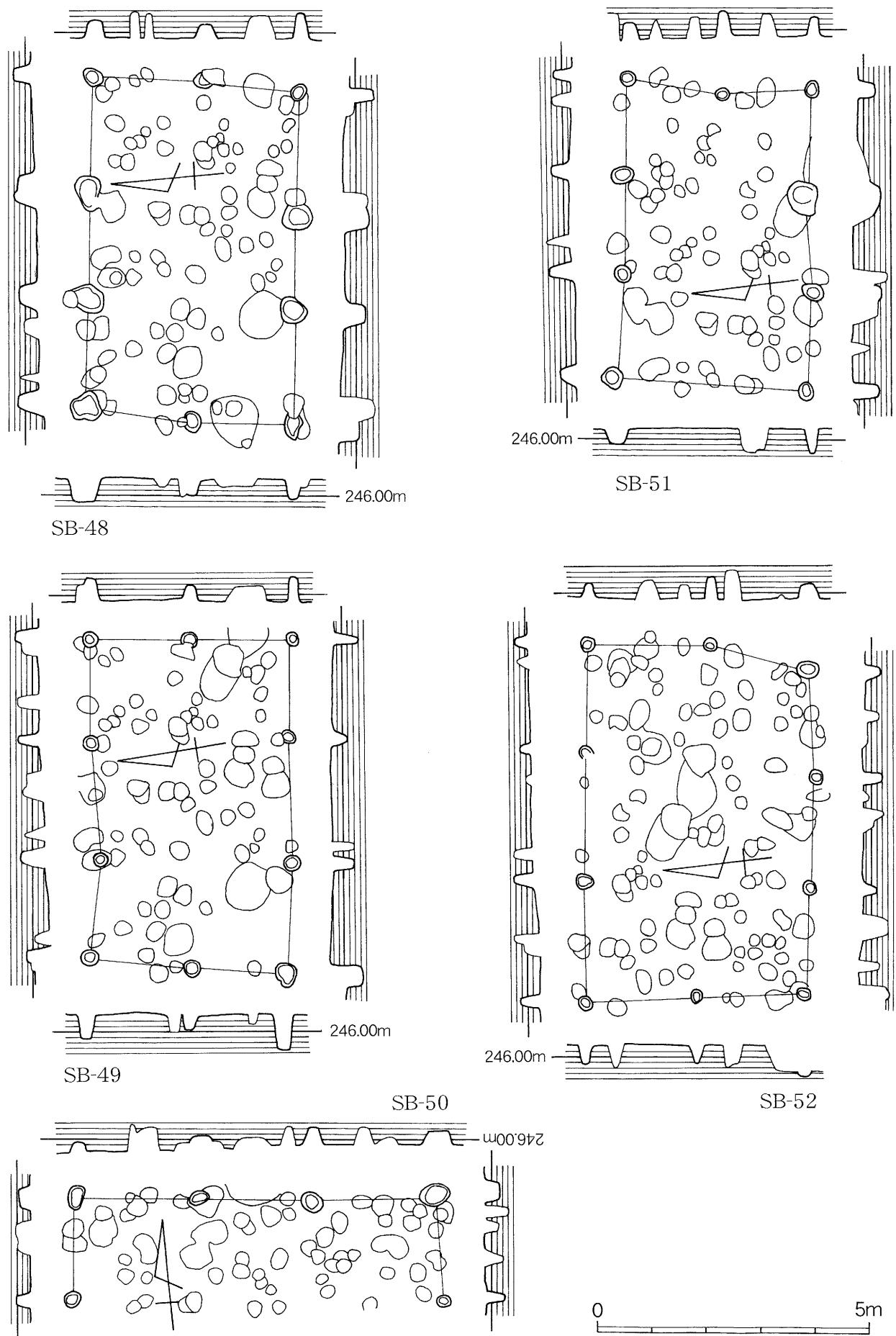
調査区の南部中央にある、梁行2間3.74～3.88m、桁行3間6.18～6.38mを測る建物である。柱穴の規模は、径27～35cm、深さは15～51cmを測る。主軸方位はN 7° Eである。

S B-55 (第23図)

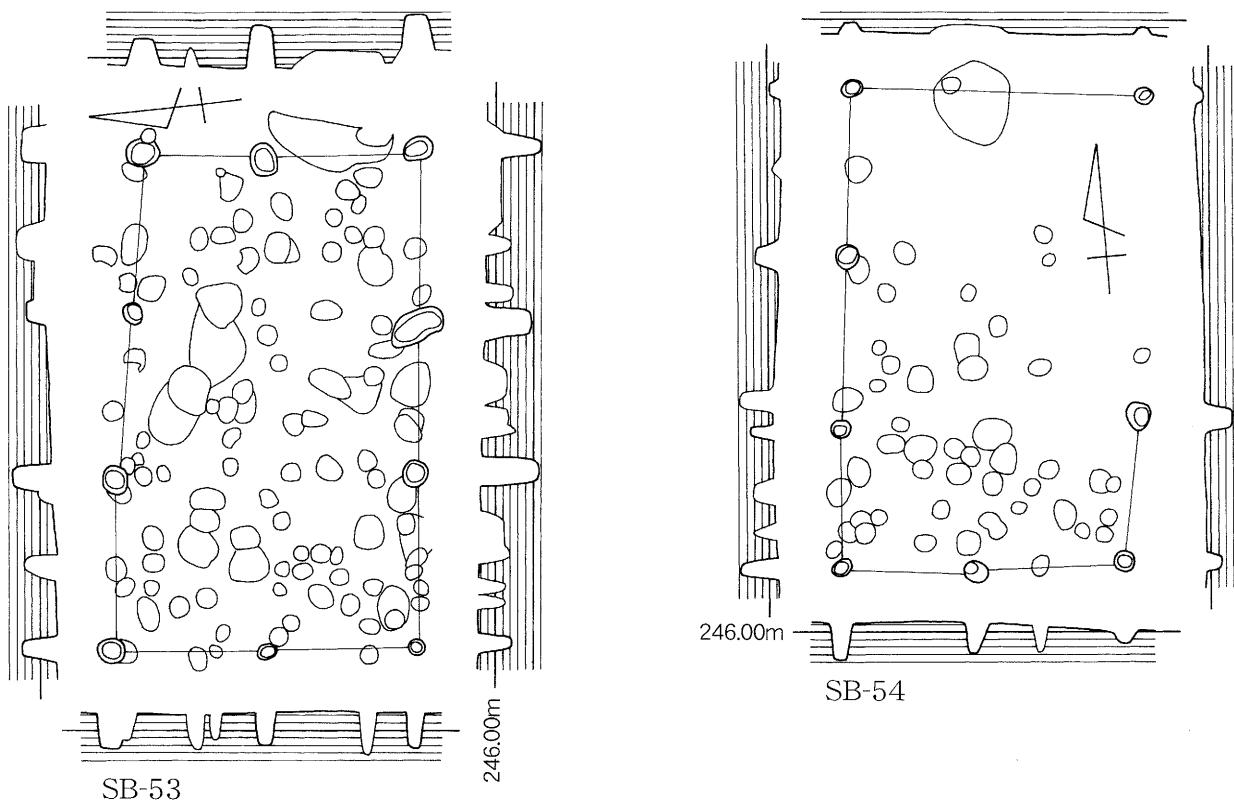
調査区の南部中央にある、梁行2間4.05～4.46m、桁行3間7.40～7.42mを測る建物である。柱穴の規模は、径23～57cm、深さは13～59cmを測る。主軸方位はN83° Wである。



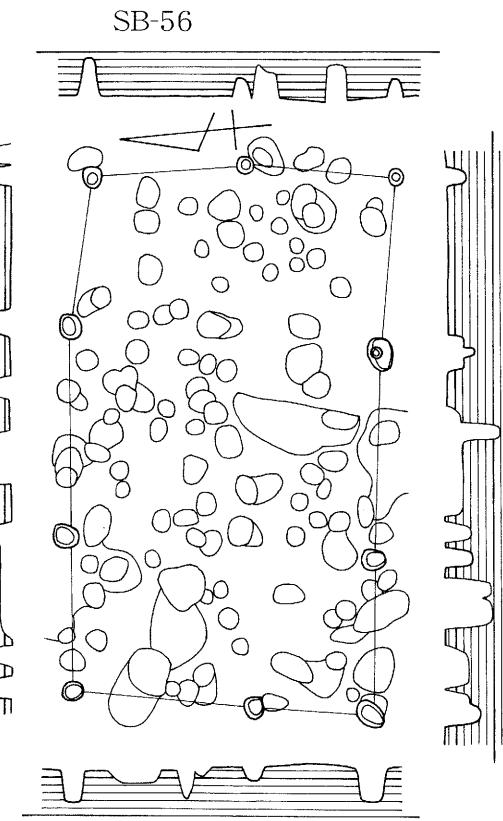
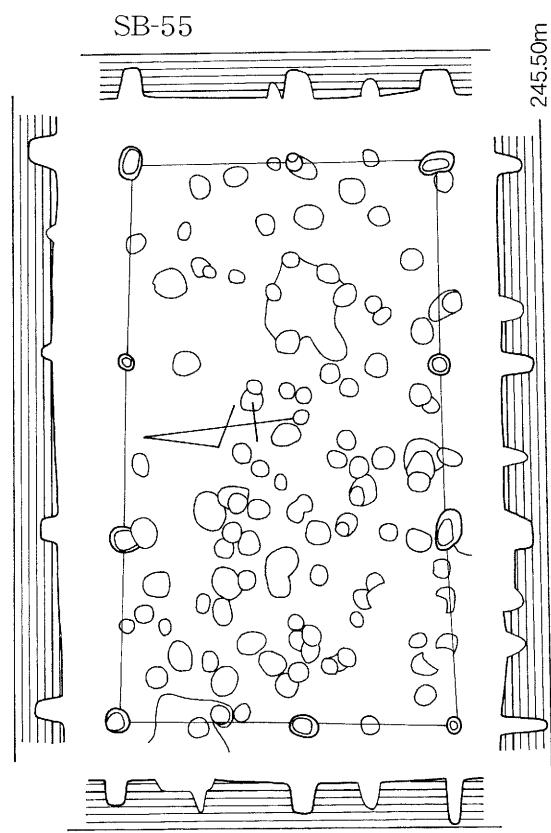
第21図 S B - 43~47 遺構実測図



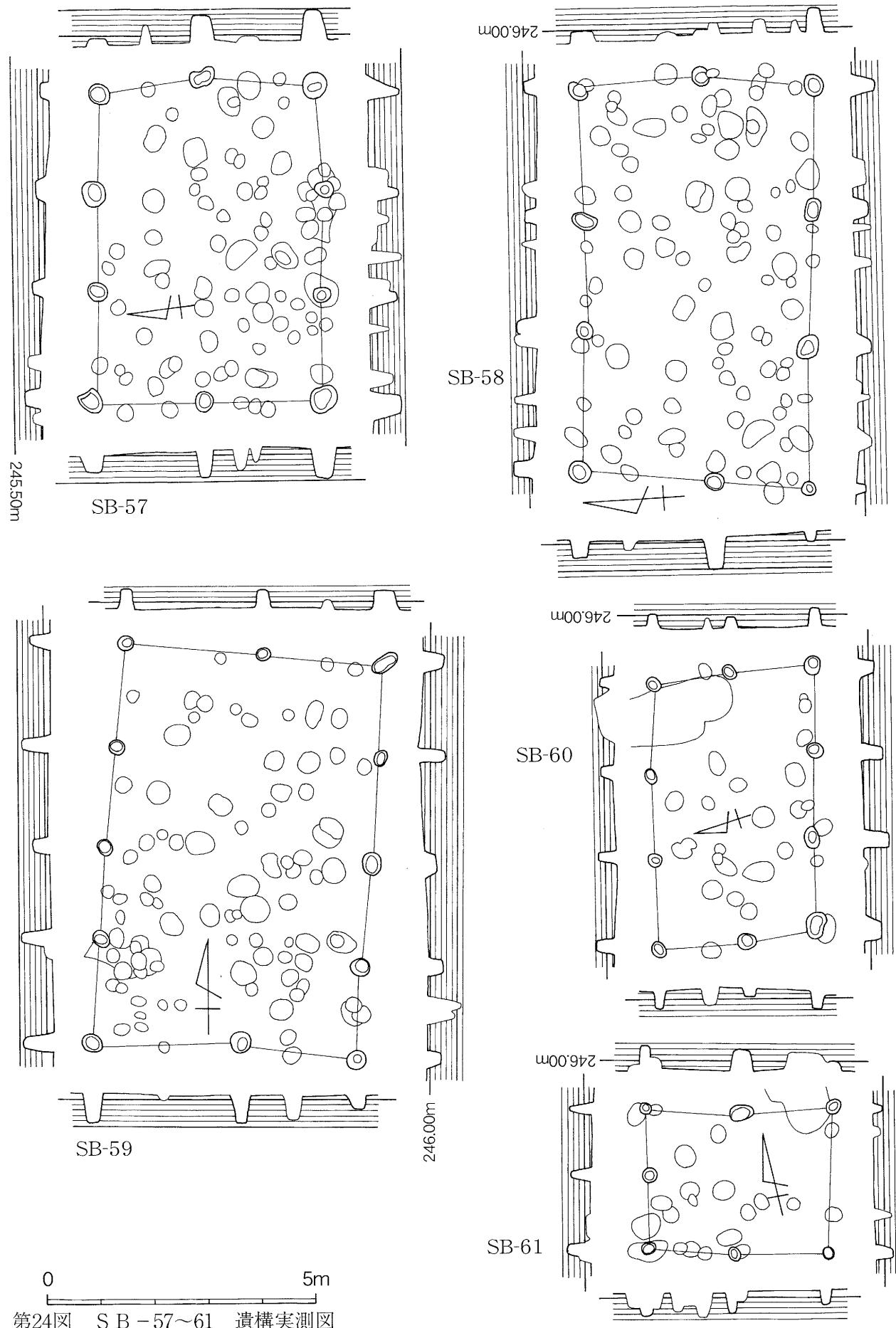
第22図 SB-48~52 遺構実測図



0 5m



第23図 SB-53~56 遺構実測図



第24図 S B - 57~61 遺構実測図

S B-56 (第23図)

調査区の南部中央にある、梁行2間3.93~4.03m、桁行3間6.78~7.07mを測る建物である。柱穴の規模は、径23~45cm、深さは19~49cmを測る。主軸方位はN81° Wである。

S B-57 (第24図)

調査区の南部中央にある、梁行2間4.03~4.30m、桁行3間5.75~5.82mを測る建物である。柱穴の規模は、径31~56cm、深さは17~58cmを測る。主軸方位はN79° Wである。

S B-58 (第24図)

調査区の南部東側にある、梁行2間4.29~4.39m、桁行3間7.05~7.46mを測る建物である。柱穴の規模は、径26~51cm、深さは13~58cmを測る。主軸方位はN87° Wである。

S B-59 (第24図)

調査区の南部東側にある、梁行2間4.80~4.93m、桁行4間7.35~7.49mを測る建物である。柱穴の規模は、径25~54cm、深さは23~58cmを測る。主軸方位はN4° Wである。

S B-60 (第24図)

調査区の南部東側にある、梁行2間2.98~3.00m、桁行3間4.92~4.94mを測る建物である。柱穴の規模は、径24~51cm、深さは16~47cmを測る。主軸方位はN83° Wである。

S B-61 (第24図)

調査区の南部東側にある、梁行2間2.62~2.73m、桁行2間3.33~3.49mを測る建物である。柱穴の規模は、径21~45cm、深さは19~49cmを測る。主軸方位はN77° Wである。

S K-01

調査区の西部中央、西壁際で検出された円形を呈する土坑である。規模は、径0.98m、検出面から床面までの深さは18cmを測る。遺物は土師器の皿の底部が出土した。

S K-02

S K-01の東3.3mで検出された円形を呈する土坑である。規模は、径0.97m、検出面から床面までの深さは15cmを測る。遺物は出土していない。

S K-03

S K-02の南東0.4mで検出されたS K-04を切っている、円形を呈する土坑である。規模は、径1.02m、検出面から床面までの深さは16cmを測る。遺物は土師器片が出土した。

S K-04

S K-03の南に検出された、S K-03に切られている土坑である。詳細は不明であるが、現存で、径0.81m、検出面から床面までの深さは18cmを測る。遺物は出土していない。

S K-05

調査区の西部中央や北側の西壁際で検出された、西壁に入っている土坑である。詳細は不明であるが、検出面から床面までの深さは14cmを測る。遺物は土師器片、陶磁器片が出土した。

S K - 06

S K - 05の東隣に検出された、橢円形を呈する土坑である。規模は、長径1.09m、短径0.82m、検出面から床面までの深さは16cmを測る。遺物は土師器片、黒色土器片が出土した。

S K - 07

S K - 06の東隣に検出された、橢円形を呈する土坑である。規模は、長径0.8m、短径0.7m、検出面から床面までの深さは19cmを測る。遺物は土師器片が出土した。

S K - 08

S K - 07の東隣に検出された、橢円形を呈する土坑である。規模は、長径0.91m、短径0.82m、検出面から床面までの深さは20cmを測る。遺物は石鏃未製品と石包丁が出土した。

S K - 10 (第25図)

調査区の西部中央やや北よりで検出された、橢円形を呈する土坑である。規模は、長径0.95m、短径0.90m、検出面から床面までの深さは12cmを測る。遺物は出土していない。

S K - 13

S K - 11の東へ約2mで検出された、橢円形を呈する土坑である。規模は、長径1.03m、短径0.95m、検出面から床面までの深さは13cmを測る。遺物は土師器片が出土した。

S K - 14 (第25図)

S K - 10から3.5m東で検出された、円形を呈する土坑である。規模は、長径0.98m、短径0.90m、検出面から床面までの深さは22cmを測る。遺物は出土していない。

S K - 15

S K - 14の北東1mで検出された、橢円形を呈する土坑である。規模は、長径0.9m、短径0.68m、検出面から床面までの深さは16cmを測る。遺物は出土していない。

S K - 16

S K - 15の南で検出された、S K - 17と切りあつてある、橢円形を呈する土坑である。詳細は不明であるが、現存で、検出面から床面までの深さは19cmを測る。遺物は出土していない。

S K - 17

S K - 15の南で検出された、S K - 16と切りあつてある、橢円形を呈する土坑である。詳細は不明であるが、現存で、検出面から床面までの深さは15cmを測る。遺物は出土していない。

S K - 18 (第25図)

S K - 14から4.5m南で検出された、橢円形を呈する土坑である。規模は、長径1.02m、短径0.90m、検出面から床面までの深さは10cmを測る。遺物は出土していない。

S K - 19

調査区の北部中央やや西よりで検出された、橢円形を呈する土坑である。規模は、長径2.04m、短径0.78m、検出面から床面までの深さは45cmを測る。遺物は出土していない。

S K - 20

S K - 19の南で検出された、橢円形を呈する土坑である。規模は、長径2.1m、短径0.96m、検出面から床面までの深さは57cmを測る。遺物は土師器片が出土した。

S K - 23

調査区の中央部やや西側で検出された、S K - 24と切りあっている土坑である。現存で、径0.74m、検出面から床面までの深さは17cmを測る。遺物は出土していない。

S K - 25 (第25図)

S K - 14から2.7m南で検出された、橢円形を呈する土坑である。規模は、長径1.00m、短径0.92m、検出面から床面までの深さは22cmを測る。遺物は出土していない。

S K - 28 (第25図)

S K - 25から南東1 mで検出された、S K - 29に南側を切られているため詳細は不明であるが、現存で、東西長0.80m、検出面から床面までの深さは4 cmを測る。遺物は出土していない。

S K - 29 (第25図)

S K - 28に北接する土坑で、方形を呈する土坑である。規模は、0.74×0.78m、検出面から床面までの深さは24cmを測る。遺物は出土していない。

S K - 30

S K - 29の南0.4mで検出された円形を呈する土坑である。規模は、径0.94m、検出面から床面までの深さは18cmを測る。遺物は出土していない。

S K - 31 (第25図)

S K - 30の西0.2mで検出された、不整形を呈する土坑である。規模は、径0.90m、検出面から床面までの深さは18cmを測る。遺物は出土していない。

S K - 32

S K - 30の南0.2mで検出されたS K - 33と切りあっている土坑である。現存で、東西長0.94m、検出面から床面までの深さは20cmを測る。遺物は出土していない。

S K - 33

S K - 32の南で検出された、S K - 32と切りあっている土坑である。現存で、東西長0.97m、検出面から床面までの深さは20cmを測る。遺物は出土していない。

S K - 34 (第25図)

S K - 31から1 m南東で検出された土坑で、S K - 35と切り合っているため詳細は不明であるが、現存で南北長0.78m、検出面から床面までの深さは16cmを測る。遺物は土師器片が出土した。

S K - 35 (第25図)

S K - 34と切り合っている土坑で、現存で南北長1.18m、検出面から床面までの深さは16cmを測る。遺物は出土していない。

S K - 36 (第25図)

S K - 35から2.5m南西で検出された、円形を呈する土坑である。規模は、径1.04m、検出面から

床面までの深さは20cmを測る。遺物は土師器の甕の口縁部、須恵器の甕の破片が出土した。

S K - 37

S K - 35の南西0.3mで検出された橢円形を呈する土坑である。規模は、長径1.62m、短径0.92m、検出面から床面までの深さは18cmを測る。遺物は出土していない。

S K - 42 (第26図)

S K - 10から2m東で検出された、橢円形を呈する土坑である。規模は、長径0.75m、短径0.69m、検出面から床面までの深さは19cmを測る。遺物は出土していない。

S K - 45 (第26図)

S K - 36から2.7m西で検出された、橢円形を呈する土坑である。規模は、長径0.78m、短径0.74m、検出面から床面までの深さは28cmを測る。遺物は土師質土器の皿が2点出土し、時期は14世紀と思われる。

S K - 47

調査区の北部中央、S K - 46の南4mで検出された、方形を呈する土坑である。規模は、1.23×0.68m、検出面から床面までの深さは15cmを測る。遺物は出土していない。

S K - 48

調査区の北部東側、S K - 47の東5.2mで検出された、不整形を呈する土坑である。規模は、長径1.2m、短径1.17m、検出面から床面までの深さは18cmを測る。遺物は出土していない。

S K - 51

調査区の中央部東側、S K - 49の南10mで検出された、橢円形を呈する土坑である。規模は、長径0.79m、短径0.61m、検出面から床面までの深さは12cmを測る。遺物は出土していない。

S K - 52 (第26図)

調査区の東部中央やや北よりで検出された、橢円形を呈する土坑である。規模は、長径0.82m、短径0.78m、検出面から床面までの深さは20cmを測る。遺物は出土していない。

S K - 53 (第26図)

S K - 52に南接する、橢円形を呈する土坑である。規模は、長径1.14m、短径0.88m、検出面から床面までの深さは26cmを測る。遺物は出土していない。

S K - 57

調査区の東部中央、S K - 58と切りあつてある土坑である。現存で、径0.91m、検出面から床面までの深さは15cmを測る。遺物は出土していない。

S K - 58

調査区の東部中央、S K - 58と切りあつてある土坑である。現存で、径0.82m、検出面から床面までの深さは15cmを測る。遺物は出土していない。

S K - 59

S K - 58に南接し、S K - 60と切りあつてある土坑である。現存で、径0.92m、検出面から床面

までの深さは18cmを測る。遺物は縄文土器片、土師器片、黒色土器片、陶磁器片が出土した。

S K -60

S K -59と切りあつてある土坑である。現存で、径0.89m、検出面から床面までの深さは18cmを測る。遺物は出土していない。

S K -67

調査区の南部西壁際で検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径0.89m、短径0.81m、検出面から床面までの深さは16cmを測る。遺物は出土していない。

S K -68

調査区の南部西壁際で検出された、円形を呈する土坑である。規模は、径0.63m、検出面から床面までの深さは13cmを測る。遺物は出土していない。

S K -72

調査区の南部西壁際、S K -68の南西1mで検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径0.78m、短径0.62m、検出面から床面までの深さは14cmを測る。遺物は出土していない。

S K -74

調査区の南部西側で検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径0.82m、短径0.61m、検出面から床面までの深さは17cmを測る。遺物は出土していない。

S K -83

調査区の南西隅、S K -82の東0.5mで検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径1.13m、短径0.98m、検出面から床面までの深さは20cmを測る。遺物は出土していない。

S K -87

調査区の南西隅で検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径1.23m、短径1.02m、検出面から床面までの深さは16cmを測る。遺物は土師器片、黒色土器片が出土した。

S K -89

調査区の南西隅、S K -87の西接する形で検出された、円形を呈する土坑である。規模は、径0.97m、検出面から床面までの深さは15cmを測る。遺物は出土していない。

S K -107

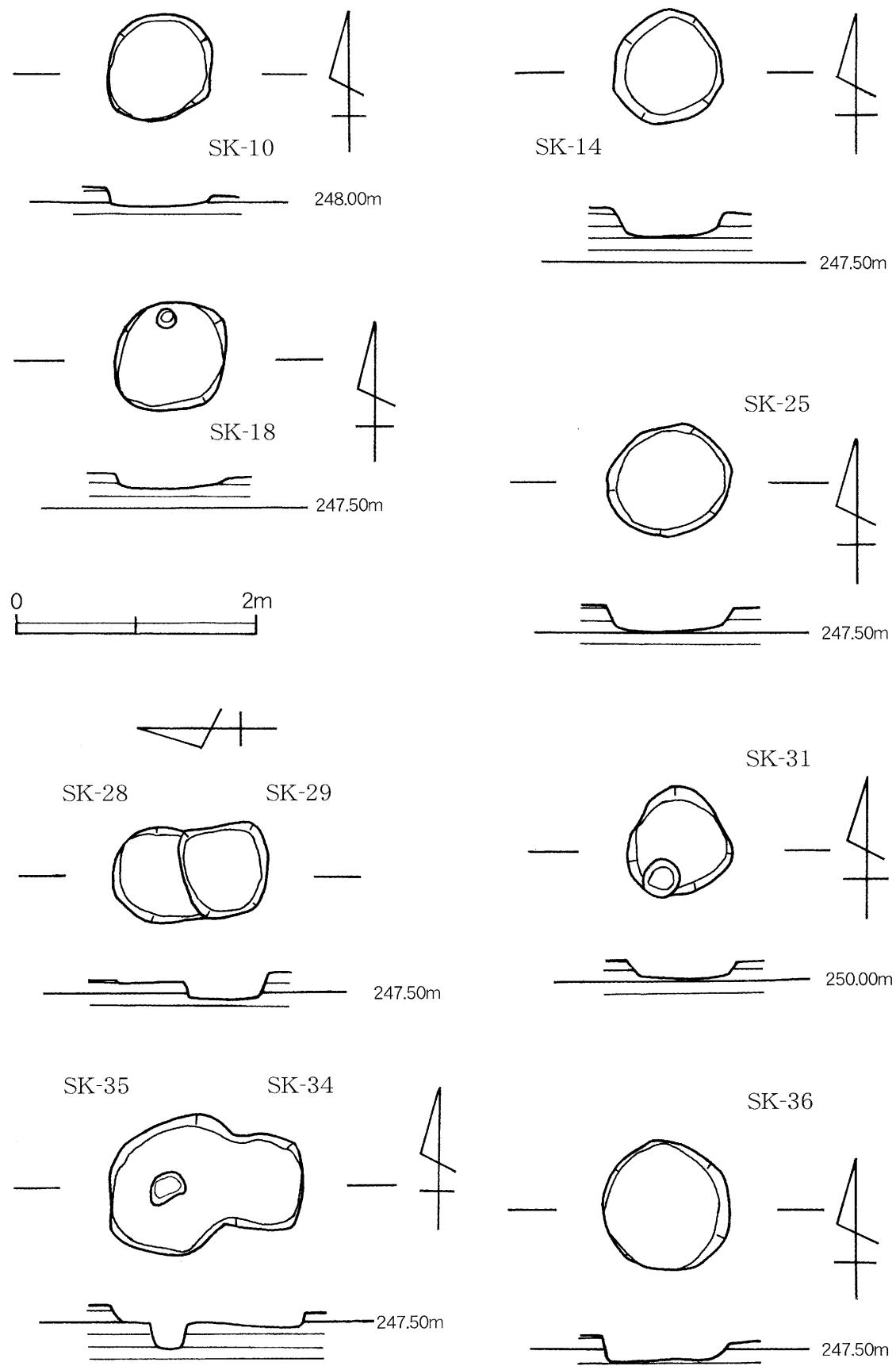
調査区の南部中央、S K -74の東1.3mで検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径0.76m、短径0.57m、検出面から床面までの深さは16cmを測る。遺物は出土していない。

S K -108（第26図）

調査区の南部中央やや西より、S K -107の東2.5mで検出された、方形を呈する土坑である。規模は、 0.80×1.10 m、検出面から床面までの深さは14cmを測る。遺物は出土していない。

S K -113

調査区の南部中央、S K -108の北東6mで検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径0.72m、短径0.51m、検出面から床面までの深さは14cmを測る。遺物は出土していない。



第25図 SK-10・14・18・25・28・29・31・34～36 遺構実測図

SK-117 (第27図)

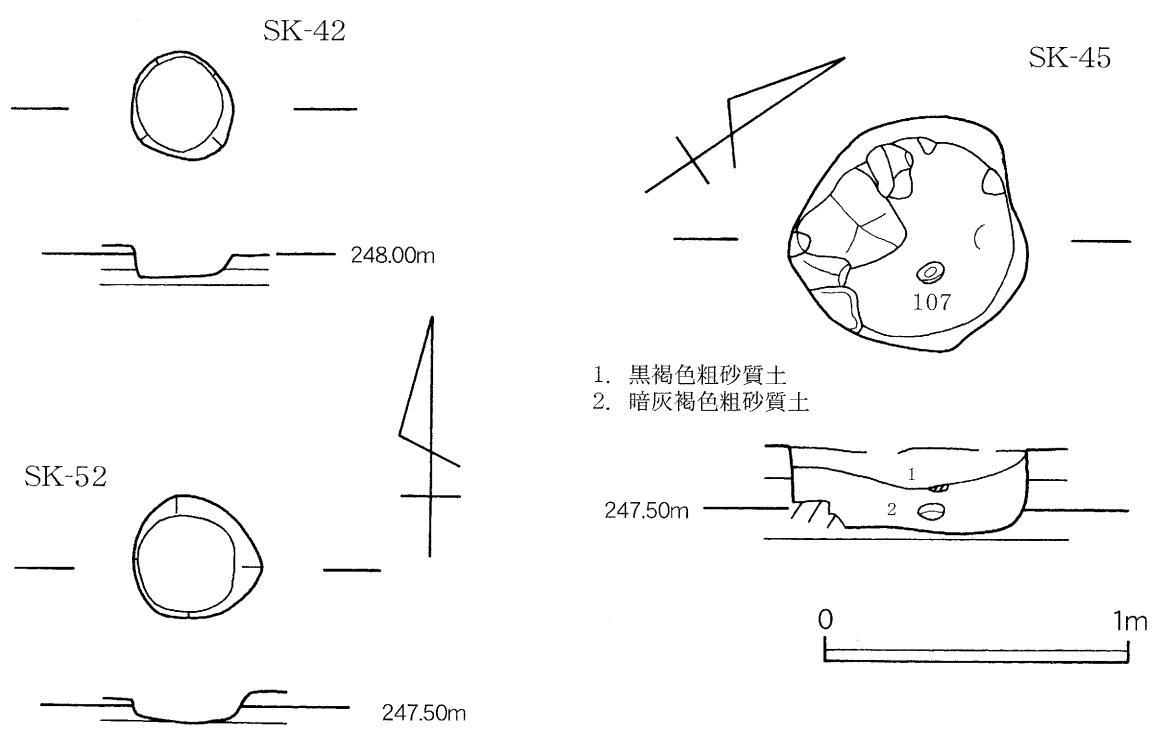
SK-116の南接する、不整形を呈する土坑である。規模は、 $0.87 \times 1.26m$ 、検出面から床面までの深さは29cmを測る。遺物は縄文土器片と青磁の碗・台石が出土した。

SK-125

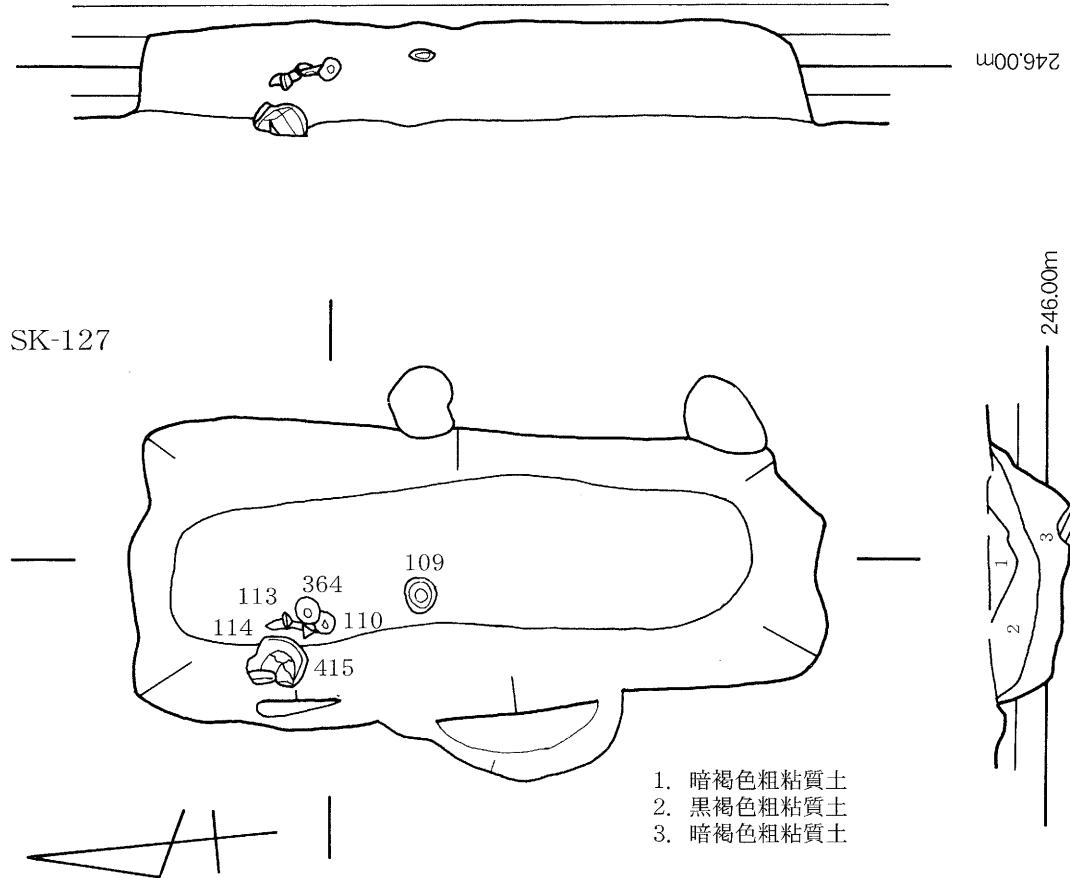
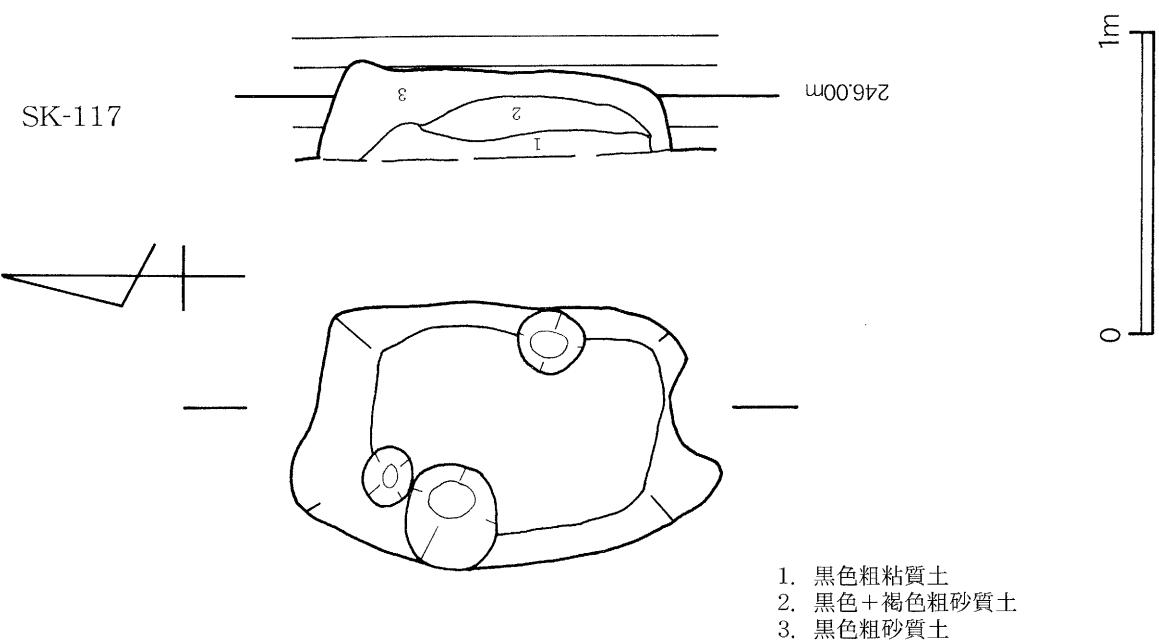
調査区の南部東側で検出された、円形を呈する土坑である。規模は、径 $0.72m$ 、検出面から床面までの深さは17cmを測る。遺物は出土していない。

SK-126

調査区の南部東側、SK-125の東 $1.5m$ で検出された、橢円形を呈する土坑である。規模は、長



第26図 SK-42・45・52・53・108 遺構実測図



第27図 SK-117・127 遺構実測図

径0.68m、短径0.63m、検出面から床面までの深さは15cmを測る。遺物は出土していない。

SK-127（第27図）

SK-126の南7mで検出された隅丸長方形を呈する土壙墓である。規模は、 0.94×2.28 m、検出面から床面までの深さは34cmを測る。遺物は土壙墓の北側、西壁より26cmのところに流れ込みの石鍋が床面より26cm浮いた状態で出土しており、その東側に、鉄製の紡錘車と刀子が重なって床面より16cm浮いた状態であり、さらにその東側に、鉄製の小杯（片口）と白磁の底面を上にした小皿、その直下に青白磁の合子が床面より5cm浮いた状態で出土した。中央付近には土師質土器の皿が出土した。土層断面では確認できなかったが、遺物が床面より浮いた状態で出土していることから、木棺墓であった可能性も考えられる。白磁の小皿の年代から時期は12~13世紀と思われる。

SK-131

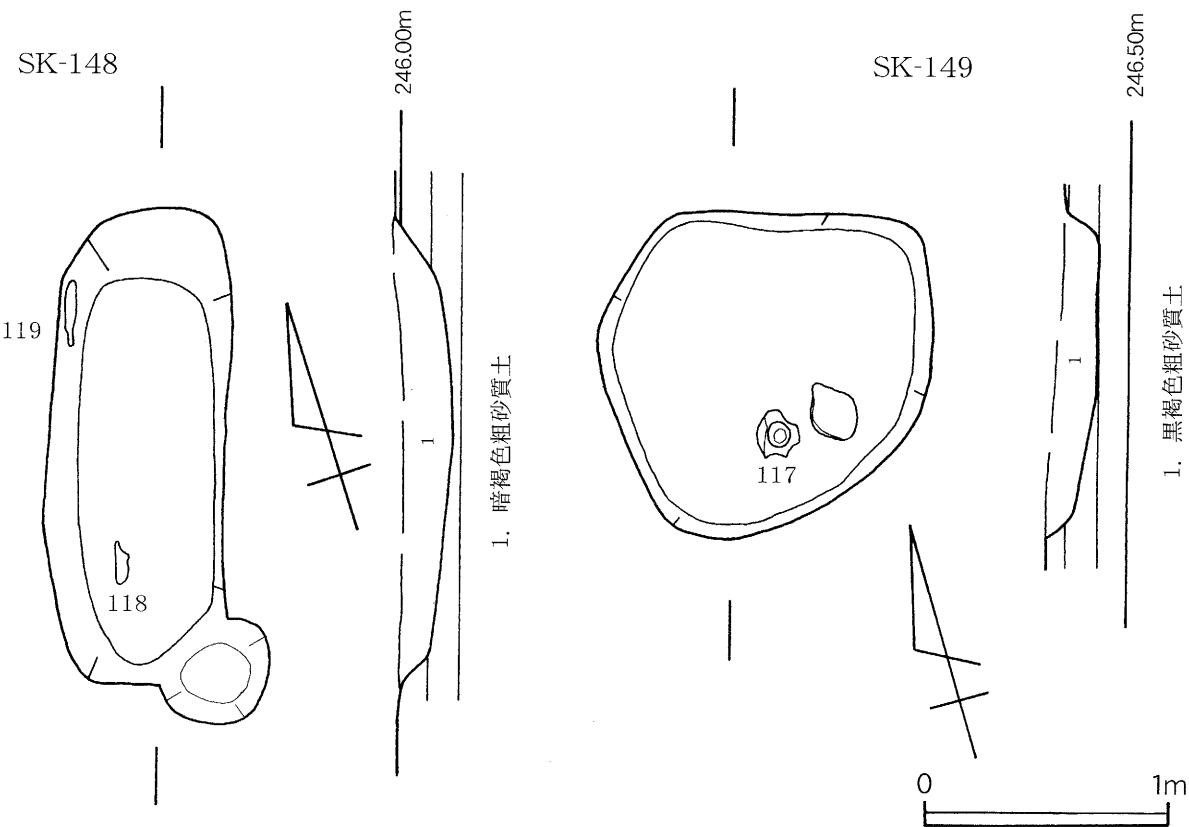
調査区の東部中央南側で検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径1.2m、短径0.82m、検出面から床面までの深さは17cmを測る。遺物は土師質土器の硯と青磁の碗が出土した。

SK-134

SK-133の南西5mで検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径1.25m、短径0.98m、検出面から床面までの深さは18cmを測る。遺物は出土していない。

SK-136

SK-134の北0.3mで検出された、SK-137を切っている円形を呈する土坑である。規模は、



第28図 SK-148・149 遺構実測図

径1.25m、検出面から床面までの深さは16cmを測る。遺物は、土師器の甕の口縁部片と青白磁の合子が出土した。時期は12～13世紀と思われる。

S K-137

S K-136と東接し、切られている土坑である。現存で、径1.02m、検出面から床面までの深さは14cmを測る。遺物は出土していない。

S K-140

S K-134の西0.3mで検出された、円形を呈する土坑である。規模は、径1.13m、検出面から床面までの深さは15cmを測る。遺物は土師器片、瓦質土器片が出土した。

S K-141

S K-140の南2.4mで検出された、方形を呈する土坑である。規模は、1.04×1.18m、検出面から床面までの深さは18cmを測る。遺物は出土していない。

S K-143

S K-142の南1mで検出された、円形を呈する土坑である。規模は、径0.96m、検出面から床面までの深さは19cmを測る。遺物は出土していない。

S K-145

S K-143の南東4mで検出された、楕円形を呈する土坑である。規模は、長径0.76m、短径0.57m、検出面から床面までの深さは23cmを測る。遺物は出土していない。

S K-148（第28図）

調査区の南壁際、東壁から14.5mのところで検出された隅丸長方形を呈する土壙墓である。規模は、0.58×1.57m、検出面から床面までの深さは17cmを測る。遺物は、土壙墓の北側西壁際に小刀、主軸から西へ10cm、南壁から30cmのところに刀子が床面より浮いた状態で出土した。

S K-149（第28図）

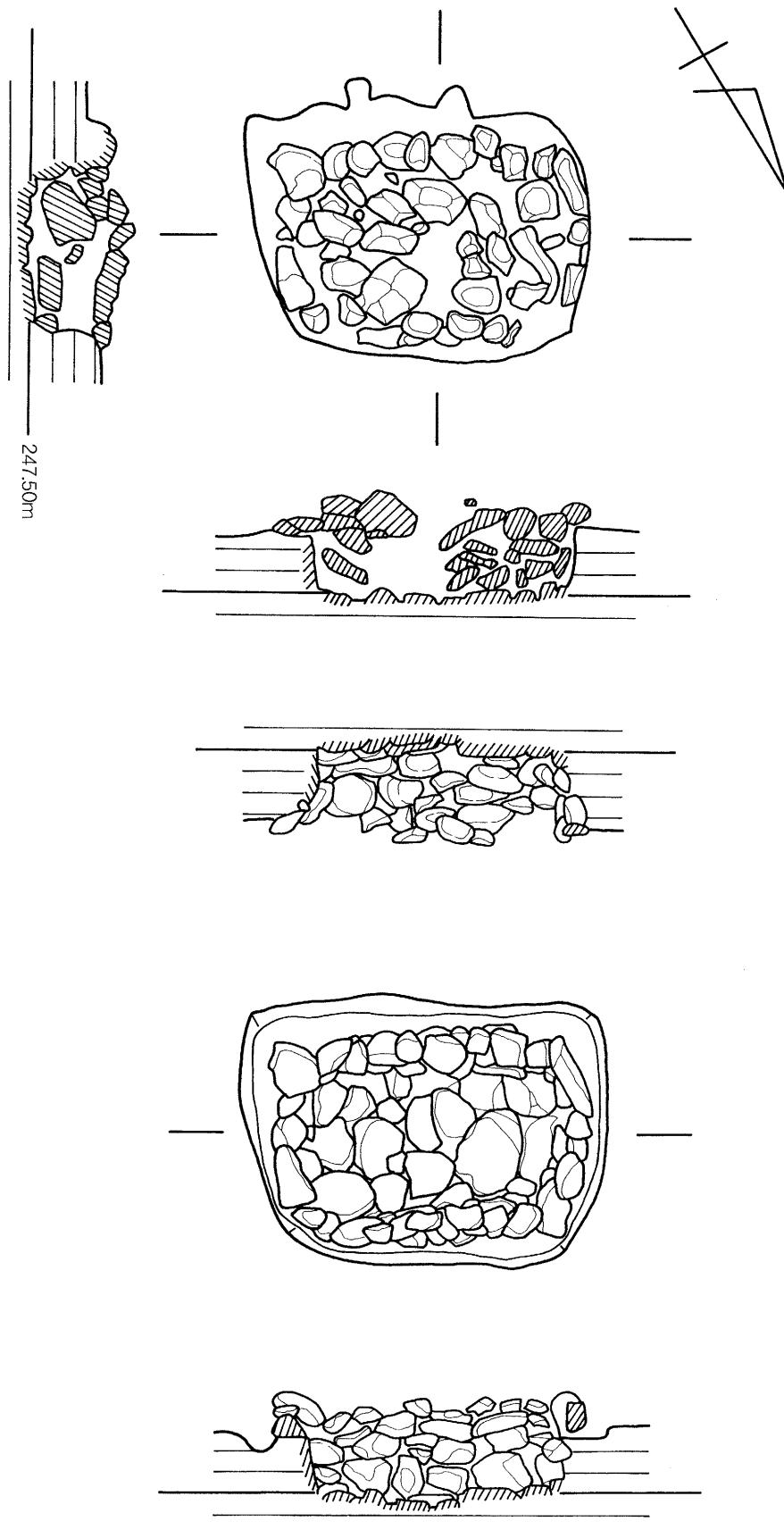
調査区の南部西側、S K-90の東接する、不整形を呈する土坑である。規模は、径1.10m、検出面から床面までの深さは14cmを測る。遺物は、土師器の甕と須恵器の甕の底部が出土し、時期は12世紀と思われる。

S K-152（第30図）

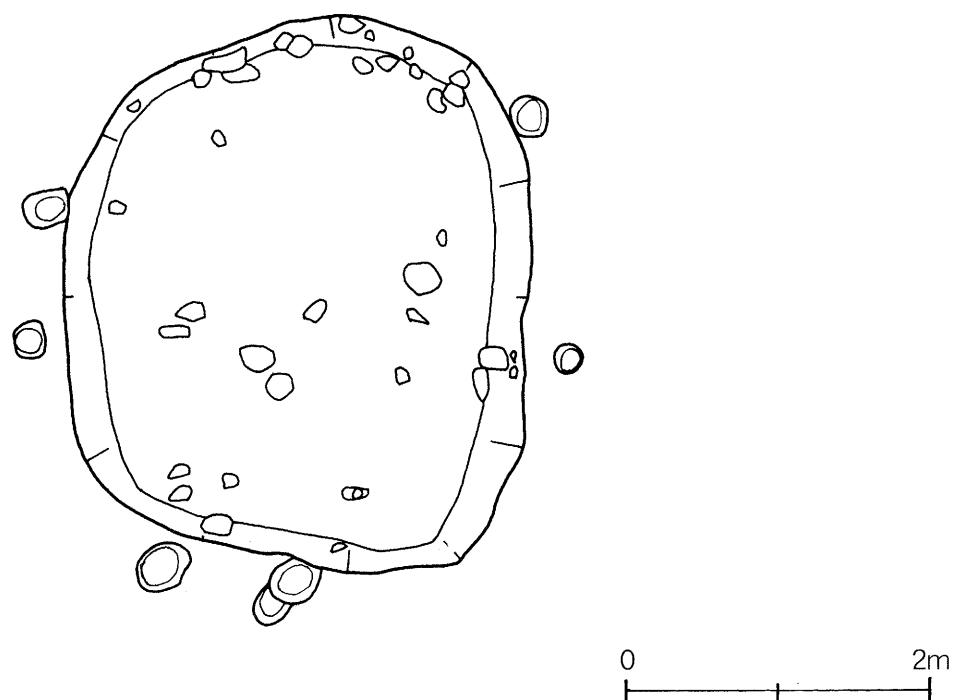
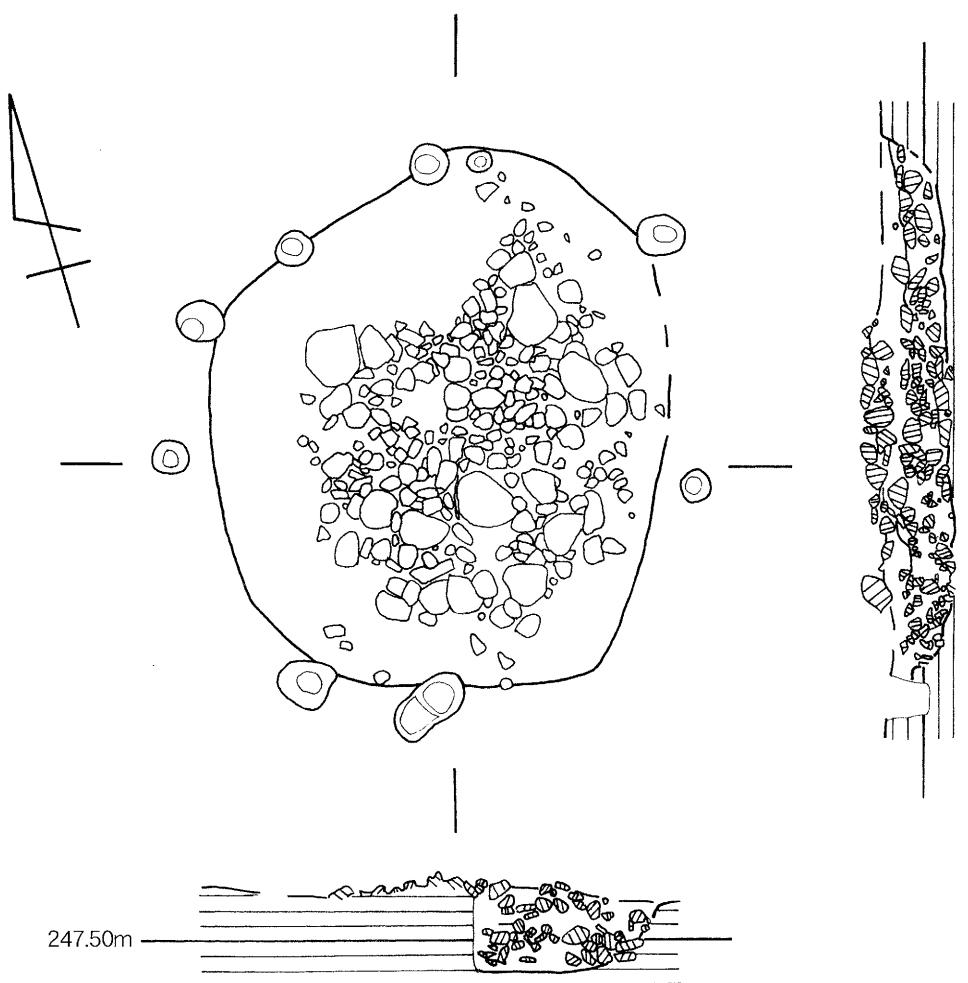
調査区の中央部西側で検出された土坑で、規模は、3.54×3.06mで検出面から床面までの深さ48cmを測り、不整形を呈する。検出時、礫は掘り込みの肩よりも狭い中央の約2mの範囲にしかみられなかつたが、掘り込んでいくうちに全体に広がり、径2～40cm大の多量の礫が混入されていた。礫の密度は、底面より20～30cmの間が高い。遺物は須恵器の壺が1点出土した。

S D-01

調査区の北部西側で検出された、北西から南東へのびる溝状遺構で、現存で、長さ約8.5m、幅0.4～0.5m、深さ20～40cmを測る。遺物は出土していない。



第29図 SK-150 遺構実測図



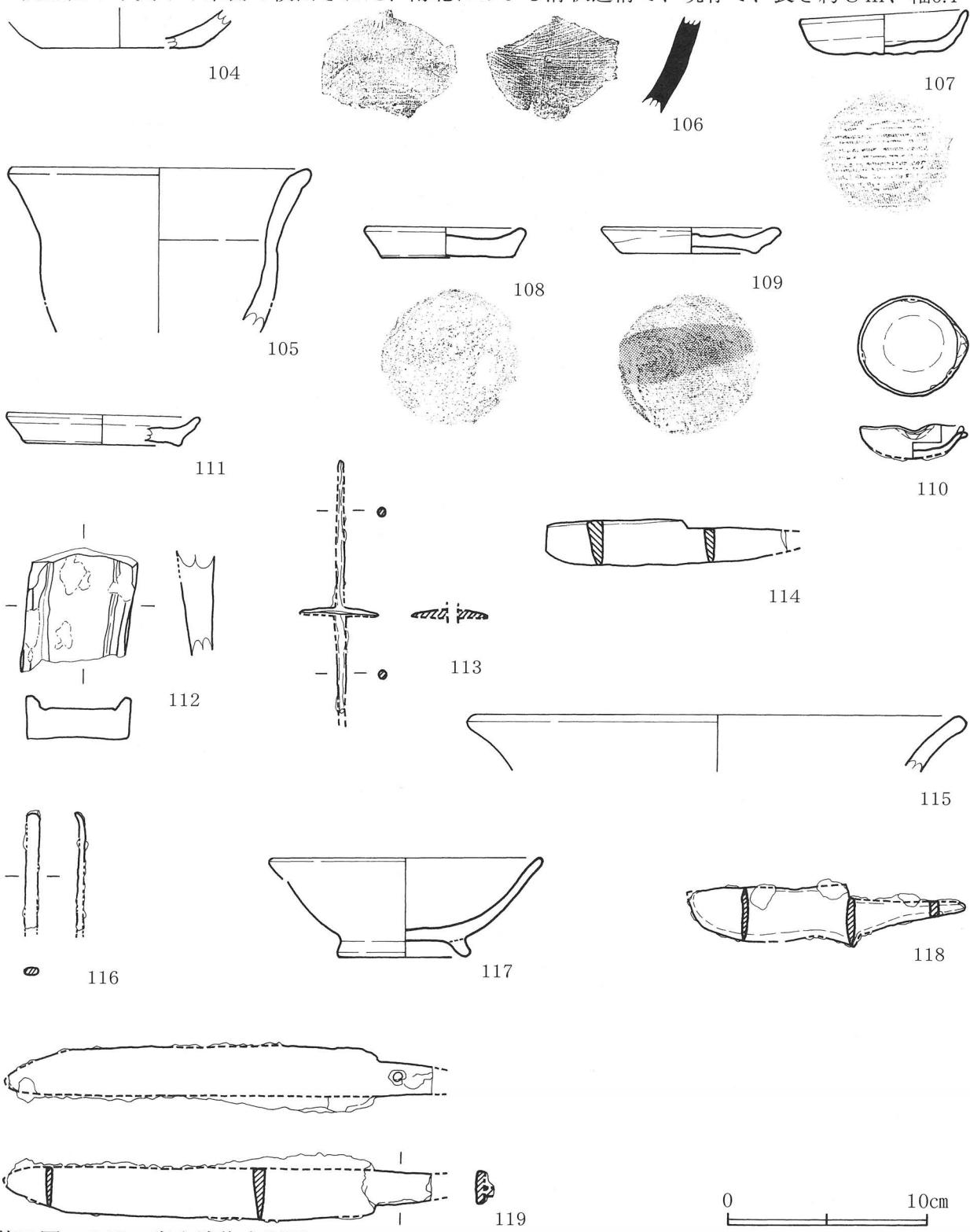
第30図 SK-152 遺構実測図

SD-02

調査区の中央やや西よりで検出された、南北にのびる溝状遺構で、現存で、長さ約5m、幅0.5~0.6m、深さ24~35cmを測る。遺物は出土していない。

SD-03

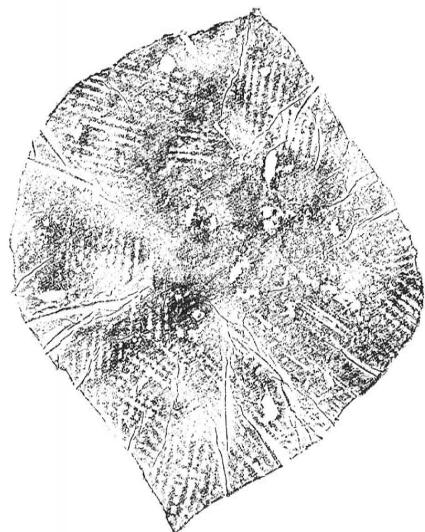
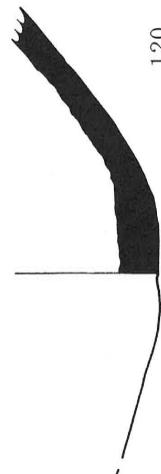
調査区の中央やや東側で検出された、南北にのびる溝状遺構で、現存で、長さ約8m、幅0.4~



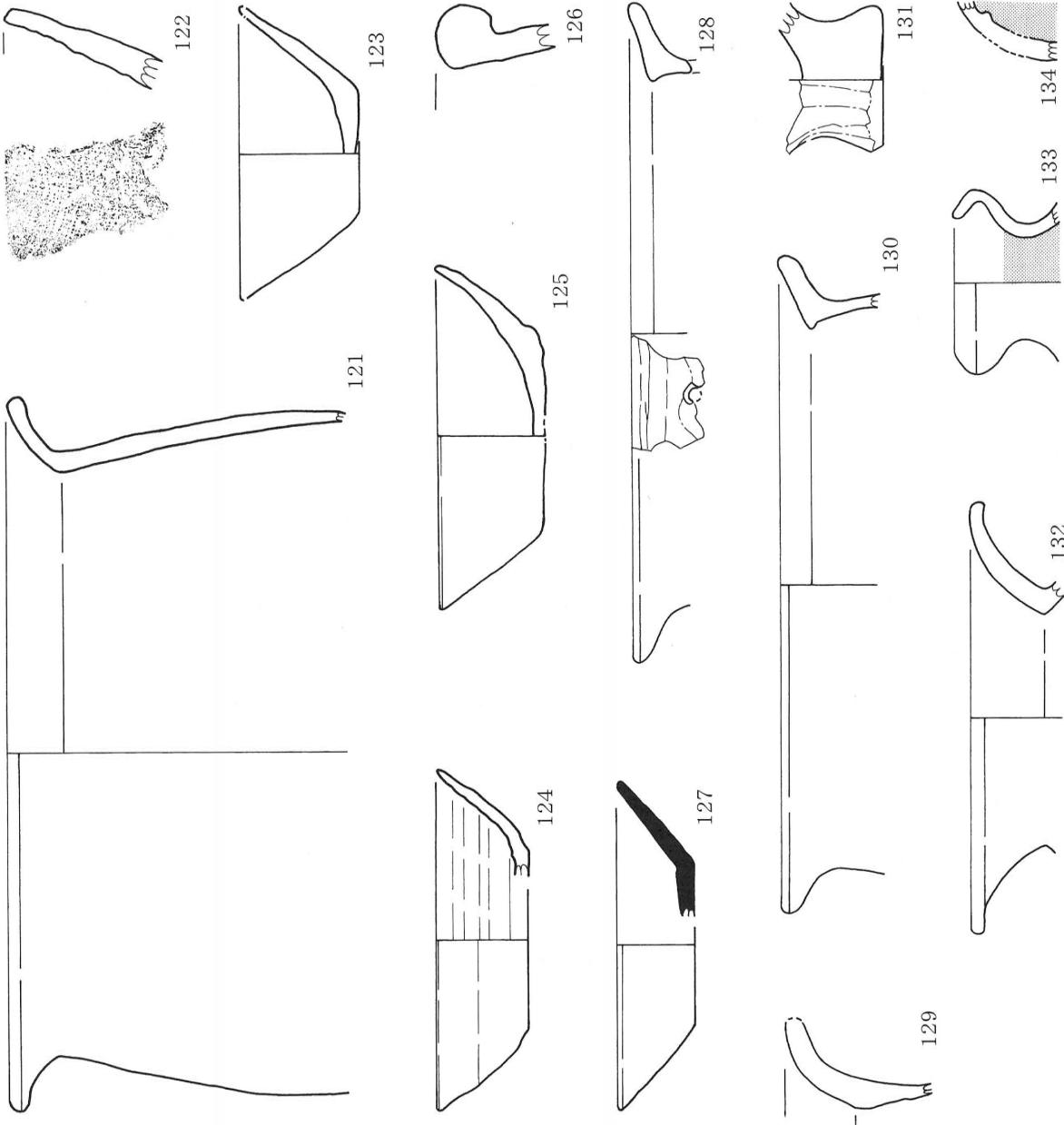
第31図 SK 出土遺物実測図

104:SK-01,105~106:SK-36,107~108:SK-45,109~111,113~114:SK-127,
112:SK-131,115:SK-136,116~119:SK-148,117:SK-149

0 10cm

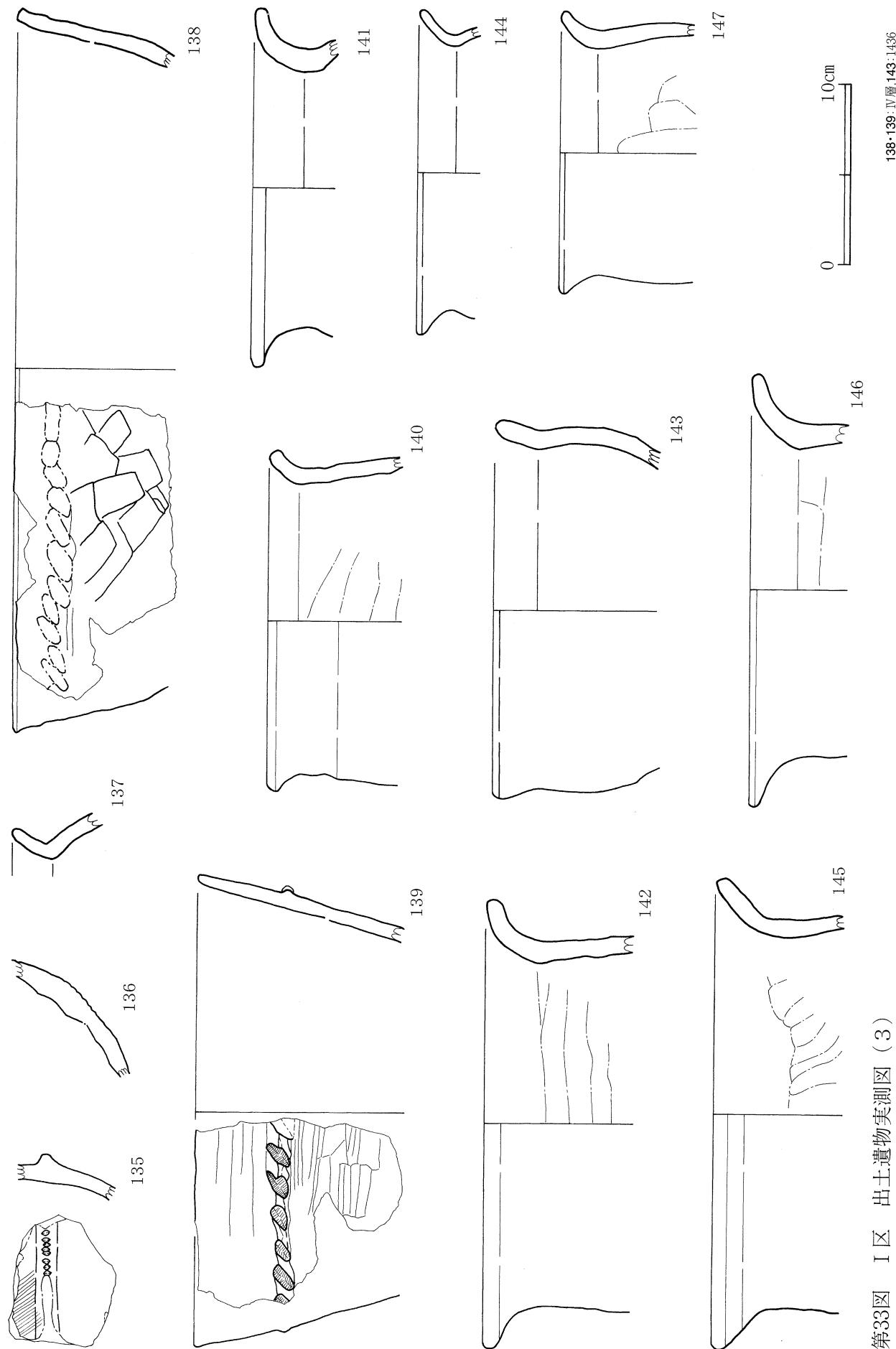


0 10cm

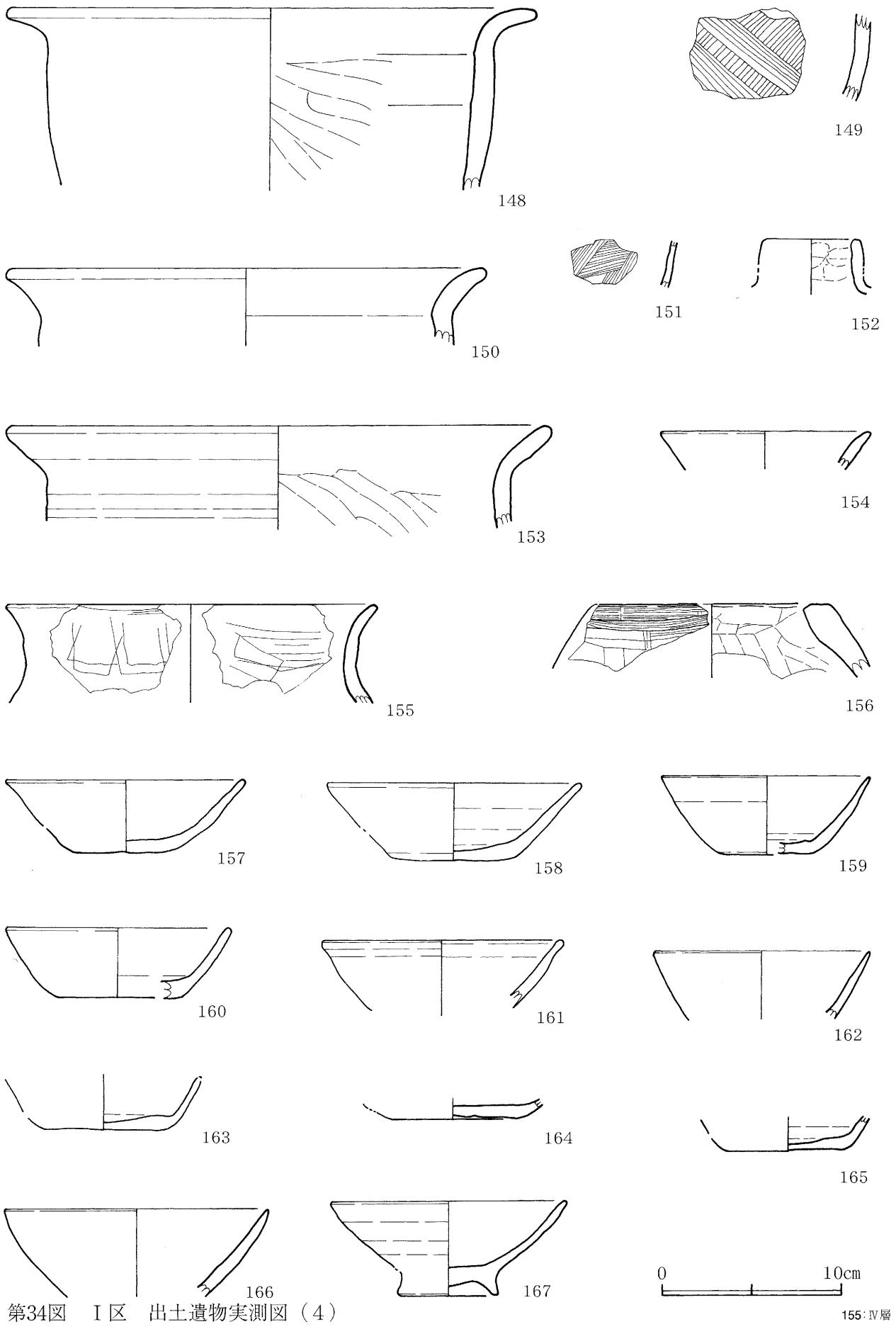


第32図 SK・I区 出土遺物実測図 (2)

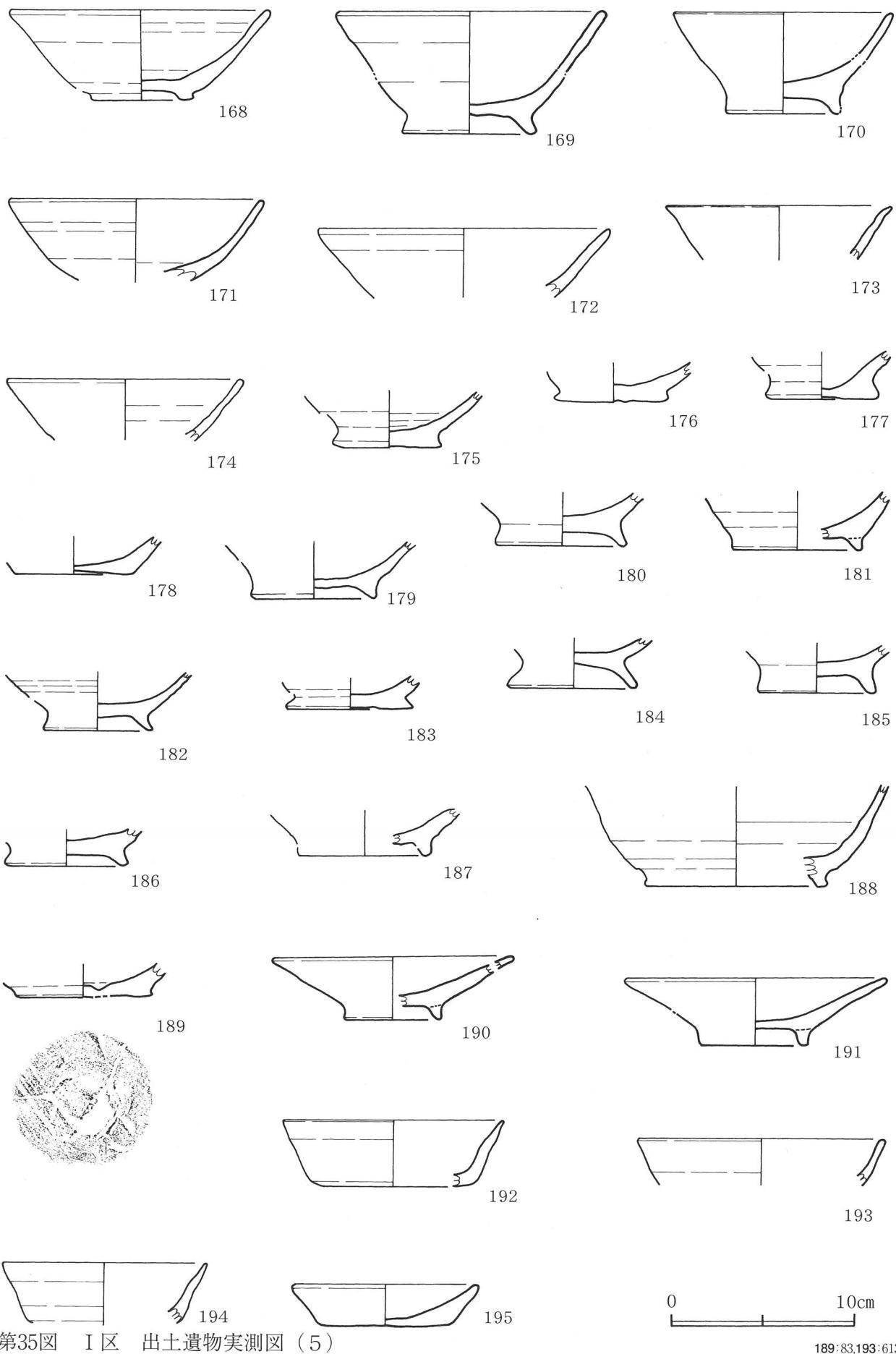
120:SK-149,121~122:SK-255,123~125:SD-03,127:SZ-01



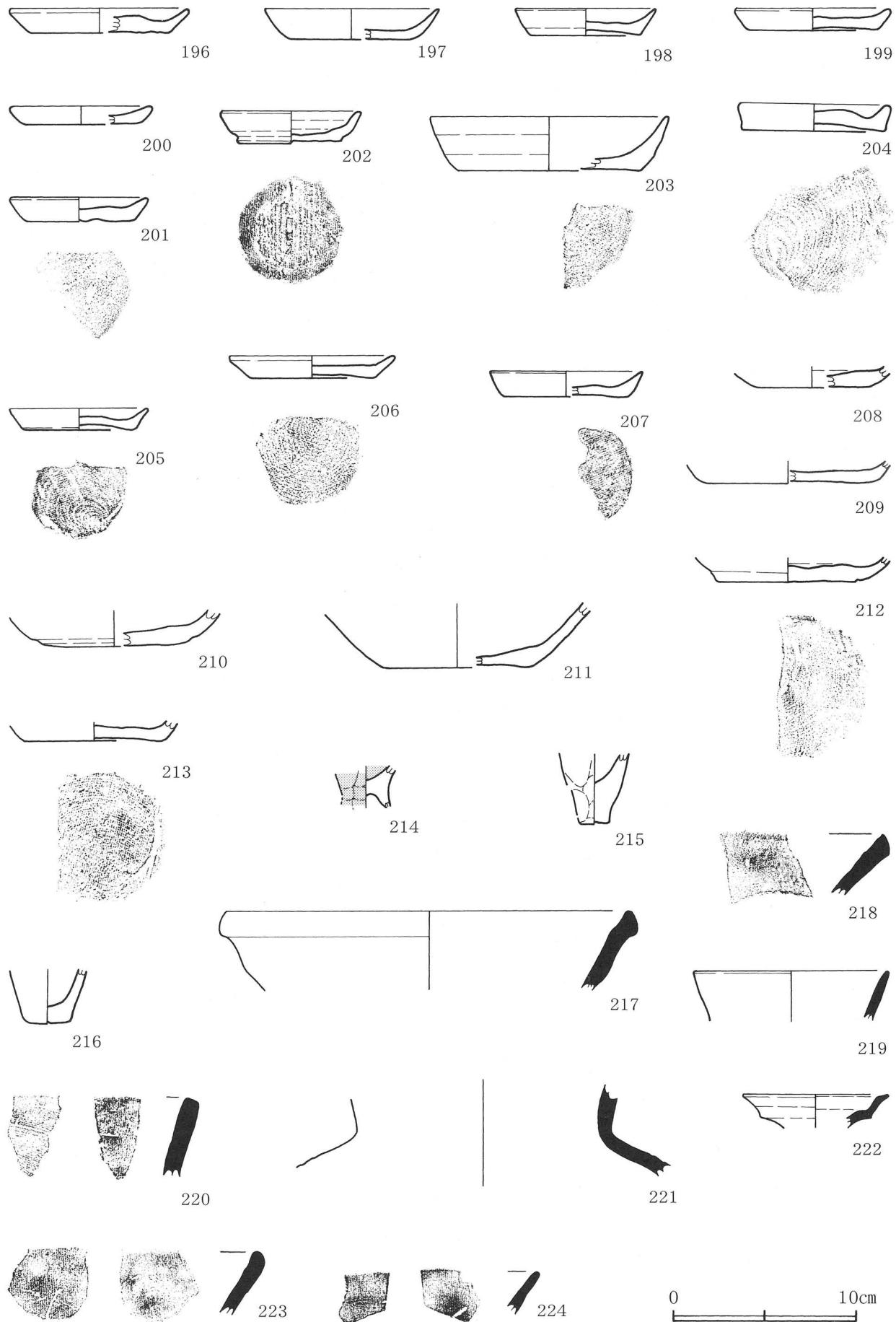
第33図 I区 出土遺物実測図(3)



第34図 I区 出土遺物実測図 (4)

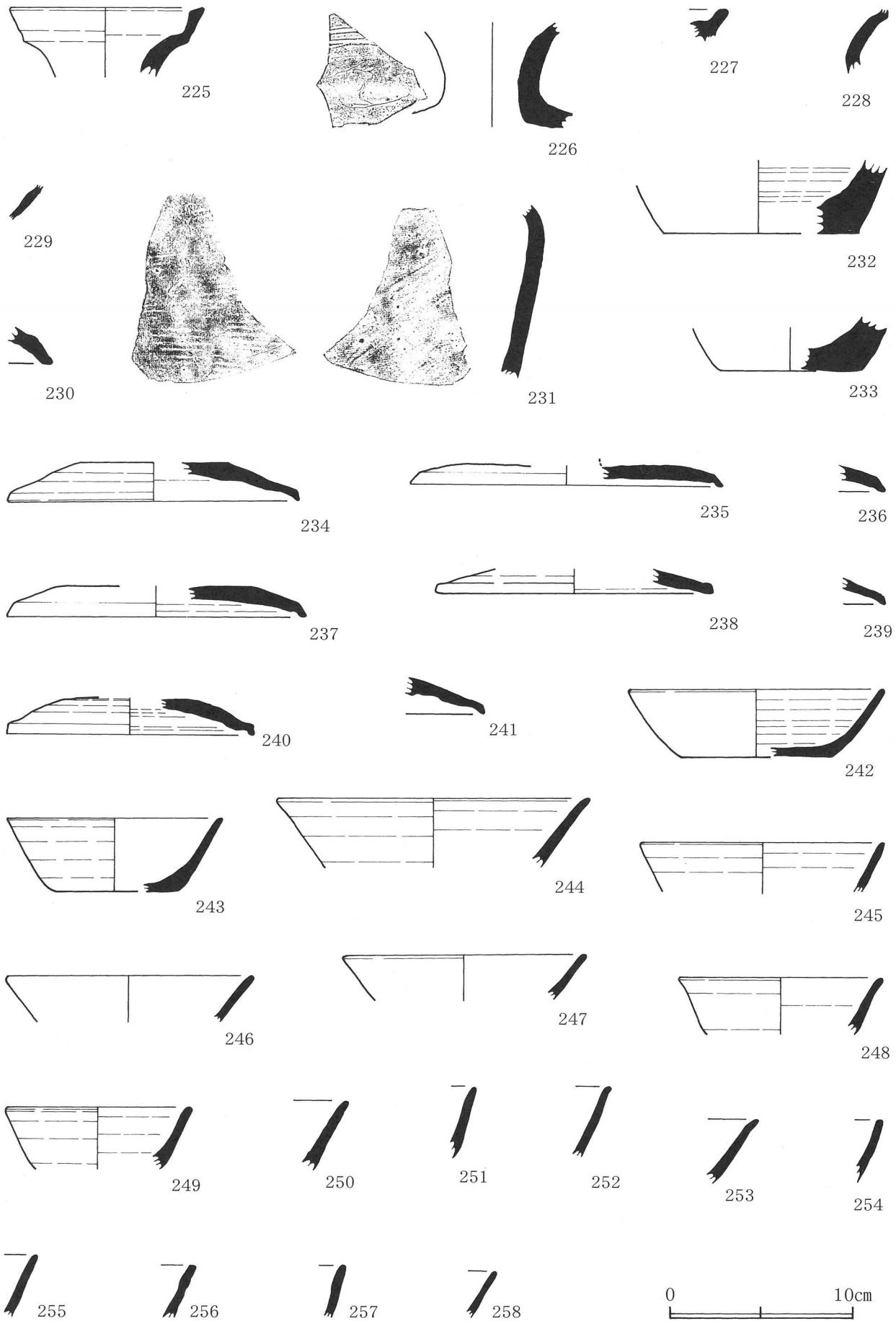


第35図 I区 出土遺物実測図 (5)

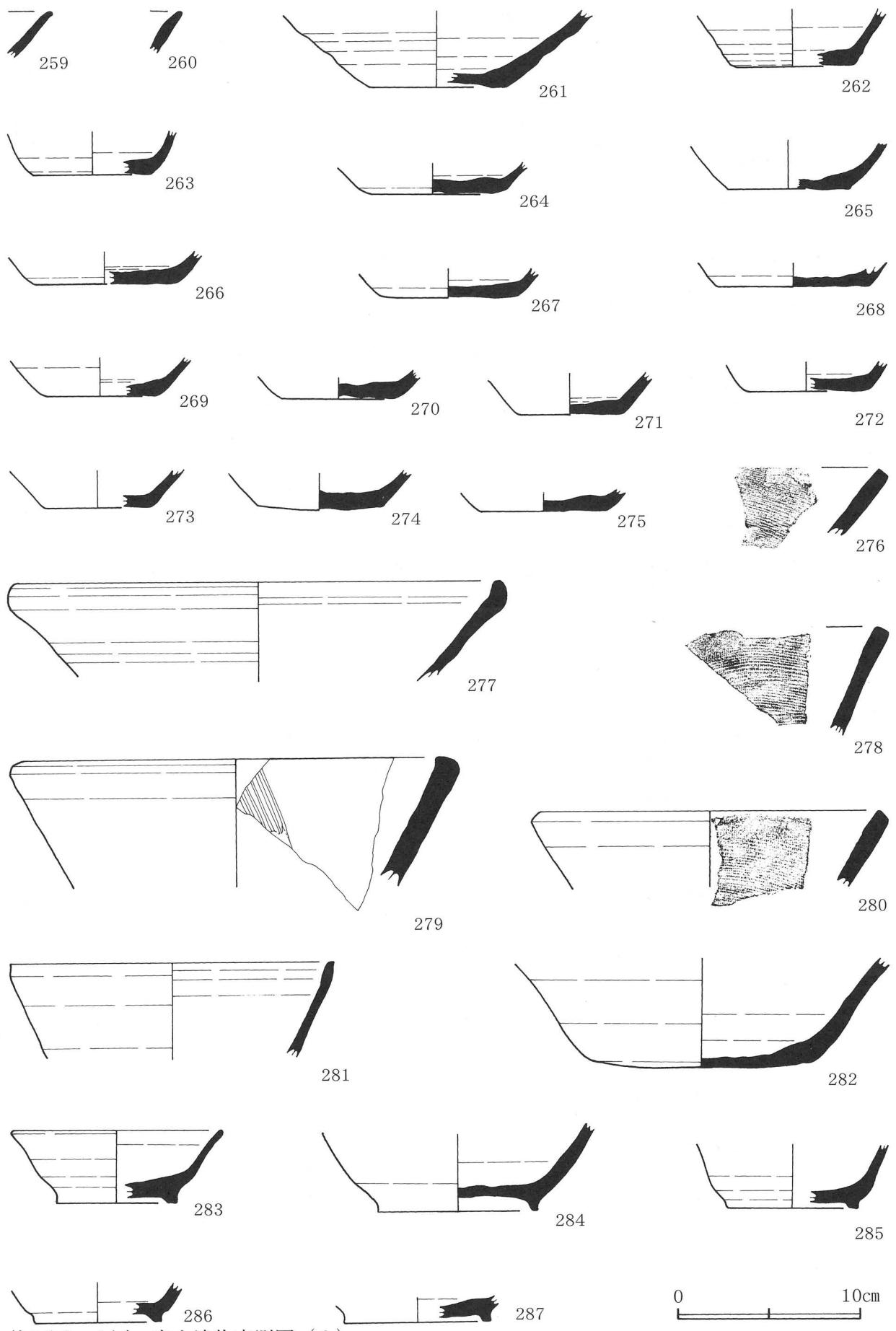


第36図 I区 出土遺物実測図 (6)

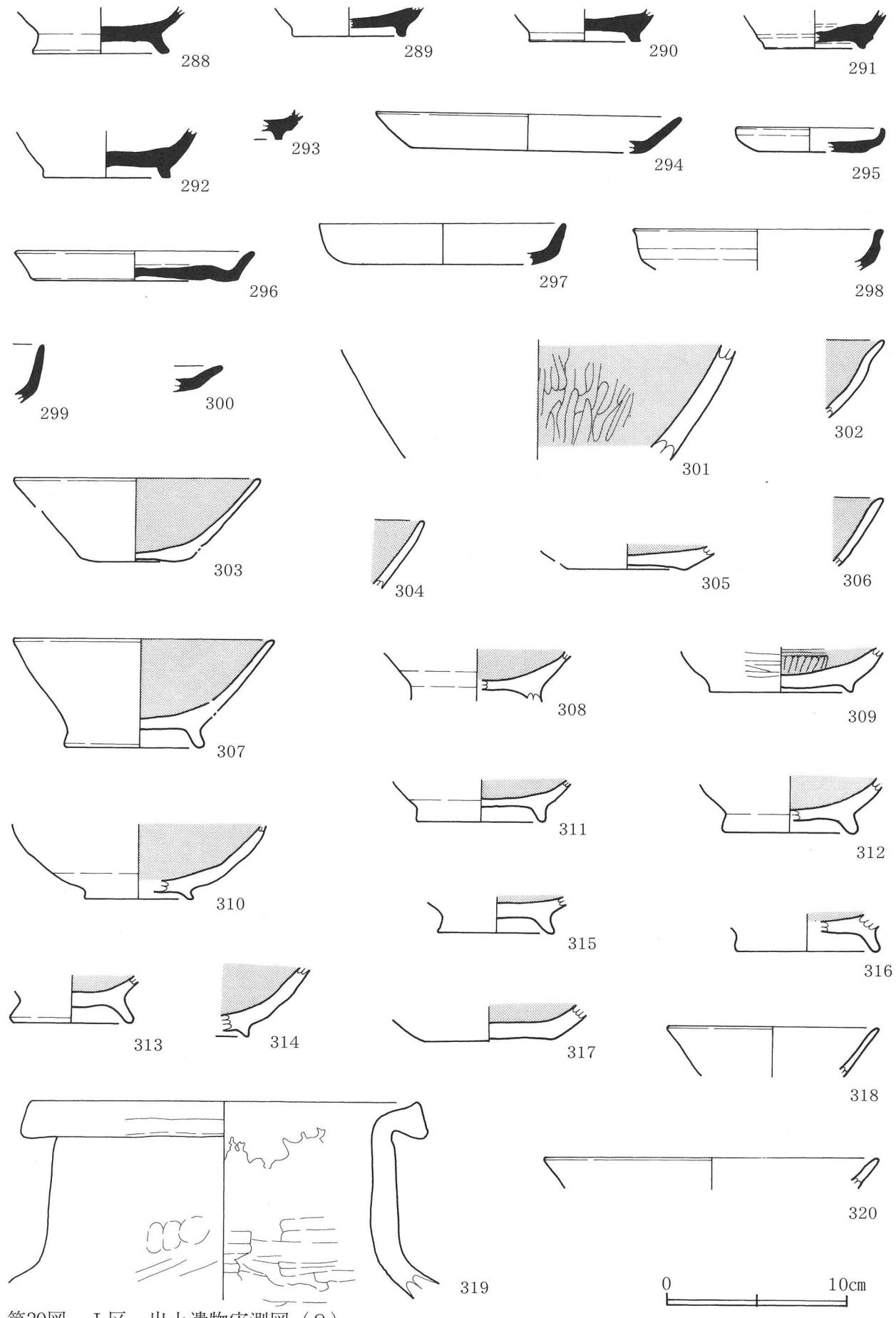
198:836,202:1262,213:1175,216:IV層



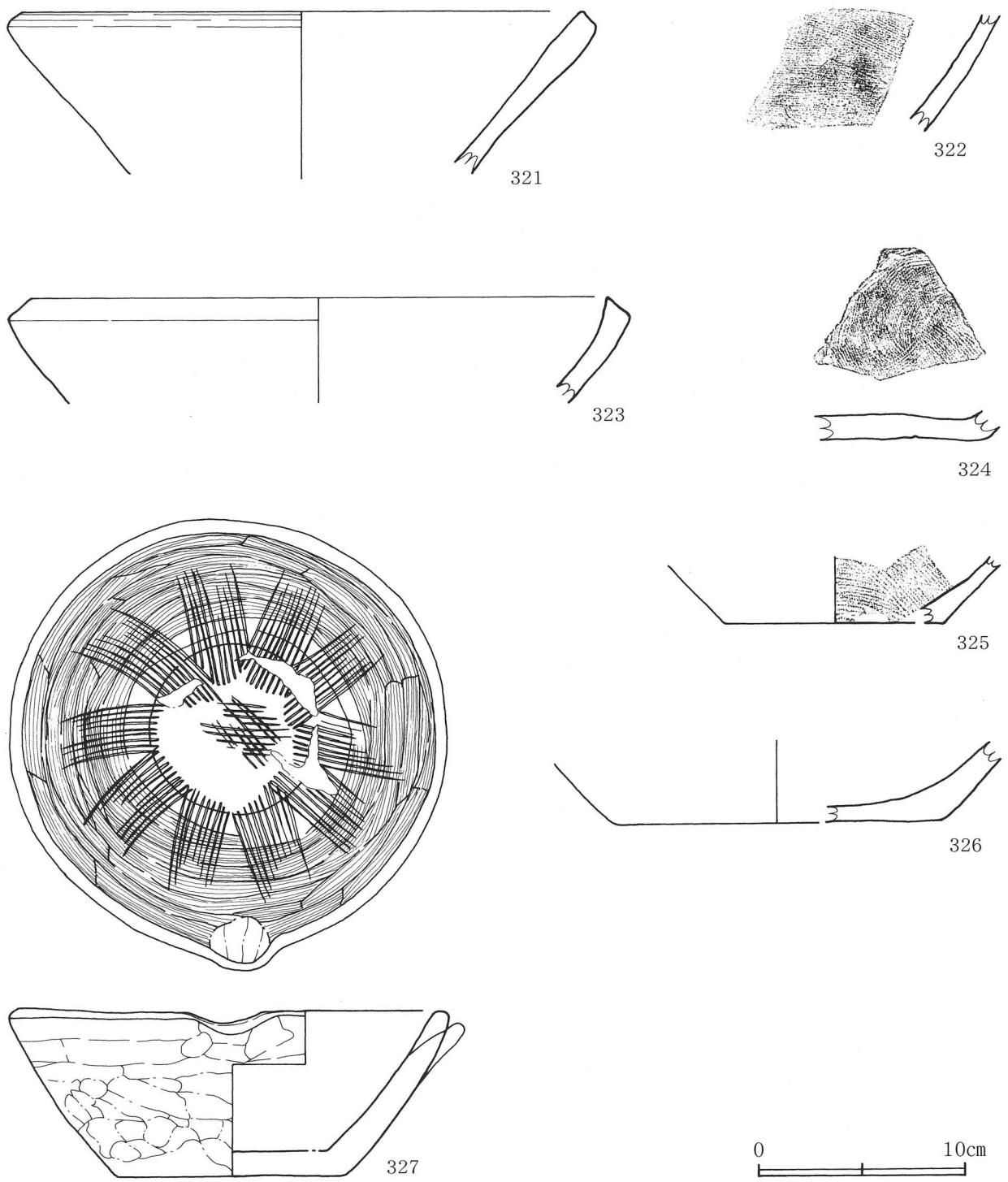
第37図 I区 出土遺物実測図 (7)



第38図 I区 出土遺物実測図 (8)



第39図 I区 出土遺物実測図 (9)



第40図 I 区 出土遺物実測図 (10)

324: IV層, 327: 613

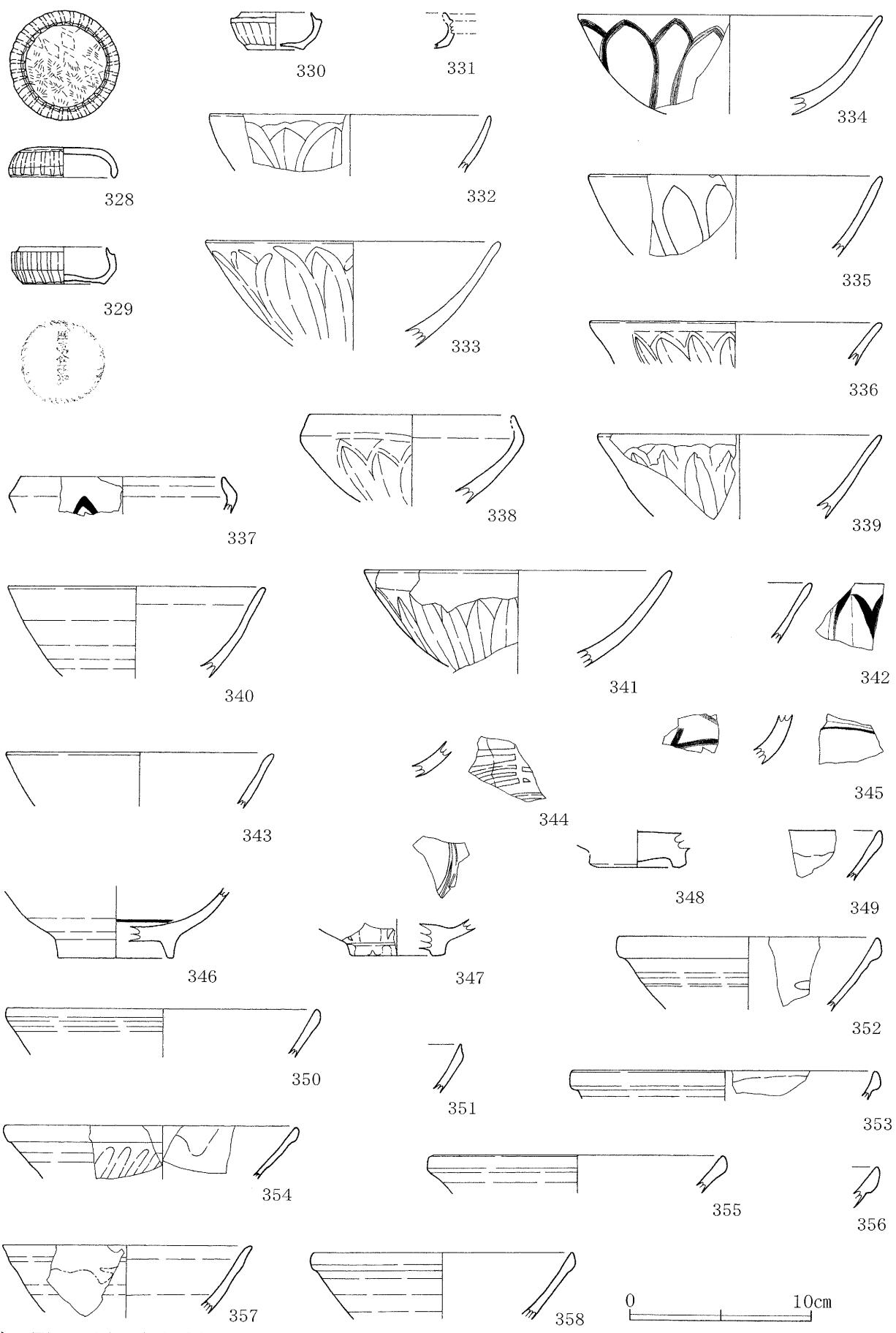
0.8m、深さ10~15cmを測る。遺物は土師器の壊が出土している。

SD-04

SD-03の2.7m東で検出された、南北にのびる溝状遺構で、現存で、長さ約8m、幅0.4~0.8m、深さ10~19cmを測る。遺物は出土していない。

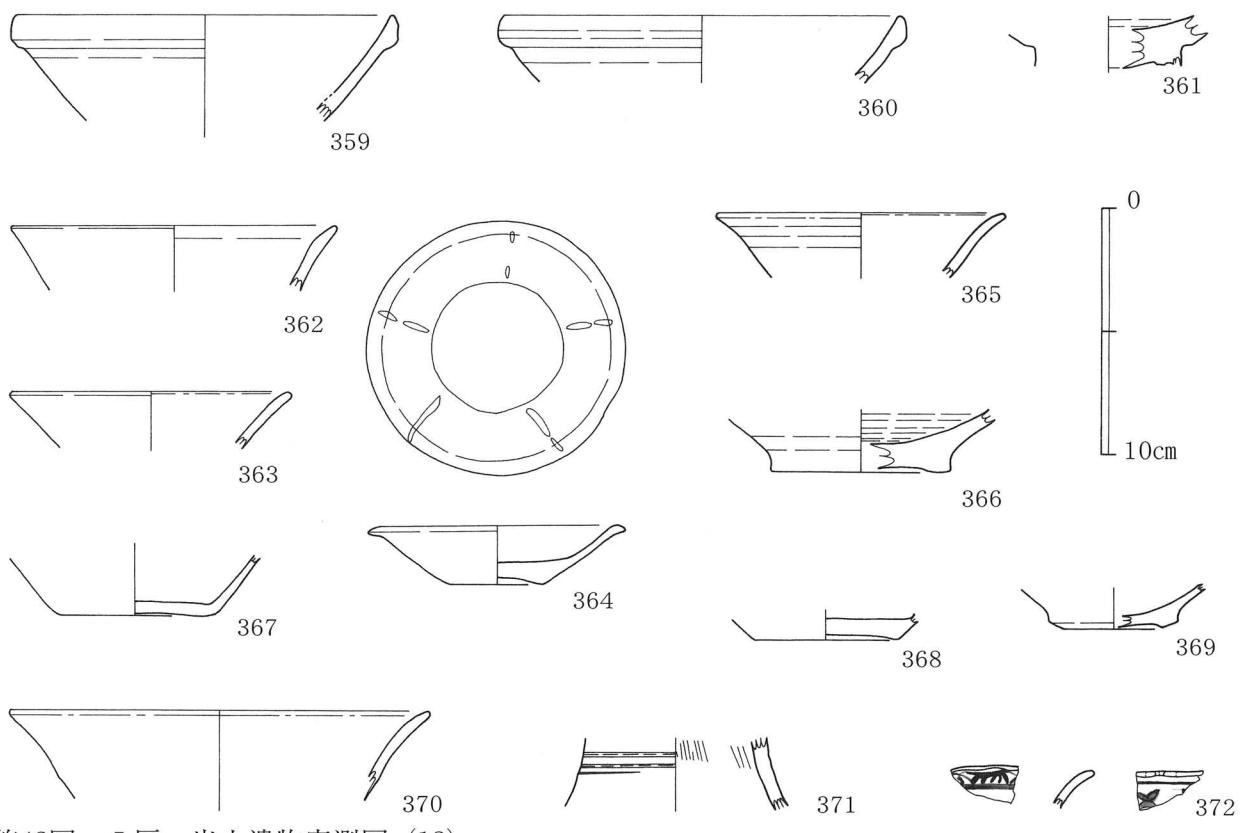
SD-05

SD-04の1.6m東で検出された、南北にのびる溝状遺構で、現存で、長さ約8m、幅0.3~0.7m、



第41図 I区 出土遺物実測図 (11)

328~329:SK-127,330:SK-136,332:SK-117,333:SK(PP)-131,334:169.
344~345:SA-03,347:1207,352:1450,355:SA-01



第42図 I区 出土遺物実測図 (12)

364:SK-127,365:1481

深さ10~15cmを測る。遺物は土師器片が出土した。

S D-06

S D-05の1.3m東で検出された、南北にのびる溝状遺構で、現存で、長さ約6m、幅0.6~0.9m、深さ13~20cmを測る。遺物は出土していない。

S D-07

S D-06の1.2m北東で検出された、南北にのびる溝状遺構で、現存で、長さ約8m、幅0.3~0.6m、深さ15~20cmを測る。遺物は土師器片が出土した。

S D-08

調査区の東部中央やや南側で検出された、東西にのびる溝状遺構で、現存で、長さ約10m、幅0.8~0.9m、深さ15~20cmを測る。遺物は弥生土器片が出土した。

S D-09

調査区の南部中央で検出された、南北にのびる溝状遺構で、現存で、長さ約20m、幅0.5~0.7m、深さ20~37cmを測る。遺物は出土していない。

近世~近代

S K-150 (第29図)

調査区の北部中央やや東よりで検出された、方形を呈する土坑である。規模は、1.23m×1.57m、検出面から床面までの深さは36cmを測る。長さ10~20cm大の礫を積んで、四方の壁を作っている

が、内部にも礫がいくつか入っており、これは壁の部分の礫が落ち込んだものと思われる。礫は被熱した形跡が見られないことから、火葬墓である可能性は低い。内部から遺物などは出土しなかった。

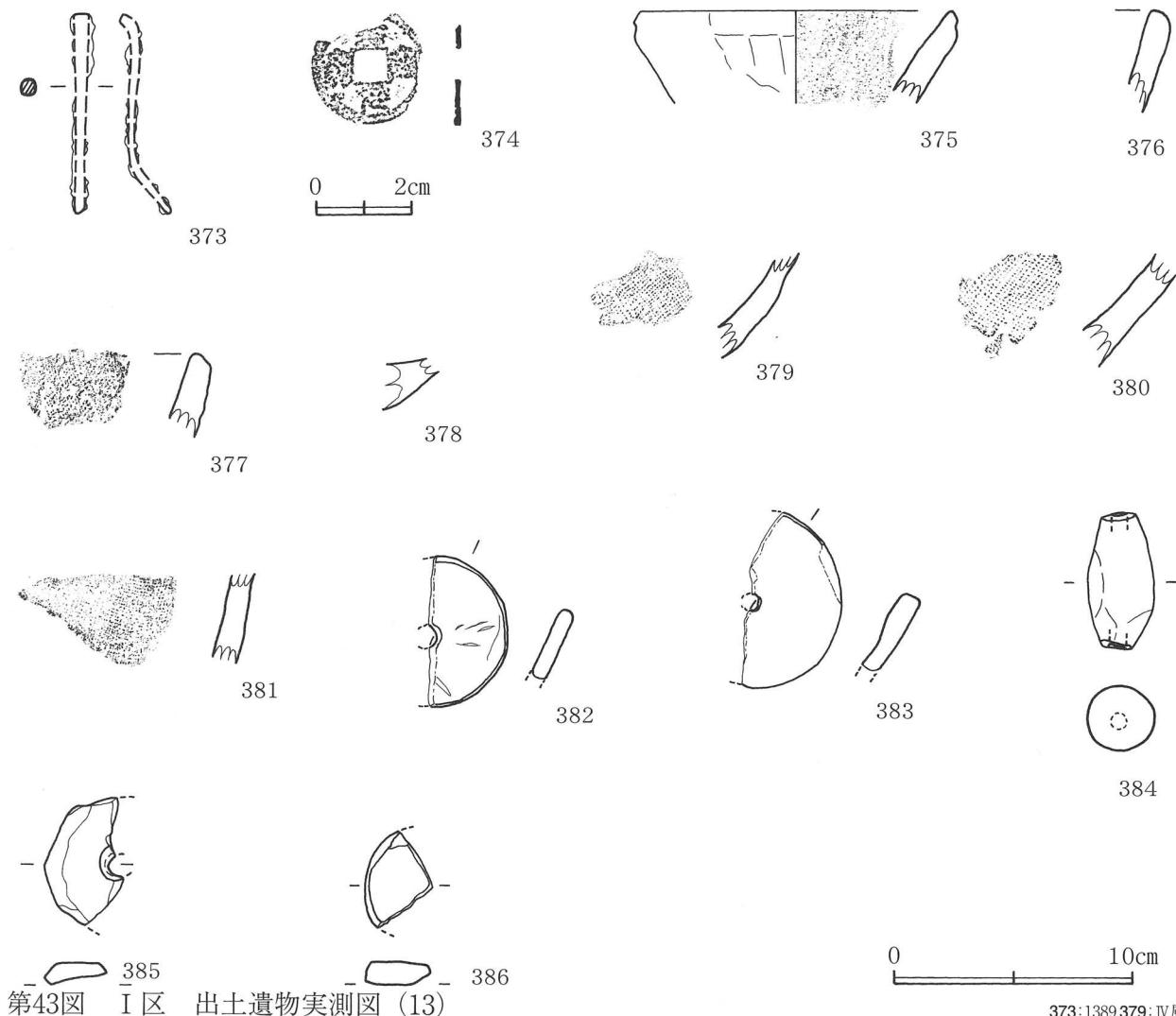
SR-01

調査区の西部北側で検出された、東西にのびる道路状遺構である。現存で、長さ16.7m、幅2.35～4.4mを測る。側溝は検出されていないが、楕円形を呈する深さ10～30cmの土坑が連続して並ぶことから道路状遺構と判断した。遺物は出土していない。終戦後（短期間）に瓦を焼いて運んだ道があつたらしく、当時の道路と推定される。

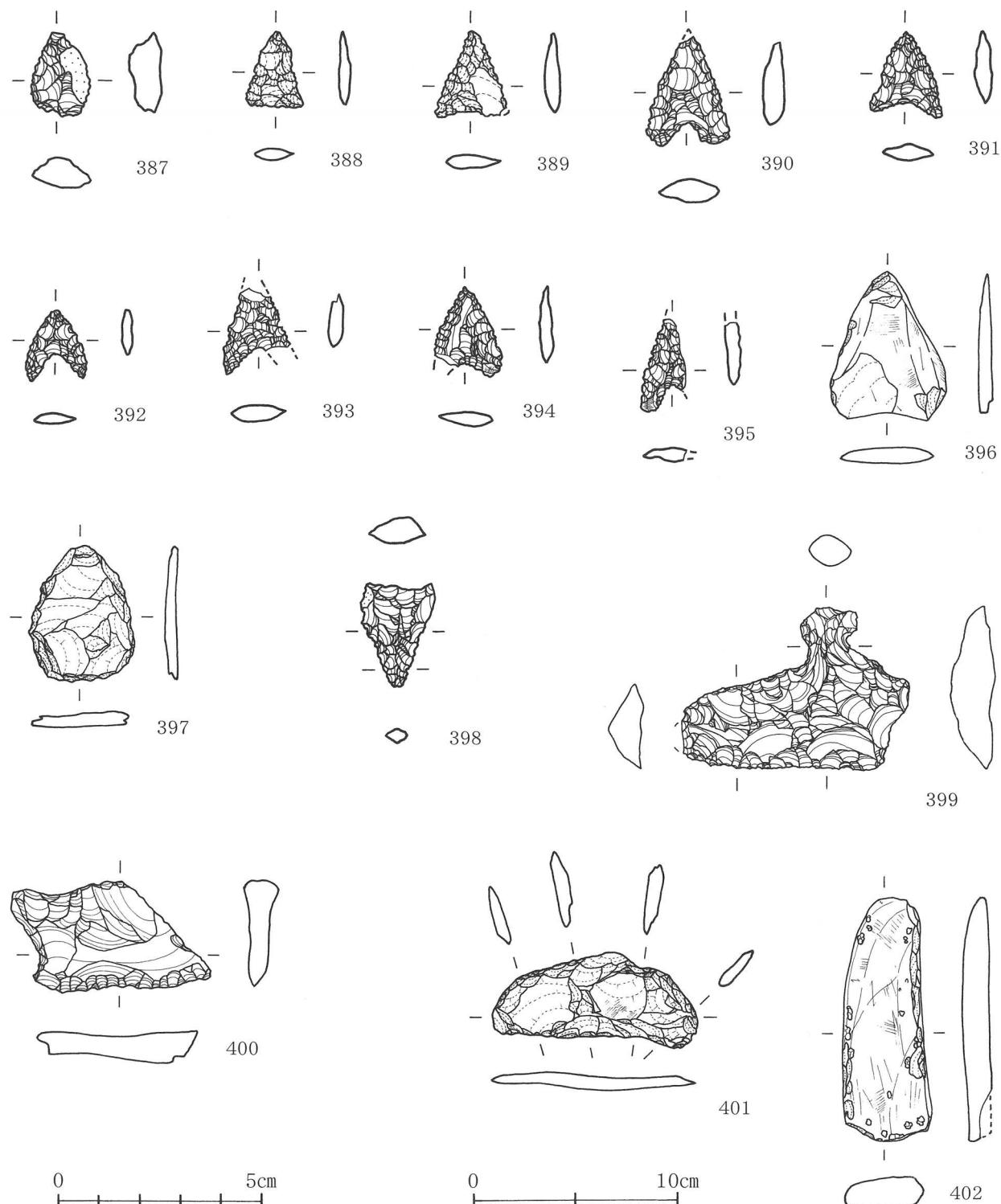
出土遺物

Ⅲc層上面での遺構検出、同層の掘り下げとⅣ層上面での遺構検出の際、縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・土師質土器・黒色土器・瓦質土器・輸入陶磁器・国産陶器・石器が出土した。

縄文土器は、中期から後期の土器が8点、弥生土器は、甕・壺の口縁部や底部が十数点、土師器は、甕・壺・壺・高壺・塊・皿・ミニチュアなどが出土し、須恵器は、甕・壺・高壺・鉢・塊・擂

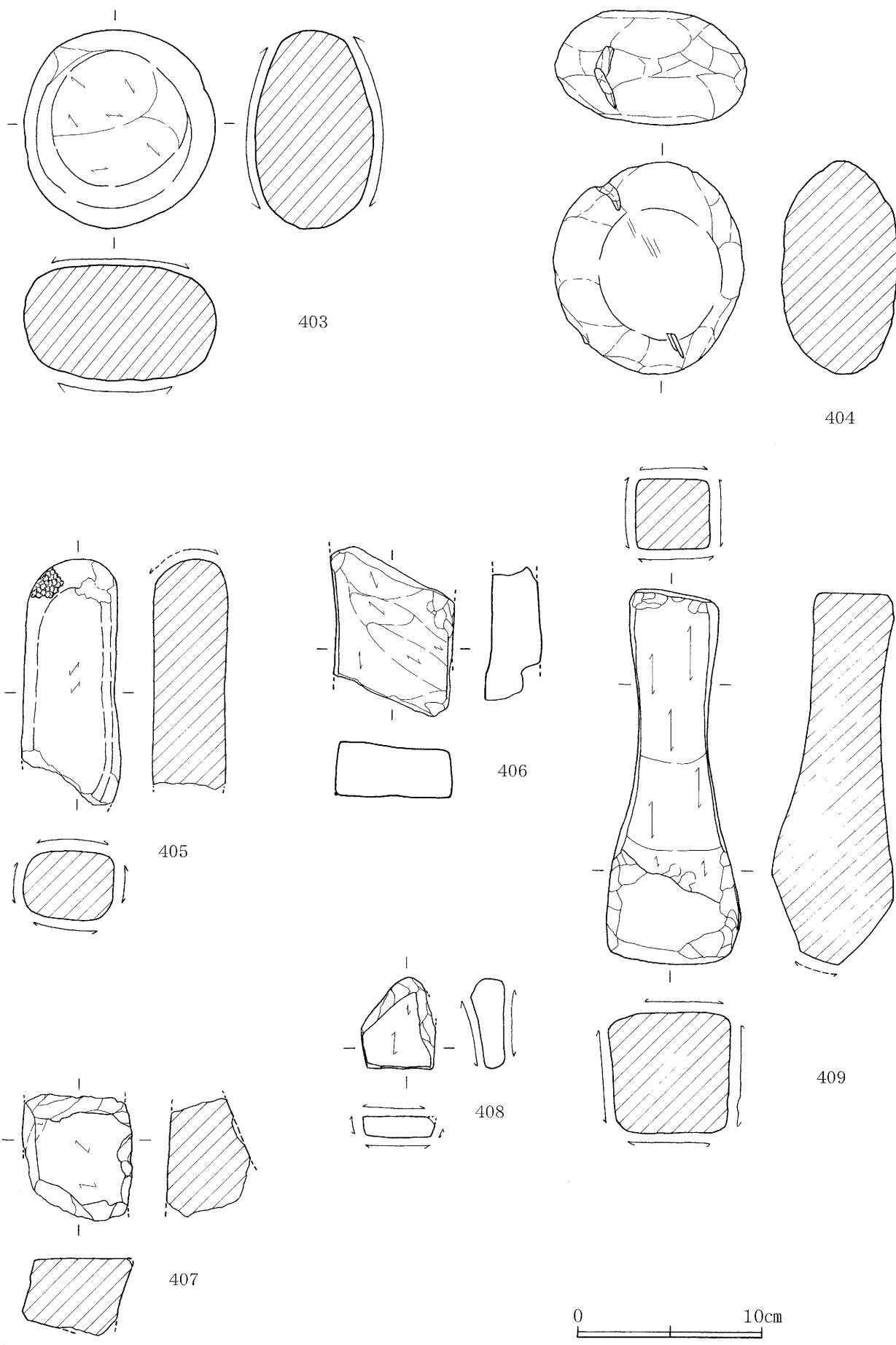


鉢・蓋が出土している。土師質土器と黒色土器は、塊・皿、瓦質土器は、塊・皿・擂鉢が3点出土している。布痕土器や土錘、紡錘車も出土している。中世の国産陶器は、甕や鉢のほか、備前焼の擂鉢、常滑焼のコネ鉢が出土し、輸入陶磁器は青磁の碗・天目茶碗、青白磁の合子、白磁の碗・皿・口禿皿・瓶、青花の鉢が出土し、石器は、打製石鏃・磨製石鏃、石匙・石匙未製品、砥石、磨石、石鍋・石鍋片加工品・石鍋片加工未製品、温石、手鎌と思われるものの未製品、石核が出土した。



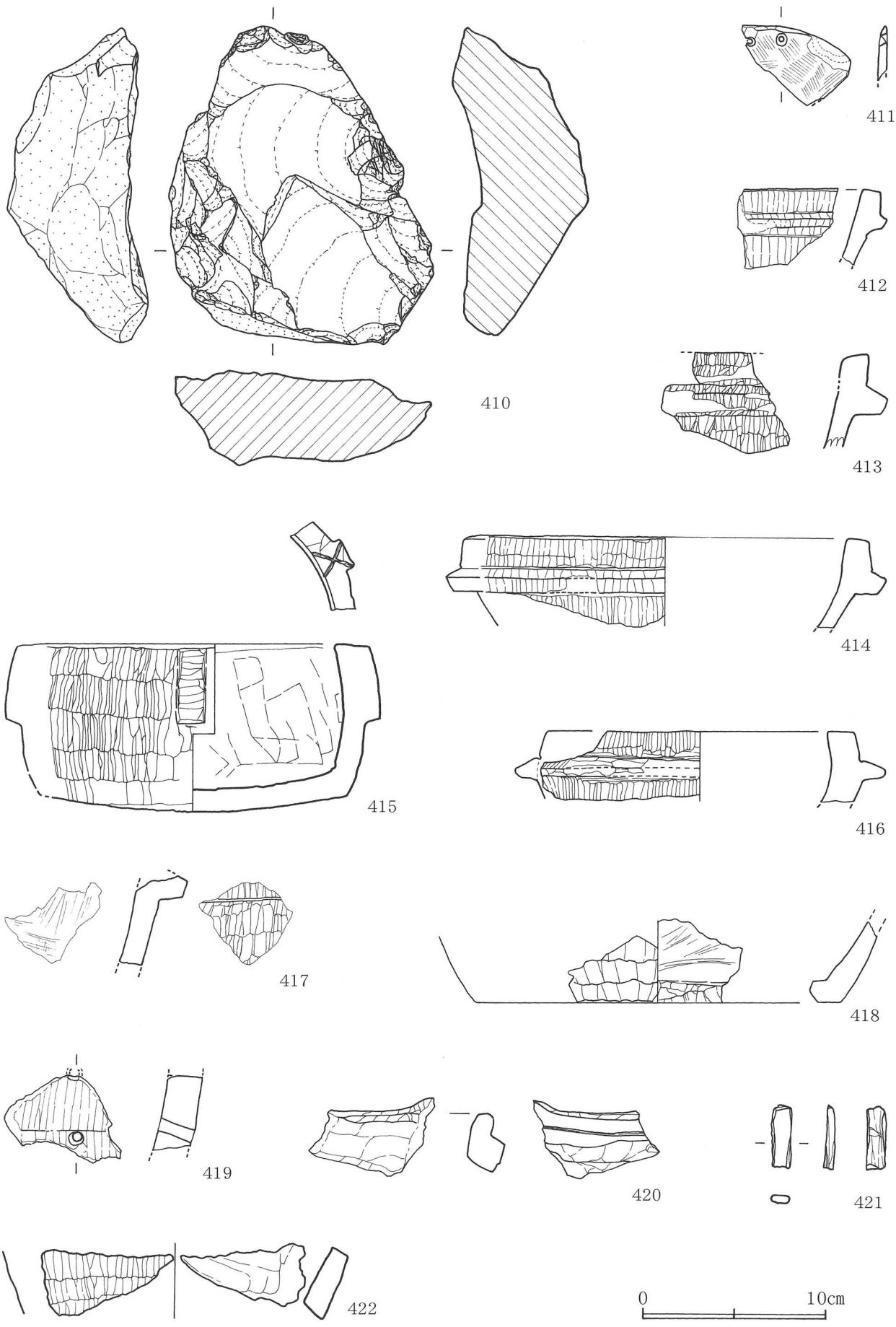
第44図 I区 出土遺物実測図 (14)

387:SK-08,391・396~397・401:IV層



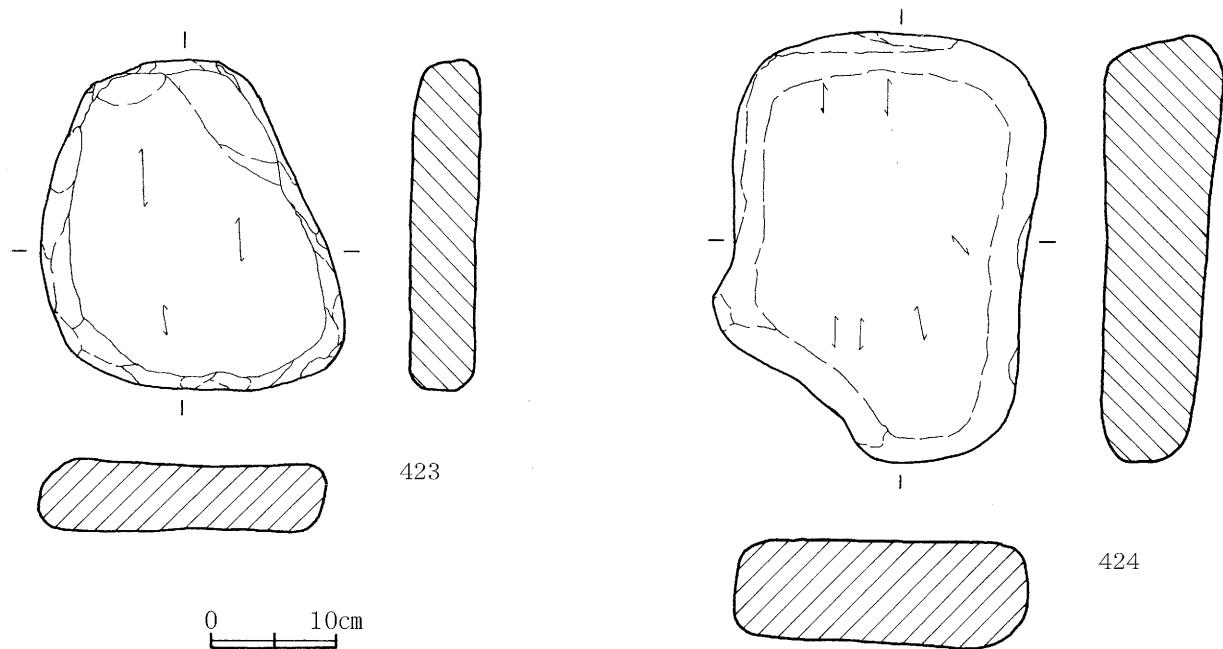
第45図 I区 出土遺物実測図 (15)

404: SA-03, 405: IV層



第46図 I区 出土遺物実測図 (16)

411:SK-08,415:SK-127,416:244,417:227,418:1453



第47図 I区 出土遺物実測図 (17)

423:SK-117,424:SA-04

第5節 II区～III区の調査

調査は重機でIII b層まで除去し、II区の南半分は遺物が多量に出土することから、III b・c層を手掘りで掘り下げた。遺構検出はIII c層上面とIV a層上面で行った。その結果、III c層上面では、II・III区合計で、竪穴状遺構4基、掘立柱建物40棟、土坑・土壙墓92基、溝状遺構2条、多数の柱穴を検出した。IV a層上面では、竪穴住居23基を検出した。II区の東壁中央やや北側では、竪穴住居が東壁にかかって検出されたため、その部分を東へ拡張した。

弥生時代

IV層上面で遺構検出を行った結果、II区の中央部北側で間仕切り住居が3基検出された。他の遺構は検出されなかった。

S A-17 (第52・55図)

II区の中央部北側で検出された、方形を基調とする間仕切り住居で、S A-18・32と切り合っている。規模は、 $6.68 \times 6.71\text{m}$ 、検出面から床面までの深さは14cmを測る。柱穴は、4個で、径20～33cm、深さ39～62cmを測る。また、貼床が施されており、厚さは6～10cmを測る。

遺物は壺の肩部片1点のみである。

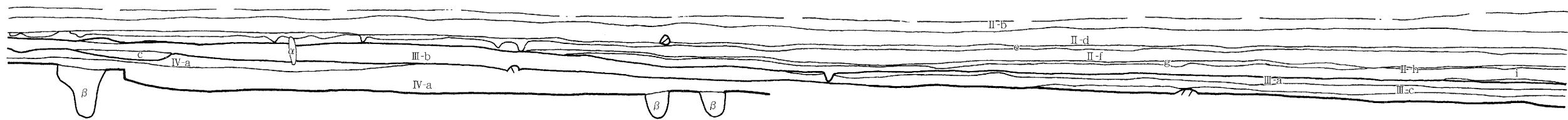
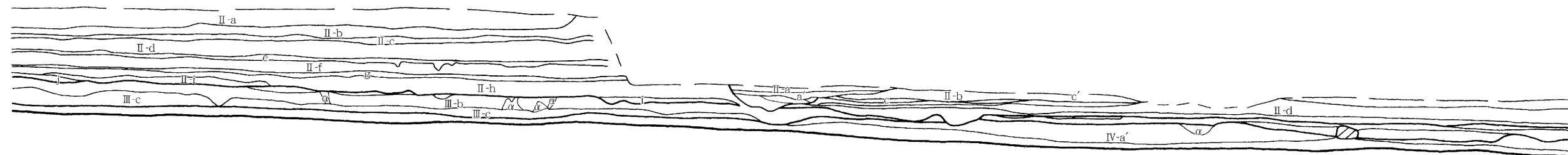
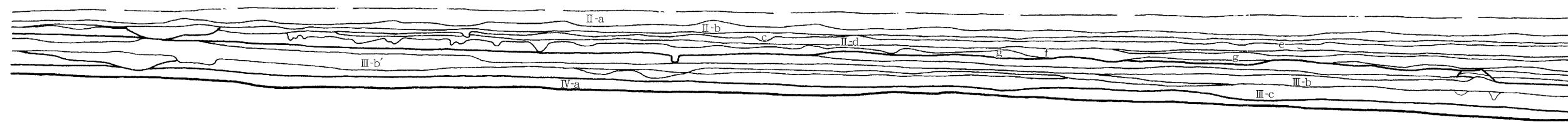
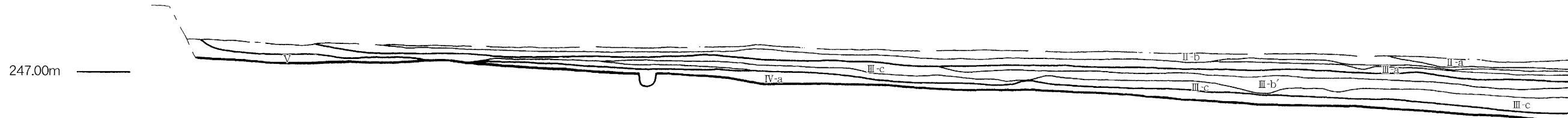
S A-18 (第53図)

II区の中央部北側やや東よりで検出された、S A-17・19・32と切り合っている、現存で $5.21 \times 7.05\text{m}$ の方形を基調とする間仕切り住居である。検出面から床面までの深さは8～11cmを測る。柱穴は、3個で、径21～27cm、深さ27～45cmを測る。炉跡や貼床などは検出されなかった。遺物は出土していない。

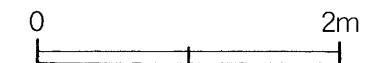
S A-21 (第54・55図)



第48図 Ⅱ区 遺構全体図



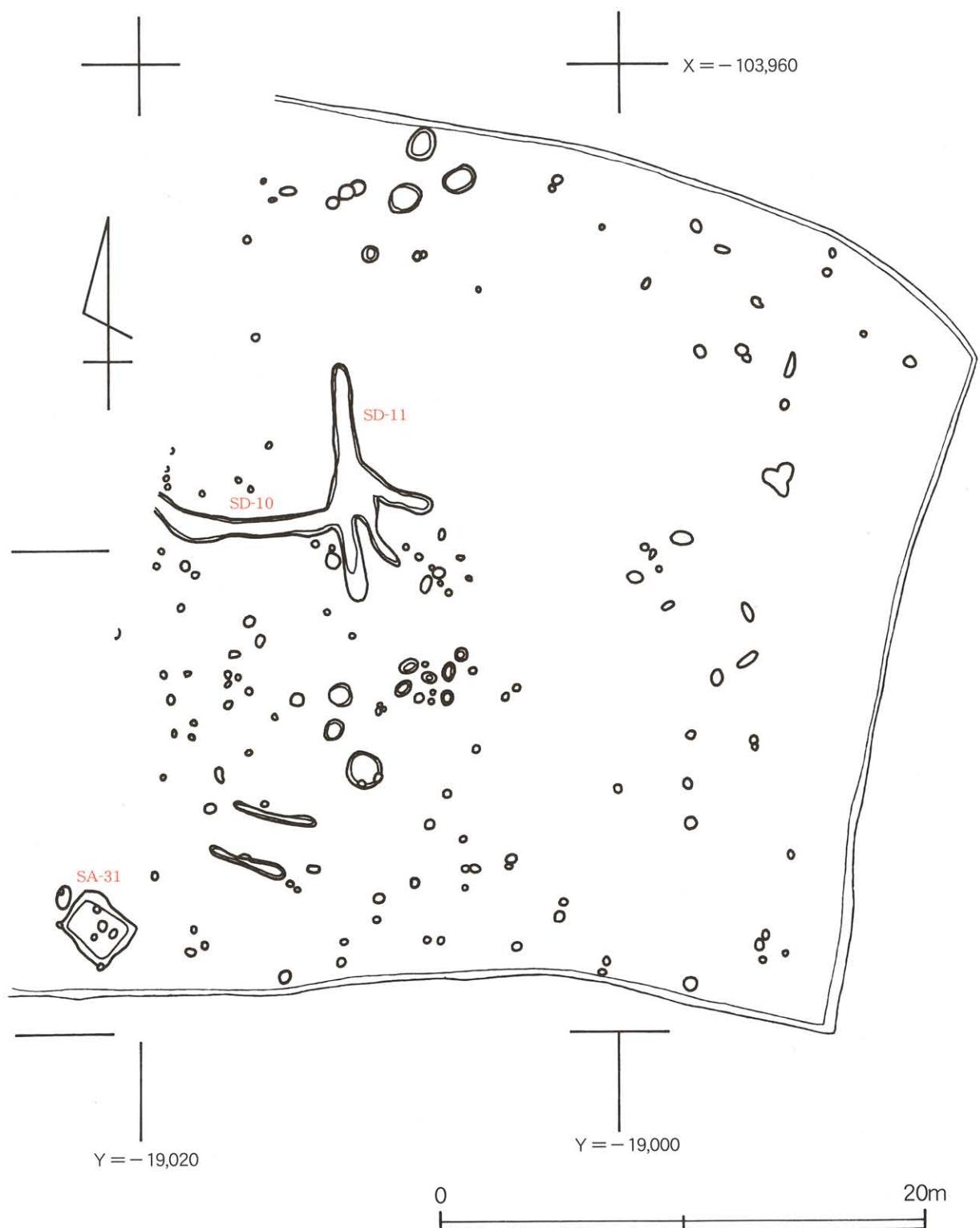
- 247.00m
- | | | |
|----------------------|-----------------------|-----------------|
| II-a. 黄褐色+灰色+赤褐色細砂質土 | h. 暗灰色粗粘質土 | IV-a. 暗褐色微細砂質土 |
| a. 黄褐色+赤褐色細砂質土 | i. 暗灰色+茶色細粘質土 | V . 白色+黄褐色微細粘質土 |
| b. 灰色粗砂質土 | j. 暗灰色細粘質土 | |
| c. 黄褐色粗砂質土 | | |
| c'. 黄褐色細砂質土 | | |
| d. 灰色粗砂質土+白色輕石 | III-a. 茶褐色細粘質土+灰色粗砂質土 | |
| e. 黄褐色粗砂質土 | b. 黑色微細粘質土+灰色粗砂質土 | |
| f. 灰色+白色粗砂質土 | b'. 黑色粗粘質土+灰色粗砂質土 | |
| g. 黄褐色粗砂質土 | c. 灰色+黑色粘質土+淡黄褐色細粘質土 | |



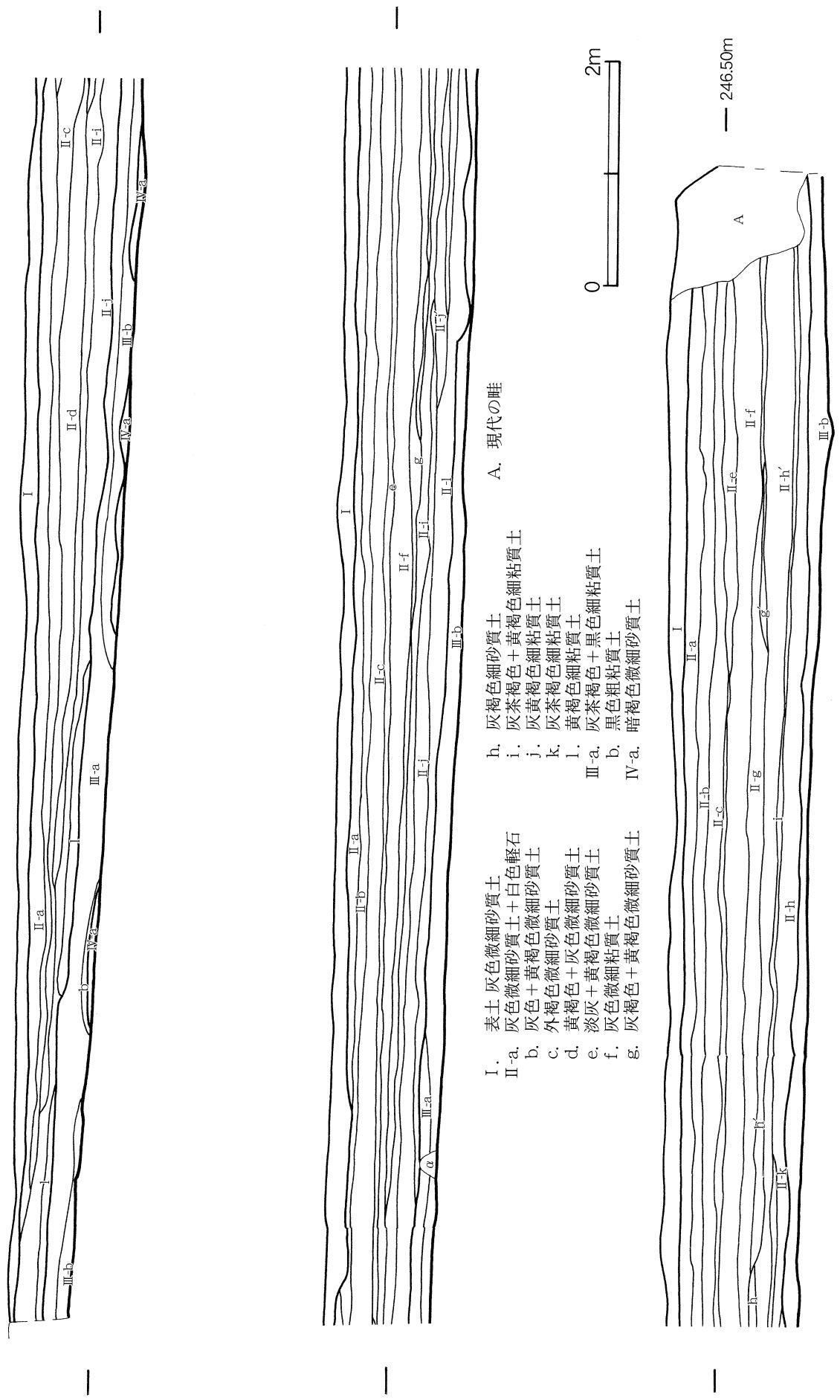
第49図 II区 中央壁層序図

II区の中央部西側で検出された、間仕切り住居である。住居の中央部分をSA-20によって切られているため、突出部分だけが現存している状態で、 $6.12 \times 7.84m$ の不整形を呈しており、詳細は不明である。

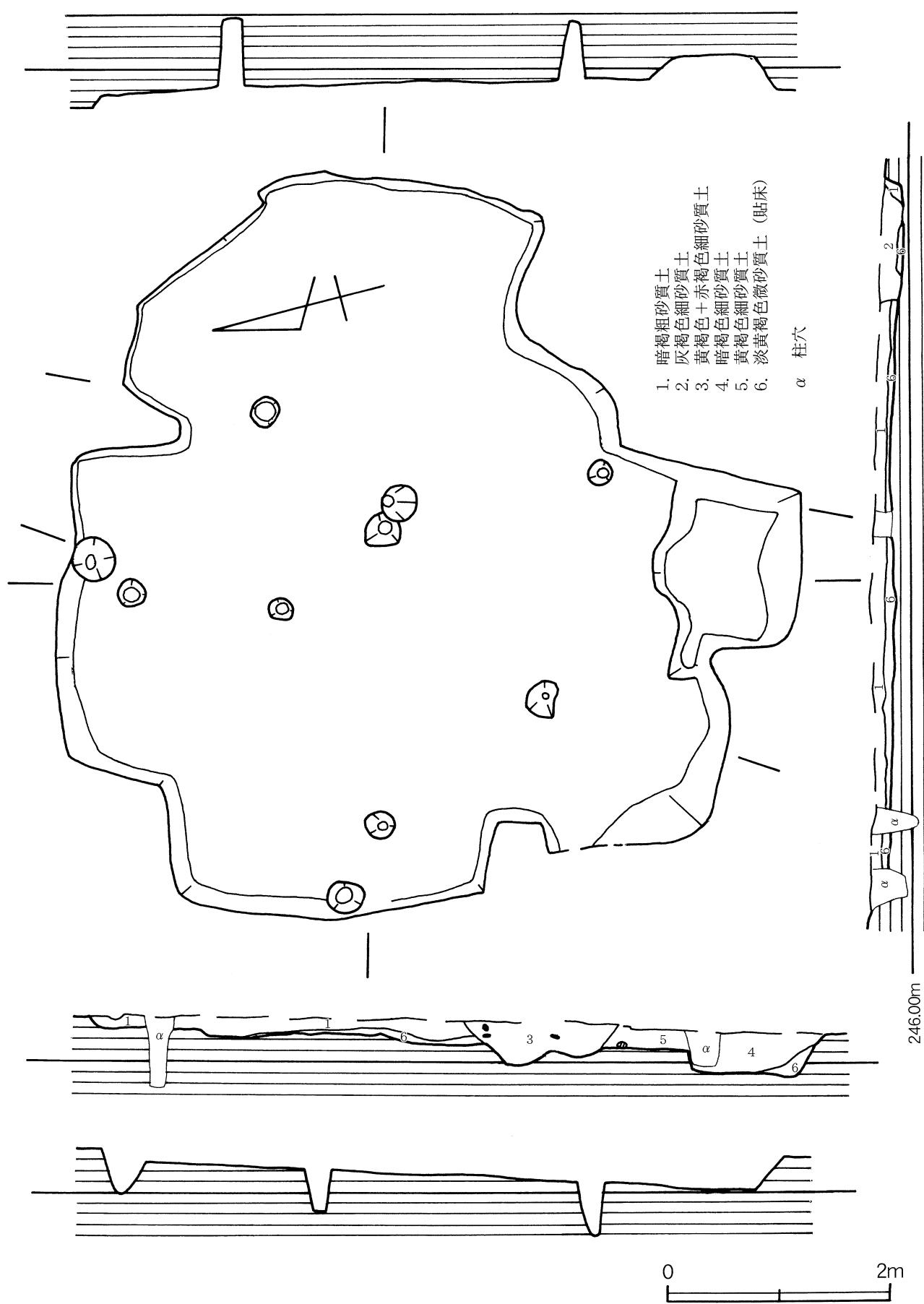
遺物は、土師器の丹塗りの高壺の破片が1点出土しただけである。



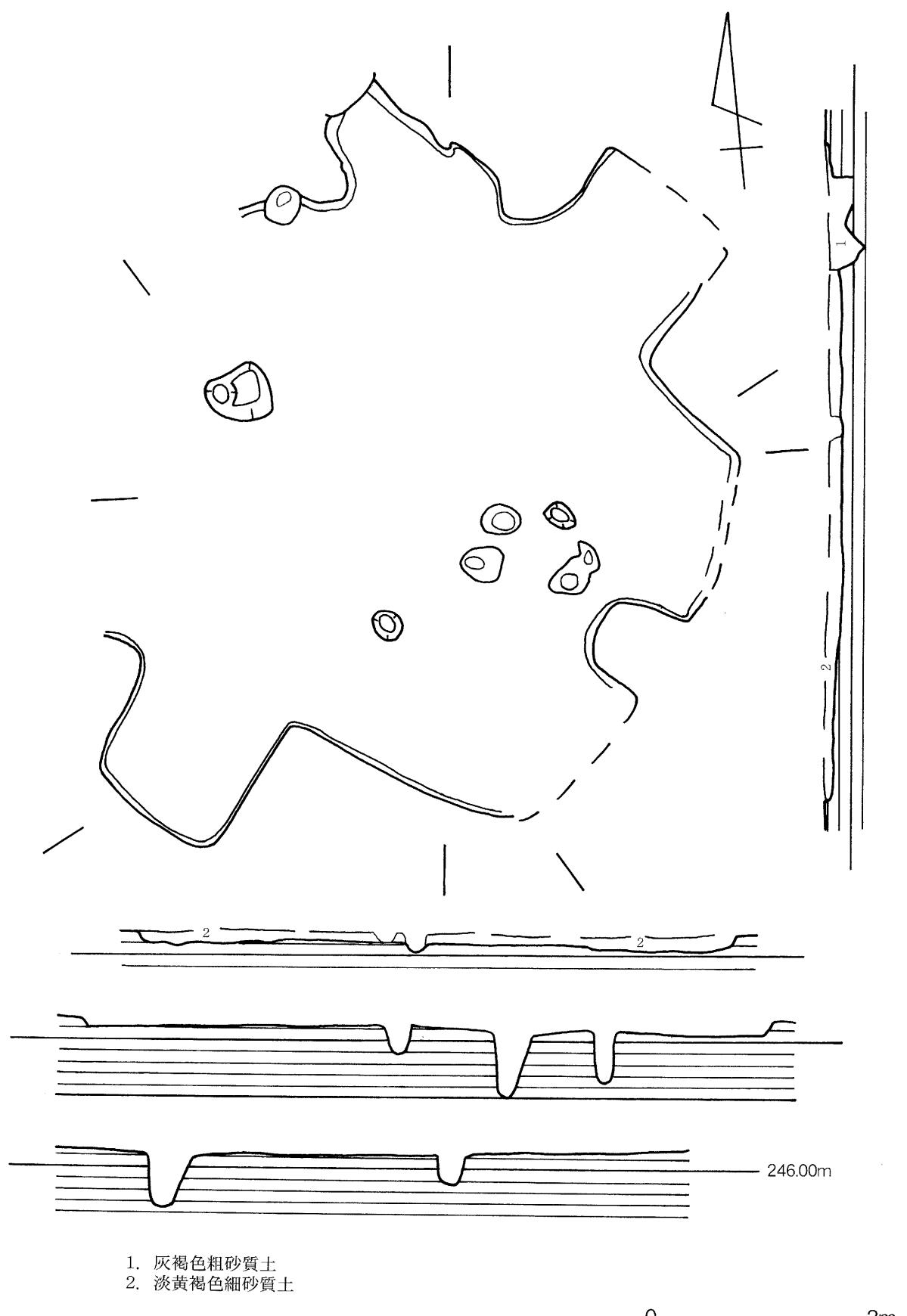
第50図 III区 遺構全体図



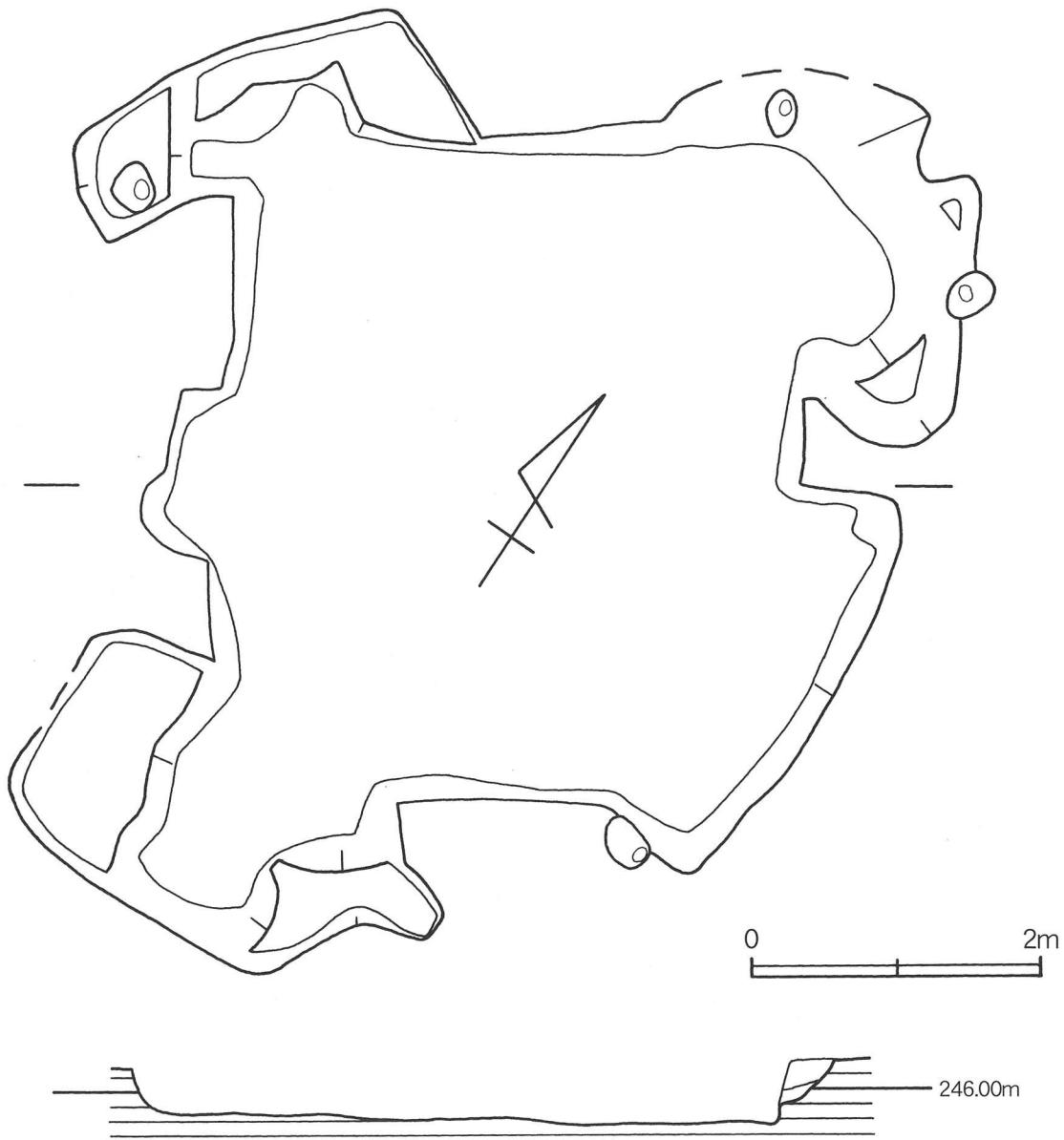
第51図 Ⅲ区 中央壁層序図



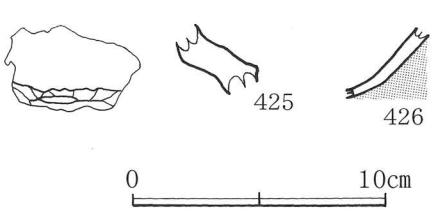
第52図 SA-17 遺構実測図



第53図 S A - 18 遺構実測図



第54図 SA-21 遺構実測図



古墳時代

IV層上面で遺構検出を行った結果、II区で竪穴住居が18基、III区で2基検出された。

SA-08 (第56・59図)

II区の北部西側で検出された、方形を呈する住居である。

第55図 SA 出土遺物実測図

規模は、 $1.91 \times 3.01\text{m}$ 、検出面から床面までの深さは15cmを測る。柱穴は3個で、径18~23cm、深さ19~38cmを測る。住居中央は、 $1.01 \times 2.31\text{m}$ の不整形を呈する、深さ3~8cmの掘り込みがあるが、焼土や炭化物は検出されなかった。貼床も検出されなかった。

遺物は、弥生土器の甕の底部、土師器の甕の口縁部・壺の胴部・高壺の口縁部や脚部などの土器

片が出土しており、壺は丹塗りのものも1点出土している。石器は、溶結安山岩製の台石が出土している。

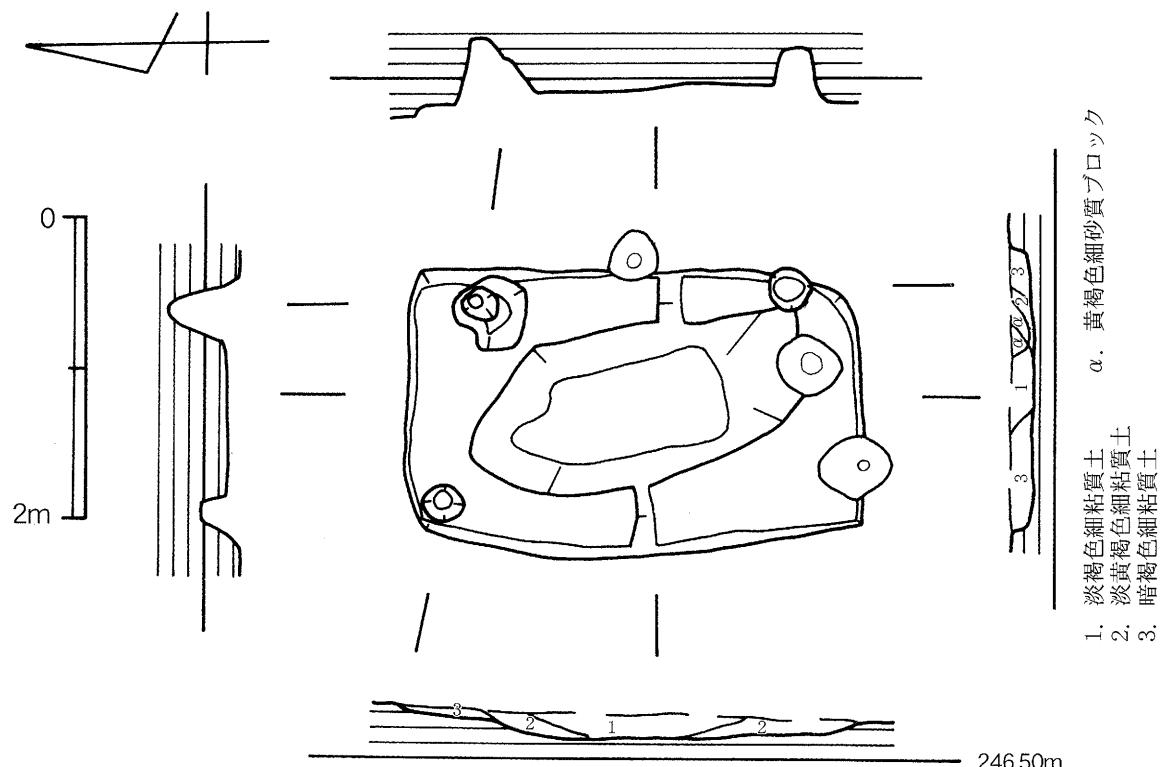
S A-10 (第57・60・61・62図)

II区の中央部西側で検出された、方形を呈する住居である。規模は、 $3.98 \times 5.41\text{m}$ 、検出面から床面までの深さは48cmを測る。柱穴は3個で、径20~29cm、深さ12~27cmを測る。住居の北壁側には、ほぼ中心から東側に長さ1.8m、幅121cm、床面からの高さ30~35cmを測る略台形を呈するベッド状遺構と、中心から西側に幅29~48cmで北東隅までのが、そこから西壁に沿って1.6m、床面からの高さ24~33cmを測るL字を呈するベッド状遺構がみられる。住居の中央に南北に通した土層断面用のベルトで、中央から南側に床直上で長さ90cm、厚さ4cmの炭化物を含む暗褐色土が確認された。焼土は検出されなかつたが、おそらく炉跡であると思われる。貼床は検出されなかつた。

遺物の出土量は多く、弥生土器の甕の口縁部と底部、土師器の甕の口縁部と底部・壺の口縁部・高坏の口縁部と脚部・坏の口縁部・鉢の口縁部、須恵器の蓋坏の口縁部・高坏の口縁部などの土器片が出土した。また、丹塗りの壺・高坏・鉢もみられる。石器は、打製石鏃・敲き石・砥石・台石が出土した。

S A-11 (第58・62図)

II区の中央部やや西よりで検出された、方形を呈する住居である。規模は、 $3.25 \times 4.27\text{m}$ 、検出面から床面までの深さは13cmを測る。柱穴は2個で、径15~37cm、深さ16~30cmを測る。貼床や炉跡は検出されなかつた。遺物は、土師器の甕の刻目突帶部の土器片1点のみである。

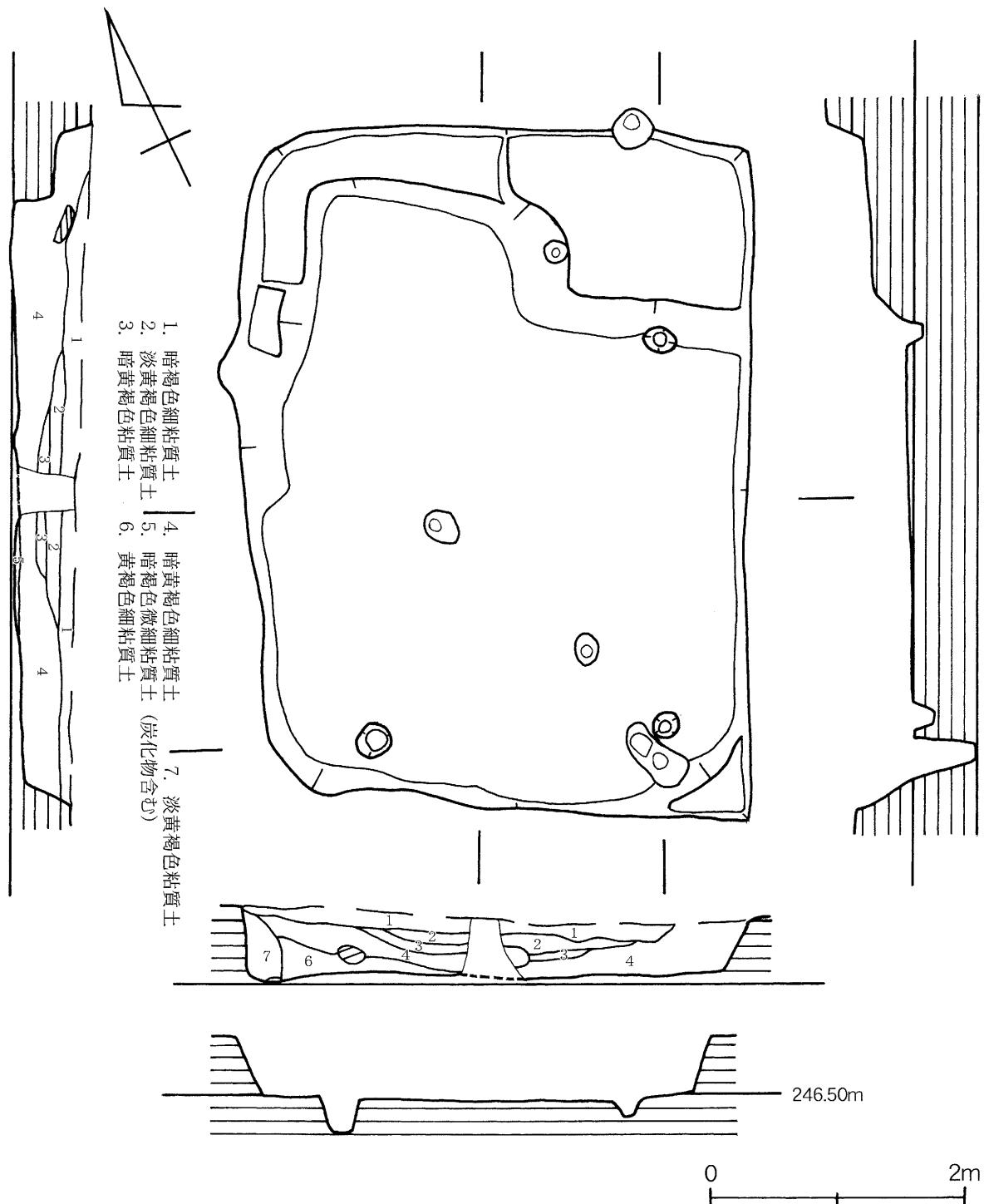


第56図 S A-08 遺構実測図

S A - 12 (第63・64・65図)

II区の中央部南側で検出された、方形を呈する住居である。規模は、 $5.71 \times 6.43m$ 、検出面から床面までの深さは31cmを測る。柱穴は4個で、径26~43cm、深さ39~43cmを測る。貼床や炉跡は検出されなかった。

遺物の出土量は多く、土師器の甕の口縁部や底部・壺の口縁部・高坏の口縁部や脚部・鉢の口縁部、須恵器の高坏の脚部などの土器片が出土した。土師器は丹塗りの壺や高坏も出土した。また、



第57図 S A - 10 遺構実測図

鉄鏃の茎部も1点出土した。

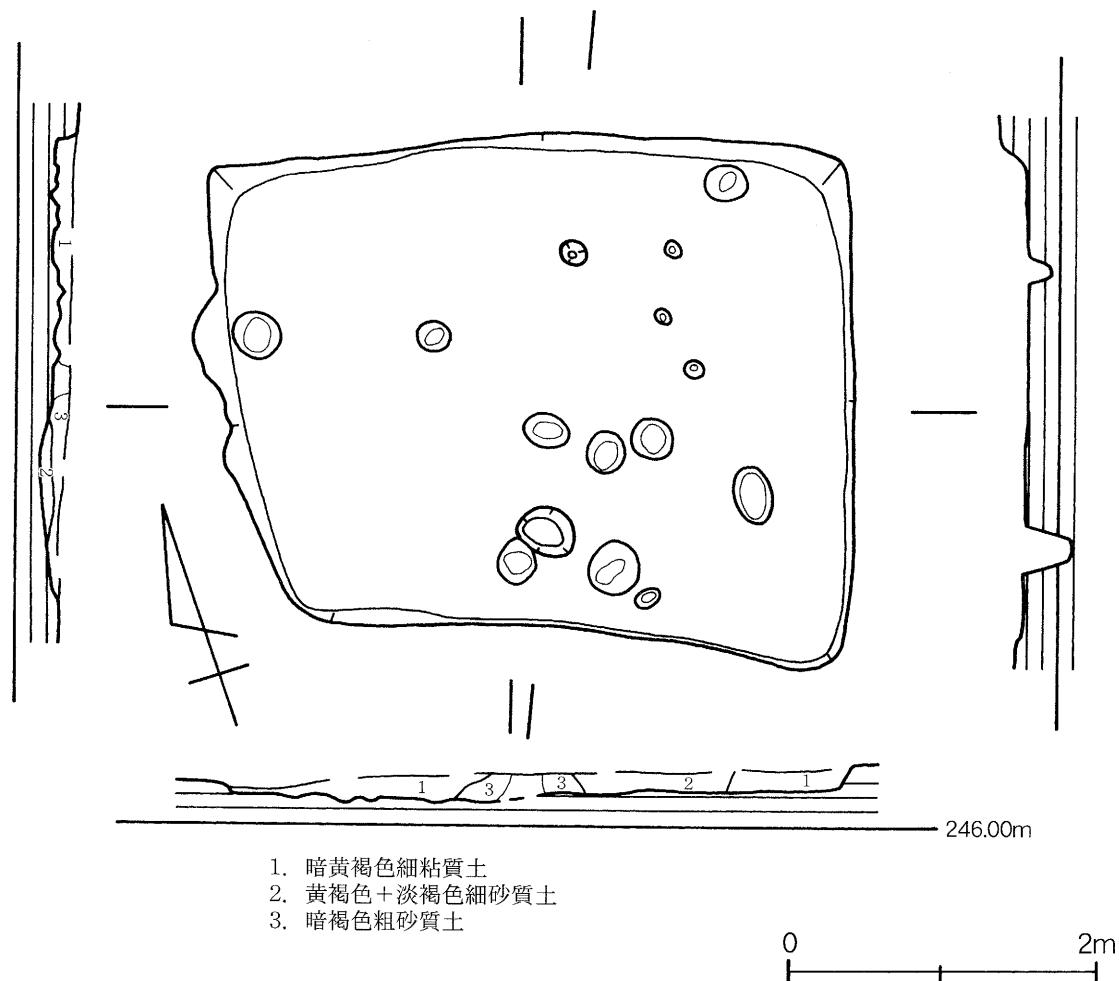
S A-13 (第66・68図)

II区の南部西側で検出された、方形を呈する住居である。規模は、 $2.79 \times 3.91\text{m}$ 、検出面から床面までの深さは30cmを測る。柱穴は4個で、径19~39cm、深さ7~19cmを測る。住居の北・南側にはベッド状遺構が見られ、北側は、北東隅から長さ1.55m、幅20~33cm、床面からの高さ8~18cmを測り、南側は、南東隅から長さ2.44m、幅2~38cm、床面からの高さ11cmを測る。住居の中央やや南西よりに、長径79cm、短径72cm、深さ11cmの楕円形を呈する掘り込みが検出され、焼土は確認されなかったが、黒色の炭化物が確認されたことから、この掘り込みは炉跡であると思われる。

遺物は少なく、弥生土器の甕の口縁部と底部、土師器の高坏の口縁部と脚部・鉢・台付鉢などの土器片が出土した。鉢は完形品が出土しており、口径12.6cm、器高4.7cmを測る。

S A-15 (第67・68図)

II区の南部中央やや西側で検出された、方形を呈する住居である。規模は、 $3.15 \times 3.55\text{m}$ 、検出面から床面までの深さは31cmを測る。柱穴は3個で、径20~31cm、深さ30~41cmを測る。住居中央部からやや北西の部分で炭化した木材が床直で検出されたが、掘り込みなどは検出されなかった。



第58図 S A-11 遺構実測図

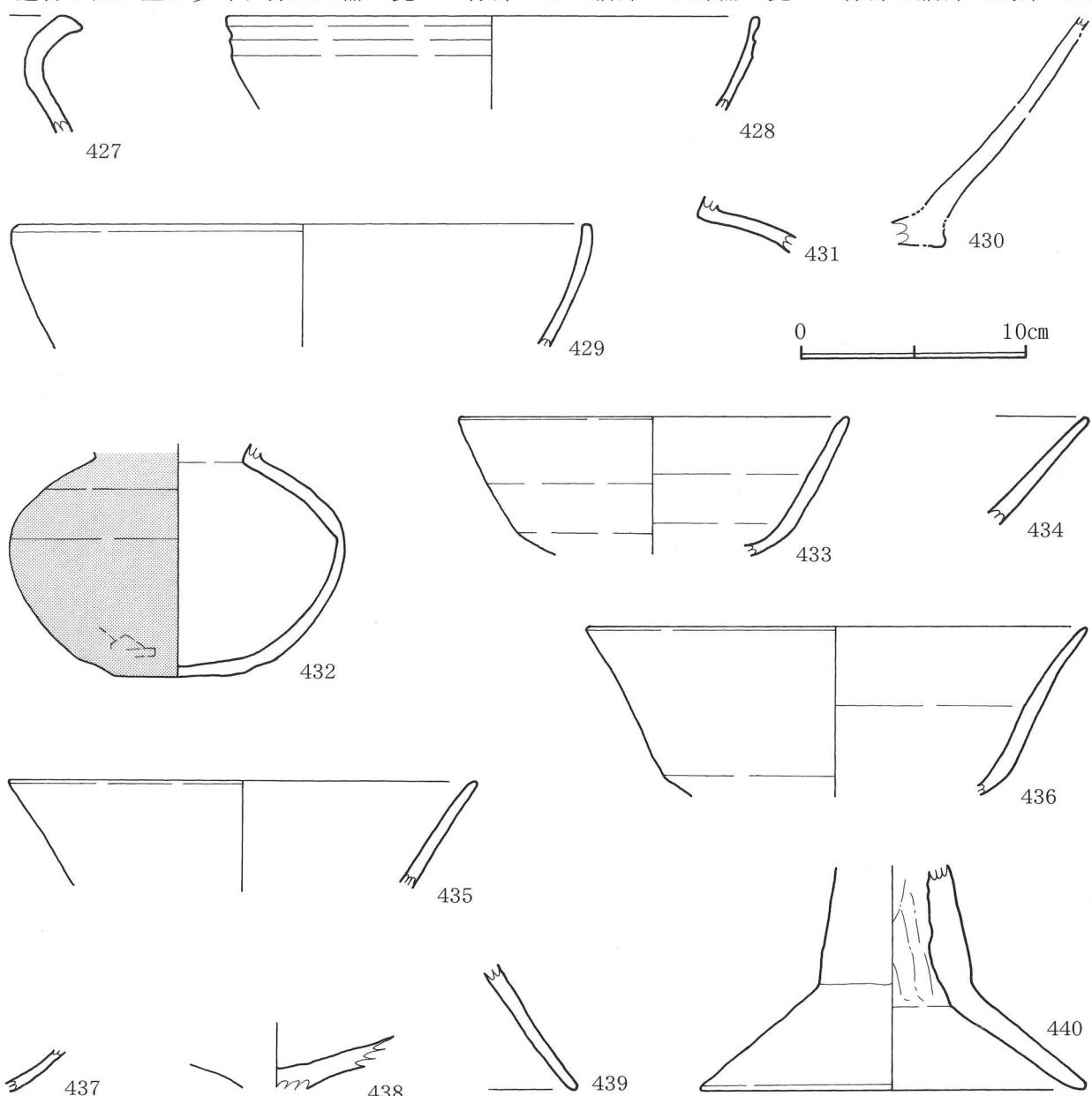
貼床は検出されなかった。

遺物は少なく、弥生土器の甕の口縁部・壺の胴部、土師器の甕の口縁部・壺の頸部・高坏の坏部と脚部・壺の底部などの土器片が出土した。また、丹塗りの壺・高坏や角坏状土器の底部が出土した。石器は、溶結安山岩製の磨石と敲き石が出土した。

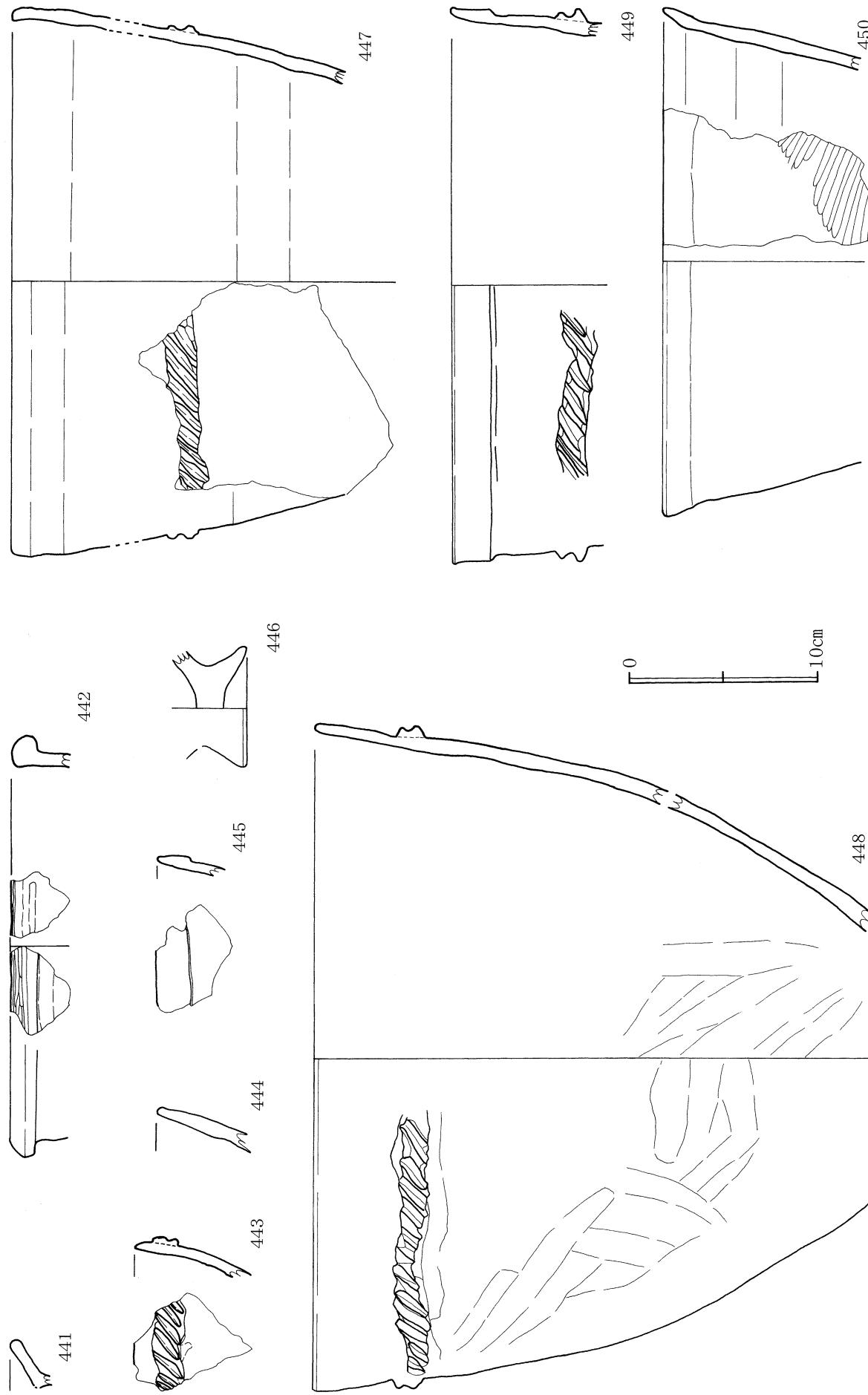
S A-16 (第69・70・71図)

II区の南部中央で検出された、方形を呈する住居である。規模は、 $4.95 \times 5.09m$ 、検出面から床面までの深さは39~43cmを測る。柱穴は3個で、径19~40cm、深さ8~25cmを測る。貼床が施されており、厚さは5~12cmを測る。住居の中央部には、長径79cm、短径71cm、深さ9cmを測る、橢円形を呈する掘り込みが検出された。焼土は確認されなかったが、埋土は炭化物を含んだ黒褐色土であることから、この掘り込みは炉跡と思われる。

遺物の出土量は多く、弥生土器の甕の口縁部・壺の胴部、土師器の甕の口縁部と胴部と底部・壺

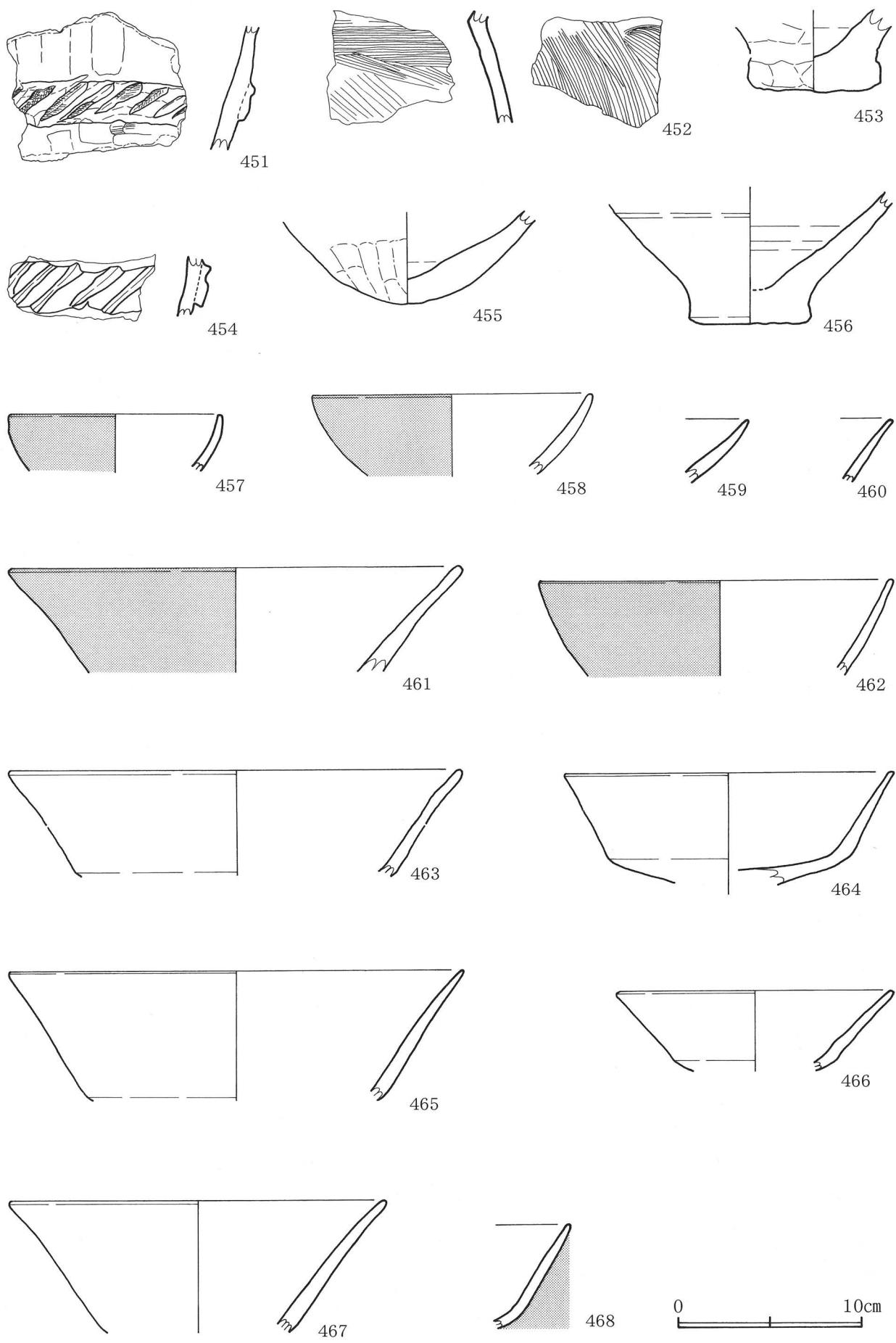


第59図 S A - 08 出土遺物実測図



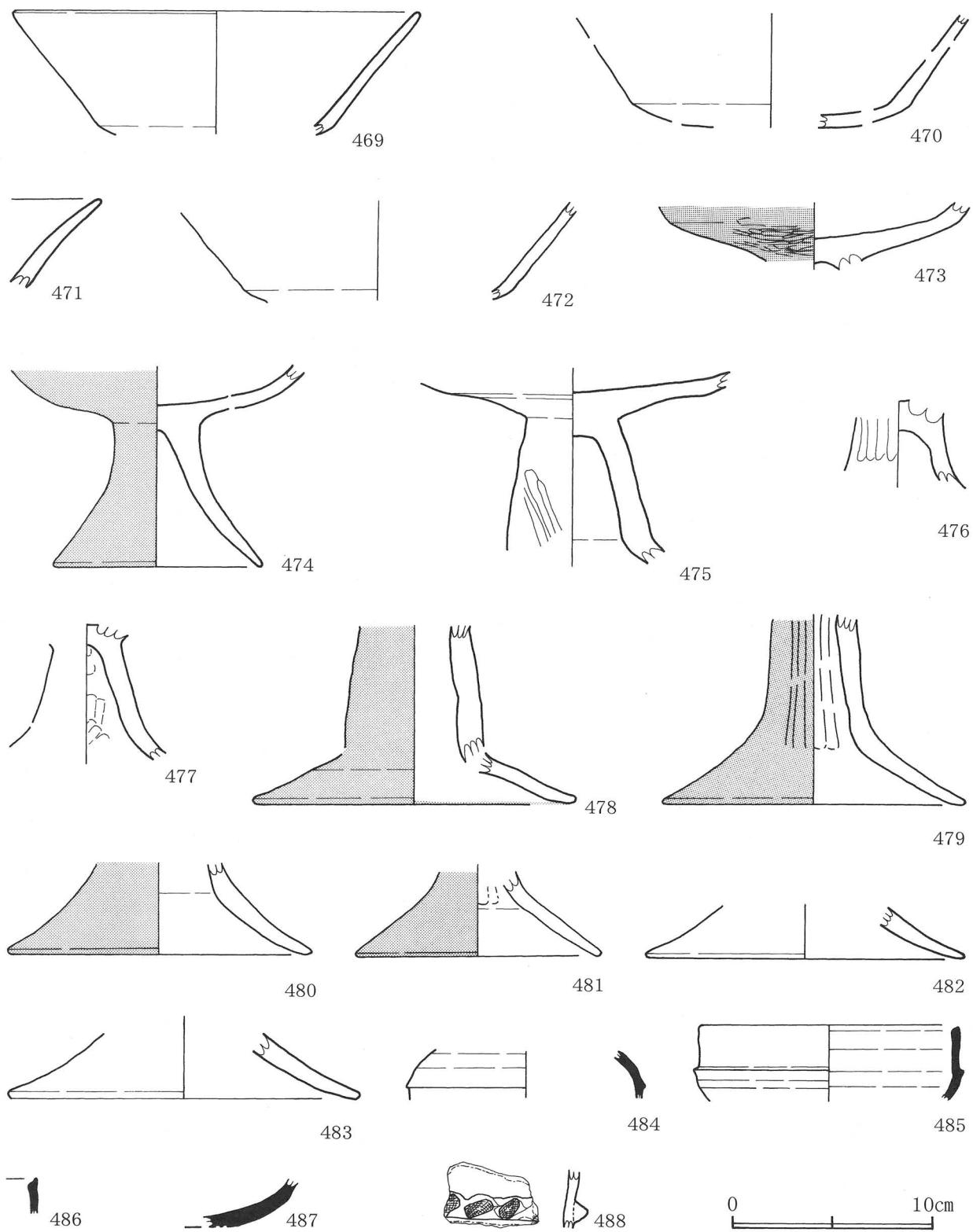
第60図 SA-10 出土遺物実測図 (1)

441~443・445・447~450: SA-10-444・446・SA-10-447内



第61図 SA-10 出土遺物実測図 (2)

451~453・455~468:SA-10,454:SA-10・ベルト内



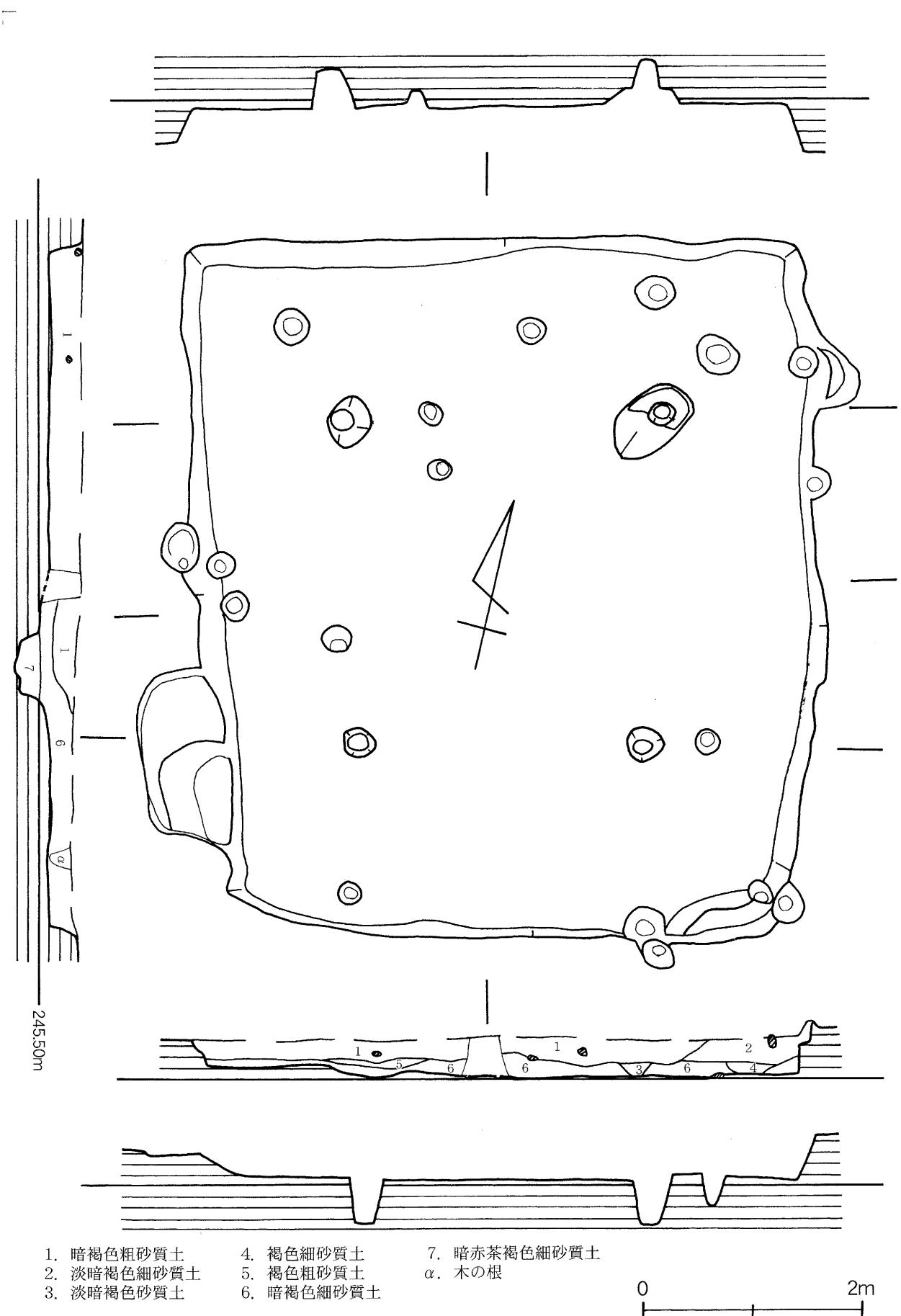
第62図 SA-10・11 出土遺物実測図

469~487:SA-10,488:SA-11

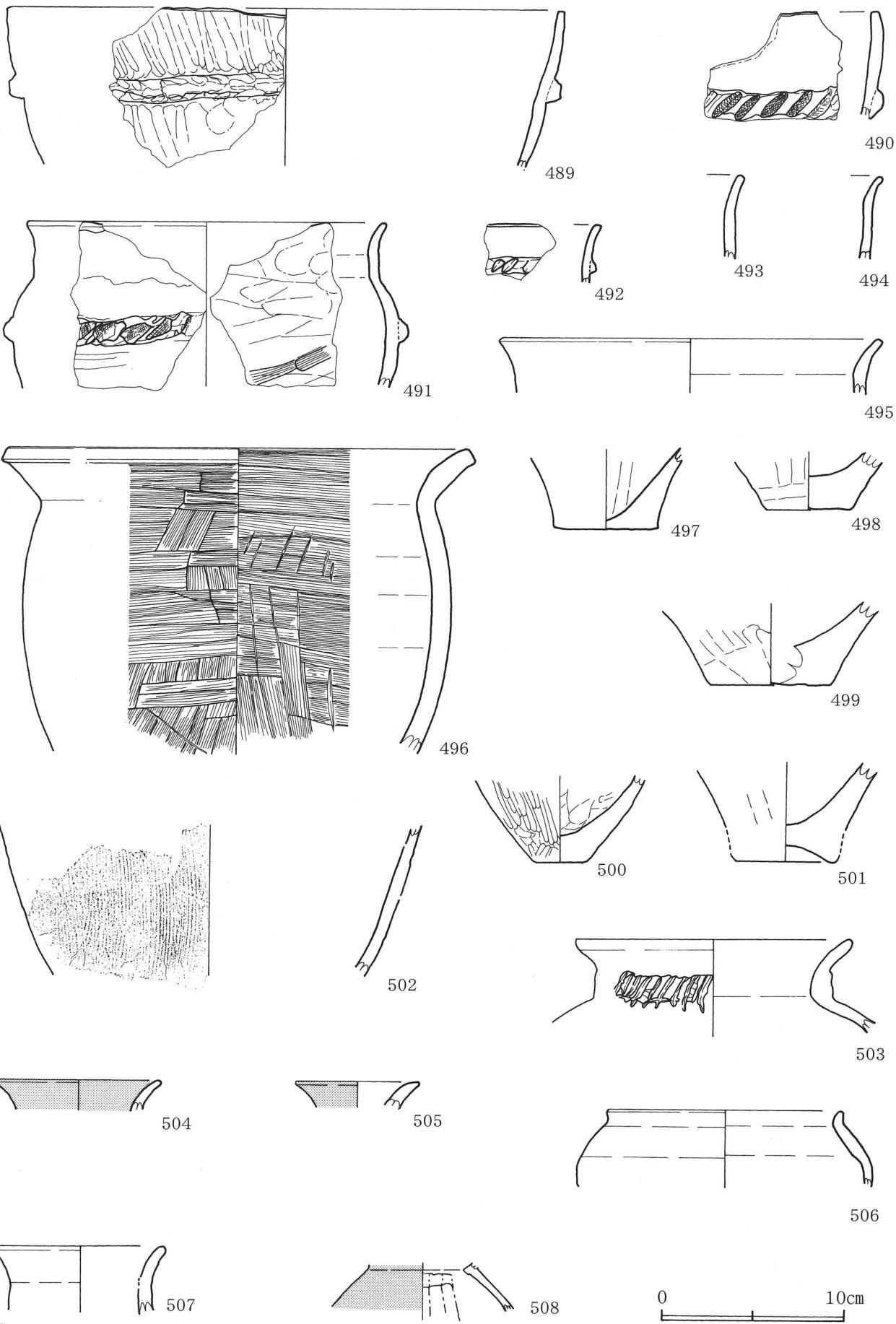
の口縁部と頸部と胴部と底部・高壺の口縁部と脚部・鉢などの土器片が出土しており、土師器では、丹塗りの壺や高壺も出土した。石器では、磨製石鏃1点と剣型垂飾品と思われるものが出土した。

S A - 19 (第72・73図)

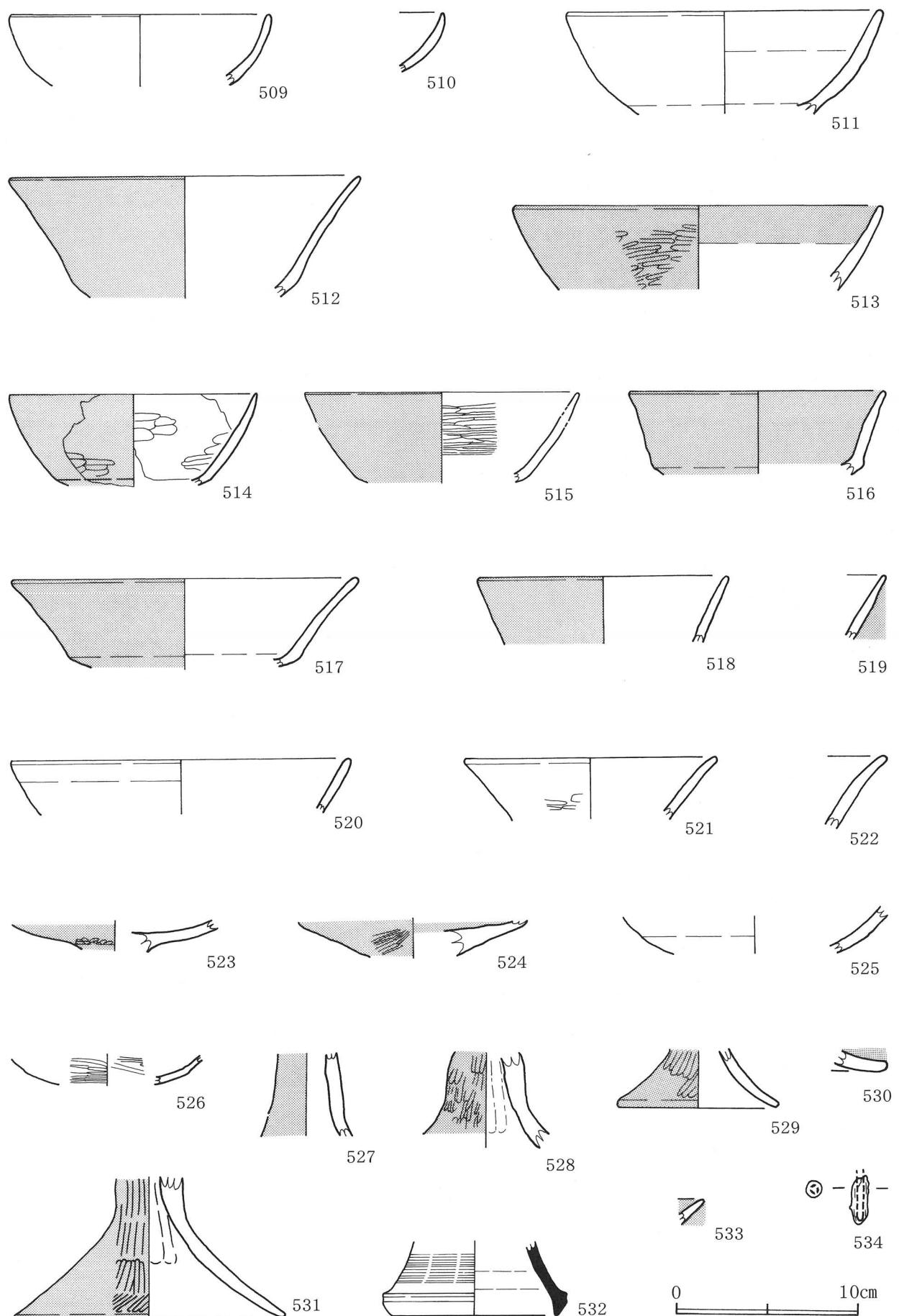
II区の北部東側で検出された、S A - 18を切っている、方形を呈する住居である。規模は、2.88×3.21m、検出面から床面までの深さは39cmを測る。柱穴は2個で、径31~34cm、深さ28~31cmを



第63図 S A - 12 遺構実測図



第64図 SA-12 出土遺物実測図 (1)



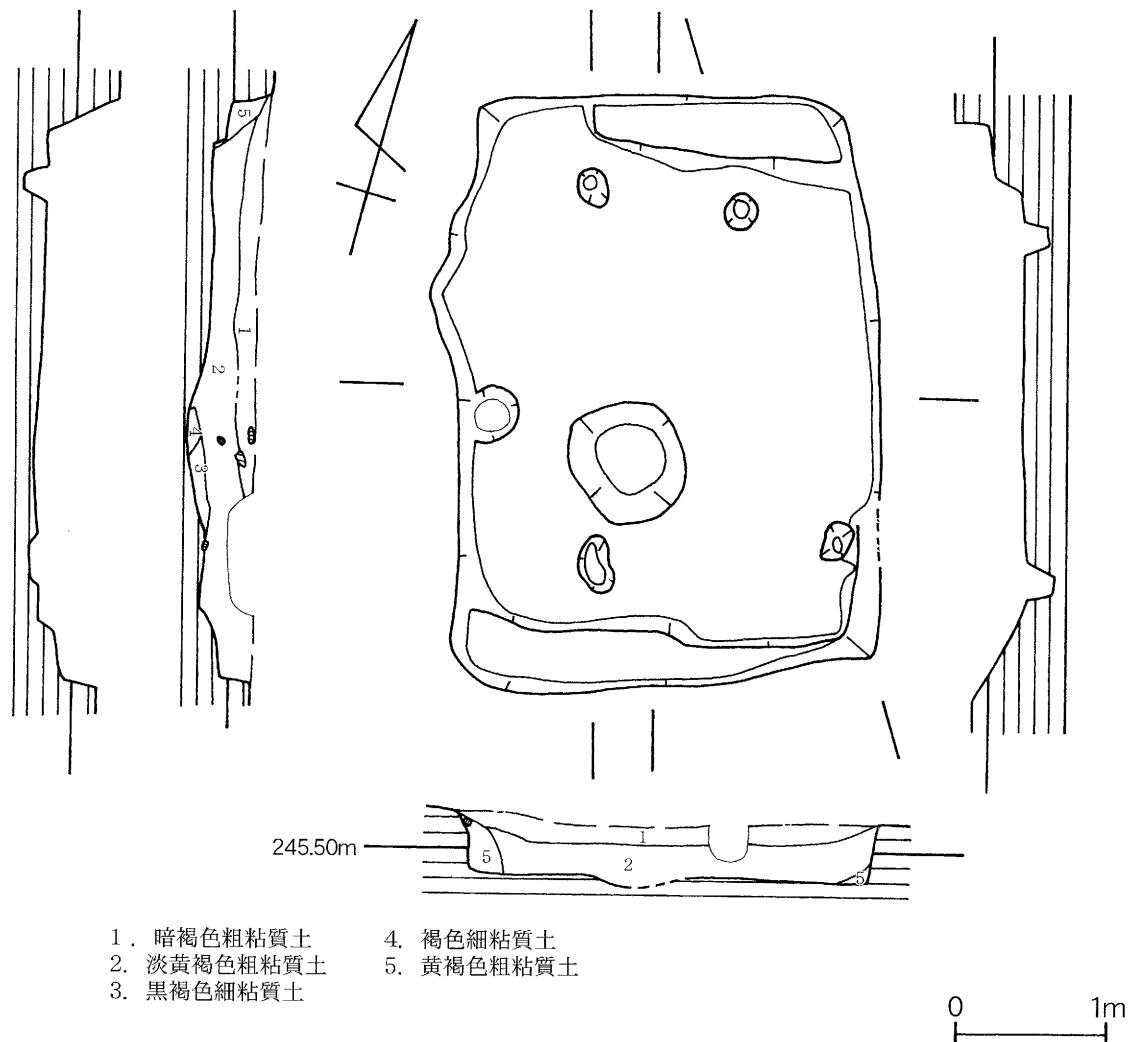
第65図 SA-12 出土遺物実測図 (2)

測る。貼床は検出されず、住居の中央部には、掘り込みは検出されなかつたが、土層断面用のベルトで、床直上で炭化物を含んだ黒褐色土が確認されたことから、炉跡があったと思われる。規模は、東西幅1.15mで、南北幅は、土坑と柱穴によって切られているため不明である。

遺物は、弥生土器の甕の口縁部、土師器の甕の口縁部・壺の口縁部・高坏の口縁部と脚部・鉢の口縁部・台付鉢の脚部などの土器片が出土しており、土師器の甕の611は住居の中央部やや北東よりのところで、床直上で出土したものである。また、丹塗りの高坏や鉢も出土している。石器は、溶結安山岩製の台石が出土した。

S A -20 (第74・77・78・79図)

II区の中央部東側、S A -21を切る形で検出された、方形を呈する住居である。規模は、3.92×4.61m、検出面から床面までの深さは41cmを測る。柱穴は2個で、径21～33cm、深さ21～22cmを測る。貼床が施されており、厚さ9～13cmを測る。住居の中央では、土層断面で炭化物を含んだ黒褐色土が貼床直上に確認された。掘り込みの肩はみられなかつたが、炉跡と思われる。規模は、径91



第66図 S A -13 遺構実測図

cmを測る。

遺物の出土量は多く、弥生土器の甕の口縁部と底部、土師器の甕の口縁部と底部・壺の口縁部と底部・高坏の口縁部と脚部・鉢の口縁部、須恵器の甕の胴部などの土器片が出土しており、土師器では丹塗りの甕・壺・高坏・鉢も出土した。また、鉢の完形品が出土しており、口径5.8cm、器高5.1cmを測る。石器では、刃器1点と溶結安山岩製の台石が出土しており、台石は熱を受けた跡がみられる。

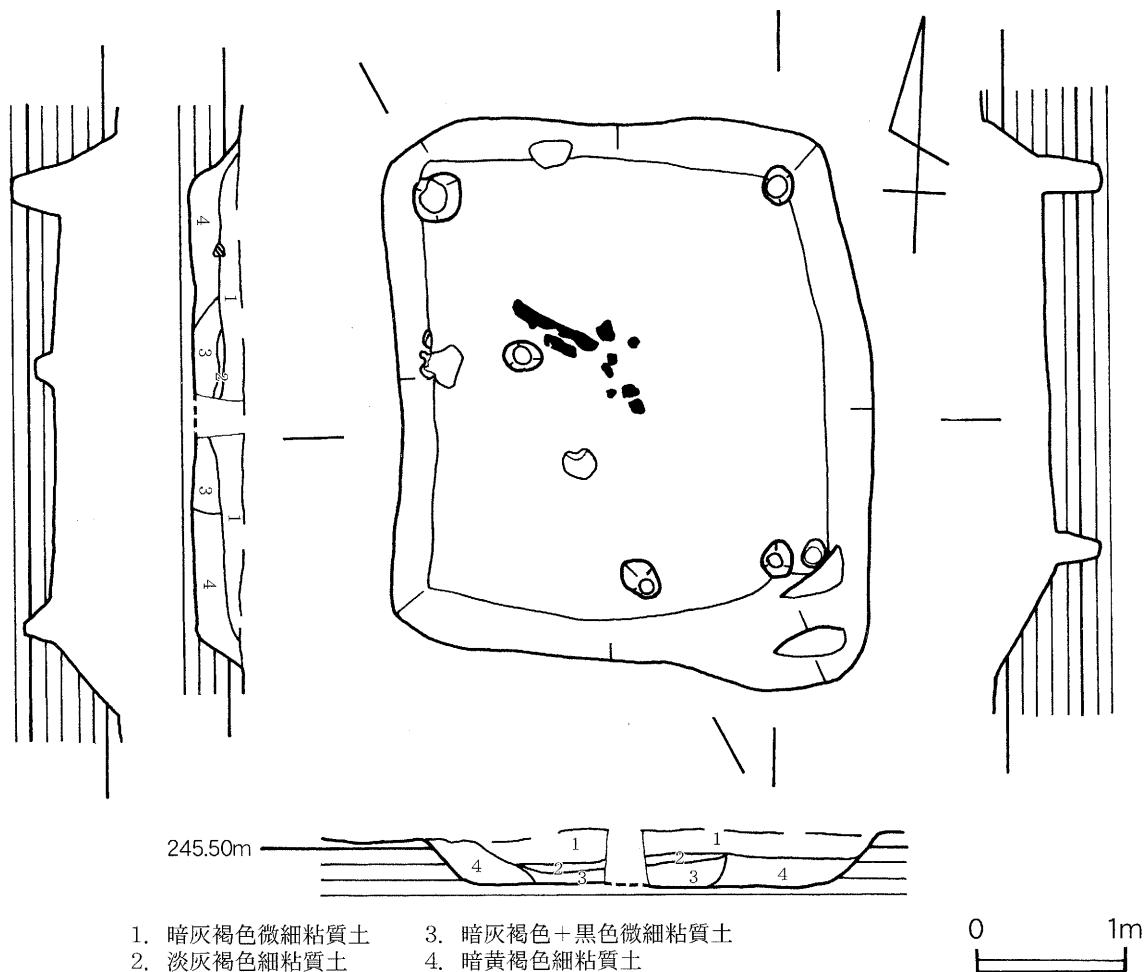
S A-22 (第75・79図)

II区の中央部東側で検出された、S A-23・33と切り合っている方形を呈する住居である。規模は、3.29×3.61m、検出面から床面までの深さは26cmを測る。柱穴は2個で、径22~29cm、深さ31~41cmを測る。貼床が施されており、厚さ3~13cmを測る。炉跡は検出されなかった。

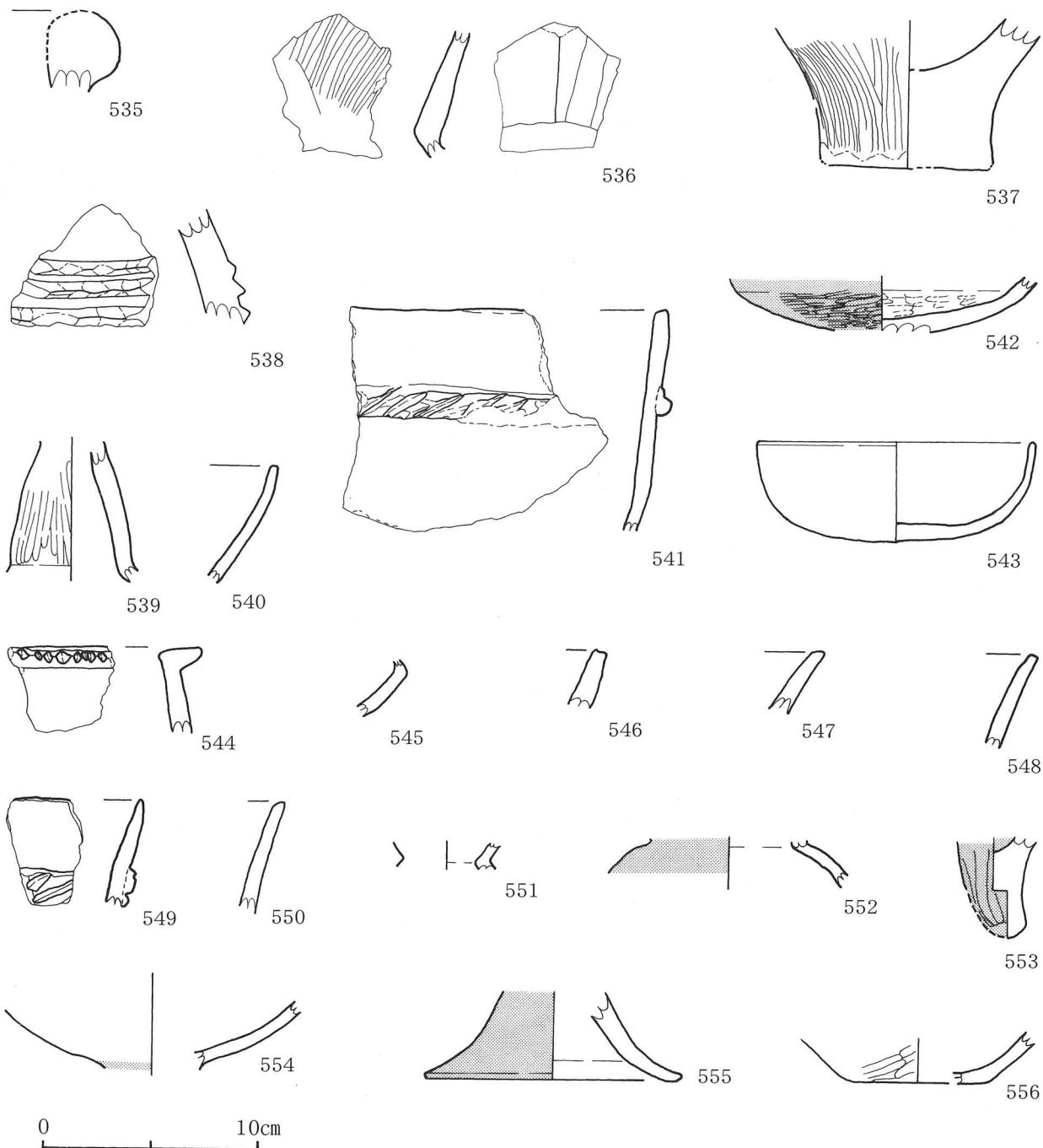
遺物の出土量は少なく、土師器の甕の口縁部・壺の口縁部と肩部・高坏の脚部などの土器片が出土しており、丹塗りの壺がみられる。石器は、剣型垂飾品の未製品と思われるものが1点出土した。

S A-23 (第75・80図)

II区の中央部東側で検出された、S A-22と切り合っている方形を呈する住居である。規模は、



第67図 S A-15 遺構実測図



第68図 SA-13・15 出土遺物実測図

535・537～543: SA-13, 536: SA-13・ベルト内, 544～545・547～555: SA-15, 546・556: SA-15・ベルト内

2.39×2.54m、検出面から床面までの深さは19cmを測る。柱穴は2個で、径30～37cm、深さ7～53cmを測る。貼床と炉跡は検出されなかった。

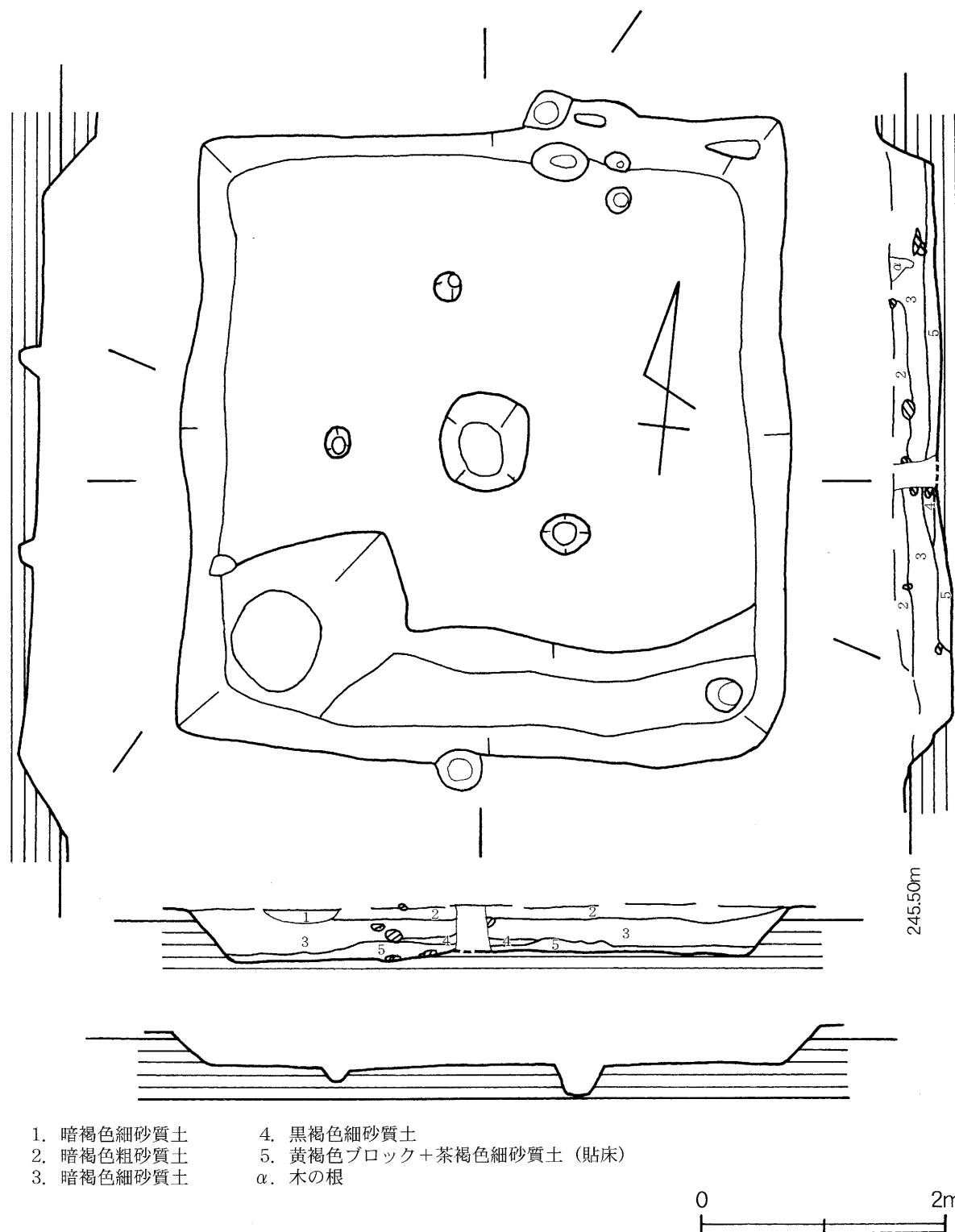
遺物の出土量は少なく、弥生土器の甕の胴部、土師器の甕の口縁部・壺の口縁部・高坏の口縁部・鉢の口縁部や脚部などの土器片が出土しており、丹塗りの壺・高坏・鉢も出土した。石器は、打製石鏃未製品1点、磨製石鏃1点、台石が1点出土した。

SA-24 (第76・80・81図)

II区の中央部南側やや東よりで検出された、方形を呈する住居である。規模は、3.81×3.91m、検出面から床面までの深さは30cmを測る。柱穴は6個で、径15～36cm、深さ7～71cmを測る。貼床は検出されなかったが、住居中央には、長径98cm、短径61cm、深さ9cmを測る不整形を呈する掘り

込みがあり、埋土は炭化物を含んだ黒褐色土が確認されたため、この掘り込みは炉跡と思われる。

遺物は、弥生土器の甕の胴部、土師器の甕の口縁部と底部・壺の口縁部・高坏の口縁部と脚部などの土器片が出土しており、土師器は丹塗りの壺・高坏もみられる。また、714は帶金具もしくは

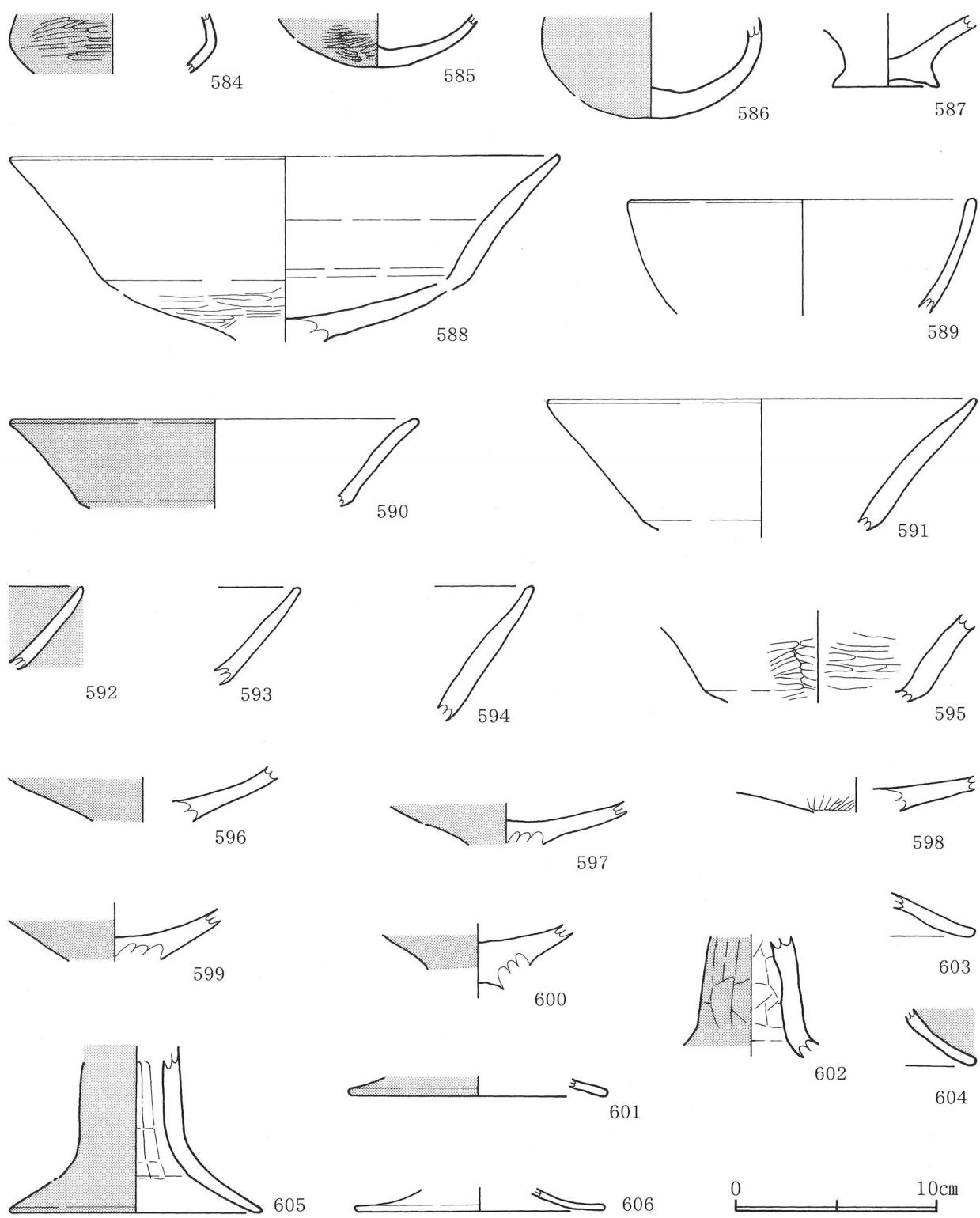


第69図 SA-16 遺構実測図



第70図 SA-16 出土遺物実測図 (1)

557~559~562~564~566~568~569~571~573~575~576~579~580~582:SA-16.555~567~574:SA-16・上層.563~581~583:SA-16・中層.570~572~578:SA-16・ベルト内.577:SA-16・下層



第71図 SA-16 出土遺物実測図 (2)

584~586・588~590・592~594・596~600・602~604・606:SA-16, 587・591・
595・605:SA-16・ベルト内, 601:SA-16・中層

馬具と思われる鉄製品で、現存で角に3箇の孔が確認できる。X線写真撮影を行ったところ、孔に5mmほど残っているものは、X線を透過せず黒く残っていたため、この物質は、鉄ではなく、X線を透過しない別の物質であることが判明したが、物質そのものは不明である。石器は、硬砂岩製の石斧を転用した刃器未製品1点と粘板岩製の剣型模造品と思われるもの1点、溶結安山岩製の台石1点が出土した。

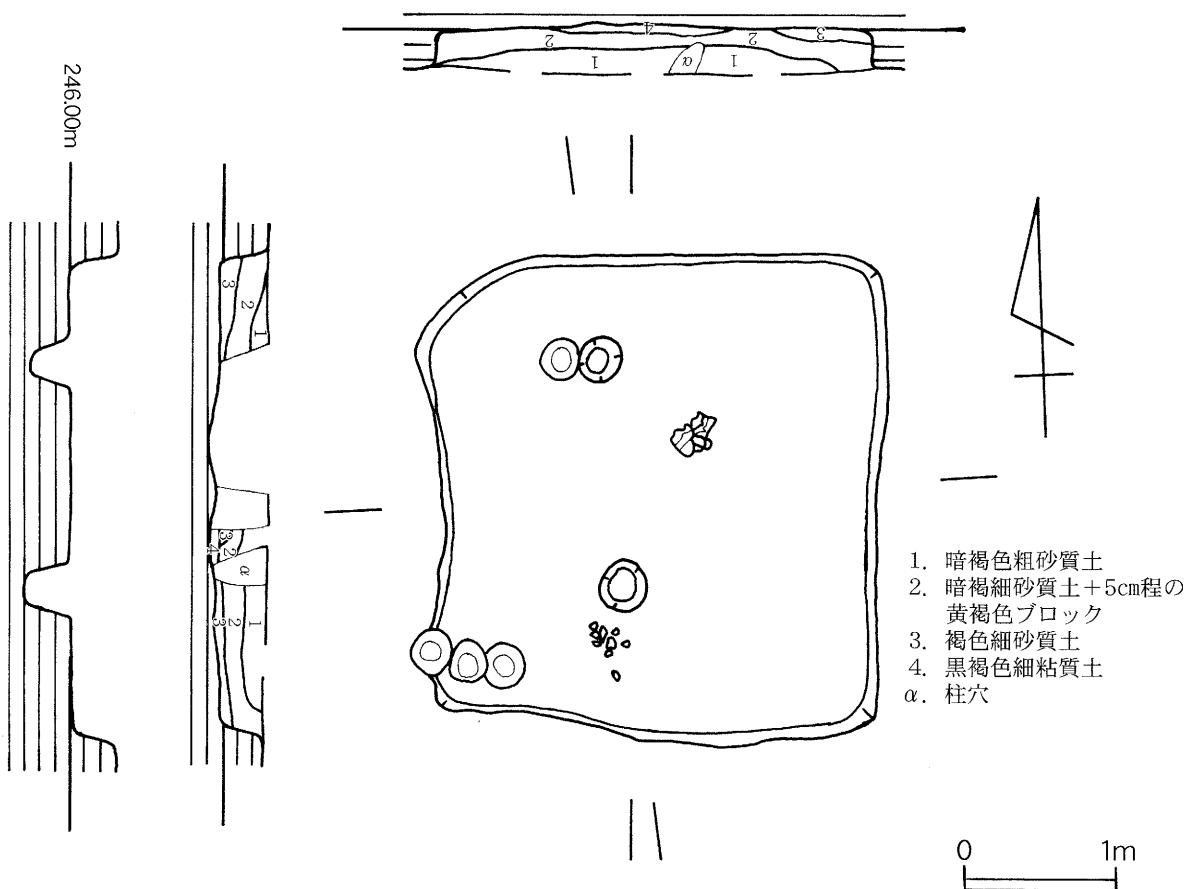
S A-25 (第82・88図)

II区の中央部やや南よりで検出された、方形を呈する住居である。規模は、 4.18×4.41 m、検出面から床面までの深さは8~12cmを測る。柱穴は4個で、径15~22cm、深さ19~39cmを測る。貼床が施されており、厚さ12~20cmを測る。住居中央には、径68cm、深さ16cmの貼床から掘り込まれた掘り込みがあり、埋土は炭化物を含んだ黒褐色土が確認されたため、この堀込みは炉跡と思われる。

遺物の出土量は少なく、弥生土器の甕の口縁部と胴部・壺の胴部、須恵器の甕の口縁部などの土器片と粘板岩製の石包丁、溶結安山岩製の台石が出土した。

S A-26 (第83・88図)

II区の東部中央やや南側の拡張部で検出された、方形を呈する住居である。規模は、 3.23×4.21 m、検出面から床面までの深さは18cmを測る。柱穴は5個で、径14~33cm、深さ5~12cmを測る。住居の中央部やや南側には、長径73cm、短径66cm、深さ4~6cmの掘り込みがあり、埋土は炭化物を含む黒褐色土であるため、この掘り込みは炉跡と思われる。また、住居の内部の壁際には、幅12~34cm、深さ5~10cmの溝が4辺に廻らされている。



第72図 S A-19 遺構実測図

遺物の出土量は少ないが、住居の西壁際で、土師器の甕が、壁にもたれるような形で出土した。そのほか、土師器の壺の口縁部・高坏の口縁部・鉢の口縁部などの土器片が出土しており、丹塗りの壺・高坏・鉢がみられる。

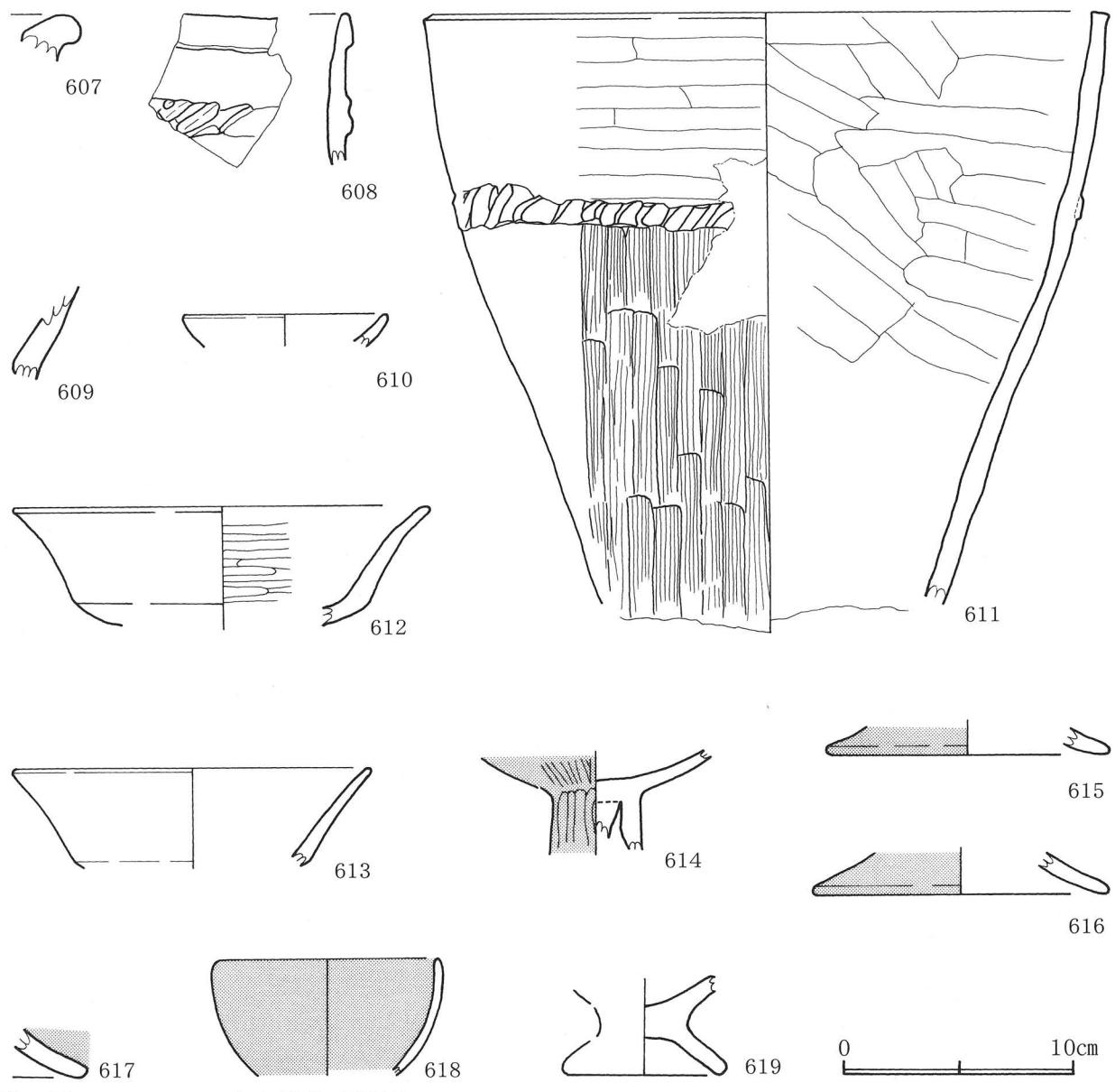
S A-27 (第83図)

II区の南部東側で検出された、中央から西半分が20cmほど長い、方形を呈する住居である。規模は、 $1.57 \times 1.64\text{m}$ 、検出面から床面までの深さ10cmを測る。柱穴・炉跡などは検出されなかった。

遺物は出土していない。

S A-28 (第84・88図)

II区の南部東側で検出された、隅丸方形を呈する住居である。規模は、 $2.61 \times 2.95\text{m}$ 、検出面から床面までの深さは14cmを測る。柱穴は4個で、径12~31cm、深さ13~23cmを測る。貼床や炉跡は検出されず、遺物は弥生土器の壺の口縁部から頸部にかけての破片が出土したのみである。



第73図 S A-19 出土遺物実測図

607・609~611・615~619:SA-19.608・613:SA-19・上層,612・614:SA-19・下層

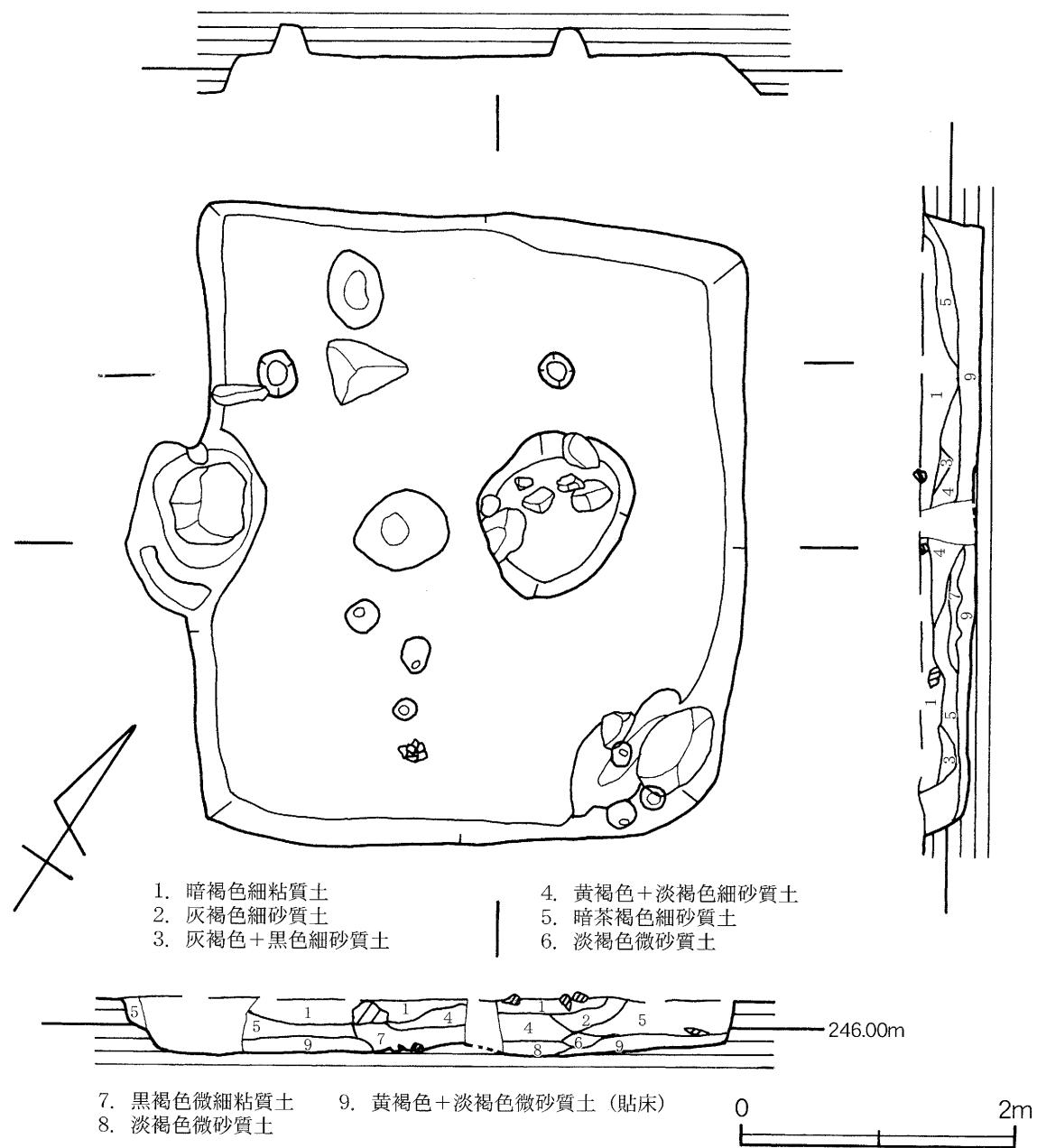
S A - 30 (第85・88・89図)

Ⅲ区の西部中央、Ⅱ区との境目で検出された、南壁の中央から東へ幅1.43mの部分が40cmほど南へ突出した、方形を呈する住居である。規模は、 $2.58 \times 4.34\text{m}$ 、検出面から床面までの深さは20cmを測る。柱穴は3個で、径20~25cm、深さ13~45cmを測る。貼床や炉跡は検出されなかった。

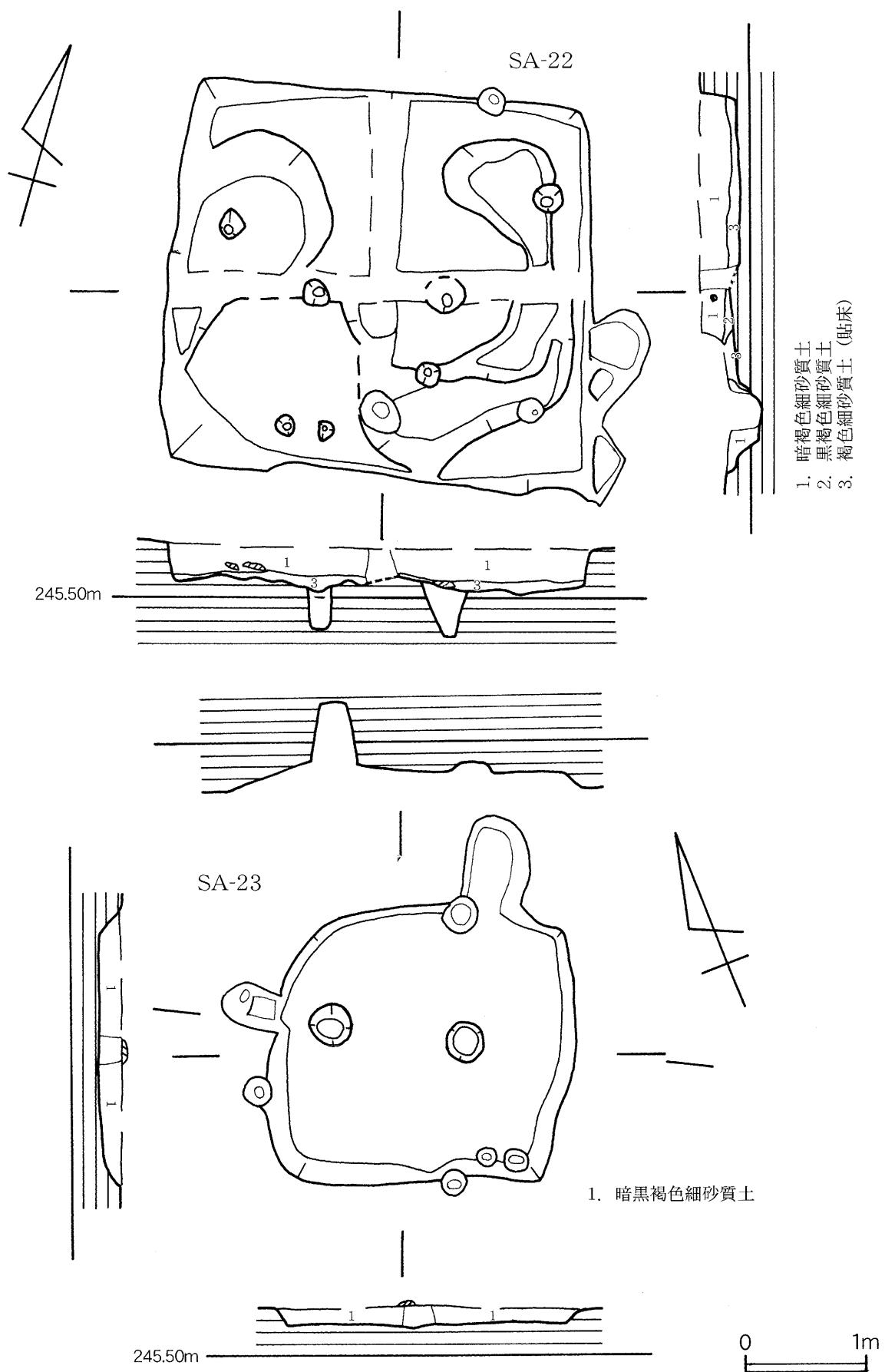
遺物は少なく、弥生土器の甕の口縁部片2点と溶結安山岩製の磨石が1点出土したのみである。

S A - 31 (第85・89図)

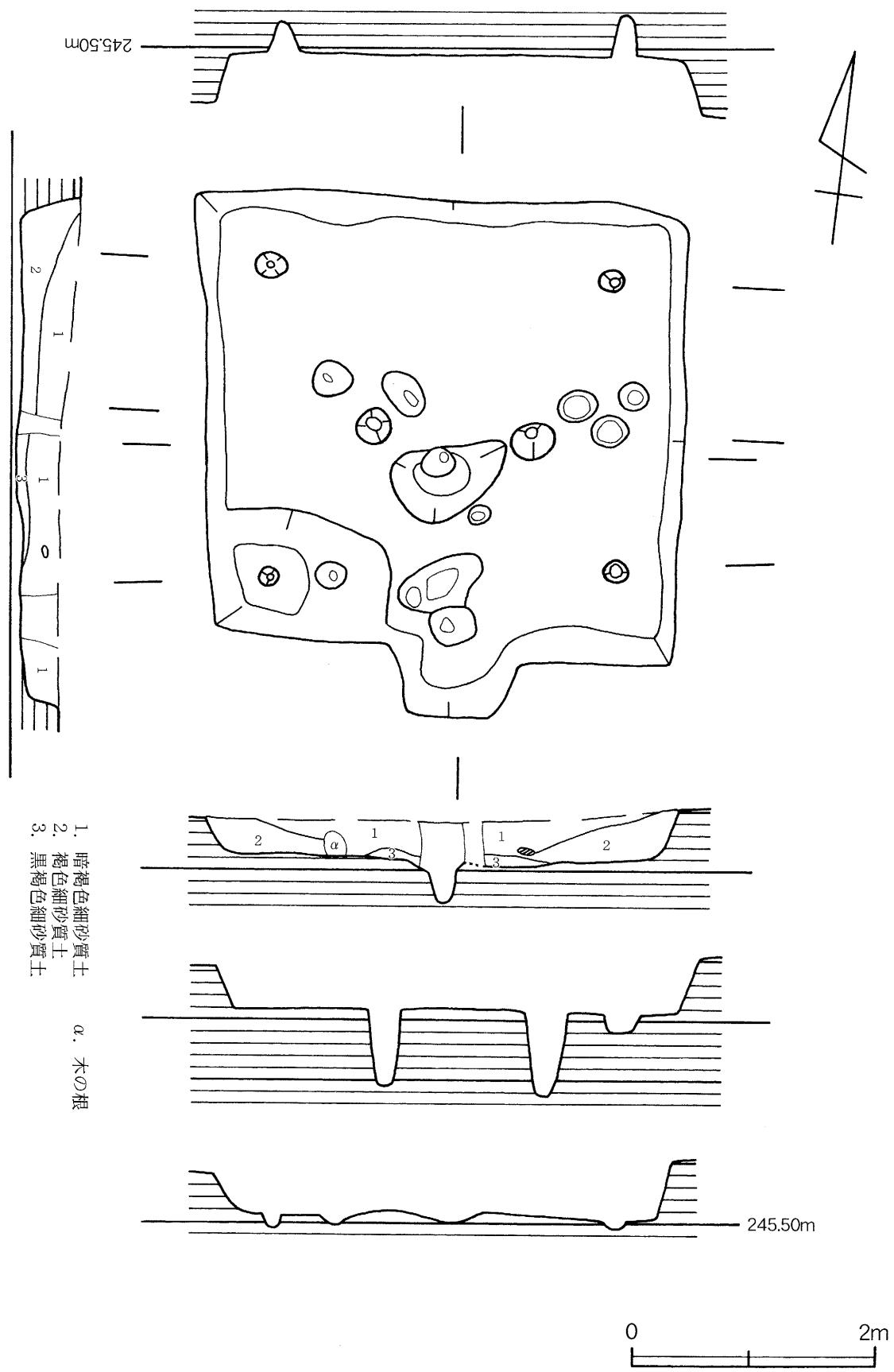
Ⅲ区の南部西側で検出された、方形を呈する住居である。規模は、 $2.22 \times 2.68\text{m}$ 、検出面から床面までの深さは31cmを測る。柱穴は2個で、径25~30cm、深さ22~35cmを測る。貼床と炉跡は検出されなかった。



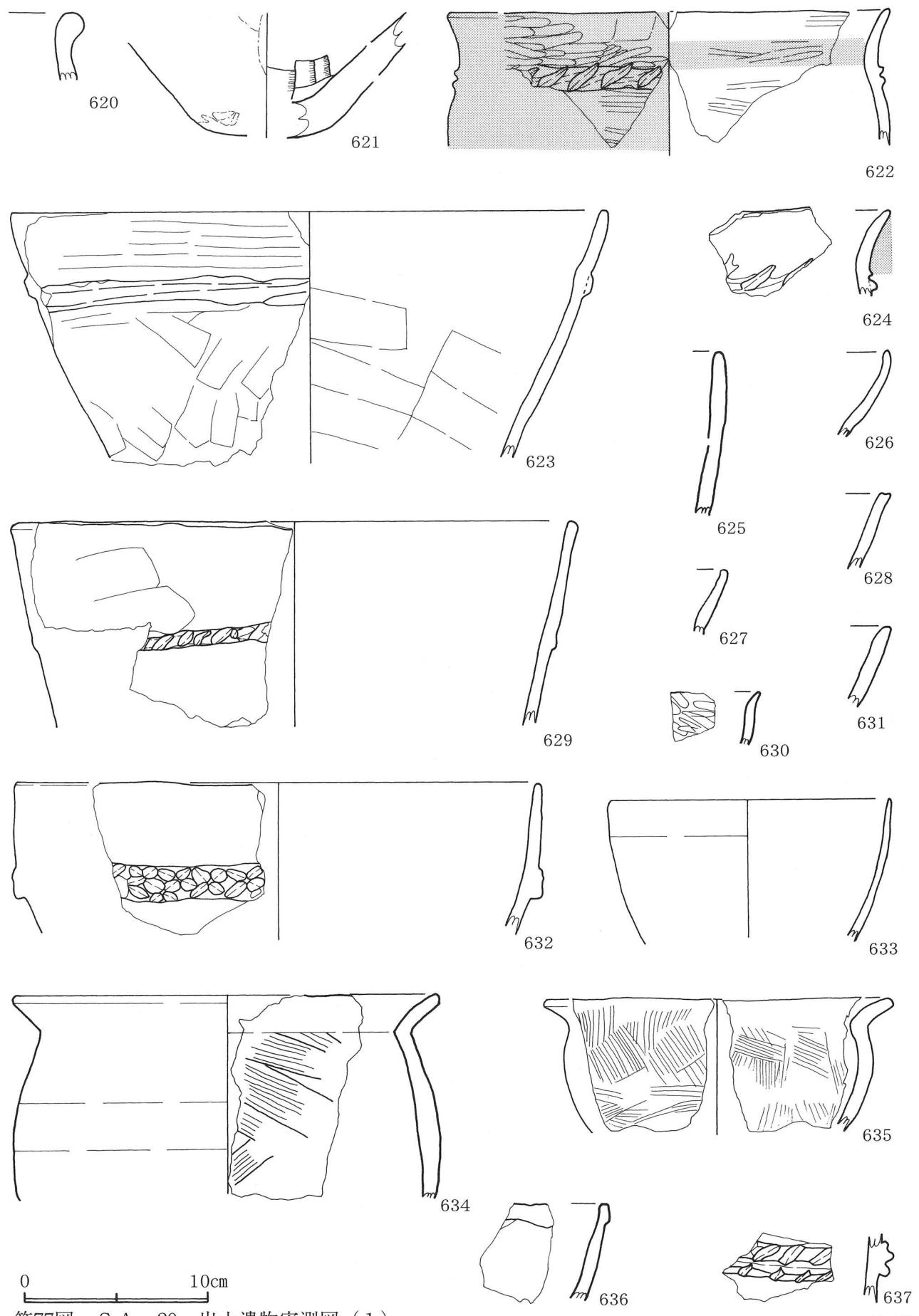
第74図 S A - 20 遺構実測図



第75図 S A - 22・23 遺構実測図

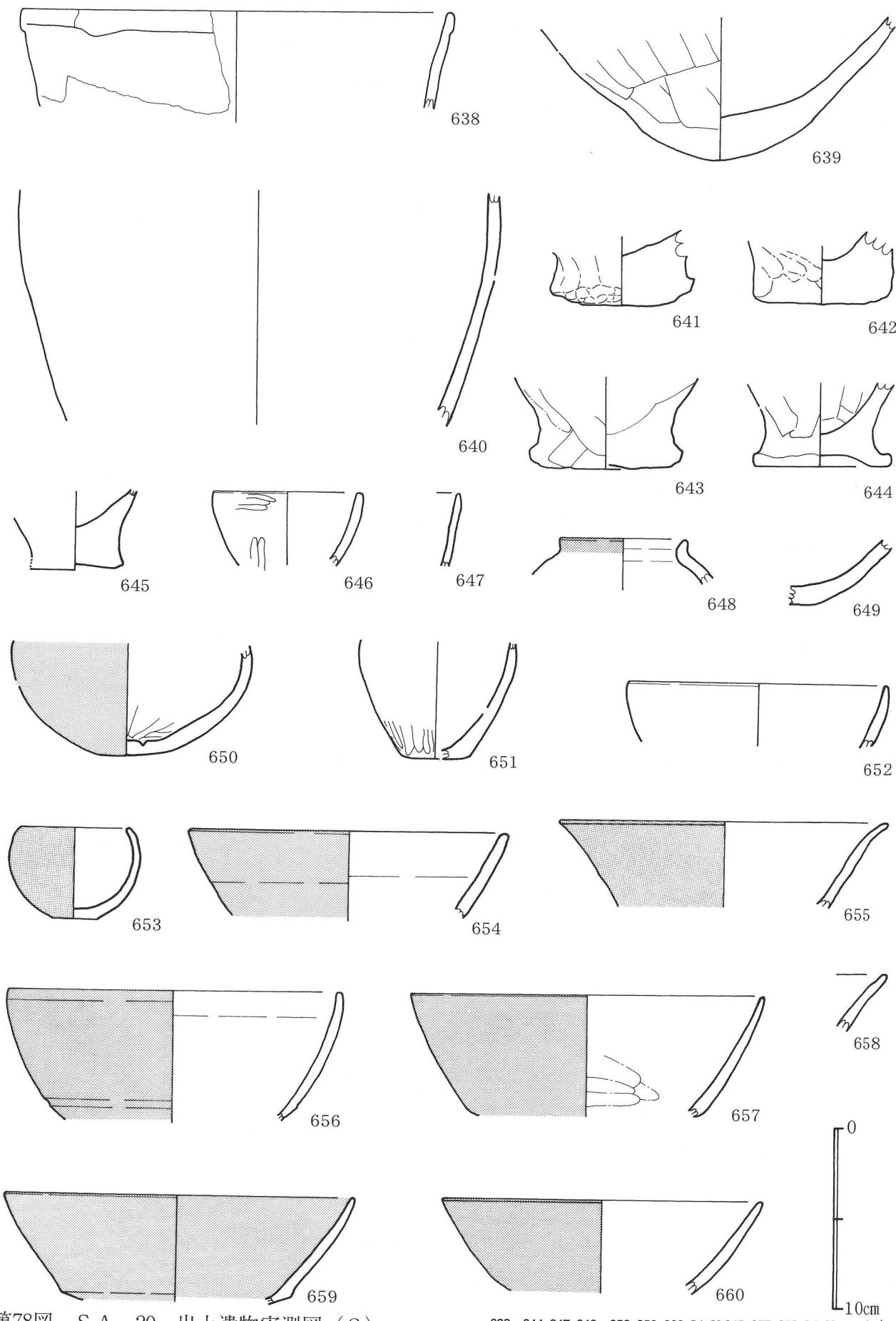


第76図 S A - 24 遺構実測図



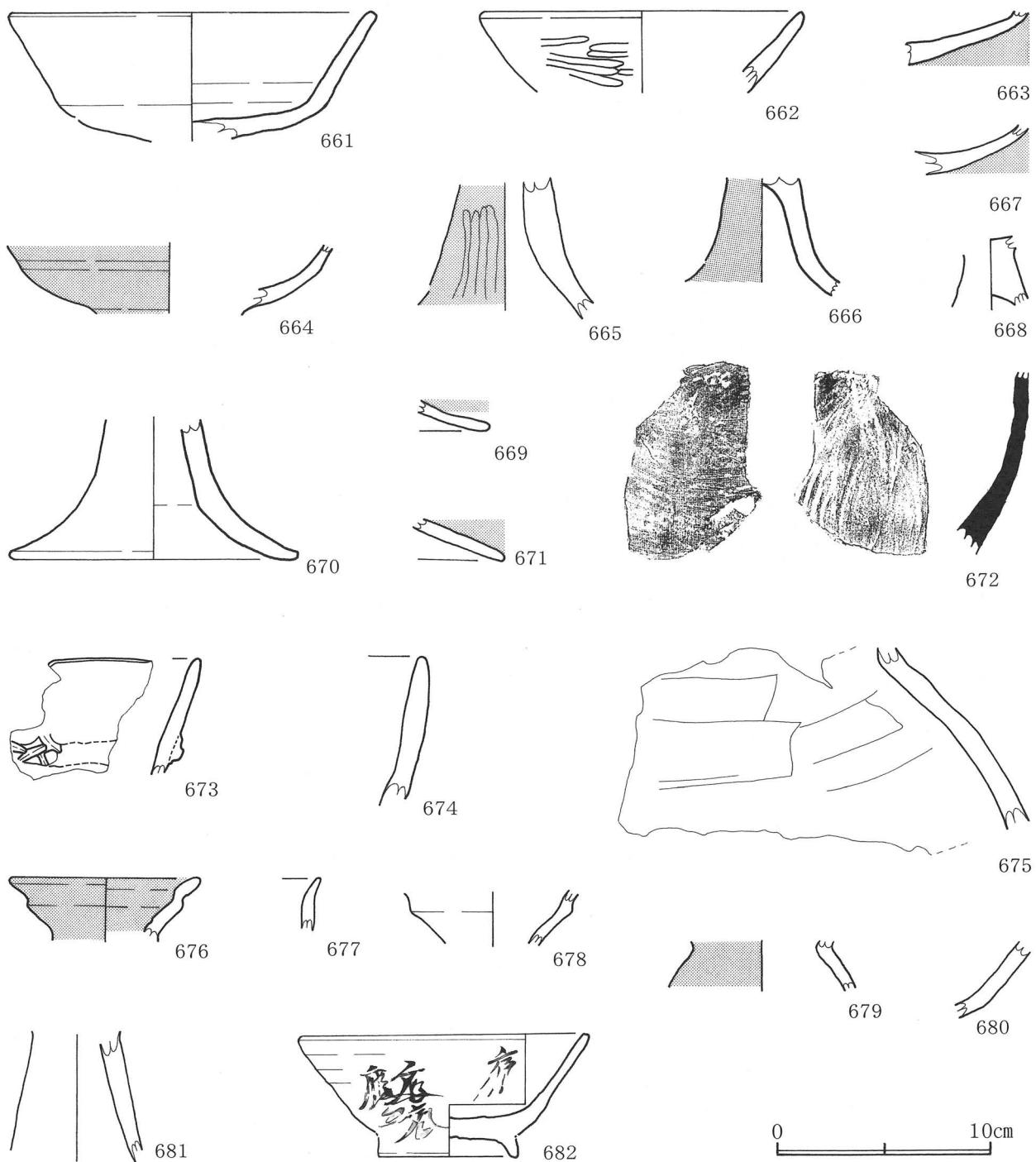
第77図 SA-20 出土遺物実測図 (1)

620~623・625~626・628~637:SA-20.624・627:SA-20・上層



第78図 SA-20 出土遺物実測図 (2)

638~644・647~656・658・660:SA-20,645・657・659:SA-20・ベルト内,
646・648:SA-20・上層



第79図 SA-20 · 22 出土遺物実測図

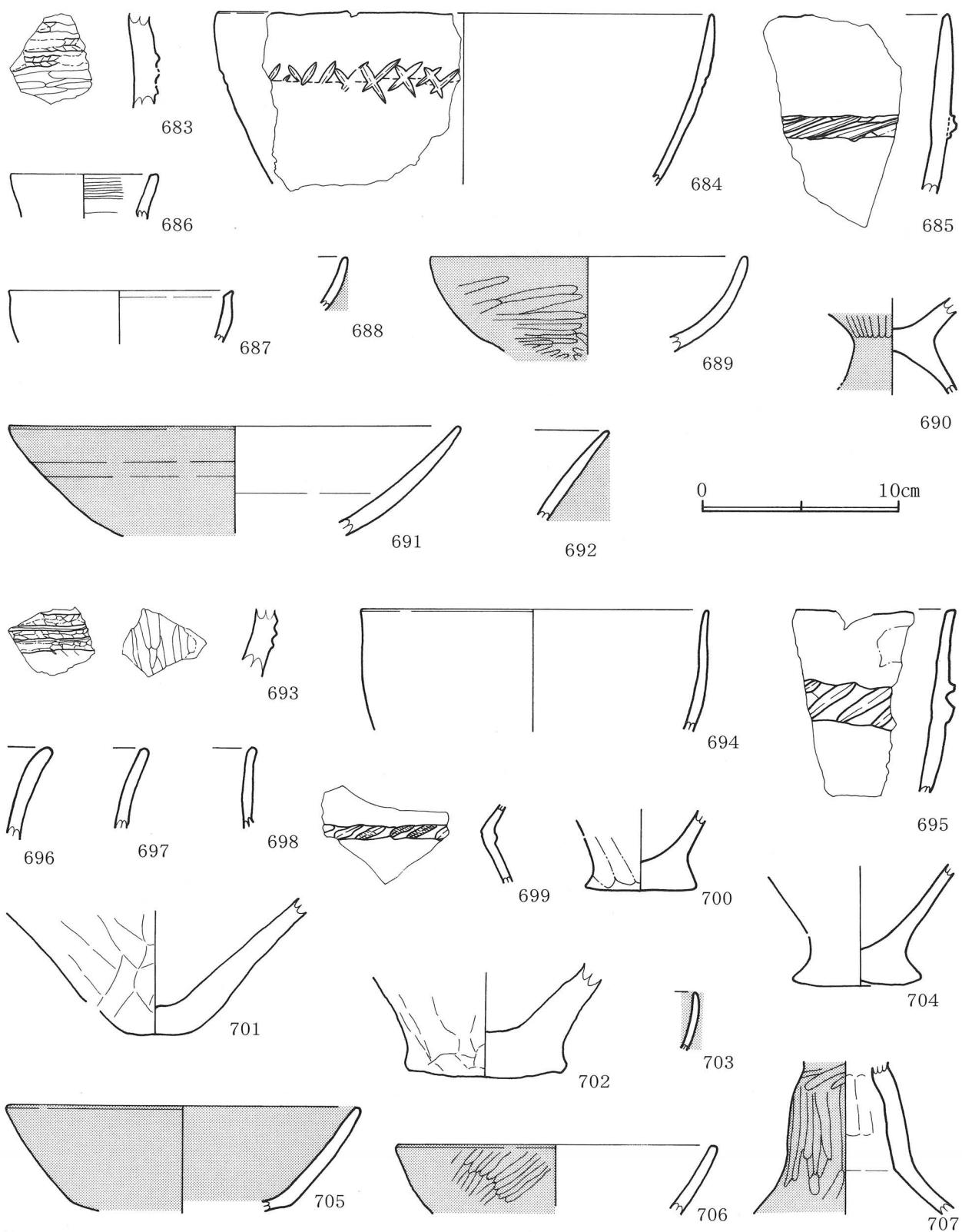
661~663・665~668・670~672:SA-20,664:SA-20ベルト内,669:SA-20・上層,
673~681:SA-22,682:SB-85

遺物の出土量は少なく、土師器の甕の口縁部・丹塗りの壺の口縁部・丹塗りの鉢の底部などの土器片が出土した。また、コップ型土器も出土しており、復原値であるが、口径7.6cm、器高9.5cmを測る。

S A -32 (第86図)

II区の中央部北側で検出された、SA-17 · 18を切っている、方形を呈する住居である。規模は、 $1.76 \times 2.49\text{m}$ 、検出面から床面までの深さは11cmを測る。柱穴は6個で、径15~26cm、深さ15~38cmを測る。貼床と炉跡は検出されなかった。遺物は出土していない。

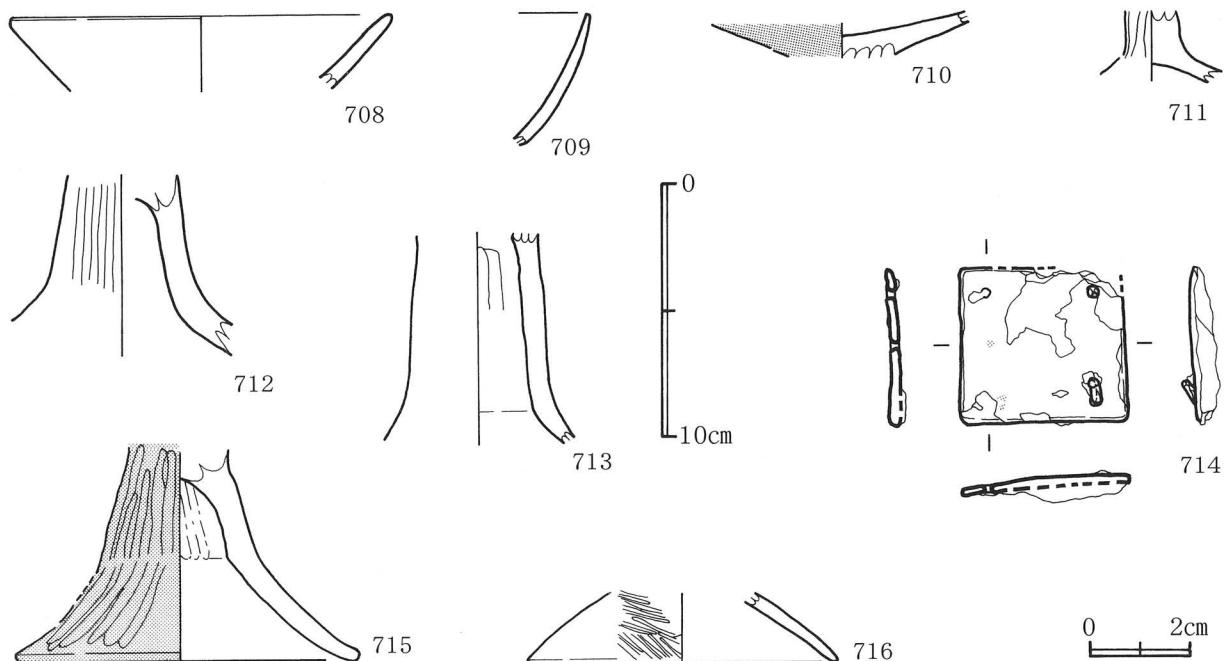
S A -33 (第87 · 89図)



第80図 SA-23・24 出土遺物実測図

683~692:SA-23,693~706:SA-24・上層,694~705,707:SA-24

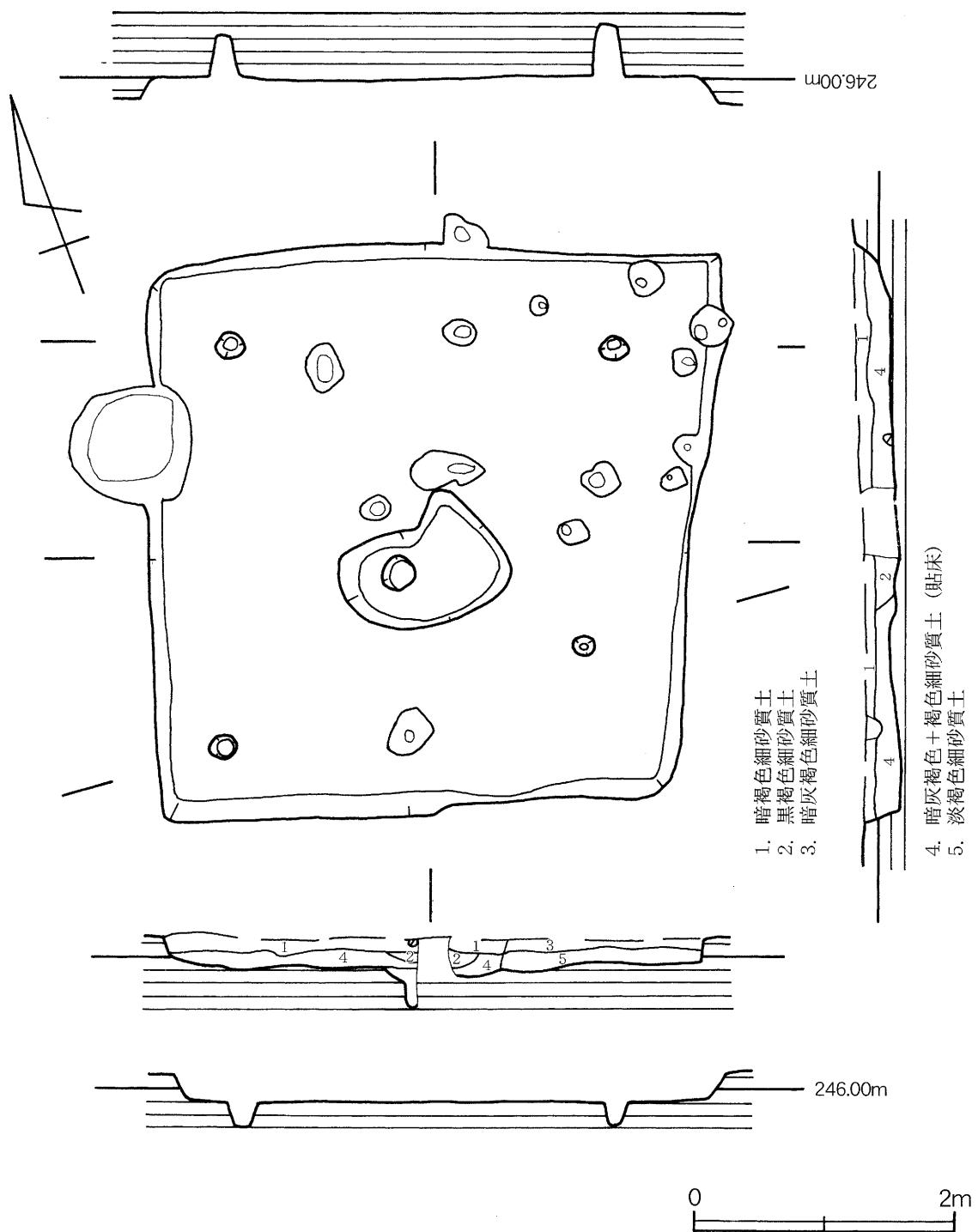
II区の中央部東側、III区との境目付近で検出された、南西隅が張り出した不整形を呈する住居である。住居の南西部をSA-22に切られているため、南北の長さは不明であるが、東西の長さは4.92m、検出面から床面までの深さは10~12cmを測る。柱穴は2個で、径23~26cm、深さ35~52cmを測る。貼床や炉跡は検出されなかった。



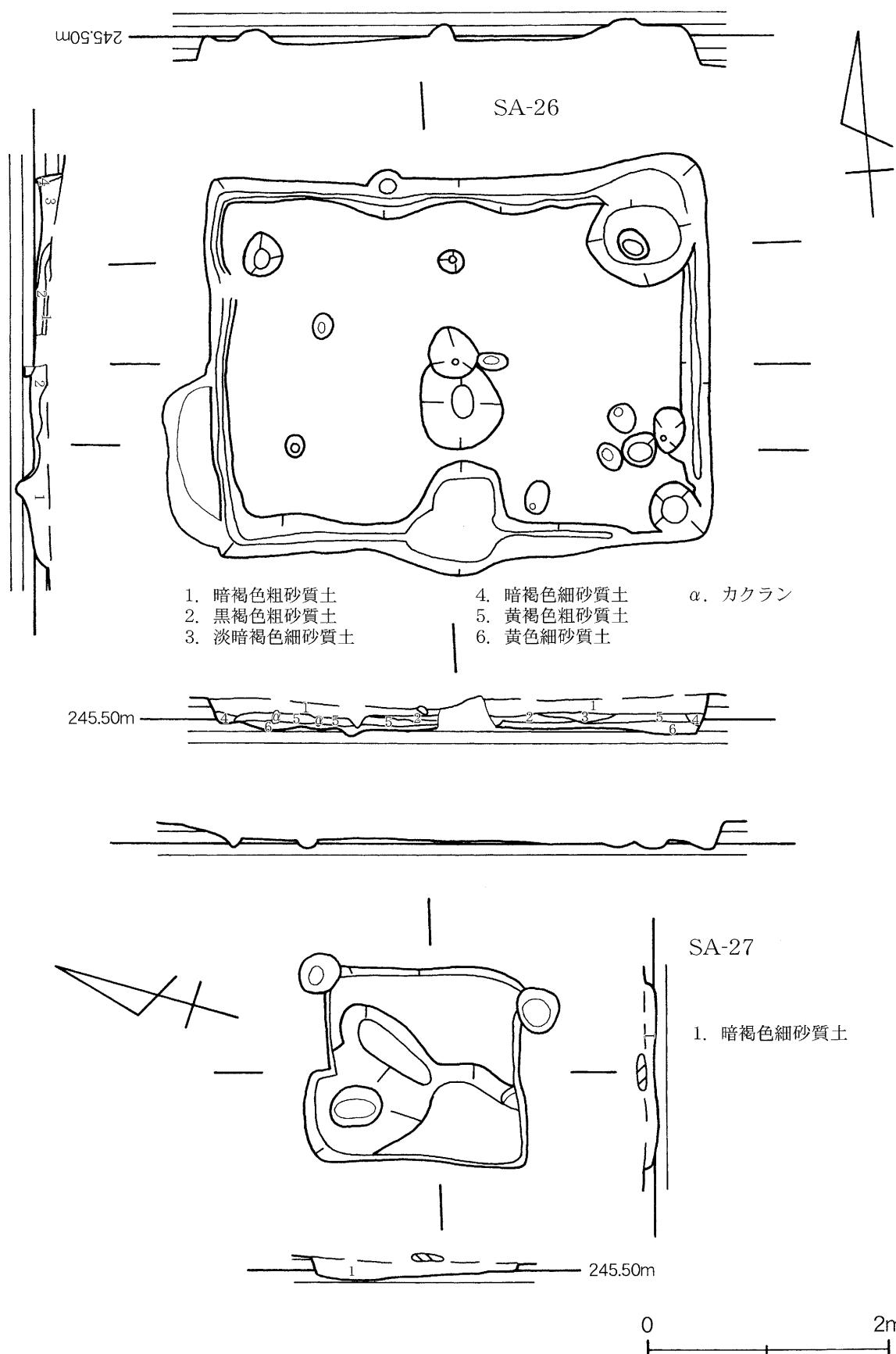
の壺の完形品で、口径11.5cm、器高は4.0cmを測る。765は皿の口縁部片で、体部外面に墨書が認められるが、釈文は不明である。

S A - 09 (第91・95・96図)

II区の北部西側で検出された、楕円形を呈する竪穴住居である。長径2.95m、短径1.82m、検出面から床面までの深さは8cmを測る。柱穴は1個で、径22cm、深さ57cmを測る。貼床や炉跡は検出されなかった。



第82図 S A - 25 遺構実測図



遺物は、弥生土器の壺、土師器の甕の口縁部・坏・灯明皿、須恵器の碗の口縁部などの土器片が出土した。土師器の坏と灯明皿の完形品が出土しており、坏は、口径12.1cm、器高4.2cm、灯明皿は、口径8.8cm、器高3.1cmを測る。石器は、砂岩製の磨製石斧が出土した。

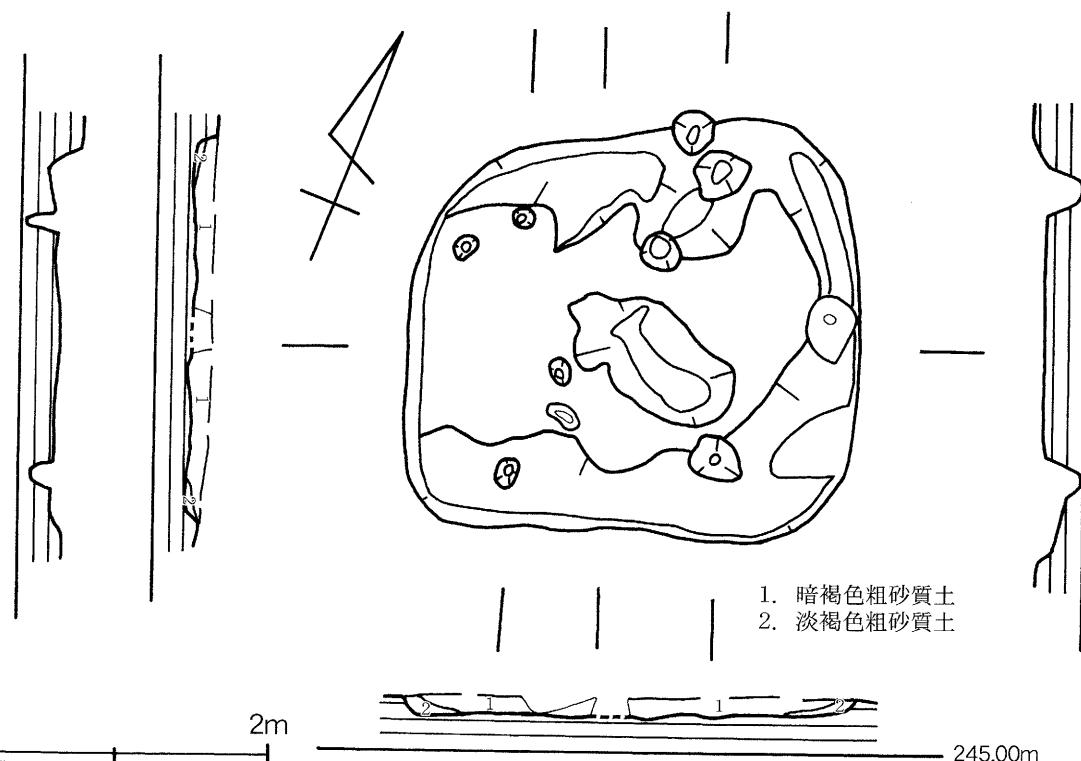
S A - 14 (第92・96・97・98図)

II区の南部西側で検出された、方形を呈する竪穴住居である。規模は、 $3.53 \times 3.63m$ 、検出面から床面までの深さは53~57cmを測る。柱穴は2個で、径23~25cm、深さ15~21cmを測る。住居の北壁の中央やや西よりには、長さ55cm、幅40cmのテラスがみられ、南壁の中央から東側には、長さ82cm、幅13cmのものと、長さ47cm、幅10cmのテラスがみられる。用途は不明である。また、貼床が施されており、厚さは4~15cmを測る。炉跡は検出されなかった。

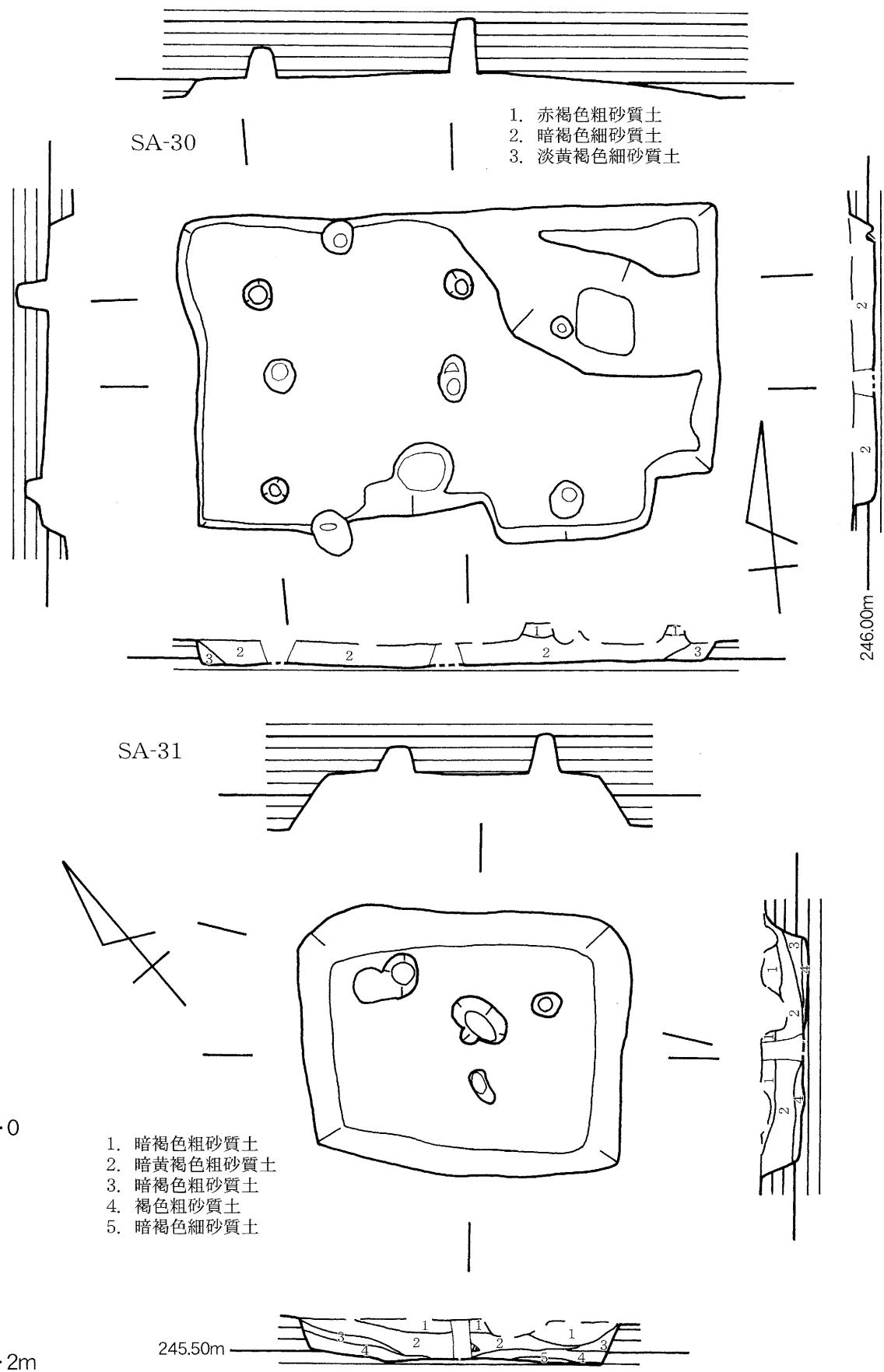
遺物は、弥生土器の甕の口縁部、土師器の甕の口縁部と底部・壺の口縁部・高坏の口縁部と脚部・鉢の口縁部・台付鉢の脚部、須恵器の甕の胴部・壺の胴部、布痕土器の口縁部などの土器片が出土しており、また、丹塗りの高坏・鉢もみられる。石器は、磨製石鎌未製品、砂岩製の磨製石斧、溶結安山岩製の台石が出土した。

S A - 29 (第93・98図)

II区の南部東側で検出された、隅丸方形を呈する竪穴住居である。規模は、 $2.37 \times 2.39m$ 、検出面から床面までの深さは26cmを測る。柱穴は1個で、径32cm、深さ19cmを測る。貼床や炉跡は検出されなかった。遺物は少なく、土師器の甕の胴部・甕の把手、布痕土器などの土器片と磨製石斧が出土したのみである。



第84図 S A - 28 遺構実測図



第85図 SA-30・31 遺構実測図

S B-62 (第99図)

II区の西部北側にある、梁行2間4.14~4.16m、桁行2間5.36mを測る、東西に廂を持つ建物である。柱穴の規模は、径15~45cm、深さ15~53cmを測る。主軸方位はN88° Wである。

S B-63 (第99図)

II区の西部やや北側にある、梁行4.60~4.62m、桁行3間6.36~6.52mを測る、西に廂を持つ建物である。柱穴の規模は、径22~41cm、深さ18~40cmを測る。主軸方位はN87° Wである。

S B-64 (第99図)

II区の西壁の中央部やや北寄りにある建物で、現存で梁行2間4.32m、桁行1間2.90mを測る。柱穴の規模は、径26~34cm、深さ13~55cmを測る。主軸方位はN89° Eである。

S B-65 (第100図)

II区の北部中央北壁寄りにある、梁行2間4.32~4.51m、桁行3間6.25~6.32mを測る建物である。柱穴の規模は、径22~28cm、深さ4~44cmを測る。主軸方位はN85° Wである。

S B-66 (第100図)

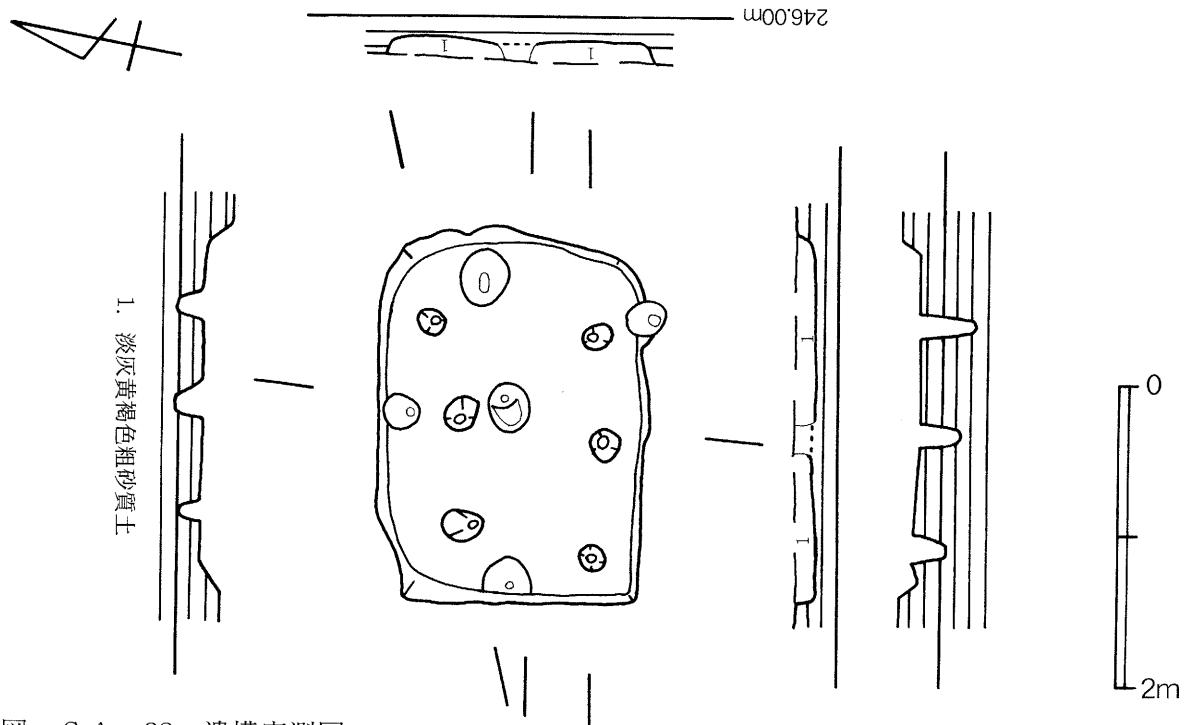
II区の北部中央北壁寄りにある、梁行2間3.94~4.00m、桁行3間5.65~5.76mを測る建物である。柱穴の規模は、径19~29cm、深さ17~31cmを測る。主軸方位はN85° Wである。

S B-67 (第100図)

II区の北部中央にある、梁行2間4.40~4.43m、桁行3間7.16m~7.35mを測る建物である。柱穴の規模は、径16~62cm、深さ23~59cmを測る。主軸方位はN89° Wである。

S B-68 (第100図)

II区の北部北壁付近にある、梁行2間3.26m、桁行2間5.35mを測る総柱の建物である。柱穴の



第86図 S A - 32 遺構実測図

規模は、径30～82cm、深さ20～43cmを測る。主軸方位はN85° Wである。

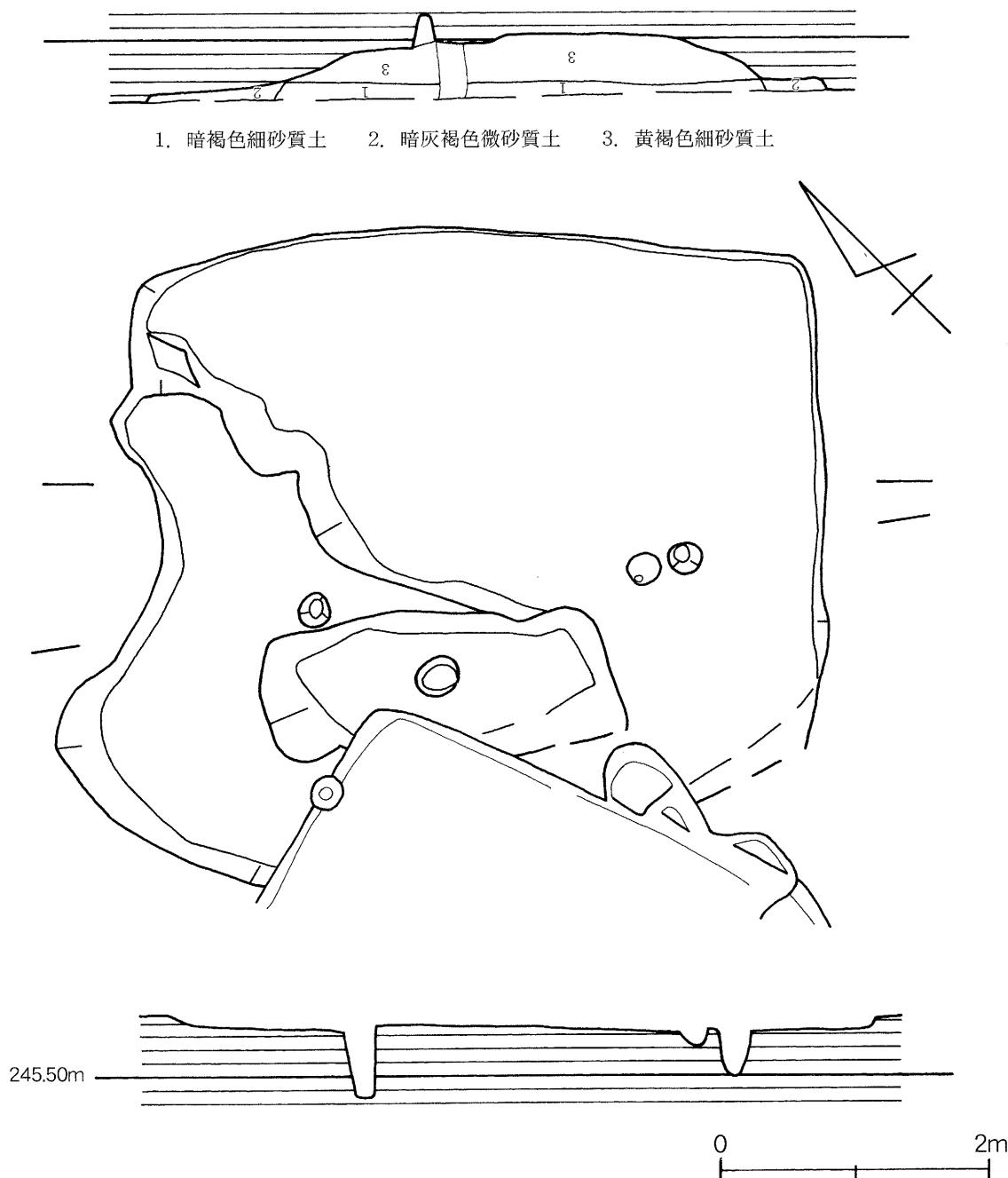
S B - 69 (第101図)

II区の北部西側にある、梁行2間4.09～4.15m、桁行6.57～6.62mを測る建物である。柱穴の規模は、径34～52cm、深さ35～46cmを測る。主軸方位はN85° Wである。

S B - 70 (第102図)

III区の西部北側、II区との境目にある、梁行2間3.49～3.59m、桁行4.62～4.69mを測る建物である。柱穴の規模は、径29～33cm、深さ35～50cmを測る。主軸方位はN85° Wである。

S B - 71 (第102図)



第87図 S A - 33 遺構実測図